

選舉		府縣		滋賀		岐		阜		長	
區	氏名	區	氏名	區	氏名	區	氏名	區	氏名	區	氏名
第一(明治三)	伊庭貞剛	第二(明治五)	江龍清雄	第三(明治七)	脇坂行三	第四(明治九)	西田忠之	第五(明治十一)	西川重威	第六(明治十三)	藤野辰次郎
三	相馬永胤	四	天野若圓	一	清水粲藏	二	吉田耕平	三	矢野才治郎	四	長尾四郎右衛門
二	丸山名政	一	小坂善之助	七	中村信夫	六	林 小一郎	五	島津忠貞	三	堀内賢郎
一	小島相陽	二	島津忠貞	二	島津忠貞	二	島津忠貞	二	島津忠貞	二	島津忠貞
二	飯島正治	二	飯島正治	二	飯島正治	二	飯島正治	二	飯島正治	二	飯島正治
三	山田理兵衛	三	山田理兵衛	三	山田理兵衛	三	山田理兵衛	三	山田理兵衛	三	山田理兵衛
四	龍野周一郎	四	龍野周一郎	四	龍野周一郎	四	龍野周一郎	四	龍野周一郎	四	龍野周一郎
五	龍野周一郎	五	龍野周一郎	五	龍野周一郎	五	龍野周一郎	五	龍野周一郎	五	龍野周一郎
六	龍野周一郎	六	龍野周一郎	六	龍野周一郎	六	龍野周一郎	六	龍野周一郎	六	龍野周一郎
七	龍野周一郎	七	龍野周一郎	七	龍野周一郎	七	龍野周一郎	七	龍野周一郎	七	龍野周一郎

選舉		府縣		宮城		野		福		島	
區	氏名	區	氏名	區	氏名	區	氏名	區	氏名	區	氏名
第一(明治三)	伊庭貞剛	第二(明治五)	江龍清雄	第三(明治七)	脇坂行三	第四(明治九)	西田忠之	第五(明治十一)	西川重威	第六(明治十三)	藤野辰次郎
三	相馬永胤	四	天野若圓	一	清水粲藏	二	吉田耕平	三	矢野才治郎	四	長尾四郎右衛門
二	丸山名政	一	小坂善之助	七	中村信夫	六	林 小一郎	五	島津忠貞	三	堀内賢郎
一	小島相陽	二	島津忠貞	二	島津忠貞	二	島津忠貞	二	島津忠貞	二	島津忠貞
二	飯島正治	二	飯島正治	二	飯島正治	二	飯島正治	二	飯島正治	二	飯島正治
三	山田理兵衛	三	山田理兵衛	三	山田理兵衛	三	山田理兵衛	三	山田理兵衛	三	山田理兵衛
四	龍野周一郎	四	龍野周一郎	四	龍野周一郎	四	龍野周一郎	四	龍野周一郎	四	龍野周一郎
五	龍野周一郎	五	龍野周一郎	五	龍野周一郎	五	龍野周一郎	五	龍野周一郎	五	龍野周一郎
六	龍野周一郎	六	龍野周一郎	六	龍野周一郎	六	龍野周一郎	六	龍野周一郎	六	龍野周一郎
七	龍野周一郎	七	龍野周一郎	七	龍野周一郎	七	龍野周一郎	七	龍野周一郎	七	龍野周一郎

第二編 議員及其異動氏名表(第一乃至第六選舉)

選 舉		府 縣		福 島		巖 手		青 森		山 形		秋 田		福 井	
區	氏 名	區	氏 名	區	氏 名	區	氏 名	區	氏 名	區	氏 名	區	氏 名	區	氏 名
第一(明治三)	山口千代作	第一(明治三)	柴 四朗	第一(明治三)	谷河尙忠	第一(明治三)	伊東圭介	第一(明治三)	奈須川光寶	第一(明治三)	佐藤里治	第一(明治三)	成田直衛	第一(明治三)	青山庄兵衛
第二(明治三)	三浦信六	第二(明治三)	愛澤寧堅	第二(明治三)	上田農夫	第二(明治三)	阿部 浩	第二(明治三)	工藤行幹	第二(明治三)	五十嵐力助	第二(明治三)	荒谷桂吉	第二(明治三)	杉田定一
第三(明治三)	山口千代作	第三(明治三)	柴 四朗	第三(明治三)	谷河尙忠	第三(明治三)	小笠原定一	第三(明治三)	源 晟	第三(明治三)	山下千代雄	第三(明治三)	目黒貞治	第三(明治三)	竹尾 茂
第四(明治三)	佐治幸平	第四(明治三)	佐治幸平	第四(明治三)	阿部 浩	第四(明治三)	阿部 浩	第四(明治三)	白鳥慶一	第四(明治三)	秋保親兼	第四(明治三)	成田直衛	第四(明治三)	坪田仁兵衛
第五(明治三)	門馬尙經	第五(明治三)	大隈英麿	第五(明治三)	小田爲綱	第五(明治三)	名須川良平	第五(明治三)	德差藤兵衛	第五(明治三)	本間光義	第五(明治三)	北島傳四郎	第五(明治三)	林 彦一
第六(明治三)	戶狩權之助	第六(明治三)	小倉信近	第六(明治三)	秋保親兼	第六(明治三)	重野謙次郎	第六(明治三)	大久保鐵作	第六(明治三)	伊藤直純	第六(明治三)	伊藤直純	第六(明治三)	三田村甚三郎

第二編 議員及其異動氏名表(第一乃至第六選舉)

選 舉		府 縣		福 井		石 川		富 山			
第一	第二	第三	第四	第五	第六	第一	第二	第三	第四		
(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)		
十三年	十五年	十七年	十七年	十一年	十二年	十三年	十五年	十七年	十七年		
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名		
藤田孫平	大垣兵次	時岡又左衛門 松田吉三郎	小畑岩次郎	時岡又左衛門	山口定省	松田吉三郎	吉本榮吉	梅田五月	杉村寬正	赤土 亮	田中喜太郎
遠藤秀景	神保小太郎	吉本榮吉	赤土 亮	中田彌平	淺野順平	相川久太郎	新田甚左衛門	梅田五月	津田嘉一郎	淺野順平	淺野順平
淺野順平	由雄與三平	淺野順平	淺野順平	淺野順平	淺野順平	淺野順平	淺野順平	淺野順平	淺野順平	淺野順平	淺野順平
神野 良	橋本次六	眞館貞造	眞館貞造	眞館貞造	眞館貞造	眞館貞造	眞館貞造	眞館貞造	眞館貞造	眞館貞造	眞館貞造
小間 肅	百萬梅治	小間 肅	百萬梅治	百萬梅治	百萬梅治	百萬梅治	百萬梅治	百萬梅治	百萬梅治	百萬梅治	百萬梅治
關野善次郎	岩城隆常	關野善次郎	關野善次郎	關野善次郎	關野善次郎	關野善次郎	關野善次郎	關野善次郎	關野善次郎	關野善次郎	關野善次郎
磯部四郎	原 弘三	原 弘三	原 弘三	原 弘三	原 弘三	原 弘三	原 弘三	原 弘三	原 弘三	原 弘三	原 弘三
田村惟昌	谷 順平	野村脩造	野村脩造	野村脩造	野村脩造	野村脩造	野村脩造	野村脩造	野村脩造	野村脩造	野村脩造
南 磯一郎	稻垣 示	南島間作	坂井敬義	坂井敬義	坂井敬義	坂井敬義	坂井敬義	坂井敬義	坂井敬義	坂井敬義	坂井敬義
島田孝之	武部其文	島田孝之	島田孝之	島田孝之	島田孝之	島田孝之	島田孝之	島田孝之	島田孝之	島田孝之	島田孝之

選 舉		府 縣		富 山		石 川		取 島	
第一	第二	第三	第四	第五	第六	第一	第二	第三	第四
(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)	(明治三)
十三年	十五年	十七年	十七年	十一年	十二年	十三年	十五年	十七年	十七年
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
岡崎平内	木下莊平	石谷董九郎	石谷傳四郎	石谷董九郎	石谷董九郎	岡崎平内	木下莊平	石谷董九郎	石谷董九郎
山瀬幸人	若原觀瑞	田江彌三郎	西谷金藏	野坂茂三郎	門脇重雄	山瀬幸人	若原觀瑞	田江彌三郎	西谷金藏
松南宏雅	渡部芳造	門脇重雄	野坂茂三郎	門脇重雄	門脇重雄	松南宏雅	渡部芳造	門脇重雄	野坂茂三郎
岡崎運兵衛	岡崎運兵衛	園山 勇	並河理二郎	並河理二郎	並河理二郎	岡崎運兵衛	岡崎運兵衛	園山 勇	並河理二郎
佐々木善右衛門	木佐德三郎	鈴江泰造	並河理二郎	並河理二郎	並河理二郎	佐々木善右衛門	木佐德三郎	鈴江泰造	並河理二郎
高橋久次郎	高橋守衛	石橋孫八	伊藤啓一郎	伊藤啓一郎	伊藤啓一郎	高橋久次郎	高橋守衛	石橋孫八	伊藤啓一郎
菅 了法	清水文二郎	堀 昌造	右田古文	右田古文	右田古文	菅 了法	清水文二郎	堀 昌造	右田古文
佐々田 懋	八幡信太	堀 昌造	右田古文	右田古文	右田古文	佐々田 懋	八幡信太	堀 昌造	右田古文
吉岡倭文磨	渡邊新太郎	長田文次郎	原田越城	原田越城	原田越城	吉岡倭文磨	渡邊新太郎	長田文次郎	原田越城
小林輝雄	立石 岐	坂本金彌	野崎定次郎	野崎定次郎	野崎定次郎	小林輝雄	立石 岐	坂本金彌	野崎定次郎
坪田 繁	野崎定次郎	野崎定次郎	野崎定次郎	野崎定次郎	野崎定次郎	坪田 繁	野崎定次郎	野崎定次郎	野崎定次郎
西 毅一	竹内正志	石黑涵一郎	石黑涵一郎	石黑涵一郎	石黑涵一郎	西 毅一	竹内正志	石黑涵一郎	石黑涵一郎
犬養 毅	犬養 毅	犬養 毅	犬養 毅	犬養 毅	犬養 毅	犬養 毅	犬養 毅	犬養 毅	犬養 毅
坂田丈平	守屋此助	田邊爲三郎	田邊爲三郎	田邊爲三郎	田邊爲三郎	坂田丈平	守屋此助	田邊爲三郎	田邊爲三郎

第二編 議員及其異動氏名表(第一乃至第六選舉)

選舉	府縣	岡山							廣島								
		七	六	五	四	三	二	一	八	七	六	五	四	三	二	一	
第一(明治三)	氏名	加藤平四郎	立石岐	渡邊磊三					豐田實穎	渡邊又三郎	八田謹二郎	金尾稜嚴	赤川靈嚴	脇榮太郎	田邊三五郎	佐竹義和	倉田準五郎
第二(明治五)	氏名							平山靖彦				前田篤之助	和田彦次郎	黒川修三	松浦唯次郎	長井松太郎	
第三(明治七)	氏名	井手毛三	加藤平四郎	東良三郎				藤田高之	佐々木高榮	小田貫一	野平穰			脇榮太郎	秋山忠夫	長壽彦	
第四(明治九)	氏名	直原守次郎	井手毛三	佐藤平八				富永正男		小鷹狩元凱	金尾稜嚴			頼俊直		和氣清太郎	井上角五郎
第五(明治十一)	氏名	加藤平四郎	河田繁穂	馬越恭平				渡邊又三郎		小田貫一				脇榮太郎	山蔭靜夫	松井將壯	
第六(明治十三)	氏名	野間五造	井手毛三	東良三郎				串本康三	宮原幸三郎						望月圭介	花井卓藏	

選舉	府縣	山口							和歌山																										
		九	八	七	六	五	四	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一																
第一(明治三)	氏名	井上角五郎																		吉富簡一	末松三郎	井上正一	大岡育造	堀江芳介	野村恆造	吉川務	陸奥宗光	和田譽終	兒玉仲兒	松本鼎	關直彦	井上高格			
第二(明治五)	氏名																			古谷新作	水梨信一	堅田少輔			曾禰荒助	武弘宜路	水落簡	岡崎邦輔	關直彦		榎野傳治郎				
第三(明治七)	氏名								吉富簡一	森清藏	西村禮作				磯部十藏	三輪傳七	河上逸	千田軍之助	鎌田榮吉	望月右内	山本隆太郎	並木弘	湯淺貞太郎				岡崎邦輔	大田信一		山口熊野					
第四(明治九)	氏名	永井穎雄								河北勘七						阪田昌熾	小田伴輔	岡崎邦輔				小幡儼太郎													
第五(明治十一)	氏名	麥田寧三郎								本間源三郎	磯部孝一	大岡育造	三輪傳七	武弘宜路	熊代謙三郎									石田眞二											
第六(明治十三)	氏名	山内吉郎兵衛								河北勘七	國重政亮							濱口吉右衛門	關直彦	千田軍之助		鹽路彦右衛門		新開貢											

第二編 議員及其異動氏名表(第一乃至第六選舉)

岡 福					知 高			媛			愛 川 香					島 德			府 縣	選 舉						
五	四	三	二	一	三	二	一	六	五	四	三	二	一	五	四	三	二	一	區	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	
五十時一郎	佐々木正藏	權藤貫一	香月恕經	小野隆助	津田守彦	植木枝盛	林有造	片岡健吉	竹内綱	末廣重恭	牧野純藏	鈴木重遠	有友正親	石原信樹	長屋忠明	藤野政高	伊藤一郎	三崎龜之助	綾井武夫	小西甚之助	中野武營	阿部興人	橋本久太郎	川畠田德三郎	守野爲五郎	第一(明治二 十三年)
中村彦次	”	郡保宗	”	”	”	植木志澄	片岡直温	安岡雄吉	武市安哉	堀部彦次郎	”	”	”	高須峯造	小林信近	”	石井定彦	”	都崎秀太郎	”	曾我部道夫	”	”	”	”	第二(明治二 十五年)
武内美代吉	”	征矢野半彌	藤金作	多田作兵衛	”	”	林有造	片岡健吉	小松三省	玉井安藏	清水隆德	工藤干城	重岡薰五郎	柳瀬春次郎	鈴木重遠	”	森輝見	”	綾井武夫	林喬	阿部興人	”	武市彰一	”	”	第三(明治二 十七年)
中村彦次	”	平岡浩太郎	多田作兵衛	藤金作	權藤貫一	”	”	”	”	末廣重恭	兵頭昌隆	藤田達芳	”	村上芳太郎	”	宮内治三郎	”	”	鎌田勝太郎	小西甚之助	”	”	”	板東勘五郎	”	第四(明治三 十七年)
野田卯太郎	”	多田作兵衛	小野隆助	”	平岡浩太郎	西山志澄	”	”	土居平左衛門	兒島惟謙	清水靜十郎	合田福太郎	”	野間豐五郎	高須賀穰	武市庫太	高橋松齋	堀家虎造	宮井茂九郎	林喬	大久保弁太郎	川畠田市太郎	”	”	”	第五(明治三 十一年)
佐々木正藏	野田卯太郎	許斐鷹助	多田作兵衛	”	”	片岡健吉	土居平左衛門	西原清東	山本幸彦	”	”	鈴木重遠	”	”	”	”	鹽田忠左衛門	”	”	”	阿部興人	武市彰一	”	”	”	第六(明治三 十一年)

選 舉		府 縣		岡 福		大		分		佐		賀			
區	氏 名	區	氏 名	區	氏 名	區	氏 名	區	氏 名	區	氏 名	區	氏 名		
第一 (明治二)	岡田孤鹿	六	元田肇	一	松田正久	一	武富時敏	二	天野爲之	熊	一	佐々友房	鹿	一	樺山資美
第二 (明治三)	立花親信	七	福江角太郎	二	坂元規貞	二	牛島秀一郎	一	川原茂輔	熊	二	有吉平吉	鹿	二	折田兼至
第三 (明治七)	堤猷久	八	安東九華	三	野田常貞	三	武富時敏	二	中江豐造	熊	三	戶田熊彦	鹿	三	三宅正意
第四 (明治三)	永江純一	堤猷久	毛利莫	四	江藤新作	四	江島久米雄	三	松尾寛三	熊	四	古莊嘉門	鹿	四	安田倫逸
第五 (明治三)	山本貴三郎	久貝知寅次郎	征矢野半彌	五	大塚幸兵衛	五	箕浦勝人	二	箕浦勝人	熊	五	松枝顯勝	鹿	五	安田倫逸
第六 (明治三)	松田正久	松田正久	松田正久	六	小栗貞雄	六	小栗貞雄	一	松田正久	熊	六	內藤正義	鹿	六	安田倫逸
										本	七	古莊嘉門	鹿	七	安田倫逸
										宮	八	長野一誠	鹿	八	安田倫逸
										鹿	九	嘉悅信之	鹿	九	安田倫逸
										兒	十	渡邊敬生	鹿	十	安田倫逸
										島	十一	紫垣伴三	鹿	十一	安田倫逸
											二	藤岡常彦	鹿	十二	安田倫逸
											三	內田雄藏	鹿	十三	安田倫逸
											四	古莊嘉門	鹿	十四	安田倫逸
											五	武藤一忠	鹿	十五	安田倫逸
											六	佐伯誠一郎	鹿	十六	安田倫逸
											七	藤岡常彦	鹿	十七	安田倫逸
											八	內田雄藏	鹿	十八	安田倫逸
											九	古莊嘉門	鹿	十九	安田倫逸
											十	古莊嘉門	鹿	二十	安田倫逸
											十一	古莊嘉門	鹿	二十一	安田倫逸
											十二	古莊嘉門	鹿	二十二	安田倫逸
											十三	古莊嘉門	鹿	二十三	安田倫逸
											十四	古莊嘉門	鹿	二十四	安田倫逸
											十五	古莊嘉門	鹿	二十五	安田倫逸
											十六	古莊嘉門	鹿	二十六	安田倫逸
											十七	古莊嘉門	鹿	二十七	安田倫逸
											十八	古莊嘉門	鹿	二十八	安田倫逸
											十九	古莊嘉門	鹿	二十九	安田倫逸
											二十	古莊嘉門	鹿	三十	安田倫逸

第二編 議員及其異動氏名表(第一乃至第六選舉)

鹿兒島					選	府縣
區	氏名	氏名	氏名	氏名	區	舉
三	長谷場純孝	”	”	”	第一	(明治三)
四	宇都宮平一	柏田盛文	”	”	第二	(明治三)
五	河島醇	”	”	”	第三	(明治三)
六	蒲生仙	篠田政龍	蒲生仙	”	第四	(明治三)
七	基俊良	大島信	”	”	第五	(明治三)
			有村連	”	第六	(明治三)
			和泉邦彦	”		
			林元俊	”		

(其二)

東		選	府縣
區	氏名	區	舉
	大橋新太郎	第七	(明治三)
	岩谷松平	第八	(明治三)
	大石熊吉	第九	(明治三)
	高木益太郎	第十	(明治四)
	”	第十一	(明治四)

東京府												選	府縣															
市			郡			市			京			區	舉															
角田真平	江原素六	秋山定輔	關直彦	江間俊一	星野錫	中島行孝	秋山定輔	三輪信次郎	關直彦	江間俊一	星野錫	關直彦	黑須龍太郎	關直彦	三輪信次郎	古島一雄	稻茂登三郎	松下軍治	森久保作藏	望月右内	漆昌巖	村野常右衛門	中安信三郎					
大石熊吉	鳩山和夫	田口卯吉	稻茂登三郎	山根正次	關直彦	關直彦	大石熊吉	鳩山和夫	田口卯吉	角田真平	山根正次	關直彦	三輪信次郎	古島一雄	稻茂登三郎	松下軍治	森久保作藏	望月右内	漆昌巖	村野常右衛門	中安信三郎	片山正中	能川登	內貴甚三郎	西村治兵衛	中安信三郎		
栗塚省吾	角田真平	江原素六	松下軍治	三輪信次郎	古島一雄	三輪信次郎	栗塚省吾	角田真平	江原素六	松下軍治	三輪信次郎	古島一雄	三輪信次郎	古島一雄	稻茂登三郎	松下軍治	森久保作藏	望月右内	漆昌巖	村野常右衛門	中安信三郎	漆昌巖	堀田連太郎	堀田連太郎	堀田連太郎	堀田連太郎	堀田連太郎	
朝倉外茂鐵	栗塚省吾	高梨哲四郎	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	朝倉外茂鐵	栗塚省吾	高梨哲四郎	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦	關直彦
田口卯吉	高梨哲四郎	福地源一郎	渡邊勘十郎	松下軍治	松下軍治	松下軍治	田口卯吉	高梨哲四郎	福地源一郎	渡邊勘十郎	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治	松下軍治
村野常右衛門	”	森久保作藏	高木正年	”	”	”	村野常右衛門	”	森久保作藏	高木正年	”	”	”	”	”	”	”	”	”	”	”	”	”	”	”	”	”	
關根柳介	漆昌巖	村野常右衛門	漆昌巖	岡崎邦輔	森久保作藏	森久保作藏	關根柳介	漆昌巖	村野常右衛門	漆昌巖	岡崎邦輔	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏
比留間邦之助	關根柳介	漆昌巖	關根柳介	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	比留間邦之助	關根柳介	漆昌巖	關根柳介	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏
堀田連太郎	”	關根柳介	關根柳介	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	堀田連太郎	”	關根柳介	關根柳介	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏	森久保作藏
漆昌巖	淺香克孝	堀田連太郎	村野常右衛門	西村治兵衛	中安信三郎	中安信三郎	漆昌巖	淺香克孝	堀田連太郎	村野常右衛門	西村治兵衛	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎	中安信三郎

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選舉	府縣區			京都府										大阪府				
	氏名	氏名	氏名	京都市	都部			府郡				大阪市						
第七 (明治三十五年)	奧野市次郎	丹羽圭介	奧繁三郎	奧野市次郎	羽室嘉右衛門	田中祐四郎	上野彌一郎	山口俊一	澤田佐助	龜岡德太郎	吉田顯三	橫田虎彦	小泉清左衛門	尾形兵太郎	吉田顯三	山下重威	有本國藏	中橋徳五郎
第八 (明治三十六年)	雨森菊太郎	奧野市次郎	神鞭知常	奧野市次郎	奧繁三郎	田中數之助	田中祐四郎	上野彌一郎	龜岡德太郎	澤田佐助	小泉清左衛門	尾形兵太郎	尾形兵太郎	吉田顯三	森秀次	西村專太郎	植場平	岩崎安次郎
第九 (明治三十七年)	奧野市次郎	片山正中	井上與一郎	奧野市次郎	神鞭知常	奧繁三郎	河原林義雄	蘆田鹿之助	奧村善右衛門	岩下清周	七里清介	天川三藏	紫安新九郎	有本國藏	大西五一郎	植場平	岩崎安次郎	中橋徳五郎
第十 (明治四十一年)	木村省吾	中安信三郎	木村良	木村省吾	岡田泰藏	岡田泰藏	岩田信	川崎安之助	岩下清周	石橋爲之助	天川三藏	澤田佐助	菊池侃二	有本國藏	大西五一郎	植場平	岩崎安次郎	中橋徳五郎
第十一 (明治四十五年)	濱岡光哲	平井熊三郎	奧繁三郎	濱岡光哲	田中數之助	木村良	岡田泰藏	清水仁三郎	七里清介	三谷軌秀	紫安新九郎	三谷軌秀	菊池侃二	有本國藏	大西五一郎	植場平	岩崎安次郎	中橋徳五郎

神奈川縣			大阪府										
郡	部	市	郡			部		市		市		市	
永島龜代司	安藤龜太郎	長谷川豐吉	島田三郎	平沼專藏	永島龜代司	中林友信	東尾平太郎	佐々木政父	本出保太郎	秋岡義一	植場平	北村左吉	尾形兵太郎
伊達時	栗原宣太郎	永島龜代司	加藤高明	加藤高明	伊達時	永島龜代司	植場平	川井爲巳	秋岡義一	東尾平太郎	森秀次	吉田顯三	山下重威
高橋勝七	神藤才一	長谷川豐吉	堀谷左治郎	堀谷左治郎	高橋勝七	永島龜代司	森秀次	本出保太郎	中林友信	植場平	西村專太郎	山下重威	有本國藏
小泉又次郎	梅原良	福井準造	梅原良	梅原良	小泉又次郎	永島龜代司	藤澤元造	井阪光暉	井阪光暉	秋岡義一	植場平	大西五一郎	有本國藏
山宮藤吉	石渡秀吉	安村竹松	若尾幾造	若尾幾造	山宮藤吉	永島龜代司	秋岡義一	本出保太郎	井坂光暉	植場平	中辰之助	岩崎安次郎	中橋徳五郎
安村竹松	安村竹松	安村竹松	若尾幾造	若尾幾造	安村竹松	永島龜代司	秋岡義一	本出保太郎	井坂光暉	植場平	中辰之助	岩崎安次郎	中橋徳五郎

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選 舉	府 縣	川 奈	兵 庫										
			神 戶	市 戶	市 戶	市 戶	市 戶	市 戶					
第七 (明治三十五年)	氏 名	添田知義	平野友輔	藤田松太郎	鹿島秀麿	砂川雄峻	西村眞太郎	田健治郎	川口木七郎	平岡萬次郎	肥塚 龍	伊藤俊介	野上嘉平
第八 (明治三十六年)	氏 名	井上八重吉	内山敬三郎	鹿島秀麿	草鹿甲子太郎	町田猛郎	安藤新太郎	櫻井 駿	大西善太郎	西村眞太郎	森本莊三郎	川口木七郎	平岡萬次郎
第九 (明治三十七年)	氏 名	天野藤三	栗原宣太郎	山本繁造	山本繁造	神戶松之輔	西村眞太郎	肥塚 龍	内藤利八	改野耕三	松元剛吉	安藤新太郎	櫻井 駿
第十 (明治四十一年)	氏 名	長谷川豐吉	中村舜次郎	櫻井一久	坪田十郎	多木彖次郎	小寺謙吉	水野正己	肥塚 龍	内藤利八	内藤利八	竹田文吉	改野耕三
第十一 (明治四十五年)	氏 名	小泉又次郎	長谷川豐吉	松方幸次郎	野添宗三	大森與三次	柴崎鹿之助	肥塚 龍	丸尾光春	伊藤英一	改野耕三	高鍋篤郎	横田孝史

選 舉	府 縣	長 崎 縣												
		新 潟	對 馬	部						市 長	部			
第七 (明治三十五年)	氏 名	鈴木長藏	梅野初實	宮崎榮治	古川黃一	西村規矩	島津良知	植木元太郎	中倉万次郎	高見松太郎	伊賀保太郎	團野記平治	改野耕三	櫻井 駿
第八 (明治三十六年)	氏 名	山口達太郎	白勢春三	宮崎榮治	帆足隼太郎	古川黃一	中倉万次郎	宮崎榮治	白井哲夫	橋本雄造	改野耕三	野上嘉平	奥野小四郎	内藤利八
第九 (明治三十七年)	氏 名	山口達太郎	白勢春三	宮崎榮治	白井哲夫	中倉万次郎	植木元太郎	島津良知	横山寅一郎	永見寛二	鞍谷清慎	石田貫之助	野上嘉平	田寺敬信
第十 (明治四十一年)	氏 名	竹越與三郎	齋藤巳三郎	倉光藤太	中倉万次郎	田川大吉郎	白井哲夫	木下吉之丞	鈴木 力	鈴木 力	佐野春五	松元剛吉	森本 駿	西村眞太郎
第十一 (明治四十五年)	氏 名	川合直次	若杉喜三郎	早川鐵治	田川大吉郎	則元由庸	帆足隼太郎	横山寅一郎	本田恆之	永見寛二	齋藤隆夫	平野龜之助	安藤新太郎	小寺謙吉

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選 舉	府 縣	新 瀨 縣											
		郡					部						
第七 (明治三十五年)	氏名	坂口仁一郎	竹越與三郎	川上元治郎	大竹貫一	桑原重正	萩野左門	齋藤和乎太	相馬一郎	關矢儀八郎	高橋慶治郎	丹後直平	中山小四郎
第八 (明治三十六年)	氏名	坂口仁一郎	關矢儀八郎	大竹貫一	相馬一郎	丹後直平	齋藤和乎太	萩野左門	竹越與三郎	桑原重正	青柳信五郎	中川源造	山本佛二郎
第九 (明治三十七年)	氏名	山田平太郎	坂口仁一郎	波多野傳三郎	關矢橋太郎	高橋光威	長場龍太郎	佐藤貞雄	山際敬雄	坂口仁一郎	大竹貫一	青柳信五郎	山本佛二郎
第十 (明治四十一年)	氏名	高橋文質	山田又七	田邊熊一	關矢橋太郎	高橋光威	長場龍太郎	佐藤貞雄	山際敬雄	坂口仁一郎	大竹貫一	青柳信五郎	山本佛二郎
第十一 (明治四十五年)	氏名	中野貫一	大竹貫一	高橋光威	目黑孝平	坂口仁一郎	增田義一	田邊熊一	川上淳一郎	加藤勝彌	丸山豐治郎	佐野喜平太	山本佛二郎

群 馬 縣				埼 玉 縣									
郡		市	市	部					郡				
須藤嘉吉	久米民之助	大河内輝剛	下村善右衛門	岡村新三郎	粕谷義三	宮内翁助	高田早苗	塚田啓太郎	加藤政之助	小澤愛次郎	笠間靖	宮崎鏞三郎	宮崎鏞三郎
中島祐八	日向輝武	須藤嘉吉	關口安太郎	星野仙藏	粕谷義三	齋藤珪次	小澤愛次郎	加藤政之助	中村清一郎	高橋安爾	井上精一郎	宮本嘉樂	宮本嘉樂
木暮武太夫	須藤嘉吉	細野次郎	鈴木久五郎	塚田啓太郎	齋藤珪次	小澤愛次郎	宮内翁助	加藤政之助	加藤政之助	阪泰碩	卜部喜太郎	福田又一	福田又一
佐藤虎次郎	武藤金吉	武藤金吉	矢島八郎	綾部惣兵衛	福田又一	齋藤珪次	加藤政之助	大島寬爾	大島寬爾	齋藤安雄	田中左司馬	指田義雄	指田義雄
須藤嘉吉	細野次郎	武藤金吉	竹越與三郎	綾部惣兵衛	福田又一	齋藤珪次	加藤政之助	大島寬爾	大島寬爾	齋藤安雄	田中左司馬	指田義雄	指田義雄
根岸皓太郎	細野次郎	武藤金吉	竹越與三郎	綾部惣兵衛	福田又一	齋藤珪次	加藤政之助	大島寬爾	大島寬爾	齋藤安雄	田中左司馬	指田義雄	指田義雄

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選		府縣		縣馬群		千		葉		縣	
舉	區	氏	名	部	郡	部	郡	部	郡	部	郡
第七 (明治三十五年)	氏名	木暮武太夫	日向輝武	東條良平	鈴木久次郎	板倉中	櫻井靜	鈴木儀左衛門	伊藤德太郎	安田勳	千葉禎太郎
第八 (明治三十六年)	氏名	佐藤虎次郎	久米民之助	濱野昇	東條良平	伊藤德太郎	鈴木久次郎	板倉中	安川寛三郎	櫻井靜	大久保忠均
第九 (明治三十七年)	氏名	日向輝武	星野長太郎	菅澤重雄	千葉禎太郎	加瀬禧逸	板倉中	吉植庄一郎	櫻本次郎右衛門	鈴木久次郎	伊藤德太郎
第十 (明治四十一年)	氏名	根岸昭太郎	佐藤虎次郎	藤代市之輔	吉植庄一郎	長島鷲太郎	稻村辰次郎	板倉中	東條良平	安田勳	鶴澤總明
第十一 (明治四十五年)	氏名	日向輝武	葉佳利藏	須藤嘉吉	福澤桃介	鶴澤總明	吉植庄一郎	小林勝民	柏原文太郎	板倉中	加瀬禧逸

選		府縣		縣馬群		千		葉		縣	
舉	區	氏	名	部	郡	部	郡	部	郡	部	郡
第七 (明治三十五年)	氏名	木暮武太夫	日向輝武	東條良平	鈴木久次郎	板倉中	櫻井靜	鈴木儀左衛門	伊藤德太郎	安田勳	千葉禎太郎
第八 (明治三十六年)	氏名	佐藤虎次郎	久米民之助	濱野昇	東條良平	伊藤德太郎	鈴木久次郎	板倉中	安川寛三郎	櫻井靜	大久保忠均
第九 (明治三十七年)	氏名	日向輝武	星野長太郎	菅澤重雄	千葉禎太郎	加瀬禧逸	板倉中	吉植庄一郎	櫻本次郎右衛門	鈴木久次郎	伊藤德太郎
第十 (明治四十一年)	氏名	根岸昭太郎	佐藤虎次郎	藤代市之輔	吉植庄一郎	長島鷲太郎	稻村辰次郎	板倉中	東條良平	安田勳	鶴澤總明
第十一 (明治四十五年)	氏名	日向輝武	葉佳利藏	須藤嘉吉	福澤桃介	鶴澤總明	吉植庄一郎	小林勝民	柏原文太郎	板倉中	加瀬禧逸

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選 舉	府 縣	區	栃木縣		奈良縣				三			
			郡	部	郡	部	津市	四日市	市	市		
第七 (明治三十五年)	氏名	木村半兵衛	青木孝	木村順之助	木本源吉	北島具雄	森田德兵衛	松本強二	久保伊一郎	長井氏克	三輪猶作	木村誓太郎
第八 (明治三十六年)	氏名	田村順之助	持田若佐	木村半兵衛	榊原經武	久保伊一郎	松本長平	北島具雄	平井由太郎	尾崎行雄	尾崎行雄	尾崎行雄
第九 (明治三十七年)	氏名	持田若佐	石田仁太郎	新井章吾	木村半兵衛	米田實	乾奈良吉	久保伊一郎	北島具雄	井上敏夫	井上敏夫	栗原亮一
第十 (明治四十一年)	氏名	小林庄一郎	木村半兵衛	江原節	高久倉藏	八木逸郎	青木新治郎	井上信作郎	森正	松本恆之助	松本恆之助	栗原亮一
第十一 (明治四十五年)	氏名	友常穀三郎	阿由葉鎗三郎	橫尾輝吉	田村順之助	中山梅治郎	岩本平藏	村井善四郎	奥山寬平	濱田國松	濱田國松	濱田國松

重 縣		愛 知 縣										
郡	部	市屋古名	郡	部								
大石正己	栗原亮一	平田力之助	八尾信夫	尾崎行雄	海野謙次郎	服部小十郎	志水直	早川龍介	志賀重昂	加藤六藏	鈴置倉次郎	太田善四郎
森茂生	速水熊太郎	海野謙次郎	平田力之助	森本確也	鈴木總兵衛	鈴木總兵衛	鈴木總兵衛	村松愛藏	太田善四郎	大池謙次郎	志賀重昂	早川龍介
大井卜新	速水熊太郎	森茂生	辻寬	栗原亮一	濱田國松	鈴木總兵衛	服部小十郎	竹田千代足	後藤文一郎	林小參	鈴木友治郎	清水松三郎
片岡直溫	尾崎行雄	濱田國松	大井卜新	中村豐次郎	森茂生	安東敏之	清水市太郎	橫井甚四郎	鈴木仙太郎	築山和一	村松愛藏	早川龍介
梅原龜七	岡八	辻寬	森茂生	川村曄	石黒磐	三輪市太郎	大口喜六	森田小六郎	德倉六兵衛	鈴置倉次郎	清水市太郎	清水市太郎

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選 舉		府 縣	縣 知 愛		岡 靜		縣	
第 七	第 八	區	部	郡	市 野 岡	郡	部	部
(明治三十五年)	(明治三十六年)	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
川島松次郎	林 小 參	鈴木倉次郎	福岡精一	村松愛藏	後藤文一郎	早川龍介	尾崎元次郎	尾崎元次郎
林 小 參	青樹英二	築山和一	福岡精一	春田祐清	河村寬裕	田中善立	田中善立	田中善立
鈴木倉次郎	鈴木友治郎	吉原祐太郎	鈴木友治郎	春田祐清	吉原祐太郎	春田祐清	吉原祐太郎	吉原祐太郎
大道寺忠七	大道寺忠七	小林仲次	內藤魯一	春田祐清	春田祐清	春田祐清	春田祐清	春田祐清
福岡精一	福岡精一	松本君平	秋山一裕	尾崎元次郎	尾崎元次郎	尾崎元次郎	尾崎元次郎	尾崎元次郎
星野鐵太郎	大野久次	松浦五兵衛	清 峯 太 郎	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏
福島勝太郎	森田勇次郎	澤 田 寧	澤 田 寧	清 峯 太 郎	清 峯 太 郎	清 峯 太 郎	清 峯 太 郎	清 峯 太 郎
松浦五兵衛	福島勝太郎	青地雄太郎	澤 田 寧	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏
伊藤市平	鈴木藤三郎	湯山壽介	大橋賴摸	岩 崎 勳	岩 崎 勳	岩 崎 勳	岩 崎 勳	岩 崎 勳
澤 田 寧	鈴木藤三郎	鈴木藤三郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
河井重藏	湯山壽介	鈴木藤三郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
松浦五兵衛	湯山壽介	鈴木藤三郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
青地雄太郎	湯山壽介	鈴木藤三郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
富永發叔	澤 田 寧	大野久次	八束可海	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
佐竹作太郎	澤 田 寧	大野久次	八束可海	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
廣瀨久政	根津嘉一郎	森 國 造	市川文藏	市川文藏	市川文藏	市川文藏	市川文藏	市川文藏
藥袋義一	望月小太郎	根津嘉一郎	堀内啓治	堀内啓治	堀内啓治	堀内啓治	堀内啓治	堀内啓治
望月小太郎	長澤市藏	天野董平	根津嘉一郎	根津嘉一郎	根津嘉一郎	根津嘉一郎	根津嘉一郎	根津嘉一郎
長澤市藏	菊島生宜	望月小太郎	手塚正次	手塚正次	手塚正次	手塚正次	手塚正次	手塚正次
谷澤龍藏	酒井岩造	谷澤龍藏	村田虎次郎	村田虎次郎	村田虎次郎	村田虎次郎	村田虎次郎	村田虎次郎
望月長夫	伊夫伎資彌	高橋政右衛門	柴田源左衛門	柴田源左衛門	柴田源左衛門	柴田源左衛門	柴田源左衛門	柴田源左衛門
井上敬之助	澤田耕治郎	武田貞之助	八見米次郎	八見米次郎	八見米次郎	八見米次郎	八見米次郎	八見米次郎
澤田耕治郎	望月長夫	藤井善助	中小路與平治	中小路與平治	中小路與平治	中小路與平治	中小路與平治	中小路與平治
布施孫一郎	淺見竹太郎	吉田虎之助	森川源吾	森川源吾	森川源吾	森川源吾	森川源吾	森川源吾
大東義徹	井上敬之助	鵜飼退藏	島田保之助	島田保之助	島田保之助	島田保之助	島田保之助	島田保之助

選 舉		府 縣	縣 知 愛		岡 靜		縣	
第 七	第 八	區	部	郡	市 野 岡	郡	部	部
(明治三十五年)	(明治三十六年)	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
川島松次郎	林 小 參	鈴木倉次郎	福岡精一	村松愛藏	後藤文一郎	早川龍介	尾崎元次郎	尾崎元次郎
林 小 參	青樹英二	築山和一	福岡精一	春田祐清	河村寬裕	田中善立	田中善立	田中善立
鈴木倉次郎	鈴木友治郎	吉原祐太郎	鈴木友治郎	春田祐清	吉原祐太郎	春田祐清	吉原祐太郎	吉原祐太郎
大道寺忠七	大道寺忠七	小林仲次	內藤魯一	春田祐清	春田祐清	春田祐清	春田祐清	春田祐清
福岡精一	福岡精一	松本君平	秋山一裕	尾崎元次郎	尾崎元次郎	尾崎元次郎	尾崎元次郎	尾崎元次郎
星野鐵太郎	大野久次	松浦五兵衛	清 峯 太 郎	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏
福島勝太郎	森田勇次郎	澤 田 寧	澤 田 寧	清 峯 太 郎	清 峯 太 郎	清 峯 太 郎	清 峯 太 郎	清 峯 太 郎
松浦五兵衛	福島勝太郎	青地雄太郎	澤 田 寧	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏	伊 東 要 藏
伊藤市平	鈴木藤三郎	湯山壽介	大橋賴摸	岩 崎 勳	岩 崎 勳	岩 崎 勳	岩 崎 勳	岩 崎 勳
澤 田 寧	鈴木藤三郎	鈴木藤三郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
河井重藏	湯山壽介	鈴木藤三郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
松浦五兵衛	湯山壽介	鈴木藤三郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
青地雄太郎	湯山壽介	鈴木藤三郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
富永發叔	澤 田 寧	大野久次	八束可海	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
佐竹作太郎	澤 田 寧	大野久次	八束可海	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎	鈴木辰次郎
廣瀨久政	根津嘉一郎	森 國 造	市川文藏	市川文藏	市川文藏	市川文藏	市川文藏	市川文藏
藥袋義一	望月小太郎	根津嘉一郎	堀内啓治	堀内啓治	堀内啓治	堀内啓治	堀内啓治	堀内啓治
望月小太郎	長澤市藏	天野董平	根津嘉一郎	根津嘉一郎	根津嘉一郎	根津嘉一郎	根津嘉一郎	根津嘉一郎
長澤市藏	菊島生宜	望月小太郎	手塚正次	手塚正次	手塚正次	手塚正次	手塚正次	手塚正次
谷澤龍藏	酒井岩造	谷澤龍藏	村田虎次郎	村田虎次郎	村田虎次郎	村田虎次郎	村田虎次郎	村田虎次郎
望月長夫	伊夫伎資彌	高橋政右衛門	柴田源左衛門	柴田源左衛門	柴田源左衛門	柴田源左衛門	柴田源左衛門	柴田源左衛門
井上敬之助	澤田耕治郎	武田貞之助	八見米次郎	八見米次郎	八見米次郎	八見米次郎	八見米次郎	八見米次郎
澤田耕治郎	望月長夫	藤井善助	中小路與平治	中小路與平治	中小路與平治	中小路與平治	中小路與平治	中小路與平治
布施孫一郎	淺見竹太郎	吉田虎之助	森川源吾	森川源吾	森川源吾	森川源吾	森川源吾	森川源吾
大東義徹	井上敬之助	鵜飼退藏	島田保之助	島田保之助	島田保之助	島田保之助	島田保之助	島田保之助

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選舉	府縣區	岐阜縣										長	
		市岐阜		郡		部		郡		市長野			
第七(明治三十五年)	氏名	渡邊甚吉	山田省三郎	古井由之	藤掛文平	大野龜三郎	棚橋一郎	松原九郎	各務平七	水晶平右衛門	小坂善之助	宮下一清	降旗元太郎
第八(明治三十六年)	氏名	岡井藤之丞	大野龜三郎	天野若圓	古屋善造	河村喜助	山田省三郎	松原九郎	矢島浦太郎	小川平吉	橫澤本衛	久保田與四郎	
第九(明治三十七年)	氏名	林小一郎	兼松 熙	吉井由之	大野龜三郎	山田省三郎	松原九郎	大熊三之助	前島元助	矢島浦太郎	降旗元太郎	工藤善助	
第十(明治四十一年)	氏名	千早正次郎	古井由之	花村覺三郎	大野龜三郎	佐々木文一	松野祐次郎	岡井藤之丞	水晶平右衛門	安川保次郎	渡邊千冬	伊藤大八	
第十一(明治四十五年)	氏名	原 眞澄	安田伊左衛門	岡崎久次郎	高橋義信	牧野彦太郎	大野龜三郎	佐々木文一	早川六三郎	笠原忠造	風間禮助	矢島浦太郎	

選舉	府縣區	野縣										宮城縣				
		部		郡		部		郡		市仙臺		郡		市若松		
第七(明治三十五年)	氏名	久保田與四郎	中村彌六	牧野 元	石塚重平	龍野周一郎	兩角彦六	藤澤幾之輔	菅原 傳	澤 來太郎	南條文五郎	首藤陸三	鎌田三之助	村松龜一郎	渡邊 鼎	
第八(明治三十六年)	氏名	小出八郎右衛門	兩角彦六	木内 信	久保田與四郎	立川雲平	南條吉左衛門	菅原 傳	遠藤庸治	鎌田三之助	高野孟矩	村松龜一郎	菅原 傳	菅原 傳	柴 四朗	
第九(明治三十七年)	氏名	小川平吉	牧野 元	石塚重平	久保田與四郎	立川雲平	伊藤大八	菅原 傳	南條文五郎	澤 來太郎	首藤陸三	遠藤良吉	遠藤良吉	遠藤良吉	柴 四朗	
第十(明治四十一年)	氏名	久保田與四郎	翠川鐵三	立川雲平	中村彌六	伊藤大八	伊藤大八	村松龜一郎	高野孟矩	菅原 傳	齋藤二郎	首藤陸三	澤 來太郎	澤 來太郎	柴 四朗	
第十一(明治四十五年)	氏名	岡部次郎	岩岡伊代治	翠川鐵三	小坂順造	山田禎三郎	岩崎總十郎	澤 來太郎	田代進四郎	遠藤良吉	菅原 傳	藤澤幾之輔	村松龜一郎	村松龜一郎	日下義雄	

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選		府縣												
第	舉	區												
第七	(明治三十五年)	氏名	日下義雄	河野廣中	白井貞藏	柴四朗	平島松尾	佐瀨熊鐵	室原重福	八島成正	原敬	一ノ倉貫一	高橋金治	大隈英麿
第八	(明治三十六年)	氏名	平島松尾	野木善三郎	堀江覺治	河野廣中	佐治幸平	室原重福	赤坂龜次郎	愛澤寧堅	松本與右衛門	一ノ倉貫一	一ノ倉貫一	一ノ倉貫一
第九	(明治三十七年)	氏名	河野廣中	佐治幸平	朝倉鐵藏	唐橋左源次	松本孫右衛門	平島松尾	安島重三郎	小田文行	阿部德三郎	阿部德三郎	阿部德三郎	阿部德三郎
第十	(明治四十一年)	氏名	鈴木寅彦	河野廣中	佐々木鐵太郎	星一	柏原左源太	佐治幸平	平島松尾	堀江覺治	堀瀨軍之佐	堀瀨軍之佐	村上先	村上先
第十一	(明治四十五年)	氏名	堀切善兵衛	吉田定之助	鈴木萬次郎	半谷清壽	鈴木寅彦	井深彦三郎	松本孫右衛門	河野廣中	福田善三郎	工藤吉次	工藤吉次	工藤吉次

選		府縣												
第	舉	區												
第七	(明治三十五年)	氏名	日下義雄	河野廣中	白井貞藏	柴四朗	平島松尾	佐瀨熊鐵	室原重福	八島成正	原敬	一ノ倉貫一	高橋金治	大隈英麿
第八	(明治三十六年)	氏名	平島松尾	野木善三郎	堀江覺治	河野廣中	佐治幸平	室原重福	赤坂龜次郎	愛澤寧堅	松本與右衛門	一ノ倉貫一	一ノ倉貫一	一ノ倉貫一
第九	(明治三十七年)	氏名	河野廣中	佐治幸平	朝倉鐵藏	唐橋左源次	松本孫右衛門	平島松尾	安島重三郎	小田文行	阿部德三郎	阿部德三郎	阿部德三郎	阿部德三郎
第十	(明治四十一年)	氏名	鈴木寅彦	河野廣中	佐々木鐵太郎	星一	柏原左源太	佐治幸平	平島松尾	堀江覺治	堀瀨軍之佐	堀瀨軍之佐	村上先	村上先
第十一	(明治四十五年)	氏名	堀切善兵衛	吉田定之助	鈴木萬次郎	半谷清壽	鈴木寅彦	井深彦三郎	松本孫右衛門	河野廣中	福田善三郎	工藤吉次	工藤吉次	工藤吉次

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選		府縣		山形縣		秋田縣		田縣		福井縣	
第	七	第	八	第	九	第	十	第	十一	郡	市
七	(明治三十五年)	八	(明治三十六年)	九	(明治三十七年)	十	(明治四十一年)	十一	(明治四十五年)	郡	市
氏名	山下千代雄	氏名	國井庫	氏名	長晴登	氏名	加藤正英	氏名	齋藤三郎右衛門	郡	市
氏名	小野寺順太	氏名	大久保鐵作	氏名	池田藤八郎	氏名	佐藤信古	氏名	井上廣居	郡	市
氏名	畑隆太郎	氏名	沼田宇源太	氏名	大繩久雄	氏名	榑田清兵衛	氏名	町田忠治	郡	市
氏名	武石敬治	氏名	齋藤宇一	氏名	荒谷桂吉	氏名	榑田清兵衛	氏名	齋藤宇一	郡	市
氏名	齋藤宇一	氏名	成田直衛	氏名	齋藤宇一	氏名	添田飛雄太郎	氏名	齋藤宇一	郡	市
氏名	成田直衛	氏名	三浦盛德	氏名	石井信	氏名	齋藤宇一	氏名	添田飛雄太郎	郡	市
氏名	山田猪太郎	氏名	武石敬治	氏名	近江谷榮次	氏名	三浦盛德	氏名	田中隆三	郡	市
氏名	沼田宇源太	氏名	山田猪太郎	氏名	三浦盛德	氏名	近江谷榮次	氏名	三浦盛德	郡	市
氏名	目黒貞治	氏名	牧野逸馬	氏名	鷺田土三郎	氏名	八田裕二郎	氏名	大橋松二郎	郡	市
氏名	牧野逸馬	氏名	杉田定一	氏名	萩野芳藏	氏名	吉田圓助	氏名	丹尾賴馬	郡	市
氏名	丹尾賴馬	氏名	福島宜三	氏名	福島宜三	氏名	丹尾賴馬	氏名	高島茂平	郡	市

選		府縣		山形縣		秋田縣		田縣		福井縣	
第	七	第	八	第	九	第	十	第	十一	郡	市
七	(明治三十五年)	八	(明治三十六年)	九	(明治三十七年)	十	(明治四十一年)	十一	(明治四十五年)	郡	市
氏名	伊藤淳	氏名	伊藤淳	氏名	丹尾賴馬	氏名	笠川繼孝	氏名	熊谷五右衛門	郡	市
氏名	福島宜三	氏名	水登勇太郎	氏名	山森隆	氏名	戸水寛人	氏名	高島茂平	郡	市
氏名	山森隆	氏名	藻寄鉄五郎	氏名	淺野順平	氏名	駒田小次郎	氏名	山本七朗	郡	市
氏名	松田吉三郎	氏名	松田吉三郎	氏名	淺野順平	氏名	上出長次郎	氏名	米田穰	郡	市
氏名	田中喜太郎	氏名	田中喜太郎	氏名	中谷字平	氏名	橋本次六	氏名	松田吉三郎	郡	市
氏名	中谷字平	氏名	中谷字平	氏名	中谷字平	氏名	米田穰	氏名	相川久太郎	郡	市
氏名	庭田次平	氏名	淺野順平	氏名	松田吉三郎	氏名	真館貞造	氏名	岩田大中	郡	市
氏名	室木彌八郎	氏名	牧野平五郎	氏名	關野善次郎	氏名	牧野平五郎	氏名	岩田大中	郡	市
氏名	關野善次郎	氏名	安藤謙介	氏名	鳥山敬二郎	氏名	篠井甚吉	氏名	木津太郎平	郡	市
氏名	鳥山敬二郎	氏名	米澤紋三郎	氏名	鳥山敬二郎	氏名	岡崎佐次郎	氏名	森丘覺平	郡	市
氏名	大橋十右衛門	氏名	大矢四郎兵衛	氏名	金岡又左衛門	氏名	西能源四郎	氏名	武部其文	郡	市
氏名	上埜安太郎	氏名	上埜安太郎	氏名	田村惟昌	氏名	神保東作	氏名	廣瀬鎮之	郡	市
氏名	田村惟昌	氏名	安念次左衛門	氏名	田村惟昌	氏名	廣瀬鎮之	氏名	廣瀬鎮之	郡	市
氏名	金岡又左衛門	氏名	田村惟昌	氏名	神保東作	氏名	廣瀬鎮之	氏名	廣瀬鎮之	郡	市

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選 舉		府 縣	富山縣 郡部	縣 取 鳥				縣 根 島								
第 七 (明治三十五年)	第 八 (明治三十六年)			第 九 (明治三十七年)	第 十 (明治四十一年)	第 十一 (明治四十五年)	隱岐	部	郡	市松江	部	郡	市鳥取			
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	大矢四郎兵衛	西谷金藏	西谷金藏	田江泰造	長谷川芳之助	岡崎運兵衛	右田古文	江角千代次郎	園山 勇	恆松隆慶	西山關一郎	高梨東太
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	田村惟昌	石谷傳四郎	西谷金藏	西谷金藏	稻田藤治郎	高橋慶太郎	恆松隆慶	右田古文	江角千代次郎	石田孝吉	向坂 弘	原田越城
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	安念次左衛門	國谷 亨	福留清四郎	岡本金太郎	江角千代次郎	石田孝吉	向坂 弘	河上 英	恆松隆慶	向坂 弘	中沼信一郎	
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	伊東祐賢	木下義之	西谷金藏	奧田柳藏	岡崎運兵衛	恆松隆慶	園山 勇	高橋久次郎	島田俊雄	石田孝吉	小川藏次郎	原田越城
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	野村嘉六	濱本義顯	法橋善作	西谷金藏	奧田柳藏	福岡世徳	島田俊雄	高橋久次郎	石田孝吉	小川藏次郎	原田越城	

選 舉		府 縣	富山縣 郡部	縣 取 鳥				縣 山 岡				縣 島 廣						
第 七 (明治三十五年)	第 八 (明治三十六年)			第 九 (明治三十七年)	第 十 (明治四十一年)	第 十一 (明治四十五年)	隱岐	部	郡	市岡山	部	郡	市廣島	市尾道	部	郡		
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	石黒涵一郎	西村丹治郎	守屋此助	犬養 毅	井手毛三	坂本義夫	竹内正志	津田鍛雄	野間五造	早速整爾	花井卓藏	井上角五郎	和田彦次郎	内藤守三
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	犬養 毅	犬養 毅	安井丈夫	守屋此助	井手毛三	坂本義夫	入江武一郎	福井三郎	福井三郎	串本康三	高木龍藏	内藤守三	富島暢夫	富島暢夫
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	大月復三郎	犬養 毅	竹内正志	坂本金彌	西村丹治郎	入江武一郎	橫井時雄	守屋此助	守屋此助	早速整爾	井上角五郎	荒川五郎	米田武八郎	米田武八郎
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	服部綾雄	橫井時雄	守屋此助	福井三郎	犬養 毅	入江武一郎	坂本金彌	坂本金彌	坂本金彌	串本康三	橋本太吉	花井卓藏	井上角五郎	横山金太郎
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	有森新吉	豐福泰造	犬養 毅	守屋此助	山谷虎三	福井三郎	小出五郎	西村丹治郎	坂本金彌	串本康三	橋本太吉	花井卓藏	井上角五郎	井上角五郎

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選 府		縣		廣 島 縣		山 口 縣	
舉	區	郡	部	郡	部	郡	部
第七 (明治三十五年)	氏名	小田 亮	麥田 宰三郎	田部 香藏	森田 卓爾	山科 禮藏	富島 暢夫
第八 (明治三十六年)	氏名	井上 角五郎	松井 將壯	麥田 宰三郎	小田 貫一	小田 貫一	望月 圭介
第九 (明治三十七年)	氏名	花井 卓藏	富島 暢夫	松本 大吉	小田 貫一	麥田 宰三郎	森田 卓爾
第十 (明治四十一年)	氏名	荒川 五郎	麥田 宰三郎	世良 靜一	金尾 稜巖	森田 俊左久	富島 暢夫
第十一 (明治四十五年)	氏名	湯淺 凡平	桑原 伊十郎	早速 盤爾	有田 溫三	金尾 稜巖	森田 俊左久
							土井 重吉
							渡邊 祐策
							國光 五郎
							林 永太
							大岡 育造

縣		和 歌 山 縣		德 島 縣	
部	郡	郡	部	郡	部
上田 實	岡田 治衛武	瀧口 吉良	小河源 一	金子 圭介	久保 通猷
林 仙輔	豐永 長吉	三輪 傳七	大岡 育造	阪本 彌一郎	小山 谷藏
山根 正次	上田 實	小河源 一	佐々木 安五郎	山口 熊野	兒玉 亮太郎
阪本 彌一郎	森 懋	阪本 彌一郎	山口 熊野	神前 修三	岡崎 邦輔
山本 隆太郎	望月 右内	濱口 擔	山口 熊野	神前 修三	岡崎 邦輔
神前 修三	吉村 英徵	中西 光三郎	神前 修三	神前 修三	西風 重遠
山口 熊野	神前 修三	望月 右内	中村 啓次郎	望月 右内	西風 重遠
千田 軍之助	山口 熊野	神前 修三	望月 右内	望月 右内	中村 啓次郎
望月 右内	山本 隆太郎	神前 修三	千田 軍之助	望月 右内	中村 啓次郎
岩本 晴之	市 德島	一坂 俊太郎	秋田 清	板東 勘五郎	板東 勘五郎
板東 勘五郎	須見 千次郎	橋本 久太郎	川真田 德三郎	須見 千次郎	須見 千次郎
橋本 久太郎	須見 千次郎	須見 千次郎	大久保 弁太郎	大久保 弁太郎	大久保 弁太郎
須見 千次郎	須見 千次郎	須見 千次郎	須見 千次郎	須見 千次郎	須見 千次郎
川真田 德三郎	須見 千次郎	須見 千次郎	須見 千次郎	須見 千次郎	須見 千次郎

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選 舉	氏 名	府 縣		香 川 縣		愛 媛 縣	
		郡 區	郡 部	郡 部	郡 部	郡 部	郡 部
第七 (明治三十五年)	新開 貢	德島縣	新開	香川縣	高松市	森 肇	伊達武四郎
第八 (明治三十六年)	橋本久太郎	德島縣	新開	香川縣	高松市	山本盛信	渡邊 修
第九 (明治三十七年)	大久保弁太郎	德島縣	新開	香川縣	高松市	西 彰	長谷部倉藏
第十 (明治四十二年)	中川虎之助	德島縣	新開	香川縣	高松市	加藤恆忠	才賀藤吉
第十一 (明治四十五年)	大久保弁太郎	德島縣	新開	香川縣	高松市	高野金重	渡邊 修

選 舉	氏 名	府 縣		高 知 縣		福 岡 縣	
		郡 區	郡 部	郡 部	郡 部	郡 部	郡 部
第七 (明治三十五年)	新開 貢	高知縣	高知市	香川縣	高松市	香川縣	高松市
第八 (明治三十六年)	橋本久太郎	高知縣	高知市	香川縣	高松市	香川縣	高松市
第九 (明治三十七年)	大久保弁太郎	高知縣	高知市	香川縣	高松市	香川縣	高松市
第十 (明治四十二年)	中川虎之助	高知縣	高知市	香川縣	高松市	香川縣	高松市
第十一 (明治四十五年)	大久保弁太郎	高知縣	高知市	香川縣	高松市	香川縣	高松市

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

選 舉	府 縣	福 岡 縣											
		郡						部					
第七 (明治三十五年)	氏 名	野田卯太郎	由布惟義	征矢野半彌	多田作兵衛	中野德次郎	大原義剛	田中秀治郎	佐々木正藏	堤 猷久	藤 金作	箕浦勝人	木下謙次郎
第八 (明治三十六年)	氏 名	征矢野半彌	多田作兵衛	堤 猷久	由布惟義	野田卯太郎	武内美代吉	藤 金作	伊藤傳右衛門	佐々木正藏	木下學而	木下謙次郎	箕浦勝人
第九 (明治三十七年)	氏 名	藤 金作	野田卯太郎	多田作兵衛	伊藤傳右衛門	井手武右衛門	征矢野半彌	佐々木正藏	由布惟義	中村雄藏	武内美代吉	佐藤庫喜	元田 肇
第十 (明治四十一年)	氏 名	藏内治郎作	古野孫太郎	熊本壽人	大内暢三	的野半介	福本 誠	庄野金十郎	野田卯太郎	永江純一	富安保太郎	木下謙次郎	三浦覺一
第十一 (明治四十五年)	氏 名	樋口典常	野田卯太郎	藏内治郎作	吉原正隆	富安保太郎	的野半介	加藤新次郎	永江純一	大内暢三	大原義剛	元田 肇	木下謙次郎

選 舉	府 縣	佐 賀 縣													
		郡						部							
第七 (明治三十五年)	氏 名	上原鹿造	元田 肇	宮村三多	水之江文二郎	江藤新作	武富時敏	神崎東藏	松田正久	川原茂輔	關 清英	岡崎唯雄	出田信記	佐々友房	安達謙藏
第八 (明治三十六年)	氏 名	元田 肇	宮村三多	中川久知	水之江文二郎	神崎東藏	武富時敏	川原茂輔	松田正久	兼松 照	兼松 照	高田 露	池松豐記	松村時次	松村時次
第九 (明治三十七年)	氏 名	箕浦勝人	木下謙次郎	野尻邦基	是永歲太郎	松田正久	山口小一	神崎東藏	武富時敏	武富時敏	武富時敏	大畑純次	大淵龍太郎	安達謙藏	佐々友房
第十 (明治四十一年)	氏 名	松田源治	元田 肇	佐藤庫喜	豐增龍次郎	有田源一郎	武富時敏	神崎東藏	武富時敏	神崎東藏	山田珠一	山田又三	守山又三	内野 延	紫垣一雄
第十一 (明治四十五年)	氏 名	津末夏介	箕浦勝人	松田源治	秋本豐之進	江副靖臣	武富時敏	川原茂輔	狩野雄一	八坂甚八	松田正久	井手三郎	守山又三	松村時次	松村時次

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

鹿		縣崎宮			縣本熊			府縣	選舉
郡	鹿島	部		郡	部		區	氏名	
武滿義雄	岩元信兵衛	中原清	石川清	高山真平	坂元英俊	江藤茂	山田珠一	第七 (明治三十五年)	
和泉邦彦	”	高山真平	川越進	坂元英俊	城重雄	小山雄太郎	佐々友房	第八 (明治三十六年)	
山崎良純	長谷場純孝	城重雄	坂元英俊	初木卿太郎	石川清	池松豐記	中西新作	第九 (明治十七年)	
武滿義雄	”	山岡國吉	川越進	肥田景之	水間此農夫	原田十衛	安達謙藏	第十 (明治十一年)	
袖木慶二	飛岡卯一郎	肥田景之	濱田政壯	塚本常彌	”	江藤哲藏	高田露	第十一 (明治十五年)	

縣繩沖		道海北			縣島兒		
國頭郡	中島郡	首里郡	那霸郡	管内	管内	管内	管内
				高橋直治	平出喜三郎	森源三	岡元直熊
				高野源之助	内山吉太	對島嘉三郎	嶺山時善
		柳田藤吉	松井源内	中西六三郎	金子元三郎	淺羽靖	”
		白石義郎	橫田虎彦	東武	渡邊兵四郎	小橋榮太郎	坂本元明
岸本賀昌	高嶺朝教	木下成太郎	内山吉太	”	高橋直治	平出喜三郎	麓純義

第二編 議員及其異動氏名表(第七乃至第十一選舉)

○議員ノ異動

府縣		第一回選舉後二係ルモノ		府縣		第二回選舉後二係ルモノ	
選區	舊議員氏名	異動事由	補闕當選者氏名	選區	舊議員氏名	異動事由	補闕當選者氏名
府縣	十森 時之助	辭職	角田眞平	府縣	四相馬永胤	辭職	脇坂行三
東京	中江篤介	辭職	村山龍平	滋賀	五遠藤 溫	辭職	佐藤運宜
大阪	三法貴 發	死去	田 艇吉	石川	二相川久太郎	當選無效	杉村寛正
兵庫	山際七司	死去	小柳卯三郎	富山	一磯部四郎	判事二任セラル	石坂專之助
新潟	小林雄七郎	死去	波多野傳三郎	鳥取	一岡崎平内	辭職	木下莊平
埼玉	三間中眞之	死去	野口 繁	廣島	三松南宏雅	辭職	門脇重雄
茨城	四森 隆介	當選無效	赤松新右衛門	山口	二井上正一	判事二任セラル	井上角五郎
三重	五北川矩一	辭職	角 利助	山口	四野村恆造	辭職	堅田少輔
愛知	四宮田慎一郎	辭職	松山義根	和歌山	一陸奥宗光	辭職	矢島作郎
滋賀	一杉浦重剛	辭職	川島宇一郎	熊本	六松山守善	當選無效	岡崎邦輔
	三伊庭貞剛	辭職	中小路與平治				小崎義明

(備考)

山口縣 第一區

末松 三郎

復籍

光妙寺三郎

第二回選舉後二係ルモノ

東京	四藤田茂吉	死去	楠本正隆	石川	二新田甚左衛門	辭職	杉村寛正
兵庫	二渡邊 徹	辭職	奥野小四郎	富山	一岩城隆常	死去	關野善次郎
群馬	五湯淺治郎	辭職	宮口二郎	廣島	四武部其文	當選無效	島田孝之
千葉	二狩野揆一郎	死去	秋元三左衛門	廣島	一平山靖彦	辭職	藤田高之
栃木	一星 亨	除名		廣島	二八田謹二郎	辭職	小田貫一
三重	四伊藤謙吉	辭職	栗原亮一	山口	七長井松太郎	死去	前田莞爾
愛知	六加藤政一	辭職	加藤喜右衛門	山口	四曾禰荒助	辭職	小倉甚吉
宮城	五齋藤善右衛門	辭職	首藤陸三	德島	五曾我部道夫	辭職	阿部興人
巖手	一上田農夫	當選無效	谷河尙忠	高知	一武市安哉	辭職	小松三省
山形	一宮城浩藏	死去	重野謙次郎	高知	二安岡雄吉	當選無效	片岡健吉
秋田	四松澤光憲	辭職	小磯忠之輔	高知	二片岡直溫	當選無效	林 有造
	四齋藤勘七	辭職	坂本理一郎	大分	六是恒眞楫	死去	元田 肇

府縣	舊議員氏名	異動事由	補當選者氏名	府縣	區選舉	舊議員氏名	異動事由	補當選者氏名
熊本	五山田武甫	死	嘉悅氏房	鹿兒島	六	篠田政龍	死	蒲生仙
(備考)	高知縣	第三區	植木志澄	復籍	西山志澄			

(第三回選舉後ノ異動ナシ)
 第四回選舉後ニ係ルモノ

東京	四楠本正隆	華族三列セラル	濱口吉右衛門	靜岡	四丸尾文六	死	岡田良一郎
東京	七角田眞平	辭職	松田秀雄	巖手	三伊藤圭介	死	佐藤昌藏
大阪	一粟谷品三	死	田中市兵衛	福井	二坪田仁兵衛	死	大針徳兵衛
兵庫	三田艇吉	辭職	森本重太郎	石川	四百萬梅治	死	竹内虎松
長崎	一家永芳彦	辭職	森本莊三郎	鳥取	二田江彌三郎	死	西谷金藏
新潟	九後藤五郎治	死	小川虎一	山口	五小田伴輔	辭職	山本六彦
埼玉	三野口葵	辭職	市橋藤藏	香川	三鎌田勝太郎	辭職	綾井武夫
			長瀬清一郎	愛媛	四三崎龜之助	辭職	景山甚右衛門
					六末廣重恭	死	今西幹一郎

千葉	五原善三郎	貴族院議員ニ任セラル	荻野六郎	熊本	二戸田熊彦	死	村上一郎
栃木	一星亨	辭職	中山丹治郎	鹿兒島	三紫藤寛治	死	佐伯誠一郎
愛知	四和田方正	死	藤田吉亨	熊本	四紫垣伴三	貴族院議員ニ任セラル	武藤一忠
	十山本三太郎	死去	小林仲次	熊本	五河島醇	辭職	藤岡常彦
(備考)	大阪府	第六區	南野道親	復籍	菅野道親		
	熊本縣	第五區	田村政復	復籍	宗像政		

(第五回選舉後ノ異動ナシ)
 第六回選舉後ニ係ルモノ

東京	四横山富次郎	處刑		熊本	四梶野敬三	死	神藤才一
京都	五利光鶴松	處刑		兵庫	一本城安次郎	死	鹿島秀麿
大阪	四喜多川孝經	辭職	奥繁三郎	長崎	三植木致一	辭職	田健治郎
大坂	九中辰之助	辭職	佐々木政文	新潟	一淺田次郎	死	松尾巳代治
徳島	三德増源太郎	辭職	鈴木忠兵衛		六牧口義方	死去	山田順一

府縣	區	選舉	舊議員氏名	異動事由	補闕當選者氏名
茨城	六	岡野 寛	死	去	吉田源八
栃木	一	星 亨	死	去	持田若佐
	三	田中正造	辭	職	蓼沼丈吉
	四	山田 武	死	去	福島一造
奈良	三	磯田和藏	死	去	伊東四郎
三重	三	和波久十郎	處	刑	平田力之助
静岡	二	伊達文三	死	去	西ヶ谷可吉
岐阜	一	大野龜三郎	當選無效		天野若圓
	二	片野篤二	死	去	金森吉次郎
	六	前島丈之助	辭	職	市岡政香
長野	五	小山久之助	死	去	石塚重平
巖手	二	小田爲綱	死	去	篠 民三
府縣	區 <td>選舉 <td>舊議員氏名</td> <td>異動事由</td> <td>補闕當選者氏名</td> </td>	選舉 <td>舊議員氏名</td> <td>異動事由</td> <td>補闕當選者氏名</td>	舊議員氏名	異動事由	補闕當選者氏名
巖手	二	篠 民三	當選無效		山崎庸哉
	三	名須川良平	死	去	佐藤昌藏
	二	小倉信近	辭	職	山下千代雄
山形	二	小倉信近	辭	職	山下千代雄
富山	三	稻垣 示	死	去	
和歌山	一	濱口吉右衛門	辭	職	兒玉仲兒
福岡	三	許斐鷹助	辭	職	麻生太吉
大分	七	山本貴三郎	死	去	青柳四郎
	三	朝倉親爲	死	去	首藤邦基
熊本	二	松尾又雄	死	去	出田信記
	三	古莊嘉門	辭	職	犬飼眞平
宮崎	一	津野 常	死	去	

(備考) 熊本縣 第三區 佐伯誠一郎 復籍 中津誠一郎

第七回選舉後二係ルモノ

秋田郡部 目黒貞治 選挙法違反 石井 信

(備考) 巖手縣 郡部選出 大隈 英 磨 復籍 南部 英 磨

第八回選舉後二係ルモノ

長崎郡部	西村規矩	死	去	島津良知
福井郡部	伊藤 淳	死	去	福島宜三
島根	高橋慶太郎	處	刑	岡崎運兵衛
岡山郡部	阪本義夫	當選無效		竹内正志
高知郡部	片岡健吉	死	去	山本幸彦

第九回選舉後二係ルモノ

東京 東京市	秋山定輔	辭	職	磯部四郎
青森郡部	工藤行幹	死	去	市田兵七
福井郡部	時間又左衛門	死	去	荻野芳藏
三重 津市	長井氏克	死	去	松本恒之助
三重 郡部	速水熊太郎	死	去	海野謙次郎
新瀉 新潟市	白勢春三	當選無效		丸山隆藏一郎
愛知郡部	清水松三郎	死	去	内藤魯一
香川郡部	井上甚太郎	死	去	久保彦太郎
京都郡部	神鞭知常	死	去	上野彌一郎
東京 東京市	田口卯吉	死	去	林 謙三
宮城郡部	南條文五郎	死	去	星 松三郎
福島郡部	唐橋左源次	死	去	野木善三郎

府縣	舊議員氏名	異動事由	補闕當選者氏名	府縣	舊議員氏名	異動事由	補闕當選者氏名
千葉 郡部	伊藤徳太郎	死	安田 勳	香川 郡部	宮井茂九郎	死	中西孫太郎
東京 郡部	福地源一郎	死	江間俊一	高知 郡部	中澤楠彌太	死	西山志澄
宮城 郡部	星 松三郎	死	遠藤庸治	新潟 郡部	波多野傳三郎	死	山田又七
愛媛 郡部	重岡薫五郎	死	山村豊次郎	長野 郡部	石塚重平	死	小林万次郎
熊本 郡部	佐々友房	死	紫垣一雄	香川 郡部	遠山正和	死	三善清之
栃木 郡部	新井章吾	死	江原 節	京都 郡部	井上與一郎	死	西田作次郎
福岡 郡部	平岡浩太郎	死	進藤喜平太	群馬 郡部	武藤金吉	死	補缺ニ至ラス テ閉會
(備考) 兵庫縣 郡部 櫻井 駿 復籍 森本 駿							
第十回選舉後ニ係ルモノ							
愛媛 郡部	田坂初太郎	辭職	森 肇	三重 郡部	栗原亮一	辭職	川村 曄
宮城 郡部	高野孟矩	辭職	遠藤良吉	愛知 郡部	村松愛藏	辭職	後藤文一郎
長崎 郡部	白井哲夫	辭職	辻川與一右衛門	静岡 郡部	秋山一裕	辭職	松本君平
岡山 郡部	横井時雄	辭職	川島龜夫	奈良 郡部	青木新治郎	辭職	久保伊一郎

兵庫 郡部	森本 駿	辭職	安藤新太郎	廣島 郡部	串本康三	當選無効	早速整爾
埼玉 郡部	小澤愛次郎	辭職	粕谷義三	長野 郡部	立川雲平	辭職	上柳喜右衛門
愛知 郡部	後藤文一郎	當選無効	鈴置倉次郎	愛知 郡部	横井甚四郎	死	三浦逸平
函館 郡部	横田虎彦	辭職	遠藤吉平	大阪 郡部	中林友信	辭職	乾 龜松
福井 郡部	荻野芳藏	辭職	名村忠治	千葉 郡部	鈴木久次郎	辭職	關 和知
神奈川 郡部	長谷川豊吉	辭職	土屋大次郎	北海道 郡部	渡邊兵四郎	當選無効	高橋直治
兵庫 郡部	西村真太郎	辭職	鹿島秀磨	神奈川 郡部	土屋大次郎	死	神藤才一
群馬 郡部	佐藤虎次郎	辭職	中島祐八	兵庫 郡部	櫻井一久	死	野添宗三
千葉 郡部	安田 勳	辭職	千葉禎太郎	大阪 郡部	天川三藏	辭職	日野國明
栃木 郡部	木村半兵衛	辭職	關田嘉七郎	京都 郡部	岩田 信	死	木戸豊吉
静岡 郡部	松浦五兵衛	辭職	伊東要藏	高知 郡部	和田尊義	死	藤崎朋之
静岡 郡部	澤田 寧	辭職	河井重藏	神奈川 郡部	中村舜次郎	辭職	黃金井爲造
佐賀 郡部	神崎東藏	辭職	永野靜雄	京都 郡部	西村治兵衛	死	濱岡光哲
石川 郡部	上出長次郎	辭職	藻寄鉄五郎	大阪 郡部	藤澤元造	辭職	森 秀次

Vertical text on a separate slip of paper, likely a continuation of the table or a list of names.

第二編 議員異動類別

選挙区	第 十 回	第 九 回	第 八 回	第 七 回	第 六 回	第 五 回	第 四 回	第 三 回	第 二 回	通 常 回	選挙事由	資格	格 消 滅	計
府 縣											死去	任官其他	處 刑	九
千 葉 郡											辭職	當選訴訟	選法第一條ノ二	一
石 川 郡											除名		選法第一條ノ四	一
愛 知 郡													選法第一條ノ四	一
大 阪 市													選法第一條ノ四	一
山 形 郡													選法第一條ノ四	一
群 馬 郡													選法第一條ノ四	一
東 京 市													選法第一條ノ四	一
靜 岡 郡													選法第一條ノ四	一
三 重 郡													選法第一條ノ四	一
宮 崎 郡													選法第一條ノ四	一
第 十 回	二	五	六	一		三	四	一	二	三				五
第 九 回														一
第 八 回														一
第 七 回														一
第 六 回														一
第 五 回														一
第 四 回														一
第 三 回														一
第 二 回														一
通 常 回														一
計														九

議員異動類別

選挙区	第 十 回	第 九 回	第 八 回	第 七 回	第 六 回	第 五 回	第 四 回	第 三 回	第 二 回	通 常 回	選挙事由	資格	格 消 滅	計
府 縣											死去	任官其他	處 刑	九
千 葉 郡											辭職	當選訴訟	選法第一條ノ二	一
石 川 郡											除名		選法第一條ノ四	一
愛 知 郡													選法第一條ノ四	一
大 阪 市													選法第一條ノ四	一
山 形 郡													選法第一條ノ四	一
群 馬 郡													選法第一條ノ四	一
東 京 市													選法第一條ノ四	一
靜 岡 郡													選法第一條ノ四	一
三 重 郡													選法第一條ノ四	一
宮 崎 郡													選法第一條ノ四	一
第 十 回	二	五	六	一		三	四	一	二	三				五
第 九 回														一
第 八 回														一
第 七 回														一
第 六 回														一
第 五 回														一
第 四 回														一
第 三 回														一
第 二 回														一
通 常 回														一
計														九

選舉事由	資格		減	計
	處刑	消滅		
第十時選舉	一	三	四	四
第十四回	六	三	一	一
第十五回	九	四	一	一
第十六回	二	二	一	五
第十常選	二	一	一	一
第十時選舉	一	一	一	二
第十九回	一	一	一	三
第二十時選舉	一	一	一	一
第二十一回	五	一	一	六
第二十二回	七	一	一	七
第二十三回	八	一	一	八
第二十四回	三	一	一	四

選舉事由	資格	減	計
第十常選	一	一	二
第二十六回	一	一	二
第二十七回	五	一	八
第二十八回	九	一	一三
第二十九回	二	一	五
計	八八	六五	一九六

●每總選舉ニ於ケル議員身分別

選舉事由	身分											計
	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回	
華族					一	一	四	三	一	一	一	一
士族	一一〇	八七	八八	八八	七四	七九	一〇六	一〇六	一〇二	一〇七	九六	一
平民	一九〇	二二三	二二二	二二五	二二五	二二〇	二六六	二六七	二七六	二七二	二八四	一
計	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三七六	三七六	三七九	三七九	三八一	一

●每選舉ニ於ケル議員職業別

選舉	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回
農 業	一九	一四四	一三七	一五五	一二八	一三四	一二〇	一二九	一〇五	八〇	
商 業	一九	二五	二四	二九	三三	二四	三三	三五	三九	三三	一六
工 業	二			一	一	二	二	二	三	三	一〇
鑛 業	一	一	一	二	四	五	七	六	三	六	一〇
漁 業		一							二	三	二
畜 産 業											一
釀 造 業		二	一				七	五	五	一	一
印 刷 業			一					一		二	
地 主					一五	一一					
醫 業	三	三		一	四	三	九	九	三	六	四
藥 劑 業							一				
銀 行 業	四	三	四	五	四	六	一九	一六	一三	七	一五

會社員	新聞雜誌記者	教育家	辯護士	公 吏	官 吏	著 述 業	書籍出版業	倉庫業	宿屋營業	移民取扱業	回漕業	水産業
七	八	一六	二〇	二七	二	一						
七	一二	一八	二三	二五	一	二						
二九	一〇	二二	二八	一	一	一						
六	一二	二二	二二	三	二	二						
一九	七	一	二三	一	一	一						
一五	四	一	二四	一	一六	二						
一〇	九	四	五一	七	三	三						
一三	八	三	五四	一	三	三						
一八	一三	三	五九	三	一	五						
二〇	一七	三	六四	八	四	一						
五七	二二	三	六一	三	七	二						

第二編 每選舉ニ於ケル議員職業別

選舉	第一回		第二回		第三回		第四回		第五回		第六回		第七回		第八回		第九回		第十回		第十一回			
	計	無職業	計	無職業	計	無職業	計	無職業	計	無職業	計	無職業	計	無職業	計	無職業	計	無職業	計	無職業	計	無職業		
	三〇〇	七四	三〇〇	五九	三〇〇	七七	三〇〇	六二	三〇〇	四七	三〇〇	五〇	三七六	七八	三七六	七三	三七九	七四	三七九	八八	三七九	八八	三八一	七六

●每總選舉ニ於ケル議員年齡別

年齡	選舉										
	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回
三十七年	二二	一四	二五	二八	四	六	八	一〇	八	八	五
三十六年	一八	一一	八	一四	一四	一六	九	九	八	六	四
三十五年	一六	一八	一二	七	一一	一四	八	七	八	六	三
三十四年	九	八	一〇	一三	五	七	三	六	三	二	一
三十三年	一六	七	七	七	一〇	二	六	七	三	二	一
三十二年	五	四	三	八	二	四	三	三	二	三	三
三十一年	七人	一人	一人	二人	三人	四人	一人	四人	一人	一人	一人

第二編 每總選舉ニ於ケル議員年齡別

年齡	選舉										
	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回
三十八年	二四	一三	一四	九	一七	一四	二二	一六	一一	八	七
三十九年	一九	一九	一七	一二	一八	一四	一八	一九	一六	一〇	一四
四十年	八	二二	一七	一七	一一	一六	二一	一九	一五	一五	一二
四十一年	一六	二二	一九	一九	一三	一六	八	九	一六	一五	一一
四十二年	一九	八	一八	一五	一三	一〇	一五	一三	一八	一八	九
四十三年	一三	一六	一八	一八	一八	一七	二〇	二一	一一	一五	一六
四十四年	一四	一二	九	一一	一八	一九	一七	一八	一一	一一	一五
四十五年	五	二二	一二	一一	二二	一八	一七	一六	二五	二一	二一
四十六年	一二	一四	一〇	一〇	一四	一六	一八	二四	一九	一八	二二
四十七年	九	五	一五	一一	一三	一四	二八	二四	一九	一一	一四
四十八年	一〇	六	一三	一〇	一四	一三	一七	二二	一九	一一	二八
四十九年	八	六	六	七	九	一〇	二四	二四	二〇	二一	二五
小計	一一四	一三三	一三七	一三〇	一四五	一四九	一八七	一九〇	一七九	一七一	二七三

第二編 每總選舉ニ於ケル議員年齡別

年齡	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回
六十二年	一	二	一	三	二	一	二	二	二	二	六
六十三年	二	一	四	一	二	一	二	四	五	三	七
六十四年	二	三	一	一	一	一	一	二	三	二	三
六十五年	一	一	一	一	一	一	一	一	四	一	二
六十六年	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	三
六十七年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六十八年	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一
六十九年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
小計	一四	一七	一三	一一	一二	一一	一七	一七	二二	一九	三七
七十一年			一				二	一			
七十二年								一	一		
七十三年											
七十四年											

年齡	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回
五十年	八人	九人	一人	九人	八人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
五十一年	六	一一	五	七	一〇	七	一五	一二	二二	二〇	一四
五十二年	六	八	九	一一	六	八	一五	一三	一五	一二	一〇
五十三年	四	七	五	六	四	三	九	一二	一一	一七	一八
五十四年	四	四	六	八	五	八	一〇	一〇	一四	一六	一二
五十五年	四	五	五	五	六	四	八	九	五	一四	一九
五十六年	三	二	二	三	七	五	六	三	一〇	一三	一二
五十七年	三	四	六	六	七	二	八	三	四	一三	一二
五十八年	三	二	一	二	二	三	二	二	五	一	一〇
五十九年	二	五	二	一	三	三	二	二	四	六	一三
小計	三六	五五	五二	五八	五八	五七	九二	八七	一一六	一四二	一三二
六十年	三	二	三	一	三	五	四	三	五	七	一〇
六十一年	一	五	一	二	一	一	五	四	二	三	五

年 齡	選 舉	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回
七十五年	人										一	人
七十六年												
七十七年						一	一					
七十八年												
七十九年												
小計				一	一		二	二	二	二	二	一
合計		三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三七六	三七六	三七六	三七九	三七九	三八一
一人平均年齢		四十二年四月	四十四年〇	四十四年三月	四十四年九月	四十四年九月	四十四年七月	四十六年一月	四十五年十一月	四十七年一月	四十八年一月	四十八年六月

○議員履歷

議長 大岡 育 造

山口縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民勳四等

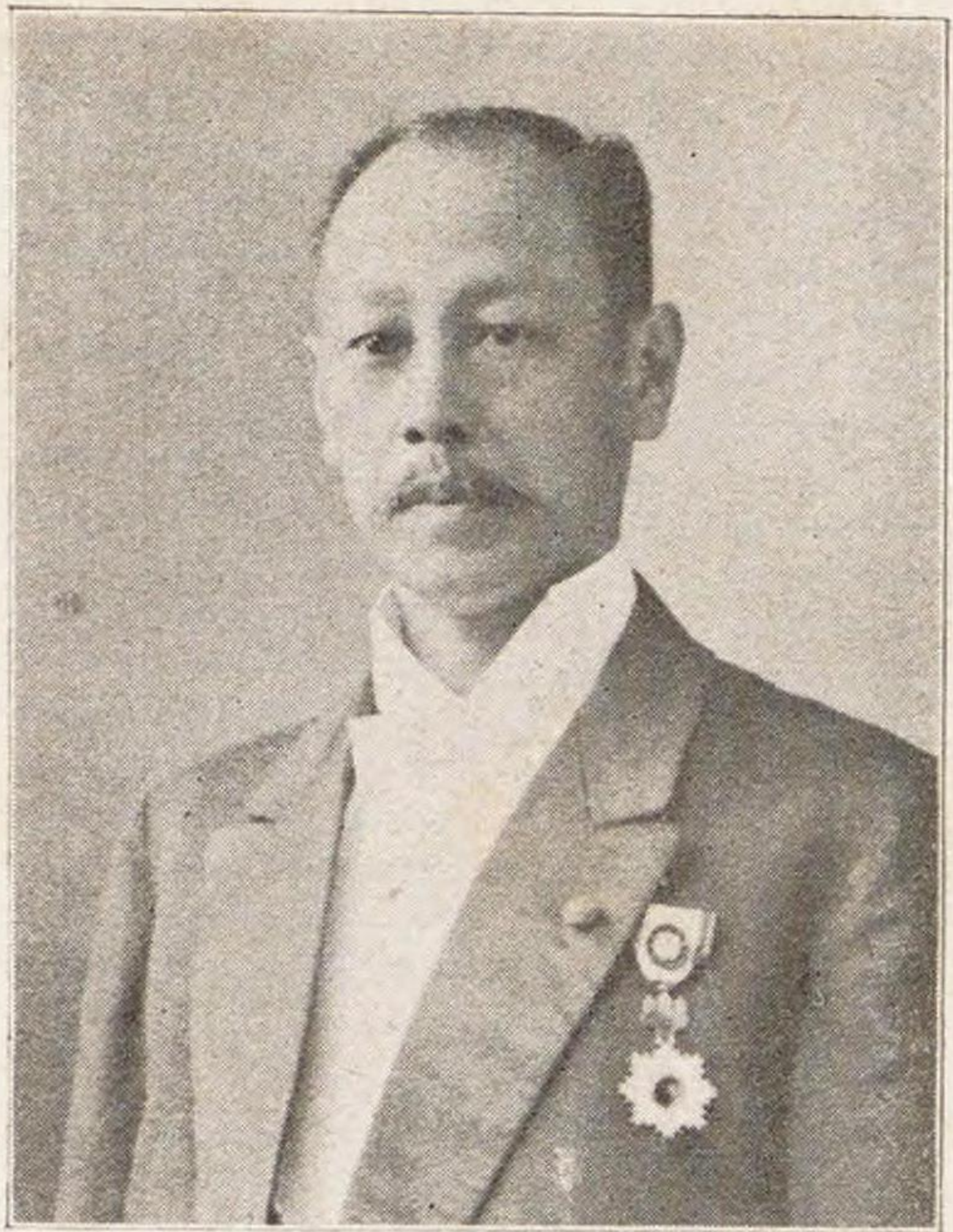


第二編 議員履歷(議長)

安政三年六月長門國豐浦郡小串村ニ生ル、
司法省法律學校ニ學フ○辯護士タリ、東京
府會議員、東京市會議員、同參事會員、同議
長ニ舉ケラル、日本大博覽會評議員、生産調
査會委員、衆議院議員選舉法改正調査會委
員被仰付、又中央新聞社長タリ、歐米ニ漫
遊ス、衆議院議員ニ當選スルコト九回衆議
院議長ニ重任シ現ニ其職ニアリ

副議長 關直彦

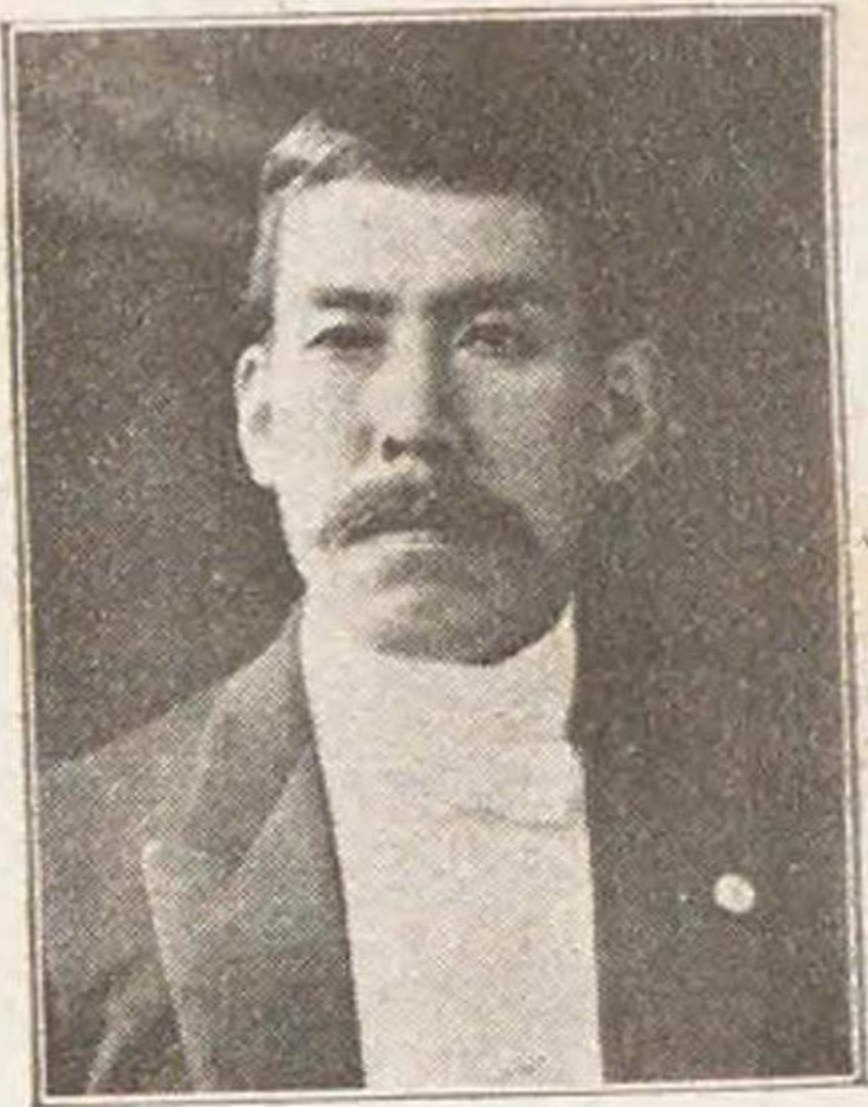
東京府東京市選出、立憲國民黨所屬
士族、勳四等、法學士、辯護士



安政四年七月紀伊國和歌山市ニ生ル、東京
大學法學部卒業○東京日々新聞記者、日報
社々長ト爲ル、東京市會議員、同參事會員、
東京府會議員ニ舉ケラル、法典調査會委員、
法律取調委員會委員被仰付、又東京馬匹改
良株式會社、明治石油株式會社各取締役ニ
選ハル、衆議院議員ニ當選スルコト六回、
現ニ衆議院副議長タリ

稻茂登三郎

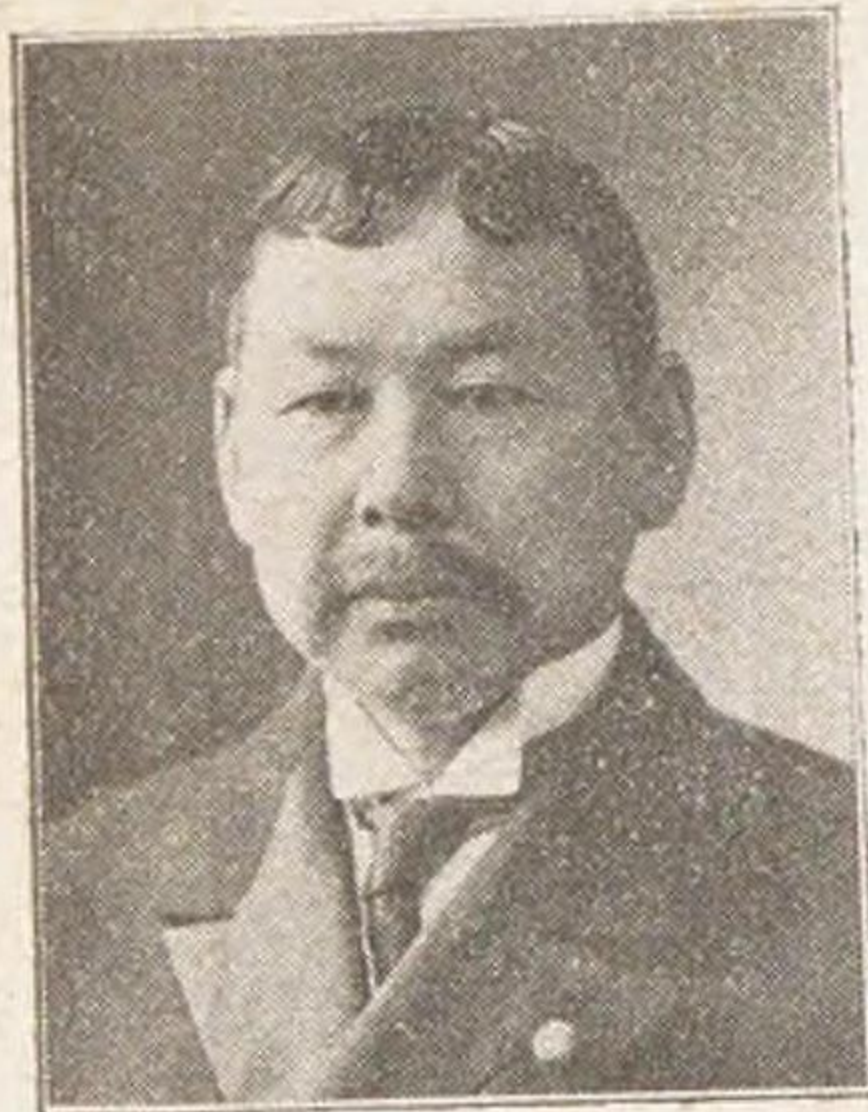
東京府東京市選出、立憲政友會所屬
平民、會社員



慶應二年二月生ル、群馬縣中學校卒業○東京市會議員、同參事會
員、東京商業會議所議員ニ舉ケラル、又衆議院議員選舉法改正調
査會委員被仰付、現ニ帝國火災保險株式會社取締役其他數會社ノ
重役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

岩下清周

大阪府大阪市選出
士族、勳四等、會社員



安政六年十二月信濃國埴科郡松代町ニ生ル、東京商法講習所修業
○三井物産會社海外支店長ト爲ル、歸朝後鐘ヶ淵紡績會社其他數
會社ノ重役ヲ兼ヌ、後三井家ヲ辭シ北濱銀行ヲ創立シ現ニ其ノ頭
取タリ、兼テ箕面有馬電氣軌道株式會社々長、營口水道電氣株式
會社々長、南滿洲鐵道株式會社監事ニ選ハル、衆議院議員ニ當選
スルコト二回

岩崎安治郎

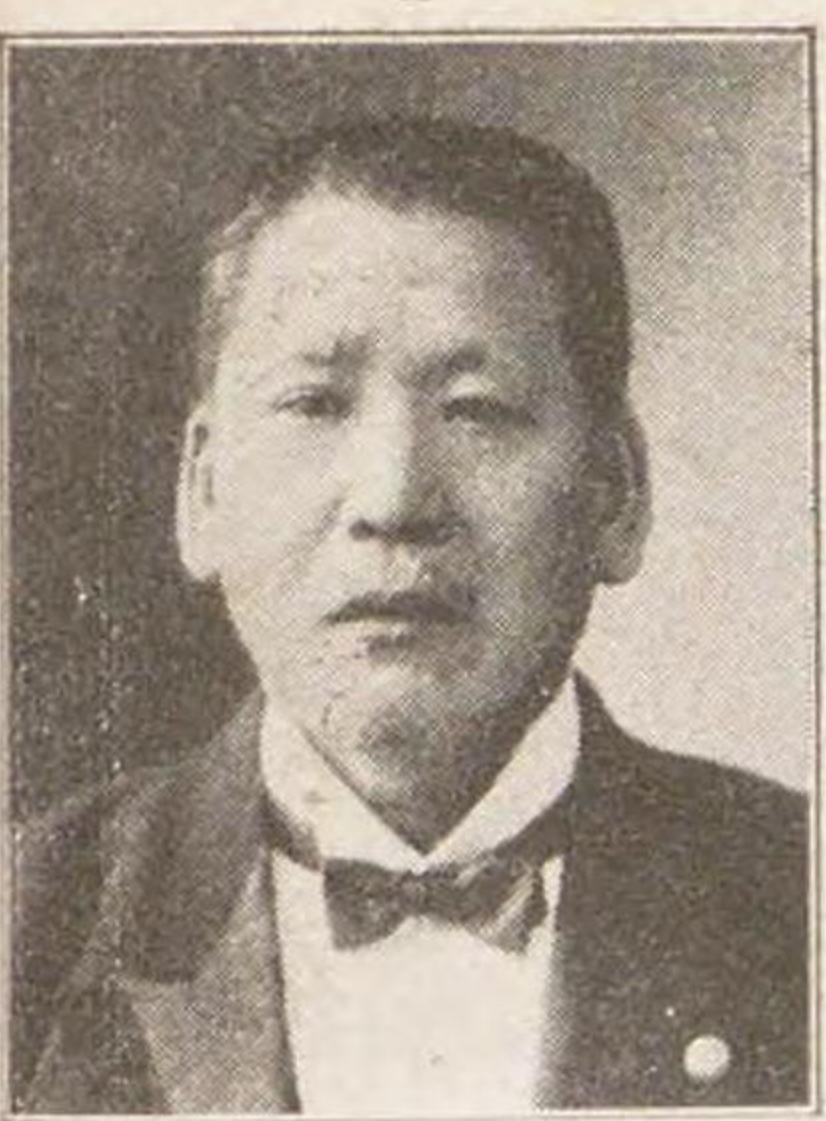
大阪府郡部選出、中央俱樂部所屬
平民農



安政二年十二月、河内國中河内郡大戸村ニ生ル○村會議員、郡會議員、同議長、大阪府會議員ニ舉ケラル

井坂光暉

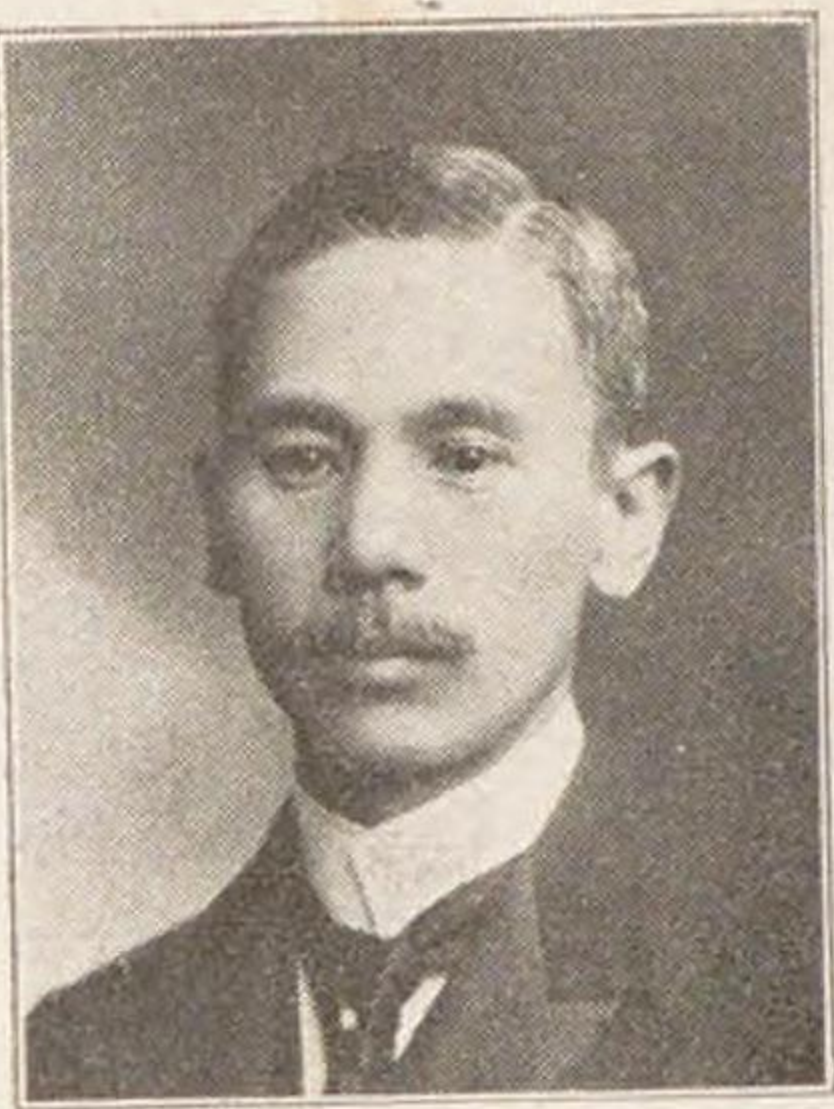
大阪府郡部選出、立憲政友會所屬
平民農



安政二年六月、和泉國泉南郡八木村ニ生ル○大阪府會議員、同常置委員ニ舉ケラル

石渡秀吉

神奈川縣郡部選出
平民會社員



明治三年九月相模國三浦郡浦賀町ニ生ル、專修學校、慶應義塾ニ學フ○町會議員、郡會議員、同議長ニ舉ケラル、又東陽銀行取締役、武相貯蓄銀行取締役ニ選ハル、移民視察ノ爲布哇ニ渡航ス

井上篤太郎

神奈川縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民會社員



安政六年六月相模國愛甲郡三田村ニ生ル、明治法律學校ニ學フ○神奈川縣會議員ニ舉ケラル、又日本絹綿紡績株式會社支配人ト爲ル、絹織物業視察ノ爲清國ニ、貿易視察ノ爲印度ニ渡航ス、又生絲及絹紡績絲ノ發明權ノ特許ヲ得ルコト九件、現ニ富士瓦斯紡績株式會社商務部長タリ

伊藤英一

兵庫縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、農

二百五十二



元治元年二月播磨國飾磨郡飾磨町ニ生ル、漢學數學ヲ修ム○伊保
村長、高砂町長ニ選ハル、又郡會議員及兵庫縣會議員ニ舉ケラル、
清韓ニ漫遊ス

板倉中

千葉縣選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、辯護士



安政三年九月上總國長生郡關村ニ生ル、佛蘭西法律學ヲ修ム○千
葉縣會議員、同議長ニ舉ケラル、國勢調査準備委員會委員被仰付、
又東海新聞ヲ發行ス、列國議會同盟會議ニ參列ス、衆議院議員ニ
當選スルコト七回

飯田新右衛門

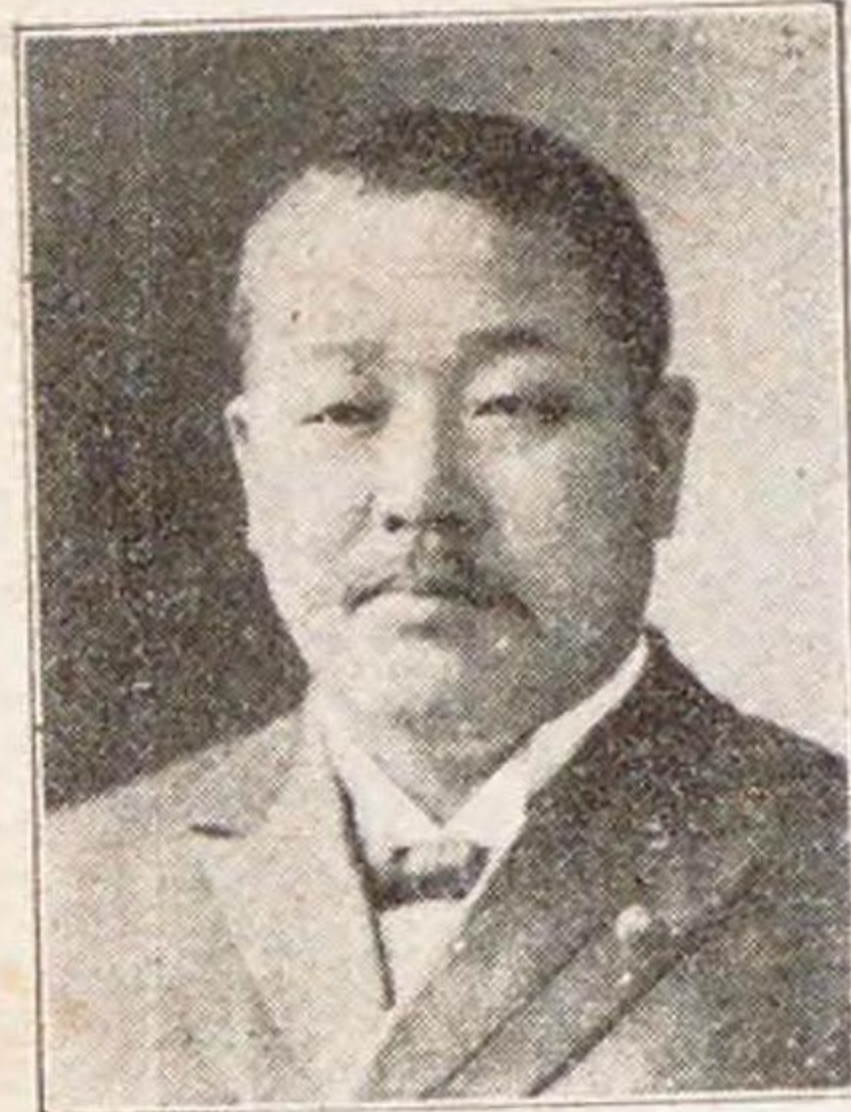
茨城縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



萬延元年十二月、常陸國筑波郡真瀨村ニ生ル、漢學ヲ修ム○戶長
ニ任セラル、後茨城縣會議員、同常置委員ニ舉ケラル、衆議院議員
ニ當選スルコト二回

石田仁太郎

栃木縣宇都宮市選出、立憲國民黨所屬
平民、勳四等、辯護士



慶應二年四月肥後國飽託郡大江村ニ生ル、明治法律學校卒業○栃
木縣會議員、同副議長ニ舉ケラル又商業會議所特別會員、辯護士
組合副會長ニ選ハル、政況視察ノタメ清國ニ漫遊ス、又列國議會
同盟會議ニ參列ス、衆議院議員ニ當選スルコト三回

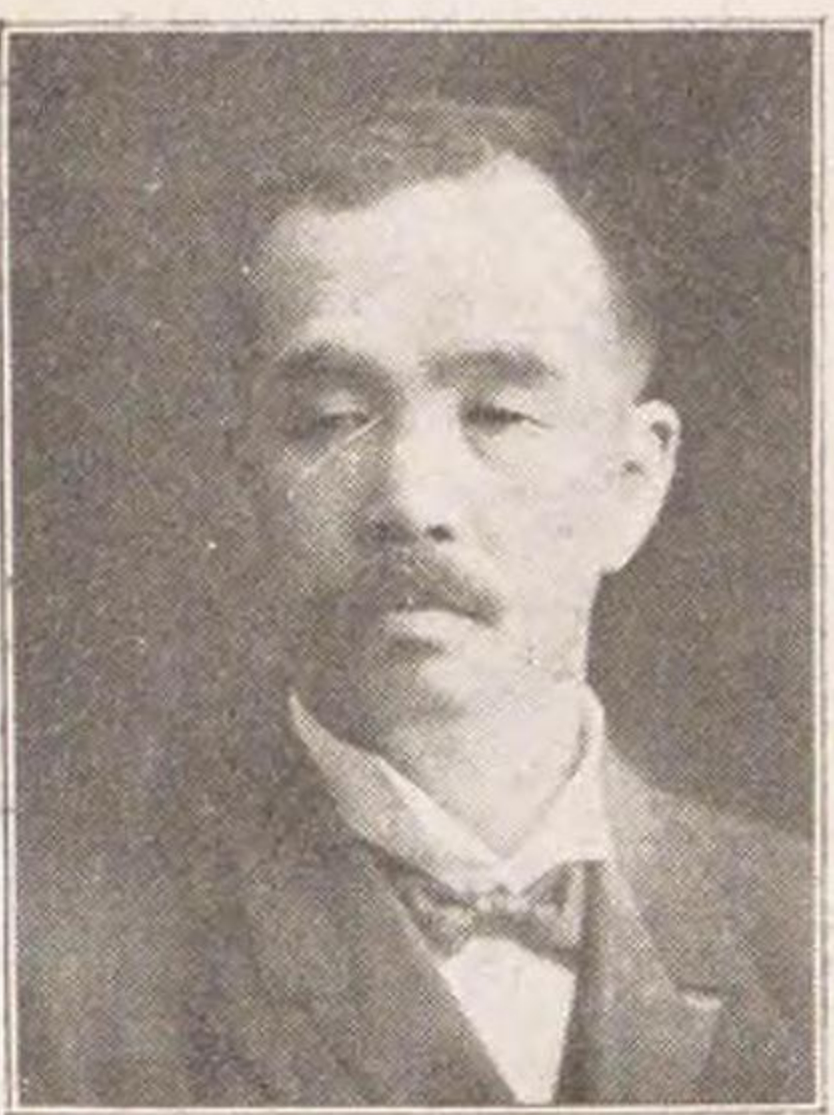
第二編 議員履歷(イノ部)

二百五十三

石川 甚作

栃木縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、辯護士

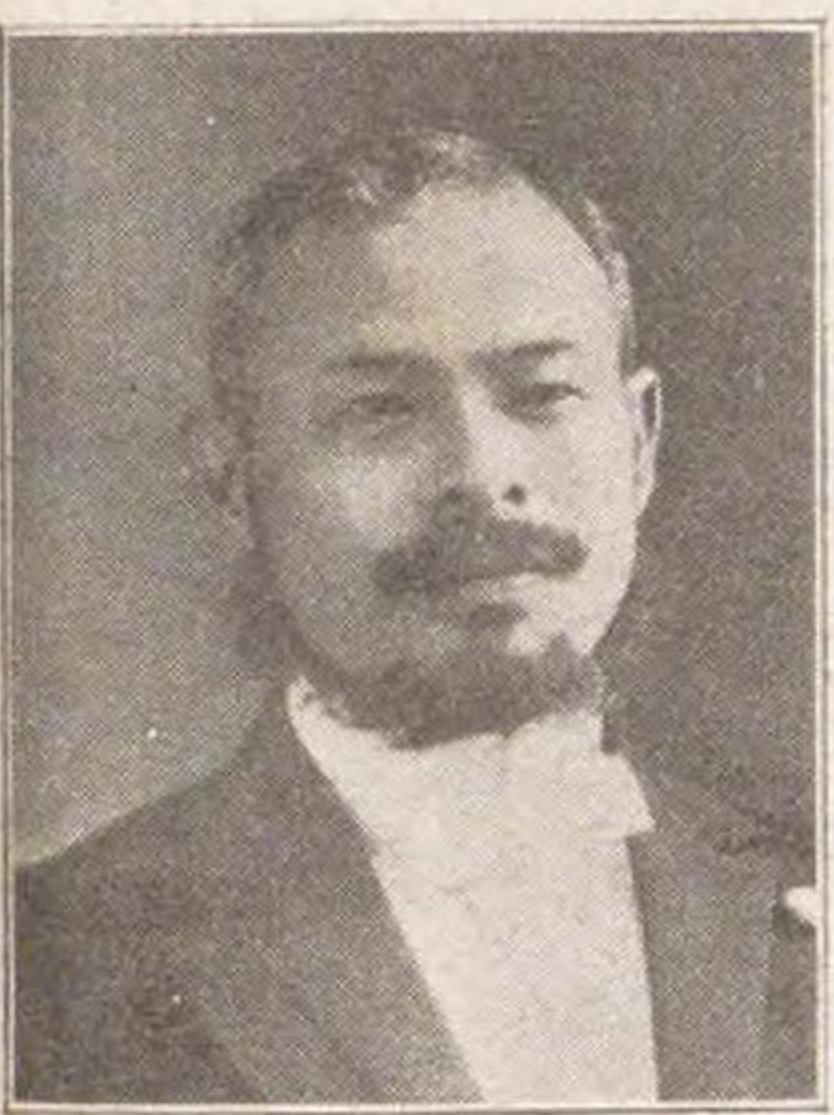
二百五十四



文久三年五月下野國下都賀郡赤津村ニ生ル、明治法律學校卒業
○東京市會議員ニ舉ケラル、現ニ株式會社二十七銀行、渡邊倉庫
株式會社、日本電線株式會社、日本點燈株式會社及駿豆電氣鐵道
株式會社ノ各監查役タリ

岩本 平藏

奈良縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、材木業



明治二年十一月大和國吉野郡上北山村ニ生ル、漢學數學ヲ修
ム○郡會議員及奈良縣會議員ニ舉ケラル

井上 敏夫

三重縣四日市市選出、立憲政友會所屬
士族、從四位、勳二等、功四級



安政四年八月加賀國金澤市ニ生ル、海軍兵學校卒業○海軍少尉
試補ヨリ 歷任海軍少將ニ至リ清國公使館附武官、鎮守府參謀、艦
長、出雲回航委員長、特務艦隊司令官、港務部長ニ補セラル、明治七
年、同十年、同二十七八年及同三十七八年ノ戰役ニ從軍ス、又衆議
院議員選舉法改正調査會委員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト
二回

石黒 磐

愛知縣名古屋市選出、立憲政友會所屬
平民



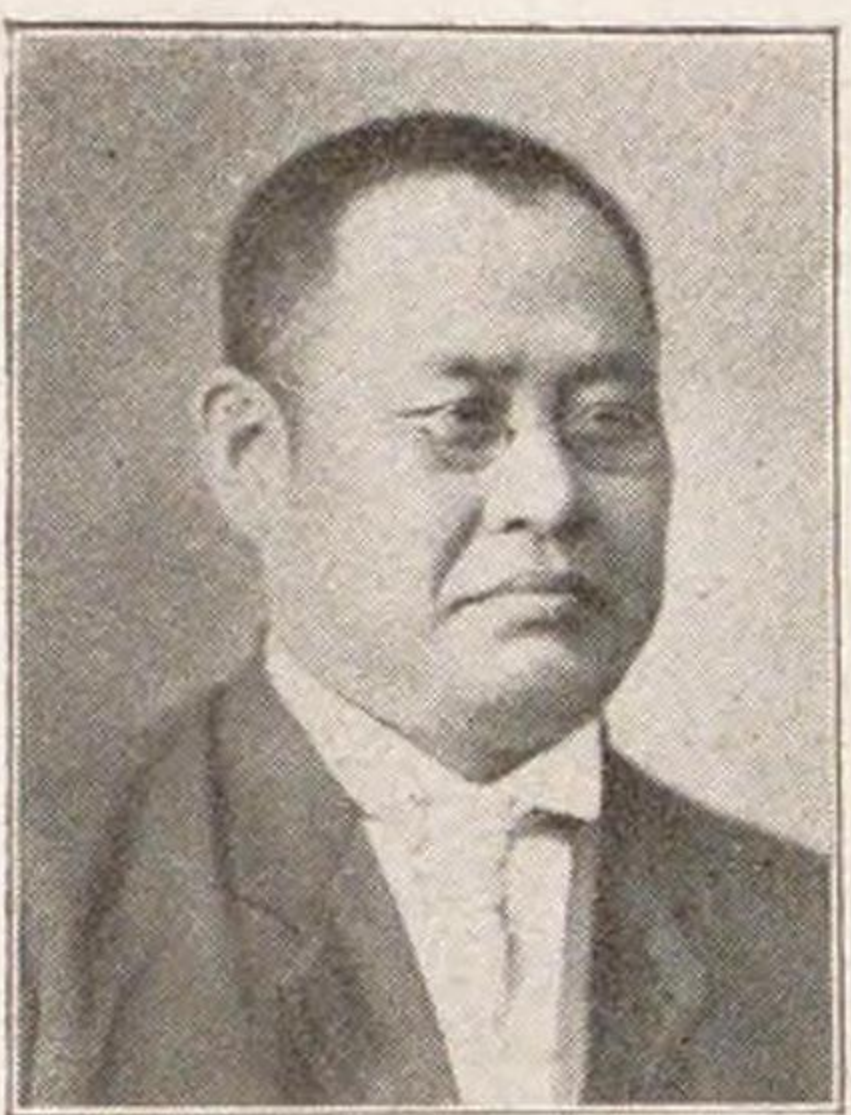
嘉永五年八月尾張國中島郡長岡村ニ生ル、漢英法律學ヲ學フ○東
京ニ家塾ヲ開キ英學漢學ヲ教授シ兼テ翻譯業ニ從事ス、後愛岐日
報及愛知新聞ノ記者ト爲ル、又愛知縣會議員、同副議長ニ舉ケラ
ル、現ニ名古屋市會議員、同參事會員タリ

第二編 議員履歷(いノ部)

二百五十五

伊東 要藏

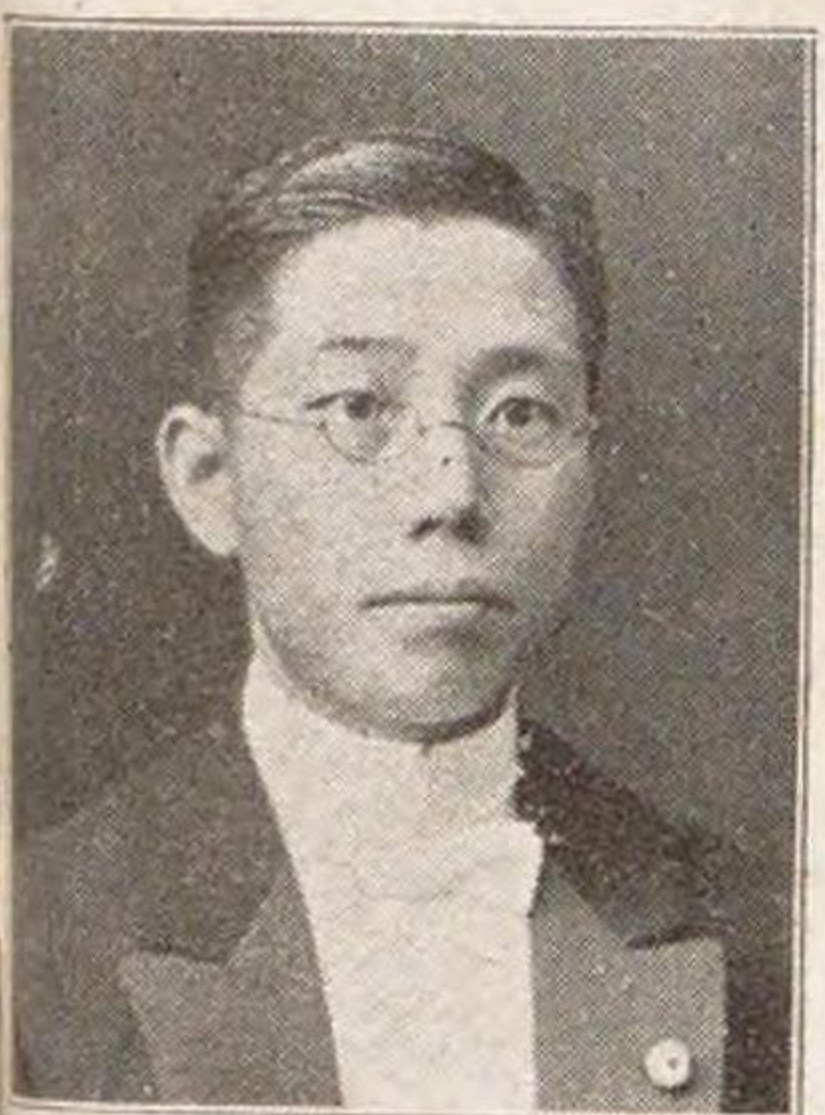
靜岡縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民農



二百五十六

岩崎 勳

靜岡縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、法學士、辯護士、特許辨理士



明治十一年二月駿河國駿東郡清水村ニ生ル、東京帝國大學法科大
學卒業○東京辯護士會常務員、日本辯護士協會理事ニ舉ケラル

市川 文藏

山梨縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民農



元治元年十一月甲斐國中巨摩郡五明村ニ生ル○郡會議員、同參事
會員、山梨縣會議員及五明村長ニ舉ケラル、又貴族院議員ニ任セ
ラル、現ニ市川銀行頭取、山梨縣農工銀行頭取、明德乾燥株式會社
社長、峽西電力株式會社社長及富士水電株式會社取締役タリ

伊藤 大八

長野縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民正五位、農



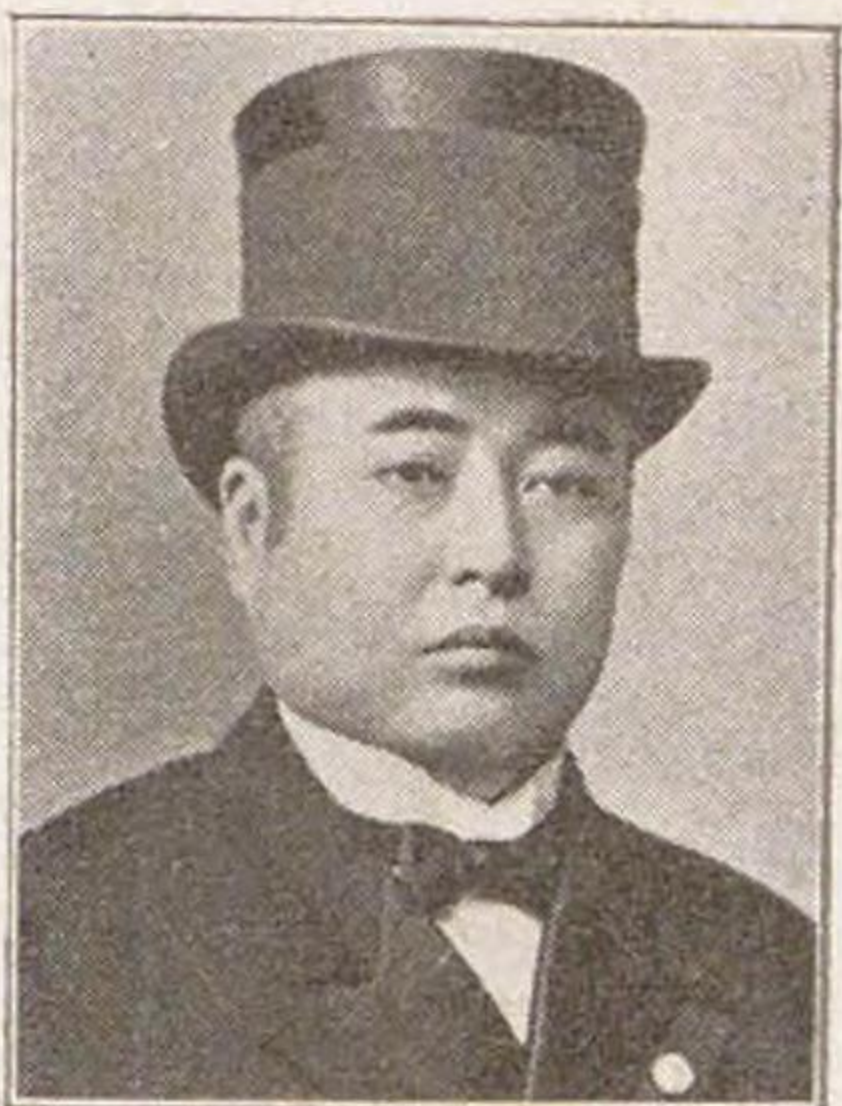
安政五年十一月生ル、佛學塾ニ入り政治經濟學ヲ學フ、佛和字林
其他數種ノ著書アリ○陸軍幼年學校譯官ニ任セラレ後遞信省參
事官、鐵道局長ニ任セラレ、又鐵道會議員、臨時鐵道會議員、日本大
博覽會評議員、廣軌鐵道改築準備委員會委員被仰付、毛武鐵道會
社社長、江ノ島電氣鐵道株式會社取締役ニ選ハル、又政理叢談ヲ
發刊ス、衆議院議員ニ當選スルコト五回

第二編 議員履歷(いの部)

二百五十七

岩岡伊代治

長野縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民辯護士



元治元年十一月信濃國南安曇郡倭村ニ生ル、明治法律學校卒業

二百五十八

岩崎總十郎

宮城縣仙臺市選出、立憲政友會所屬
士族辯護士



萬延元年十月陸前國仙臺市ニ生ル、東京專修學校、明治法律學校
卒業○判事補ニ任セラル、現ニ株式會社鹽水港製糖會社、七十七
銀行、仙臺瓦斯株式會社、古川電燈株式會社ノ各監督役タリ

井深彦三郎

福島縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、勳六等



慶應二年八月岩代國若松市ニ生ル、英漢學及支那語ヲ修ム○曾
テ日清貿易ニ從事ス、又陸軍通譯ヲ命セラレ明治二十七八年及同
三十七八年ノ戰役ニ從軍ス、現ニ中華民國東三省總督顧問及奉天
居留民會會長タリ

伊藤祐一

青森縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、正五位、勳六等、法學士、農



明治元年十一月陸奧國弘前市ニ生ル、東京帝國大學法科大學卒
業○林務官、農商務省參事官、山林局事務官及札幌鑛山監督署長
ニ任セラル

第二編 議員履歷(いノ部)

二百五十九

伊東知也

山形縣郡部選出、立憲國民黨所屬
士族、雜誌記者



二百六十

明治六年四月羽前國西田川郡鶴岡町ニ生ル、東京專門學校ニ學フ
○臺灣總督府舊慣調査會囑託ヲ命セラル、後東部西伯利亞、清韓
ニ漫遊シ對清問題ヲ研究ス、現ニ雜誌日本及日本人記者タリ

井上廣居

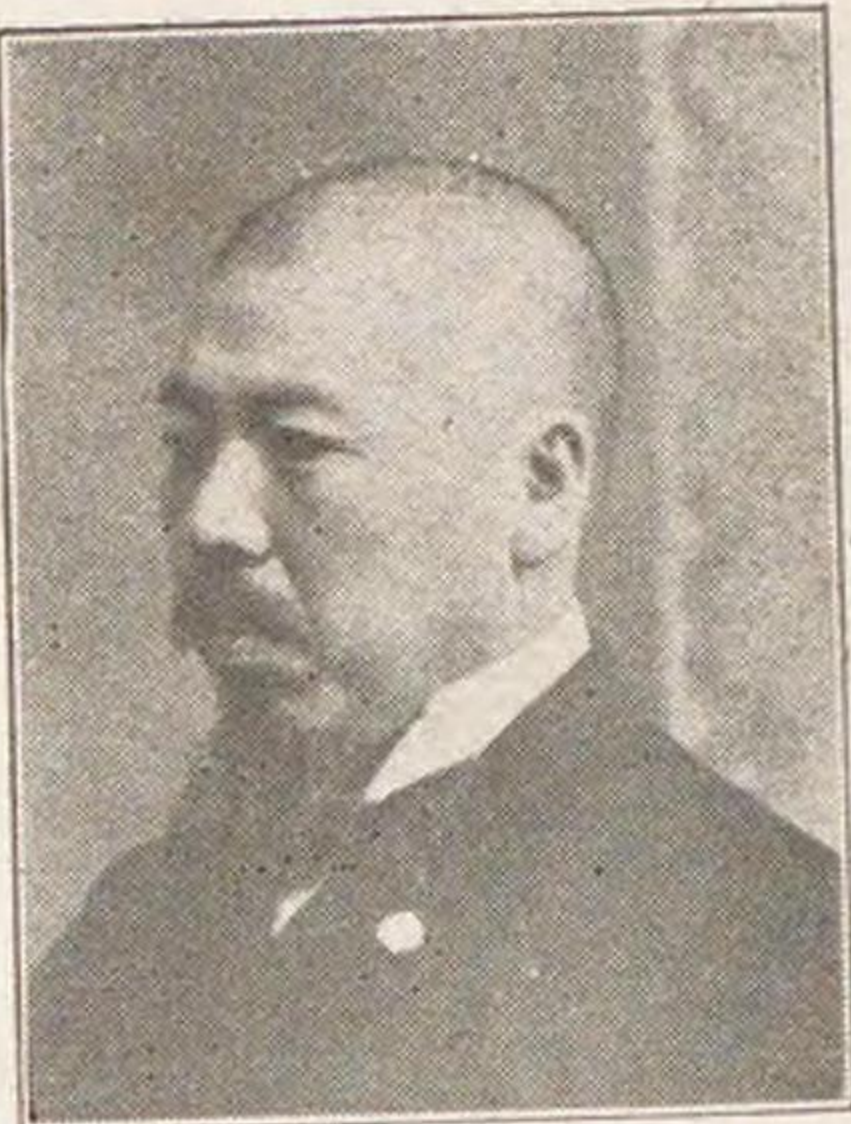
秋田縣秋田市選出、立憲國民黨所屬
士族、新聞社長



元治元年十一月羽後國秋田市ニ生ル、東京專門學校ニ學フ○市會議
議員、同參事會員、同議長、秋田縣會議員、同參事會員、同議長ニ舉
ケラル、現ニ秋田魁新報社長タリ

岩田大中

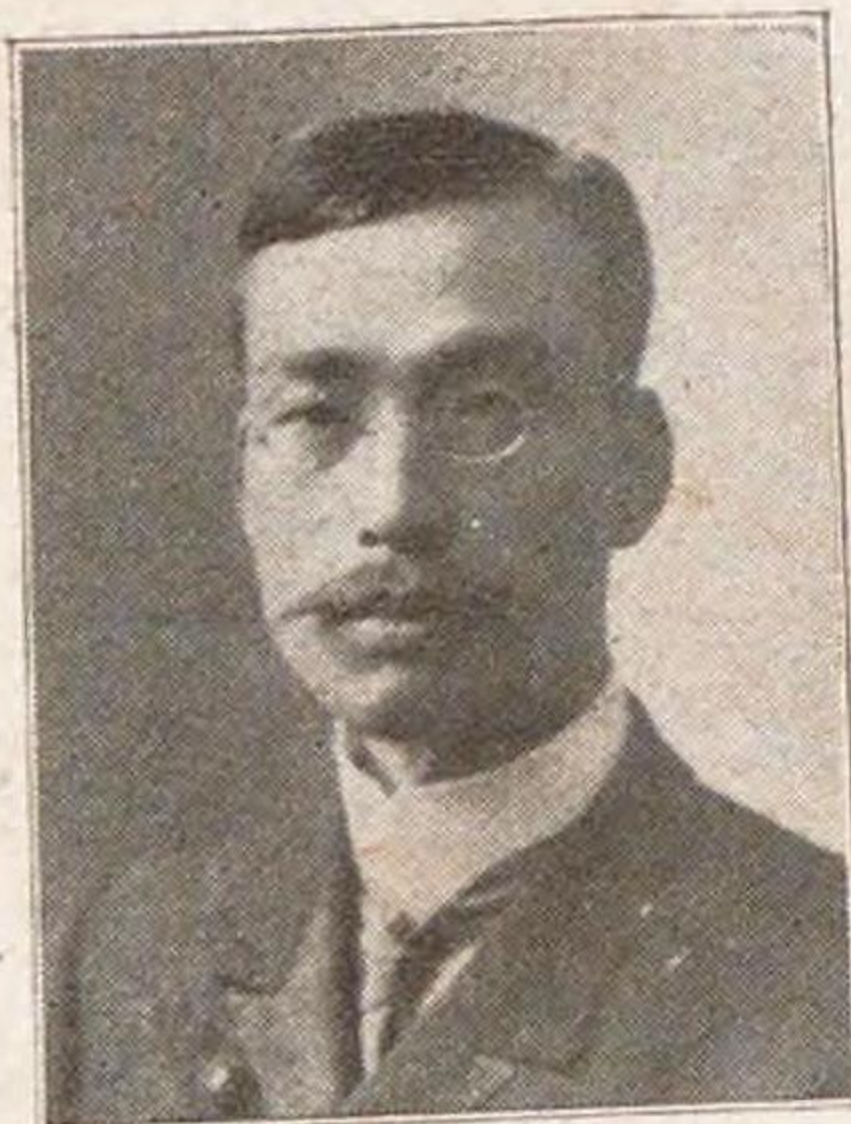
富山縣富山市選出、立憲政友會所屬
士族、賣藥業



明治四年五月越中國富山市ニ生ル、東京專修學校ニ學フ○市會議
員、富山縣會議員ニ舉ケラル、週刊中立新報、月刊倫道、日刊共濟新
報、同中央新聞ヲ發刊ス

石田孝吉

島根縣郡部選出、中央俱樂部所屬
平民、勳四等、農



明治五年二月、石見國邇摩郡波積村ニ生ル、慶應義塾卒業○村會
議員、郡會議員、同議長、島根縣會議員ニ舉ケラル、現ニ株式會社石
見銀行頭取タリ、衆議院議員ニ當選スルコト四回

第二編 議員履歷(イノ部)

二百六十一

犬養毅

岡山縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民正三位、勳四等

二百六十二



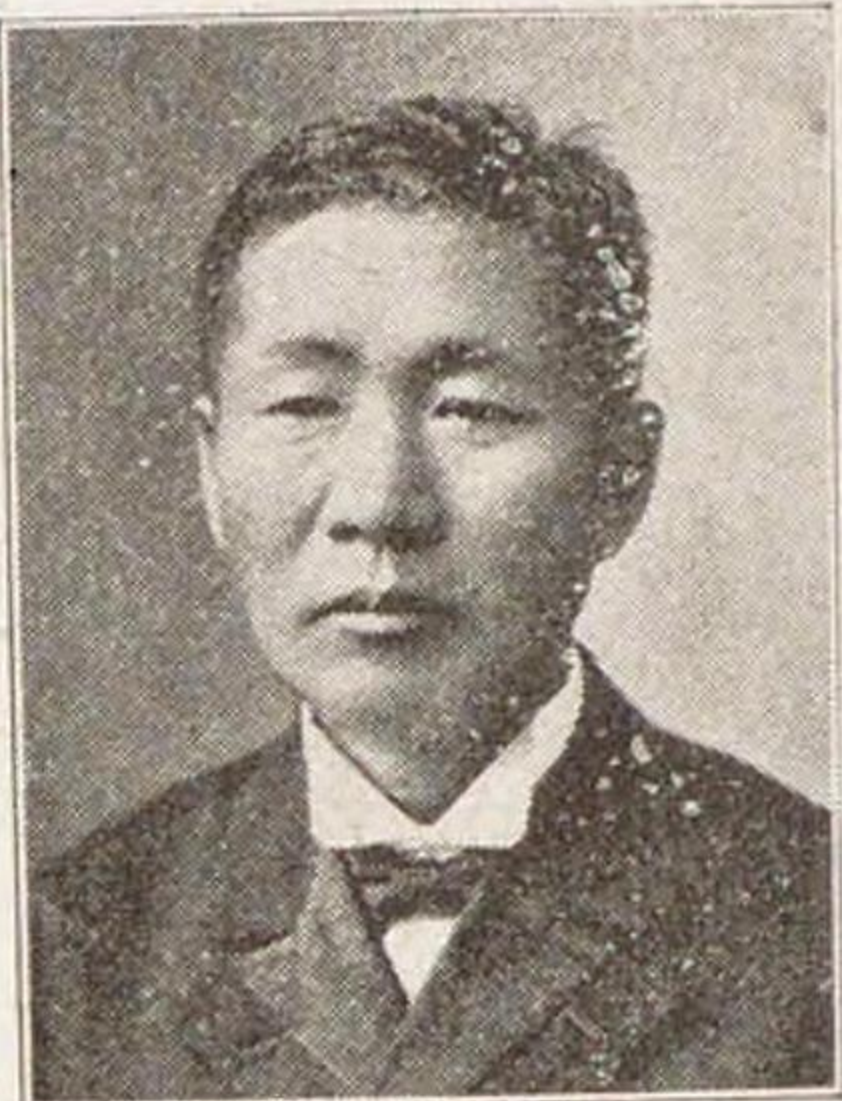
井上角五郎

廣島縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民勳四等、會社員



一坂俊太郎

德島縣德島市選出、立憲政友會所屬
士族正五位、勳六等



井手三郎

熊本縣郡部選出、中央俱樂部所屬
士族勳八等、新聞記者



安政二年四月、備中國加陽郡庭瀨村ニ生ル、慶應義塾ニ學フ、著書多シ○報知新聞記者、朝野新聞記者ト爲ル、東京府會議員、同常置委員ニ舉ケラル、又統計權少書記官ニ任セラレ後文部大臣ニ任セラレ、東洋經濟雜誌ヲ發刊ス、衆議院議員ニ當選スルコト十一回

安政六年十月備後國深安郡野上村ニ生ル、慶應義塾卒業○朝鮮國統理交渉通商事務衙門顧問兼漢城府博文局主宰ニ任シ漢城旬報ヲ發兌ス、歸朝後時事新報及大同新報記者ト爲ル、農工商高等會會員、臨時製鐵事業調査委員、臨時博覽會調査委員、臨時治水調査會委員被仰付、又北海道炭礦鐵道會社及日本製鋼所取締役ニ選ハル、現ニ日本瓦斯株式會社取締役外數會社ノ重役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト十一回

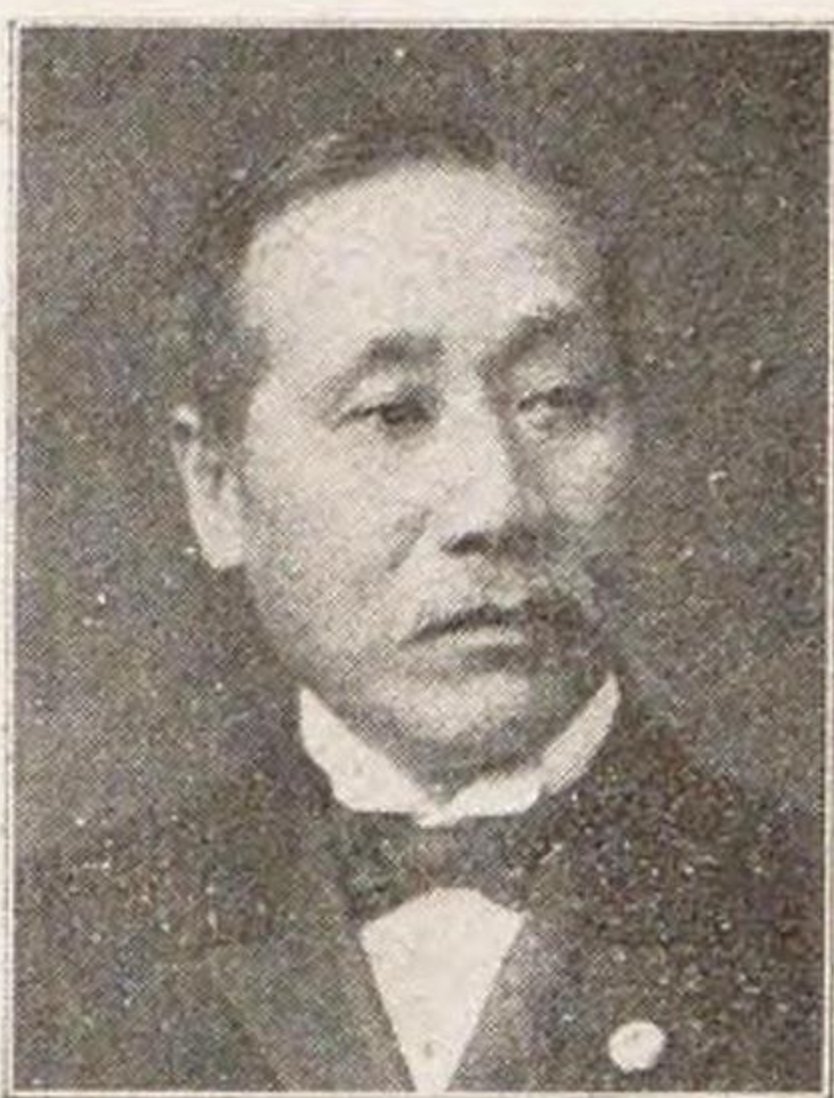
安政三年七月阿波國德島市ニ生ル、英佛漢學ヲ修ム○内務權少書記官、千葉縣、京都府、宮城縣各書記官及遞信書記官ニ歷任ス、又石卷鐵道株式會社社長及愛國銀行頭取ニ舉ケラル、現ニ德島市長タリ

文久三年五月肥後國飽託郡中島村ニ生ル、漢學及支那語ヲ修ム、清國ニ留學ス○陸軍通譯ヲ命セラレ明治二十七八年戰役ニ從軍ス、又上海居留民團行政委員、同副議長、東亞同文會支部長ニ舉ケラル、現ニ上海日報ヲ發刊ス、又滿韓歐米ニ漫遊ス

濱岡光哲

京都府京都市選出
士族會社員

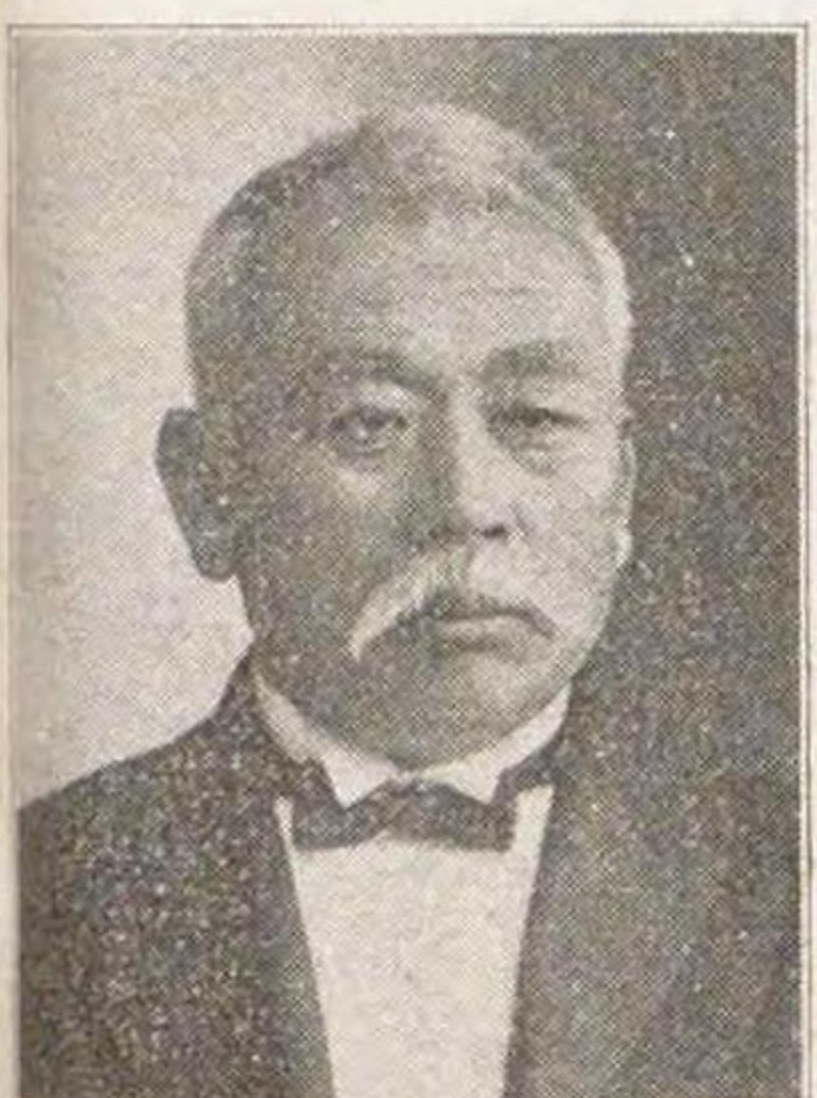
二百六十四



嘉永六年五月山城國京都市ニ生ル、漢學及獨逸語ヲ學フ○叡範學
舎ヲ經營ス、京都商業會議所會頭ニ舉ケラル、日本大博覽會評議
員、生産調査會委員被仰付、又同志社財團監事、京都實業協會會長
ト爲ル、現ニ京都電氣鐵道株式會社社長、京都工商株式會社取締
役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト三回

長谷川豐吉

神奈川縣郡部選出
平民、農



嘉永五年二月相模國足柄下郡下曾我村ニ生ル、漢學ヲ學フ○神
奈川縣會議員、同常置委員ニ舉ラル、衆議院議員ニ當選スルコト
四回

早川鐵治

長崎縣對馬選出、立憲政友會所屬
平民、從四位、勳五等、農學士、會社員、特許辨理士



文久三年五月備前國岡山市ニ生ル、札幌農學校卒業、後北米合衆
國「ハステング」法律學校及獨逸伯林大學ニ學フ○外務省御用掛、
外務書記官、農商務大臣祕書官、同省參事官、製鐵所事務官、内閣
書記官、辨理公使、外務省政務局長ニ歷任ス、現ニ日本倉庫株式會
社社長、日本防腐木材株式會社社長、日本硫酸株式會社社長タリ

葉住利藏

群馬縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、會社員



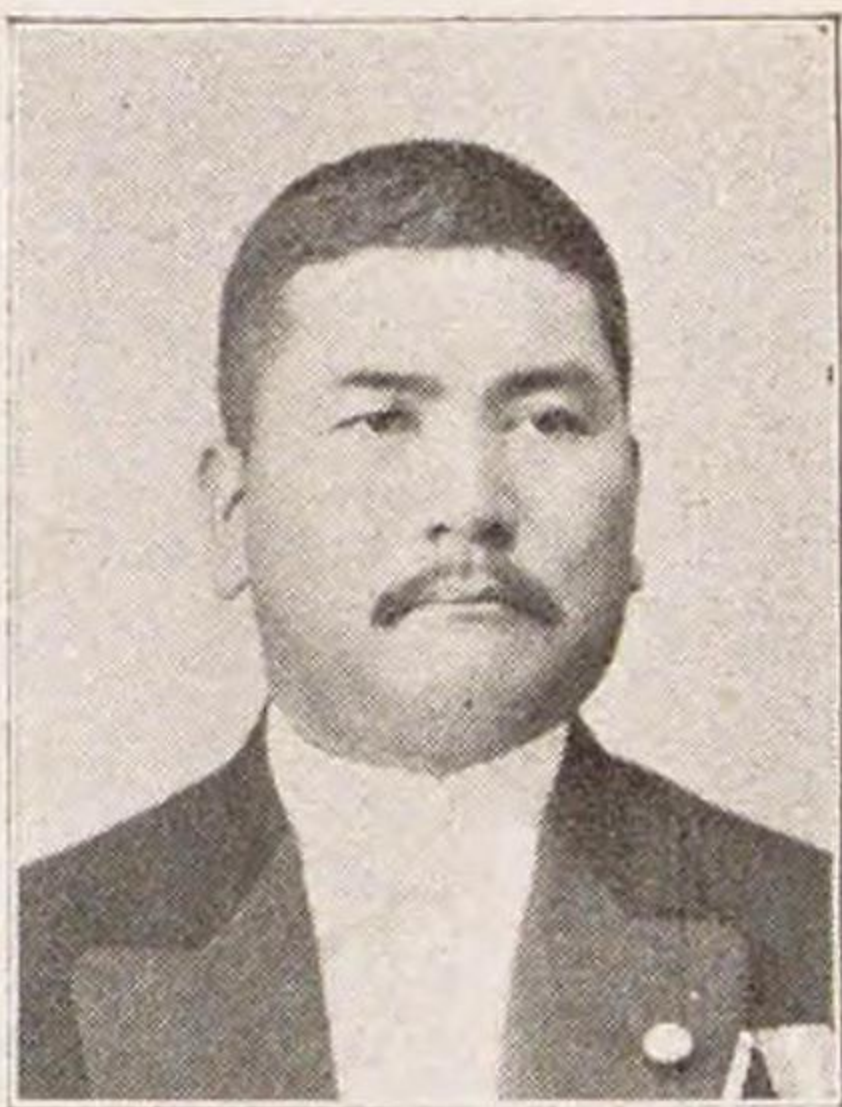
慶應二年七月上野國新田郡太田村ニ生ル、橫濱商業學校卒業○郡
書記ニ任セラル、又群馬縣會議員、同參事會員ニ舉ケラル、現ニ株
式會社新田銀行頭取、利根發電株式會社社長、太田輕便鐵道株式
會社社長、利根軌道株式會社社長タリ

第二編 議員履歷(はノ部)

二百六十五

原 脩次郎

茨城縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、正七位、勳六等、會社員

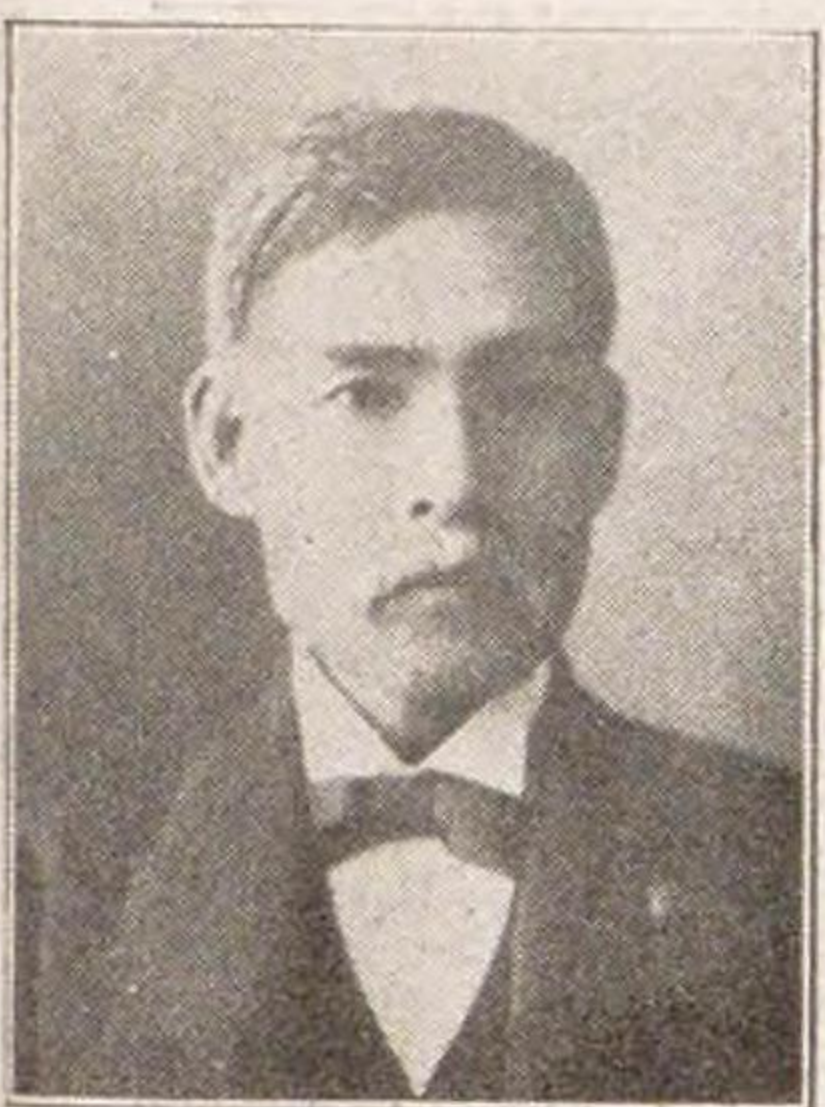


二百六十六

明治四年五月丹波國何鹿郡綾部町ニ生ル、中央大學ニ學フ○臺南
縣辨務署長、臺灣土地調查局事務官、臺灣總督府警視ニ歷任ス

濱 名 信 平

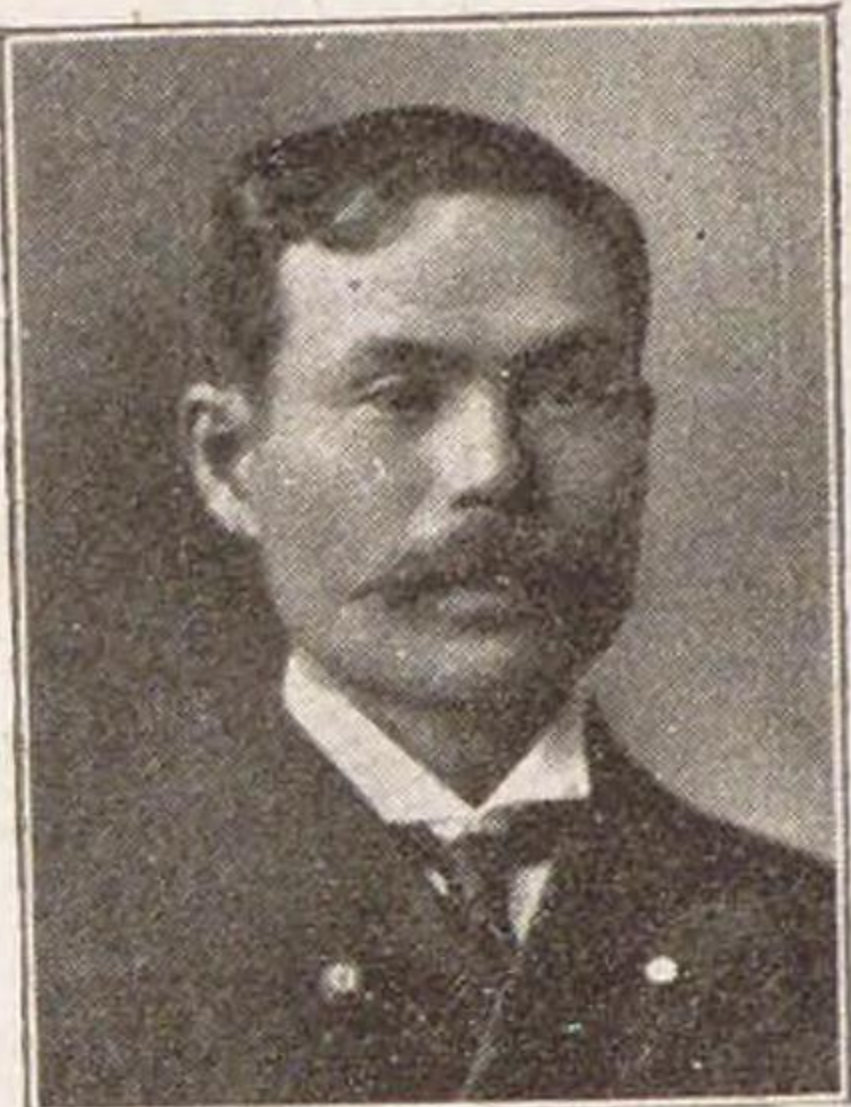
茨城縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、農



安政二年十月常陸國眞壁郡關本町ニ生ル、漢學ヲ修ム○茨城縣會
議員、同常置員、同副議長、同議長ニ舉ケラル、日英博覽會評議員被
仰付、衆議院議員ニ當選スルコト九回

濱 田 國 松

三重縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、勳四等、辯護士



明治元年六月伊勢國度會郡宇治山田市ニ生ル、三重縣師範學校、
東京法學院卒業○小學校訓導ニ任セラル、後町會議員、郡會議員
ニ舉ケラル、現ニ神都瓦斯株式會社取締役タリ、衆議院議員ニ當
選スルコト三回

春 田 祐 清

愛知縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



安政五年一月尾張國中島郡千代田村ニ生ル、漢學ヲ修ム○小學校
訓導、戶長ニ任セラル、後村長、郡會議員、愛知縣會議員ニ舉ケラル、
現ニ日光川倉庫銀行取締役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

早川龍介

愛知縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



嘉永六年八月三河國碧海郡中島村ニ生ル、英漢學ヲ修ム。○愛知縣
會議員、同常置委員、同郡部會副議長ニ舉ケラル、又農工銀行創立
委員、拓殖銀行創立委員、水産調査會委員、博覽會委員及評議員被
仰付、米國及清韓ニ漫遊ス、衆議院議員ニ當選スルコト九回

原真澄

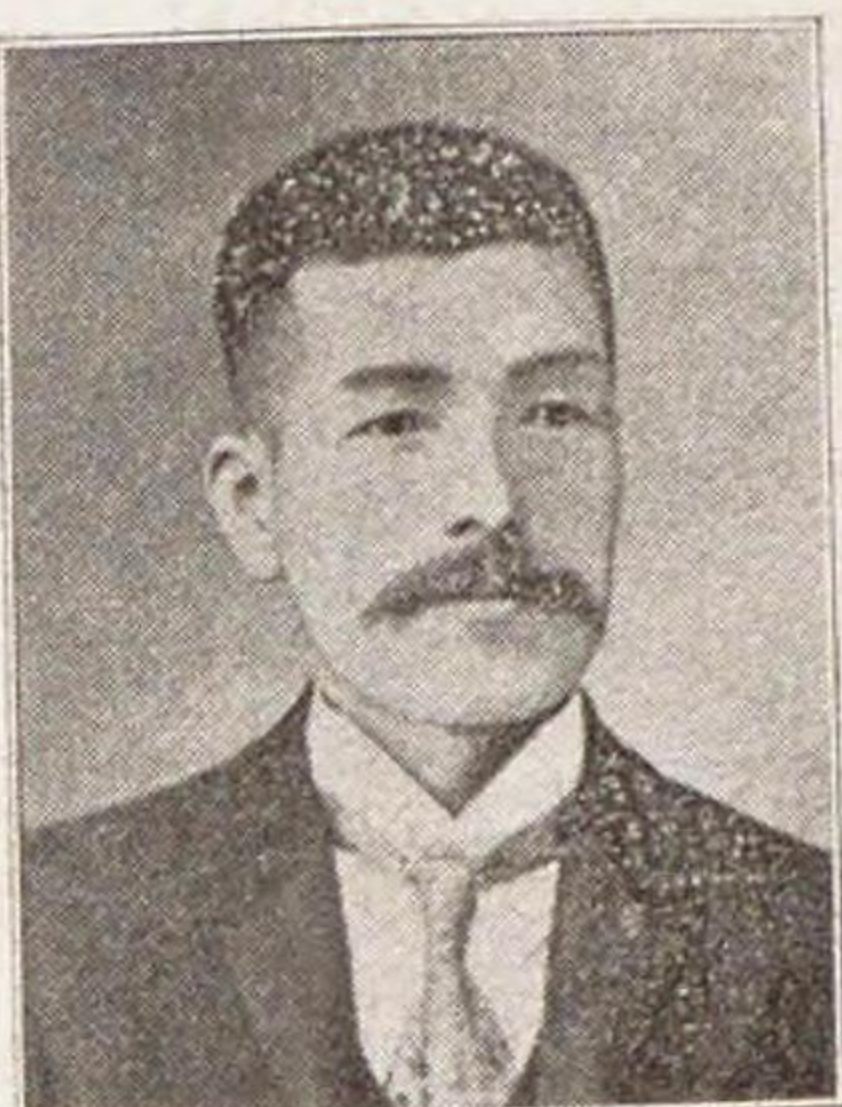
岐阜縣岐阜市選出
平民、新聞記者



慶應二年三月美濃國可兒郡中村ニ生ル。○岐阜日々新聞記者、濃飛
日報主筆ト爲ル、現ニ岐阜商工新報社社長及岐阜商業會議所書記
長タリ

早川六三郎

岐阜縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



明治三年十月美濃國武儀郡南武藝村ニ生ル。○村會議員、郡會議
員、同參事會員ニ舉ケラル

半谷清壽

福島縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、農



安政五年十一月岩城國相馬郡小高町ニ生ル。○絹織物業並農業ニ
従事ス

第二編 議員履歷(はノ部)

原 敬

巖手縣盛岡市選出、立憲政友會所屬
平民、從三位、勳二等、官吏

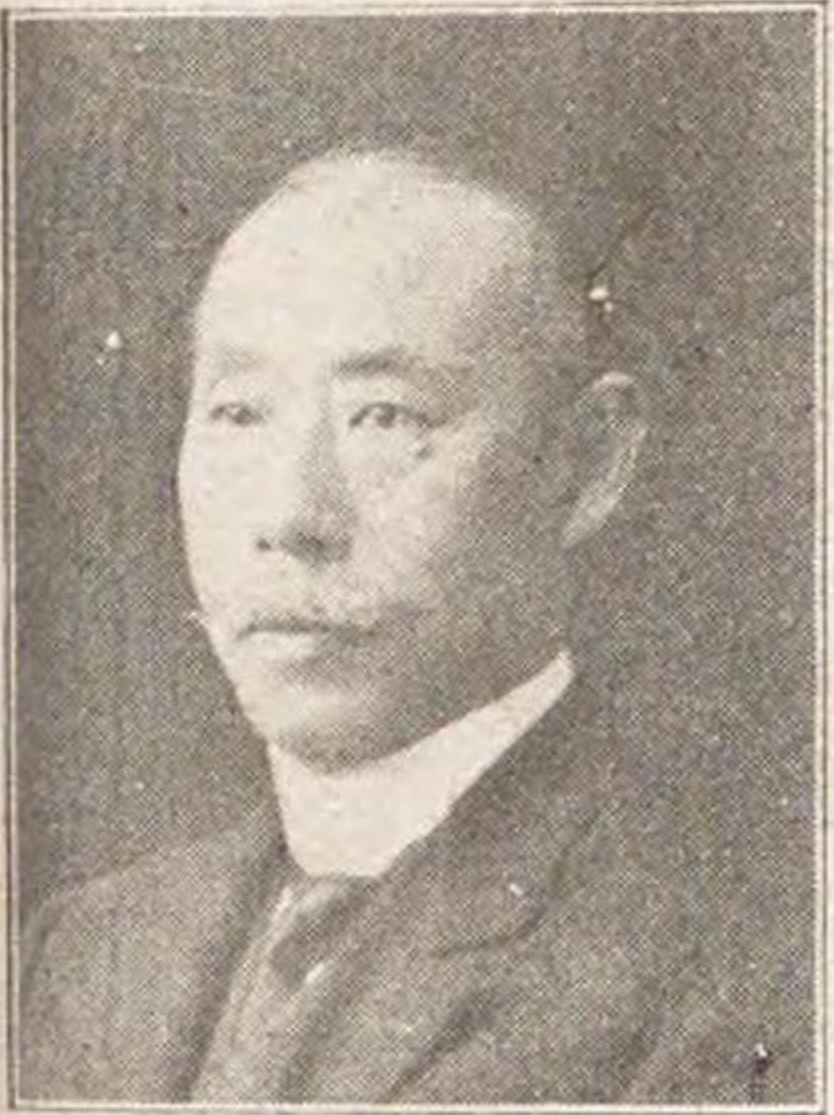
二百七十



安政三年二月生ル、司法省法律學校ニ學フ○報知新聞記者、大阪
毎日新聞社社長ト爲ル、又外務省通商局長、特命全權公使、外務次
官、遞信大臣、内務大臣ニ歴任シ、現ニ内務大臣兼鐵道院總裁タリ、
衆議院議員ニ當選スルコト五回

八田 裕二郎

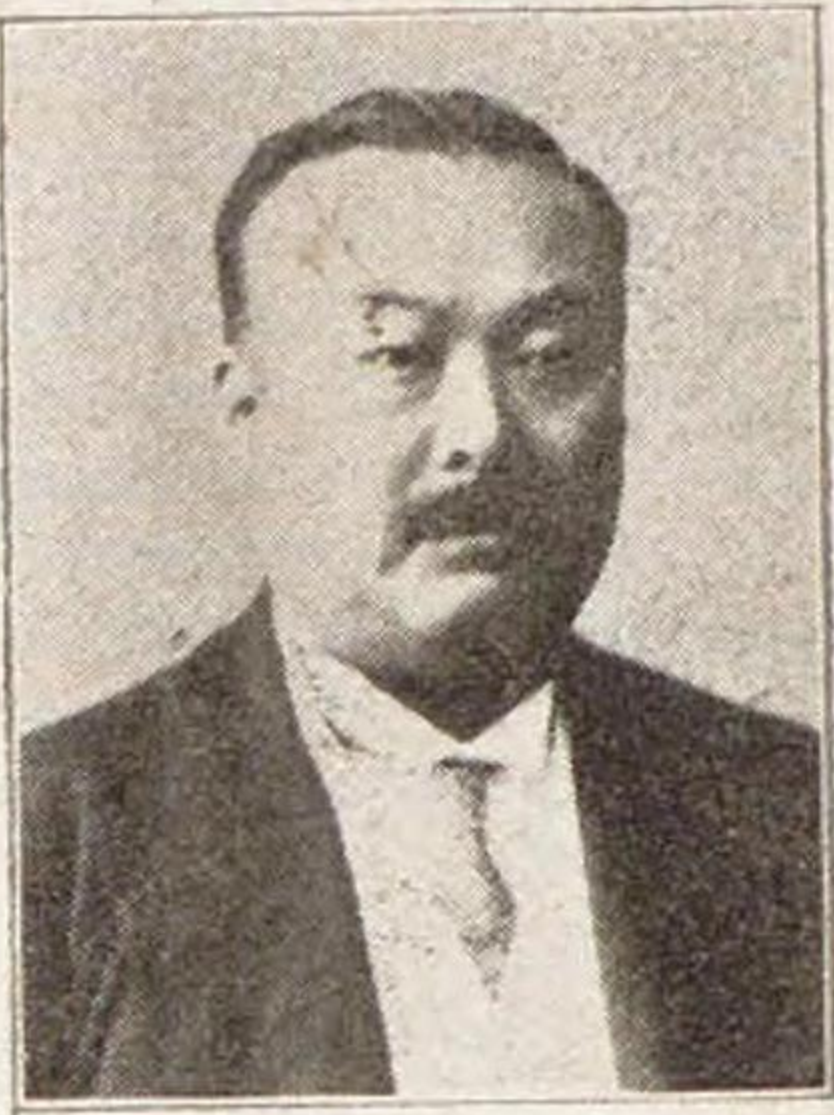
福井縣福井市選出、立憲政友會所屬
平民、正六位



嘉永二年十一月越前國福井市ニ生ル、海軍兵學校及英國「グリニツ
チ」海軍大學卒業○海軍大尉ヨリ歴任海軍大佐ニ至リ、東伏見宮
付武官兼英國公使館及佛國公使館付武官ニ補セラル、現ニ育英事
業及船舶事業ニ從事ス

濱 本 義 顯

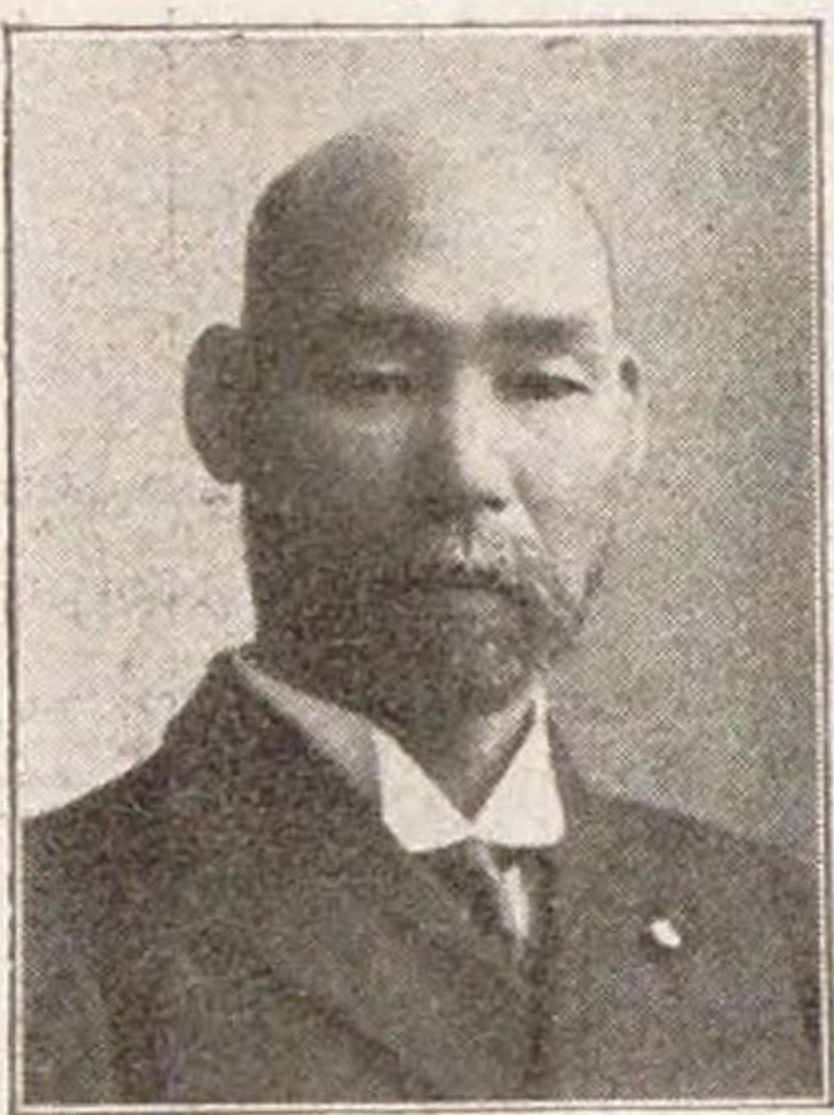
鳥取縣鳥取市選出、立憲政友會所屬
士族、從六位、會社員



安政五年九月因幡國鳥取市ニ生ル、大阪師範學校卒業○大藏屬、
遞信屬、警視廳、北海道支廳長ニ任セラル、現ニ日本煉炭株式會社、
日清紡績株式會社、城戸炭礦株式會社、大日本製糖株式會社、日
本臺灣茶株式會社、東京寶石株式會社各取締役、橫濱電氣鐵道株
式會社監查役タリ

原 田 赴 城

島根縣隱岐選出、中央俱樂部所屬
平民、正五位、勳四等、銀行員



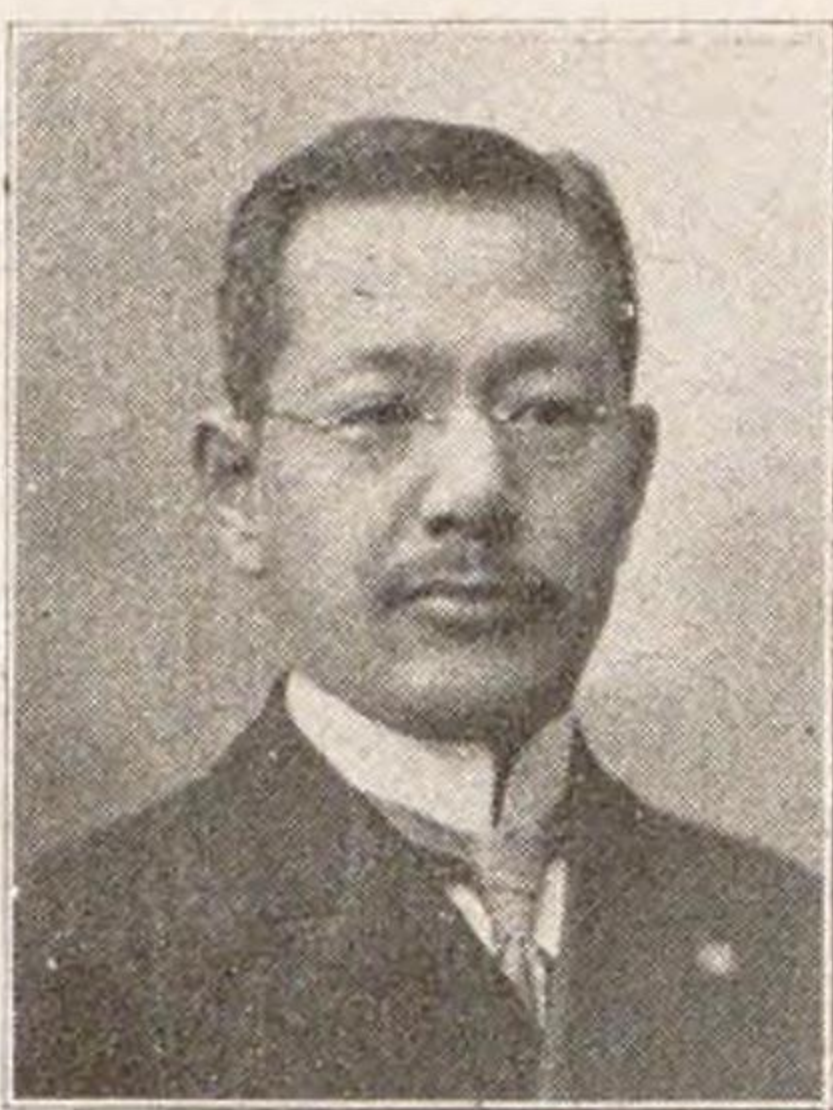
安政三年七月下野國河内郡針ヶ谷村ニ生ル、栃木縣師範學校卒業
○郡長、隱岐島司、島根縣書記官ニ歴任ス、又太陽生命保險株式會
社社長、總武鐵道株式會社取締役ニ擧ケラル、現ニ銀行重役タリ、
衆議院議員ニ當選スルコト四回

第二編 議員履歷(はノ部)

二百七十一

橋本太吉

廣島縣尾道市選出
平民、釀造業



二百七十二

明治五年六月備後國尾道市ニ生ル、慶應義塾卒業○市會議員ニ舉ケラル、又尾道米鹽肥料取引所理事、尾道電燈株式會社社長ニ選ハル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

花井卓藏

廣島縣郡部選出
平民、勳四等、法學博士、辯護士



明治元年六月備後國御調郡三原町ニ生ル、英吉利法律學校及東京法學院高等科卒業、非常國際法論其他數種ノ著書アリ○中央大學講師タリ、東京辯護士會常議員、同議長ニ選ハル、法律取調委員被仰付、主査委員竝起草委員タリ、又雜誌法理精華、法學新報ヲ編輯ス、現ニ刑事法評林主幹タリ、衆議院議員ニ當選スルコト五回

早速整爾

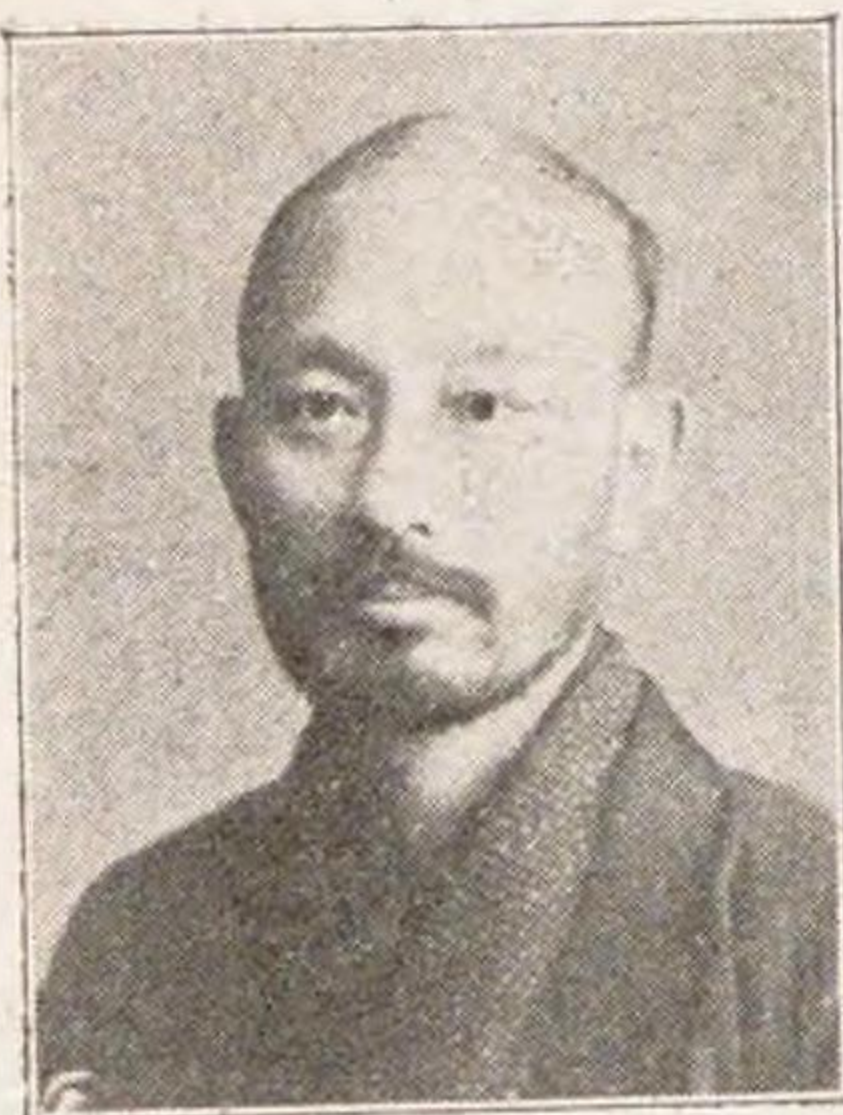
廣島縣郡部選出
平民、勳四等、新聞記者



明治元年十月安藝國安佐郡三篠村ニ生ル、早稻田大學卒業、中央大學法學士タリ○市會議員、同議長、廣島縣會議員、同副議長、同市部會議長、廣島商業會議所議員、同會頭ニ舉ケラル、又生産調査會委員被仰付、現ニ藝備日々新聞社社長、山口瓦斯株式會社社長、廣島電氣軌道株式會社取締役、日清燐寸株式會社取締役タリ、又航運業、殖林業ヲ營ム、衆議院議員ニ當選スルコト四回

林永太

山口縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、銀行員



明治六年五月周防國都濃郡末武南ニ生ル、日本法律學校卒業○郡會議員、山口縣會議員、同參事會員、同副議長ニ舉ケラル、現ニ周防銀行取締役、周陽銀行頭取、紀念肥料株式會社取締役、柳井瓦斯株式會社監査役タリ

第二編 議員履歷(はノ部)

二百七十三

板東勘五郎

德島縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、會社員



文久元年一月生ル、政治經濟學ヲ修ム。郡會議員、德島縣會議員、同參事會員、同副議長ニ舉ケラル、又德島鐵道株式會社社長ニ選ハル、鐵道會議議員、日本大博覽會評議委員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト八回

林毅陸

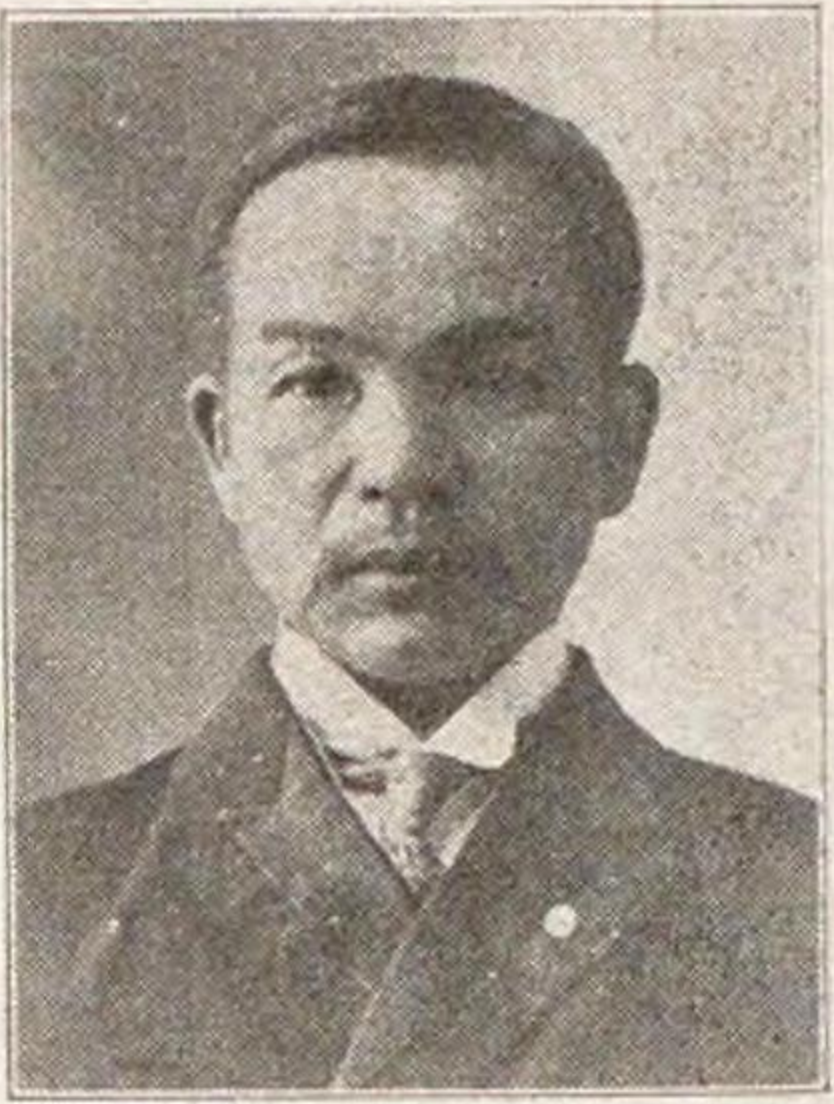
香川縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、大學教授



明治五年五月肥前國東松浦郡入野村ニ生ル、慶應義塾卒業、後歐洲ニ留學シ主トシテ佛國ニ於テ外交史ヲ研究ス。現ニ慶應義塾大學教授、東京高等商業學校講師ニ聘セララル、兼テ日本新聞記者タリ

濱田政壯

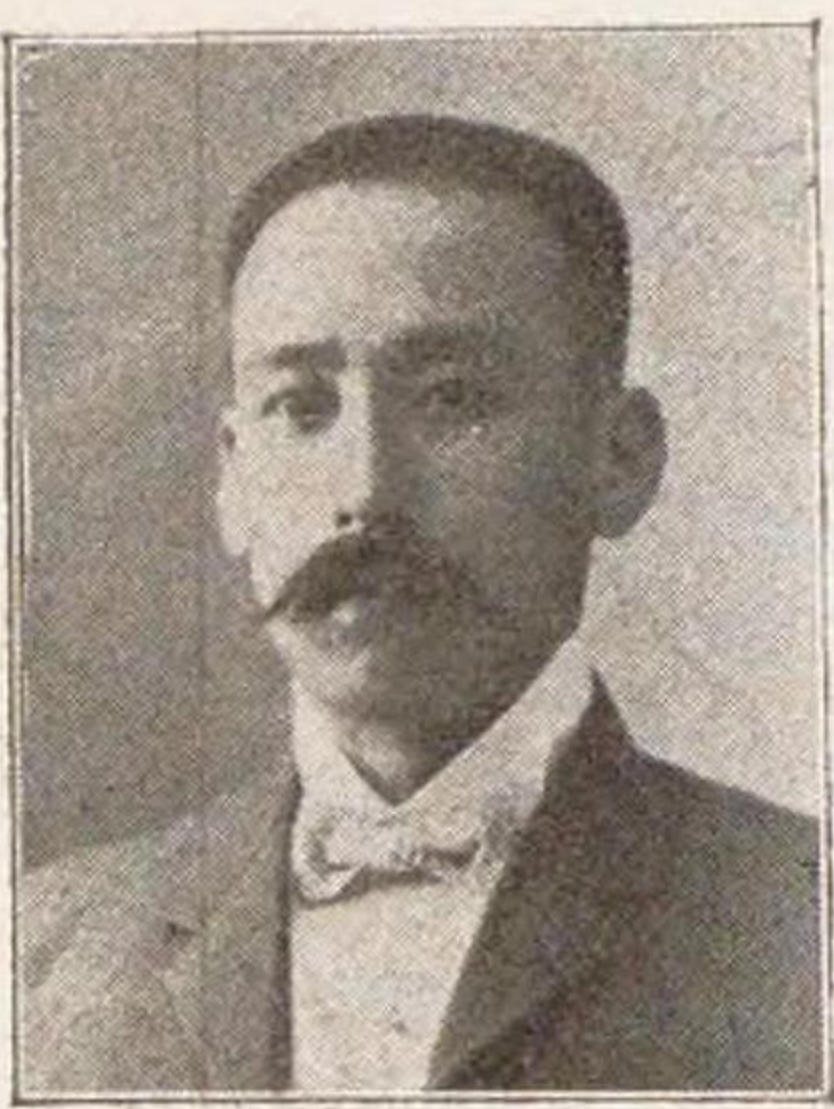
宮崎縣選出、立憲政友會所屬
士族、勳六等、醫業



元治元年十月日向國東諸縣郡會岡村ニ生ル、鹿兒島縣立醫學校卒業。宮崎縣聯合醫會議長、地方衛生局委員ヲ命セララル、檢疫官、清國營口軍政醫官ニ任セララル、又町會議員、宮崎縣會議員、同議長ニ舉ケラル、現ニ宮崎縣醫師會長タリ

原田十衛

熊本縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、正六位、東京市助役



文久元年十二月生ル。自由通信社主筆タリ、又文部大臣秘書官、司法大臣秘書官、大藏大臣秘書官ニ任セララル、現ニ東京市助役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

長谷場純孝

鹿兒島縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、正四位、勳四等、官吏



安政元年四月生ル、薩藩學寮ニ學フ。○鹿兒島縣會議員、同常置委員ニ舉ケラル、又小警部、郡長、内務省官房長ニ歴任シ現ニ文部大臣タリ、東洋拓殖株式會社設立委員、議院建築準備委員會副委員長被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト十一回、曩ニ衆議院議長タリ

西谷金藏

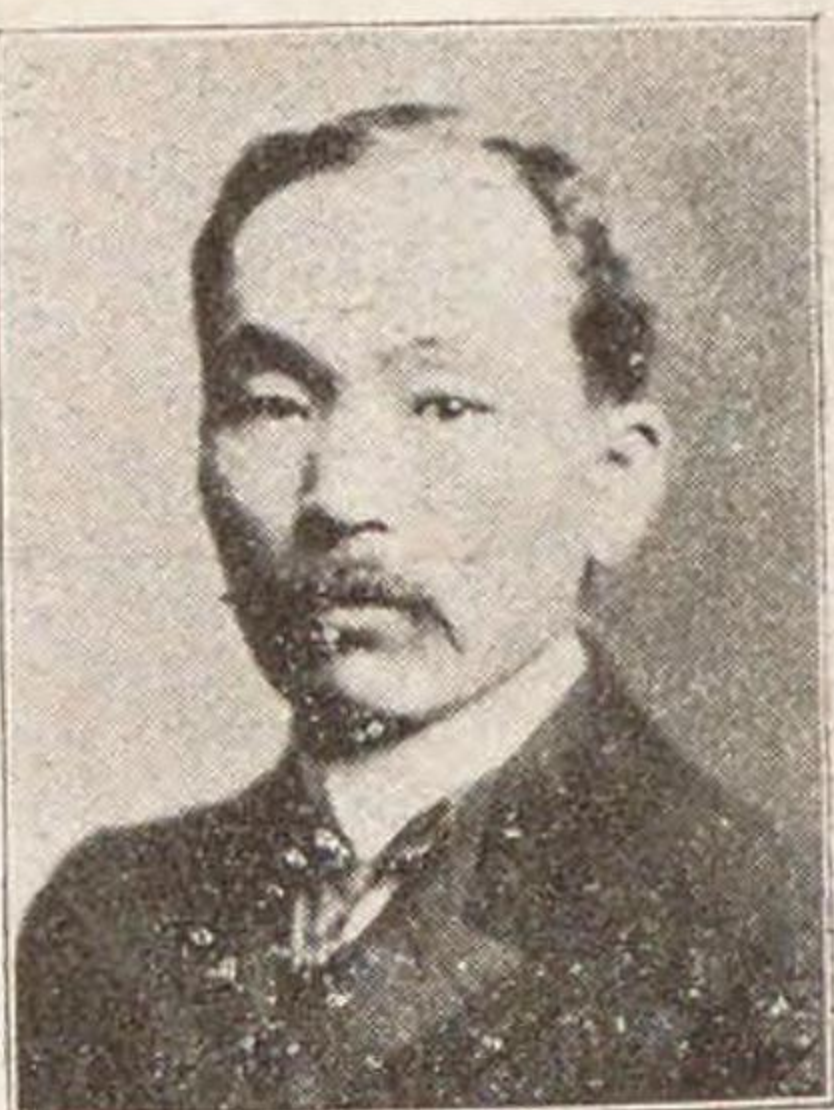
鳥取縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳七等、農



安政五年八月鳥取縣東伯郡北谷村ニ生ル、漢學ヲ修ム。○村長、郡會議員、同議長、鳥取縣會議員ニ舉ケラル、現ニ鳥取縣農工銀行、東洋生命保險株式會社各取締役、山陰製糸株式會社、伯州製紙株式會社、倉吉電氣株式會社、境電氣株式會社、倉吉米券倉庫株式會社、因伯時報社各社長タリ

西村丹治郎

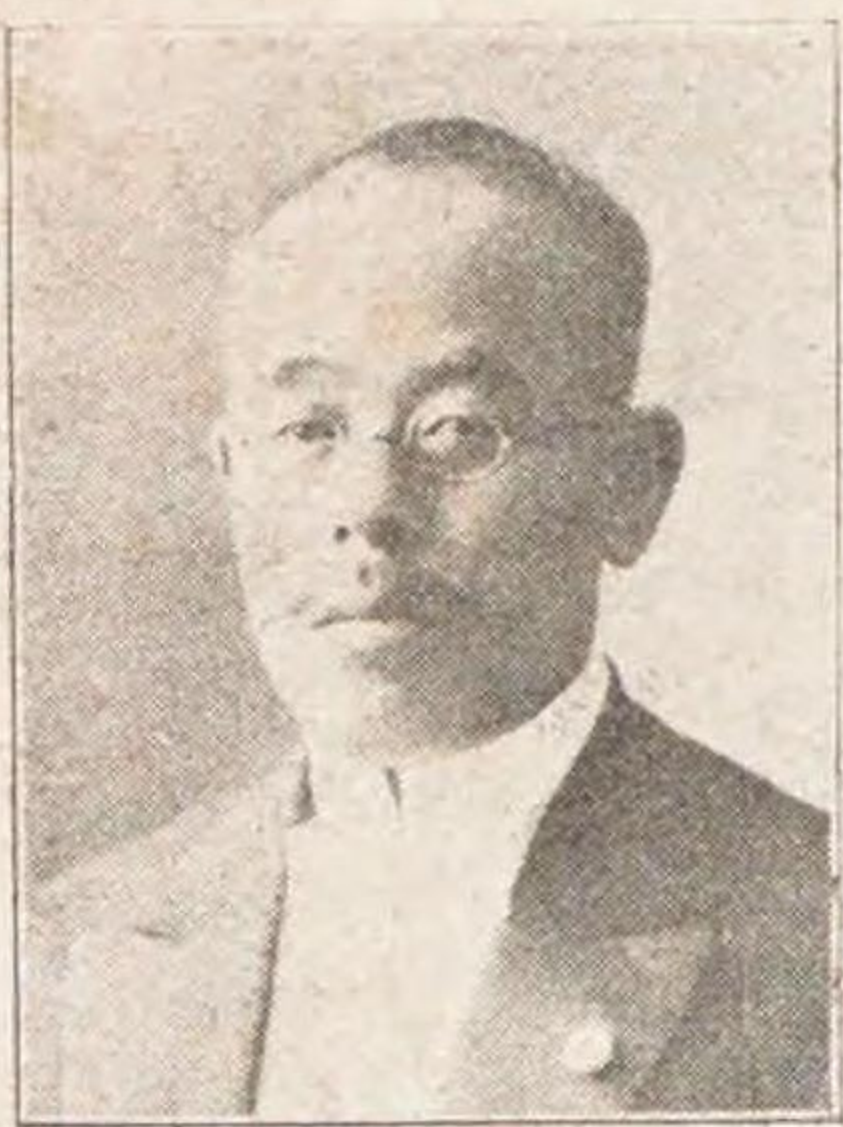
岡山縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、勳四等



慶應二年十月岡山縣吉備郡秦村ニ生ル、東京專門學校卒業、後歐米ニ遊學シ政治經濟學ヲ修ム。○新聞記者タルコト數年、列國議會同盟會議ニ參列ス、衆議院議員ニ當選スルコト五回

西風重遠

和歌山縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳六等、法學士、回漕業



明治五年四月紀伊國那賀郡粉川町ニ生ル、東京帝國大學法科卒業
○大阪商船株式會社員ト爲リ長崎、臺灣、宇品、朝鮮各支店長ニ補セラル、現ニ回漕業ヲ營ム

星野 錫

東京府東京市選出
士族、會社員



安政元年十二月舊江戸酒井邸内(巢鴨町)ニ生ル、藩學ニ學ヒ後北
米合衆國ニ留學シ印刷ニ關スル諸般ノ技術ヲ研究ス○區會議員、
東京商業會議所議員、同副會頭ニ舉ケラル、生産調査會委員被
仰付、又實業組合、印刷同業組合各組長及諸種ノ博覽會協會、美術
協會會長又ハ幹事ニ選ハル、現ニ東京印刷株式會社專務取締役、
大日本製糖株式會社、日本陶料株式會社、韓海漁業株式會社、東亞
石油株式會社各取締役タリ

本出保太郎

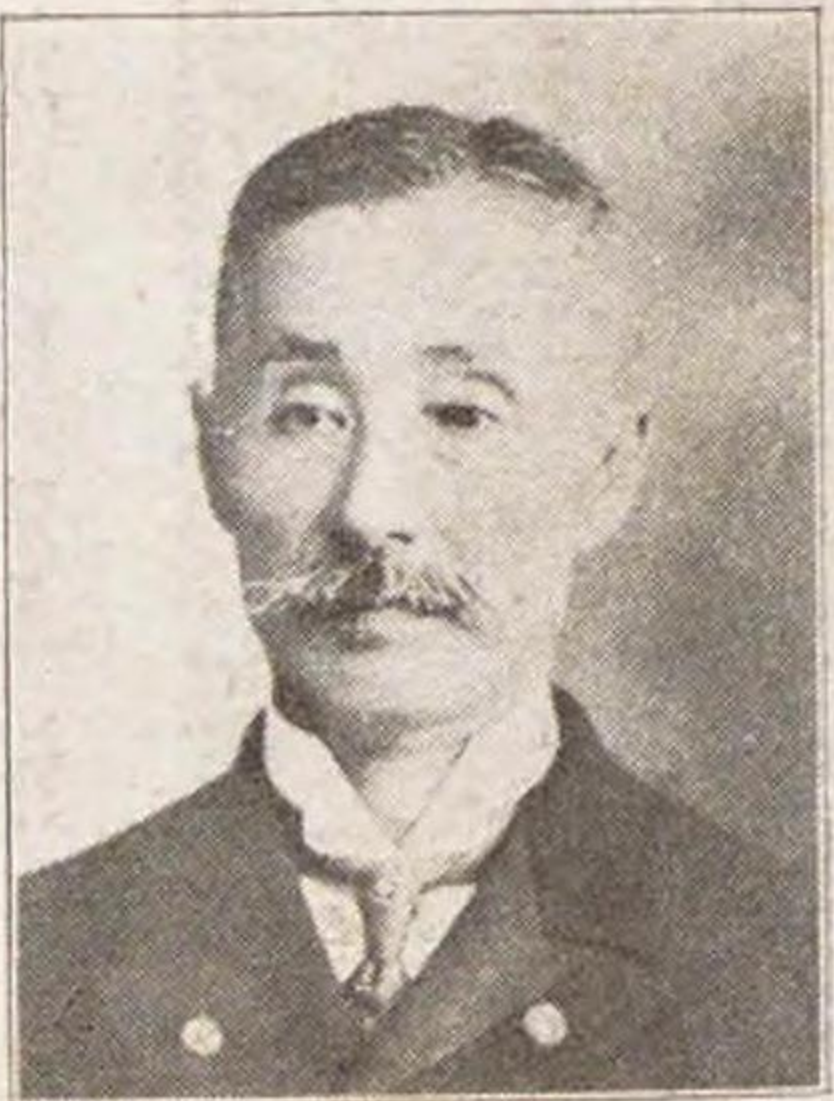
大阪府郡部選出、立憲政友會所屬
平民勳四等、農



慶應三年九月攝津國西成郡西中島村ニ生ル○衆議院議員ニ當選
スルコト四回

帆足隼太郎

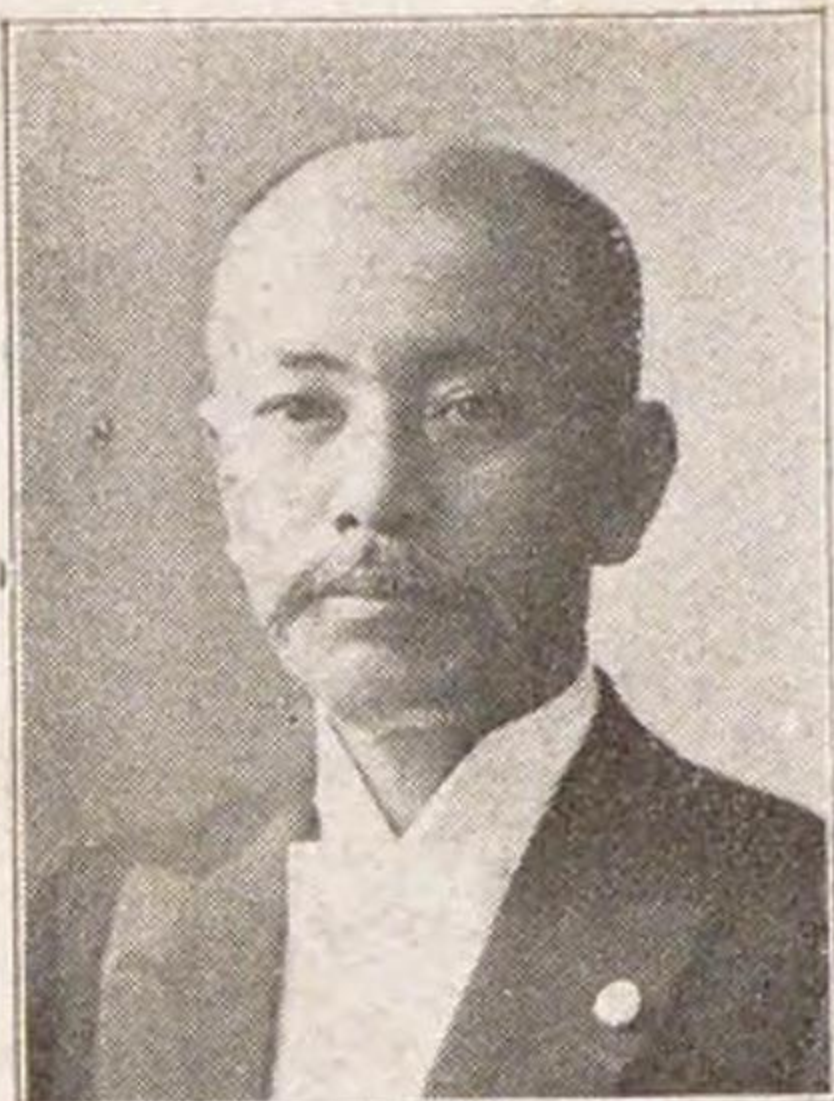
長崎縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、農



嘉永三年十月肥前國南高來郡神代村ニ生ル、普通學ヲ修ム○長
崎縣會議員、同參事會員、同議長ニ舉ケラル、現ニ長崎縣農工銀行
頭取タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

本田 恆之

長崎縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、辯護士



文久二年四月肥前國南高來郡湊町ニ生ル、專修學校卒業○市會議
員、長崎縣會議員ニ舉ケラル

細野次郎

群馬縣郡部選出
平民鑛山業



文久二年八月生ル、東京帝國大學法科大學選科ニ學フ○群馬縣會議員ニ舉ケラル、臨時治水調査會委員被仰付、現ニ株式會社群馬商工銀行及株式會社百工商會監査役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト三回

堀内啓治

山梨縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民農



明治八年五月甲斐國南都留郡福地村ニ生ル、東京英語學校、慶應義塾ニ學フ○山梨縣會議員、同參事會員ニ舉ケラル、現ニ吉田銀行頭取、鏡益銀行取締役、宮川電燈株式會社社長タリ

✓堀切善兵衛
福島縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民大學教授



明治十五年五月岩代國信天郡飯坂町ニ生ル、慶應義塾卒業、後米國「ハーバート」大學、英國「ケムブリッジ」大學、獨逸柏林大學ニ於テ經濟財政學ヲ研究ス○時事新報記者ト爲ル、現ニ慶應義塾大學教授タリ

細梅三郎

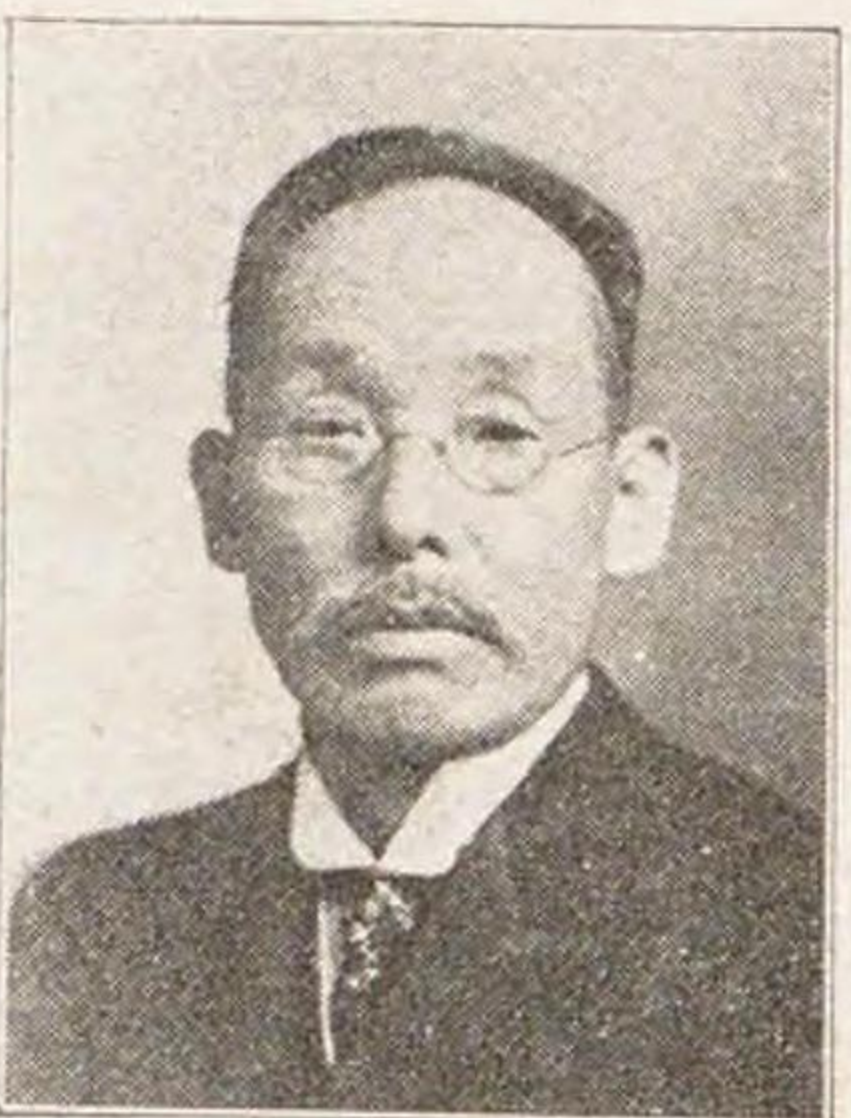
山形縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳八等、農兼鑛業



明治七年八月羽前國北村山郡楯岡町ニ生ル、宮城農業學校及早稻田大學卒業○郡會議員、同議長、縣會議員ニ舉ケラル、又山形楯岡町長ニ選ハル

法橋善作

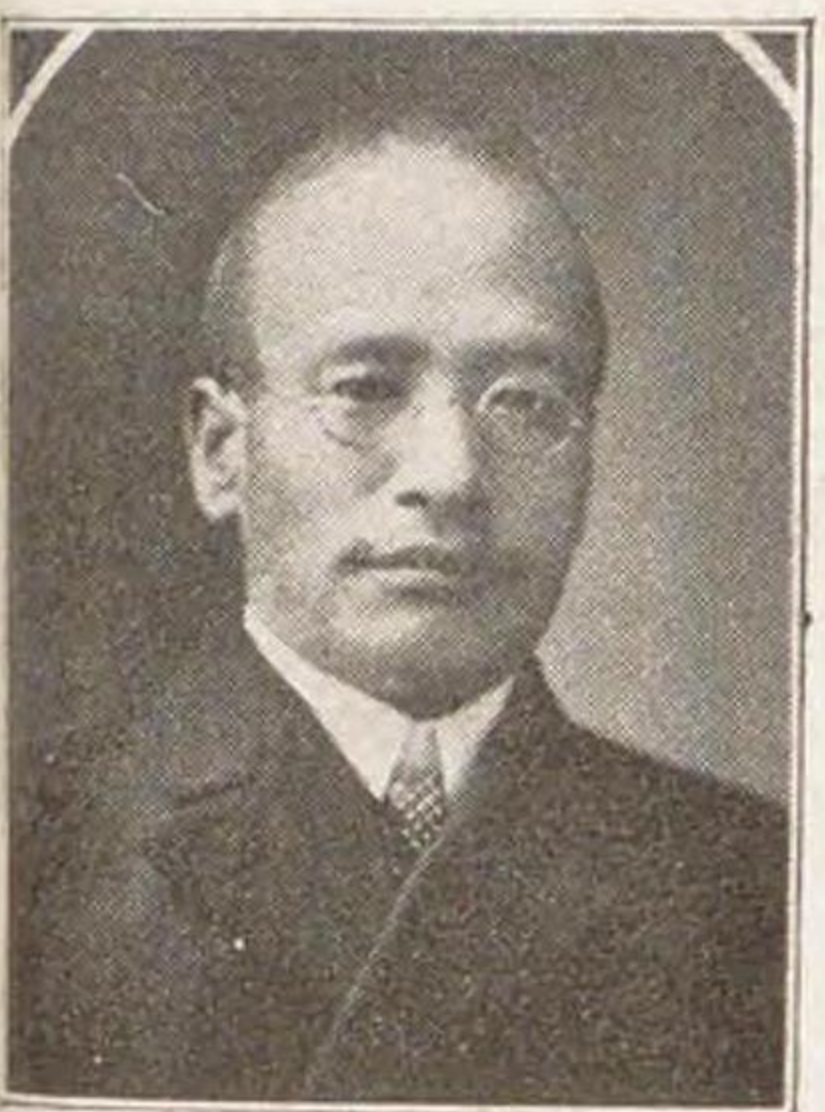
鳥取縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民商會社員



弘化四年九月伯耆國日野郡阿昆綠村ニ生ル、漢學ヲ修ム○市會議員、大阪商業會議所議員、同副會頭ニ舉ケラル、帝國工業株式會社理事、日本海上保險會社支配人ト爲ル、又北米聖路易博覽會日本通運館總務委員トシテ渡米ス、現ニ中國鐵道株式會社取締役、日東漁業株式會社取締役タリ、兼テ海產貿易商及醬油業ヲ營ム、又大阪築港研究會ヲ創立シ起工ノ基ヲ立ツ

友常毅三郎

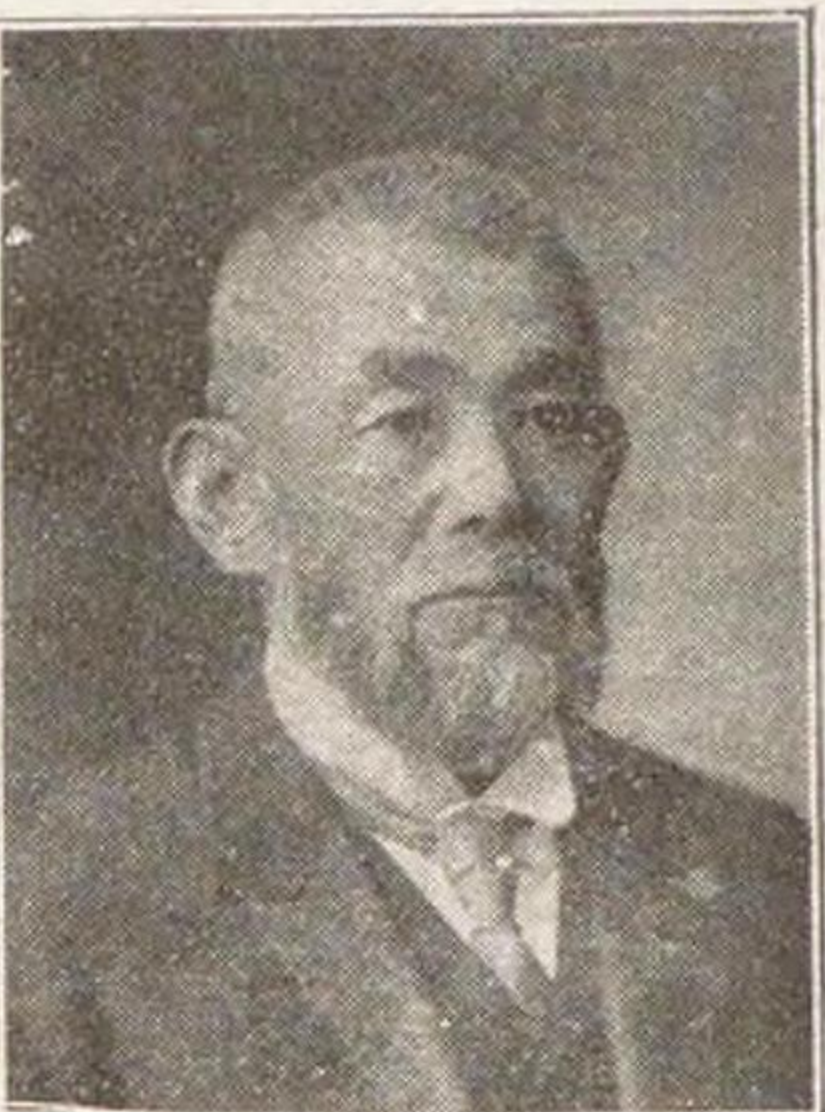
栃木縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族會社長、銀行頭取



文久二年七月舊江戸唐津藩邸ニ生ル、東京外國語學校、大學豫備門ニ學フ○明治法律學校及日本英學館教頭ト爲ル、ワーゲンフー商社及フレザー商會支配人ト爲ル、又友垣紡績會社々長ニ選ハル、現ニ九州商業銀行頭取、東肥鐵道株式會社、南信自動車株式會社各社長タリ、又神戸貿易商會及東京貿易商會ヲ經營ス

戶狩權之助

山形縣山形市選出、立憲政友會所屬
士族



嘉永六年三月羽前國米澤市ニ生ル○市會議員、同議長、山形縣會議員、同參事會員ニ舉ケラル、山形運輸株式會社專務取締役、山形商業會議所會頭、山形米穀生絲株式取引所理事長ニ選ハル、衆議院議員選舉法改正調査會委員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト五回

戶水寬人

石川縣金澤市選出、立憲政友會所屬
士族、從四位、勳四等、法學博士、辯護士



文久元年六月加賀國金澤市ニ生ル、東京帝國大學法科大學卒業、後歐洲ニ留學シ英國倫敦「ミッドル、テムブル」ニ於テ「バリストルアトロー」ノ學位ヲ受ク○判事ニ任セラル、後東京帝國大學法科大學教授ニ任セラル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

豐福泰造

岡山縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民農

二百八十四



明治二年十二月美作國英田郡粟廣村ニ生ル、早稻田大學及東京哲學院ニ學フ○郡會議員ニ舉ケラル、現ニ勝英銀行頭取、勝英貯蓄銀行頭取、播美輕便鐵道株式會社社長タリ、兼テ豐福米券倉庫ヲ經營ス、又郡内ニ巡回文庫ヲ設立ス

土井重吉

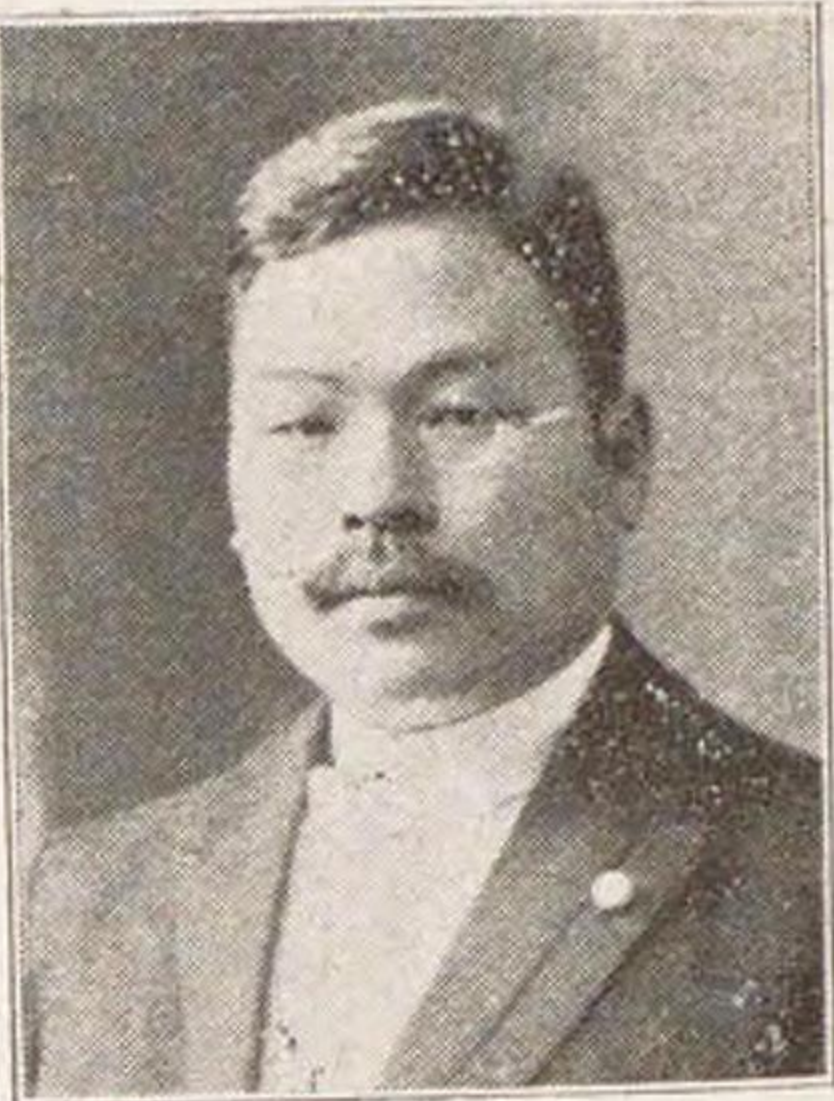
山口縣下關市選出、立憲政友會所屬
平民、商



嘉永六年四月長門國厚狹郡生田村ニ生ル、漢學ヲ修ム○市會議員、山口縣會議員、下關商業會議所議員、同副會頭ニ舉ケラル、現ニ馬關商業銀行頭取、關門汽船株式會社社長、下關倉庫株式會社取締役、下關水産株式會社社長、長門輕便鐵道株式會社取締役タリ兼テ製紙事業ヲ營ム

富田幸次郎

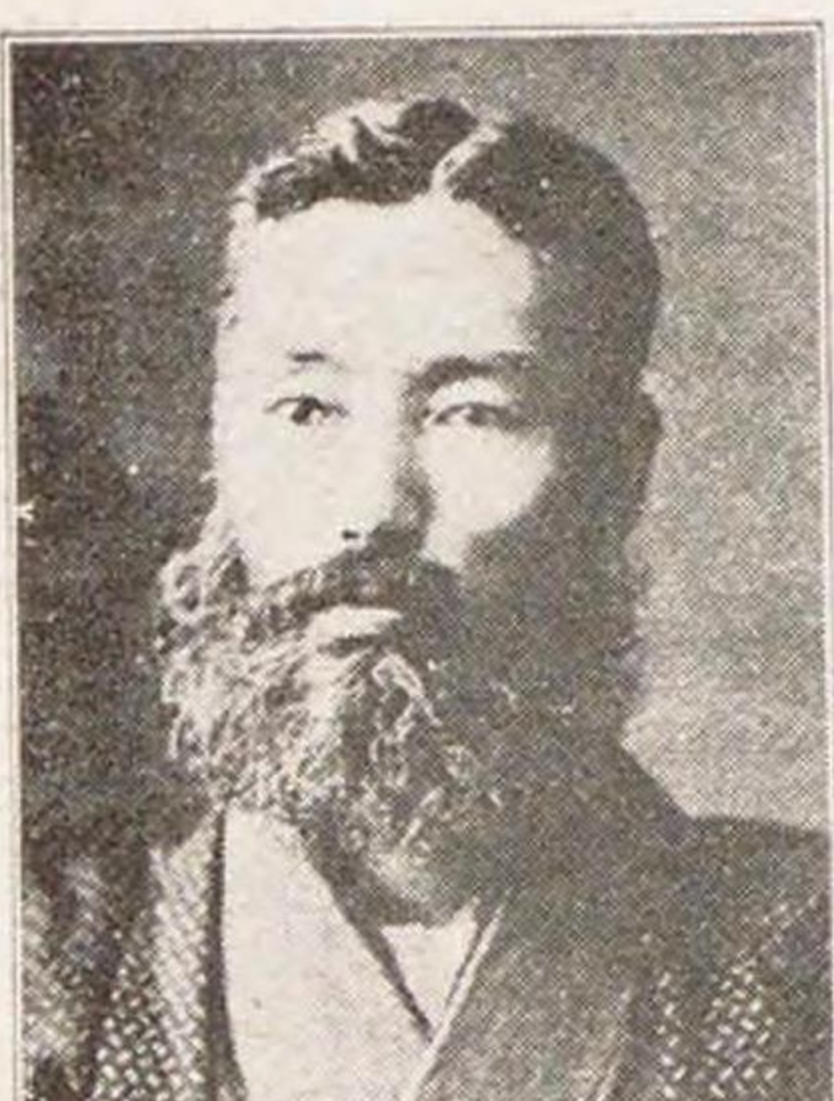
高知縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民新聞記者



明治五年十月、土佐國安藝郡川北村ニ生ル○明治三十三年清韓歴遊天津ニ在リテ拳匪ノ亂ニ遇フ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

友枝梅次郎

福岡縣小倉市選出、立憲政友會所屬
平民、鑛業



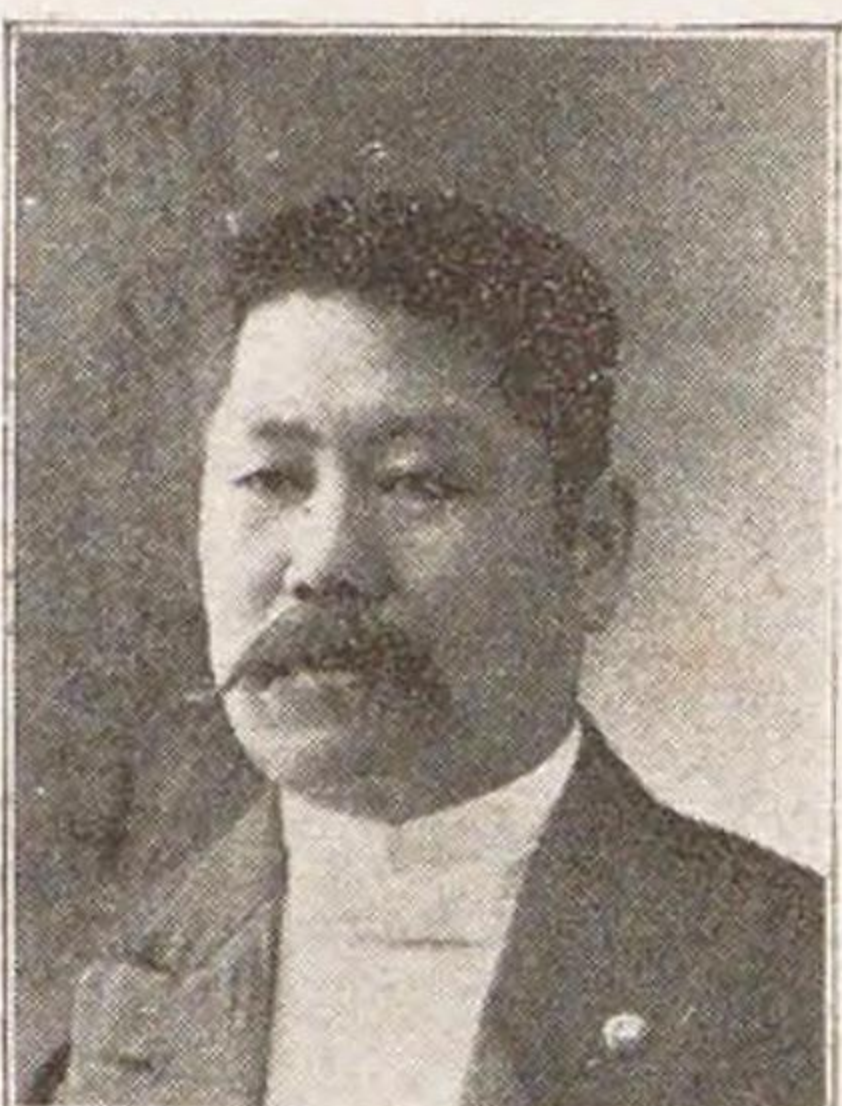
萬延元年二月豐前國筑上郡八屋村ニ生ル、漢學英學ヲ學フ○村會議員、筑豐鑛業組合常議員ニ舉ケラル、筑豐炭鑛株式會社取締役ト爲ル、現ニ小倉鐵道株式會社取締役、宇ノ島鐵道株式會社取締役、小倉競馬俱樂部常務理事タリ

第二編 議員履歷(とノ部)

二百八十五

富安保太郎

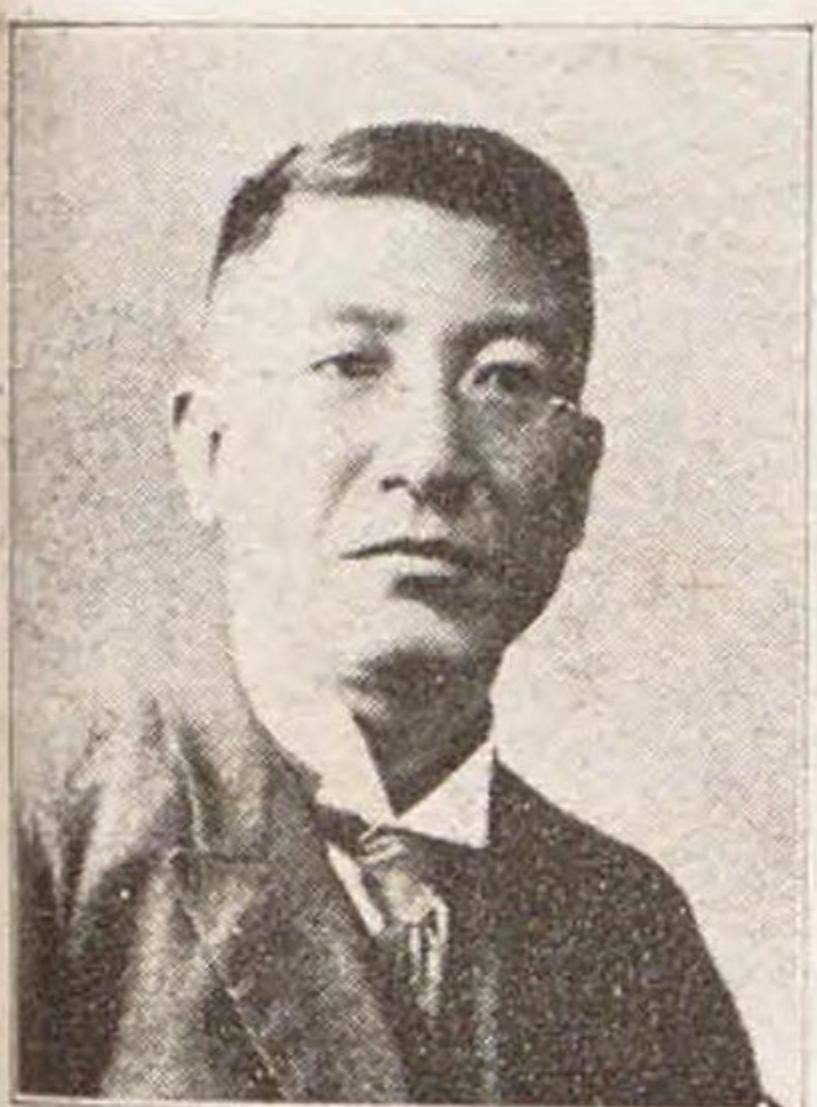
福岡縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、農



元治元年五月、筑後國山門郡三橋村ニ生ル、同人社ニ學フ後法學院卒業○福岡縣會議員、同副議長、同議長ニ舉ケラル、又九州製油株式會社頭取、博多築港株式會社社長ト爲ル、現ニ瀨高銀行頭取、九州電氣軌道株式會社取締役、博多電氣軌道株式會社取締役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

飛岡宇一郎

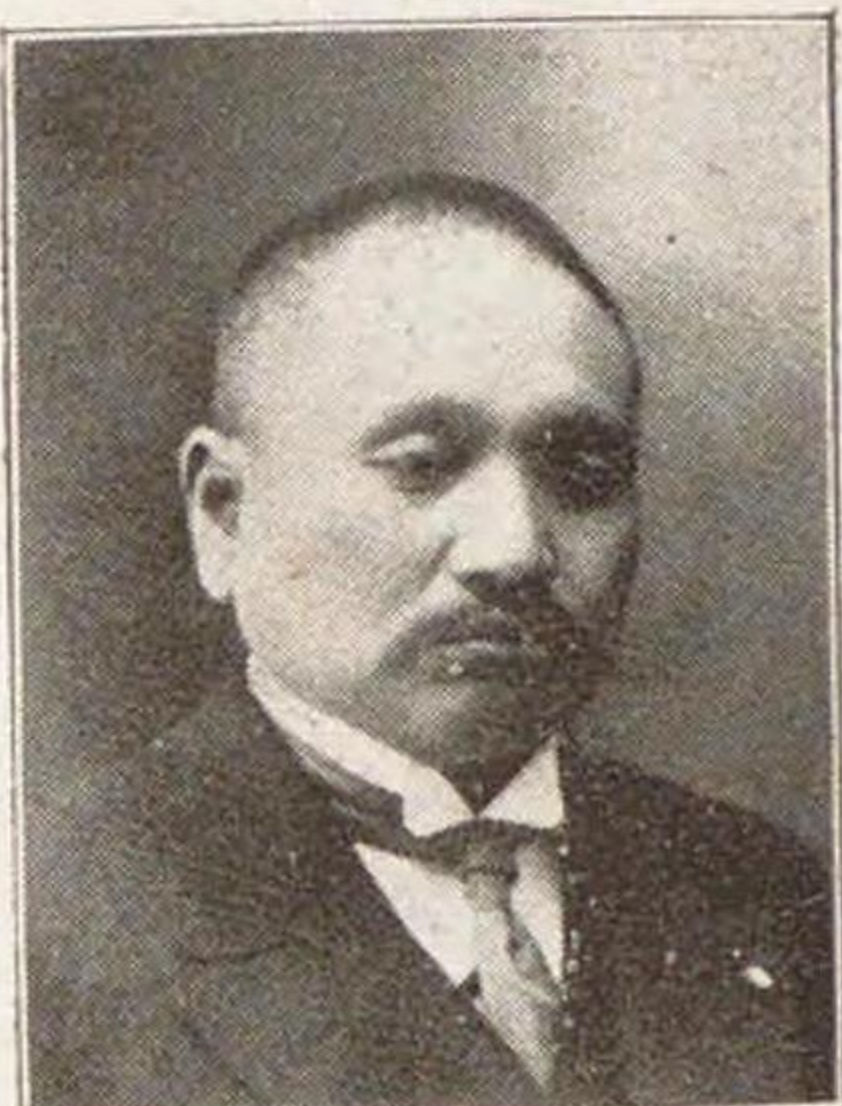
鹿兒島縣鹿兒島市選出、立憲政友會所屬
平民、法學士、銀行員



明治八年十二月薩摩國鹿兒島市ニ生ル、東京帝國大學法科大學卒業○市會議員、鹿兒島縣會議員、鹿兒島商業會議所議員、同副會頭ニ舉ケラル、現ニ第四百四十七銀行常務取締役、鹿兒島郵船會社取締役タリ

長 晴 登

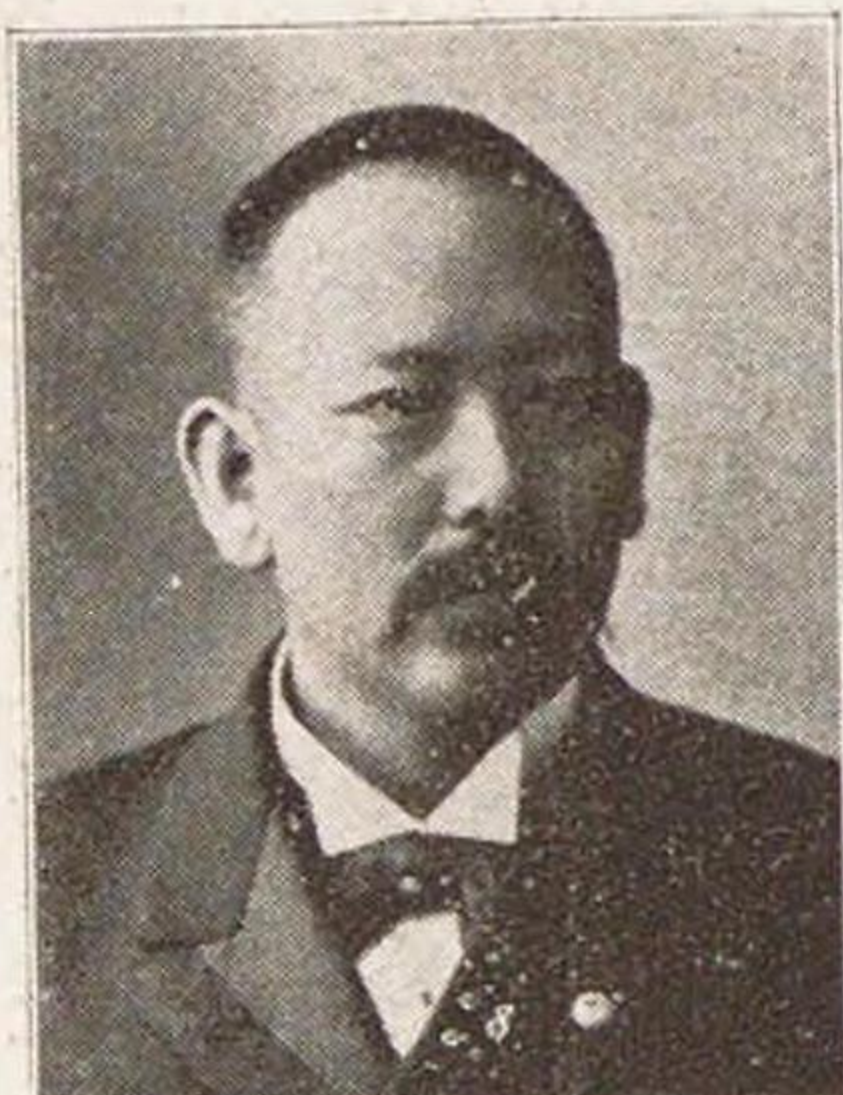
山形縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等



慶應二年八月生ル○臨時治水調査會委員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト三回

奥 繁三郎

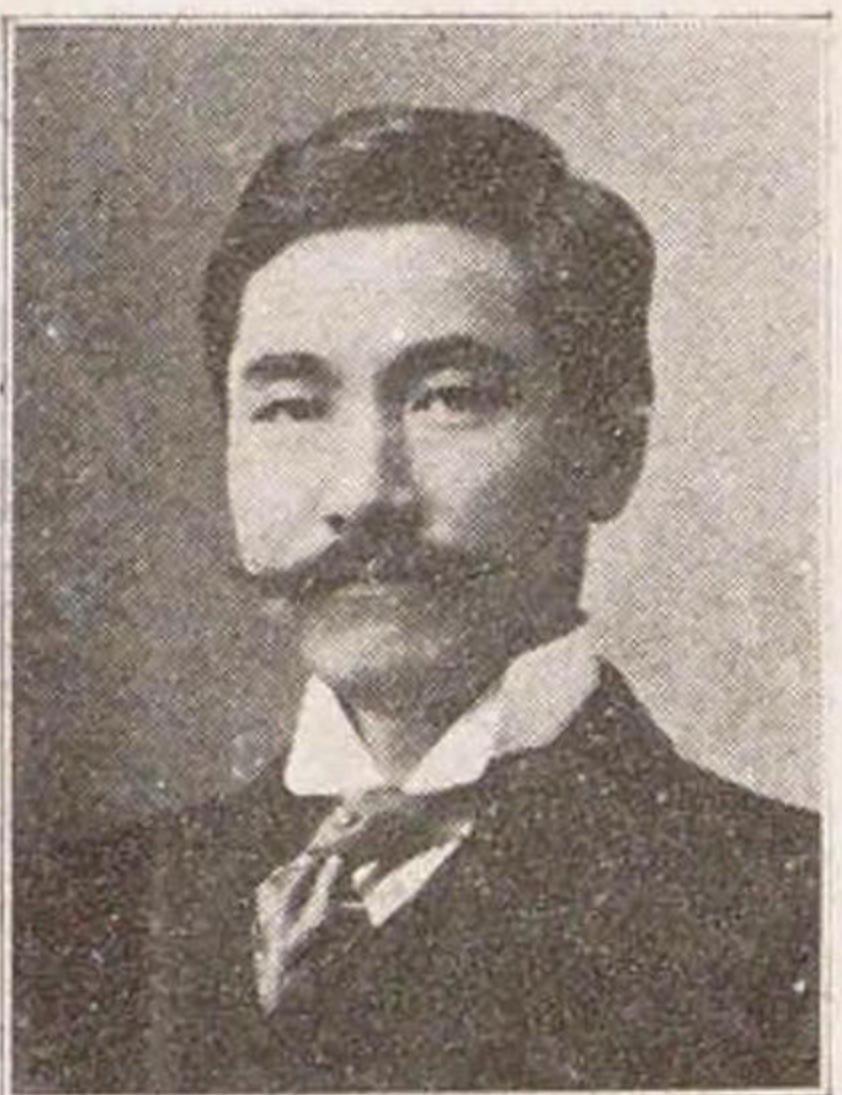
京都府郡部選出、立憲政友會所屬
士族、勳四等、辯護士



文久元年六月生ル、京都府師範學校卒業、後法律ヲ學フ○小學校訓導ニ任セラル、又京都府會議員ニ舉ケラル、日本大博覽會評議員、生産調査會委員、議院建築準備委員會委員、廣軌鐵道改築準備委員會委員、衆議院議員選舉法改正調査會委員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト六回

岡田 泰藏

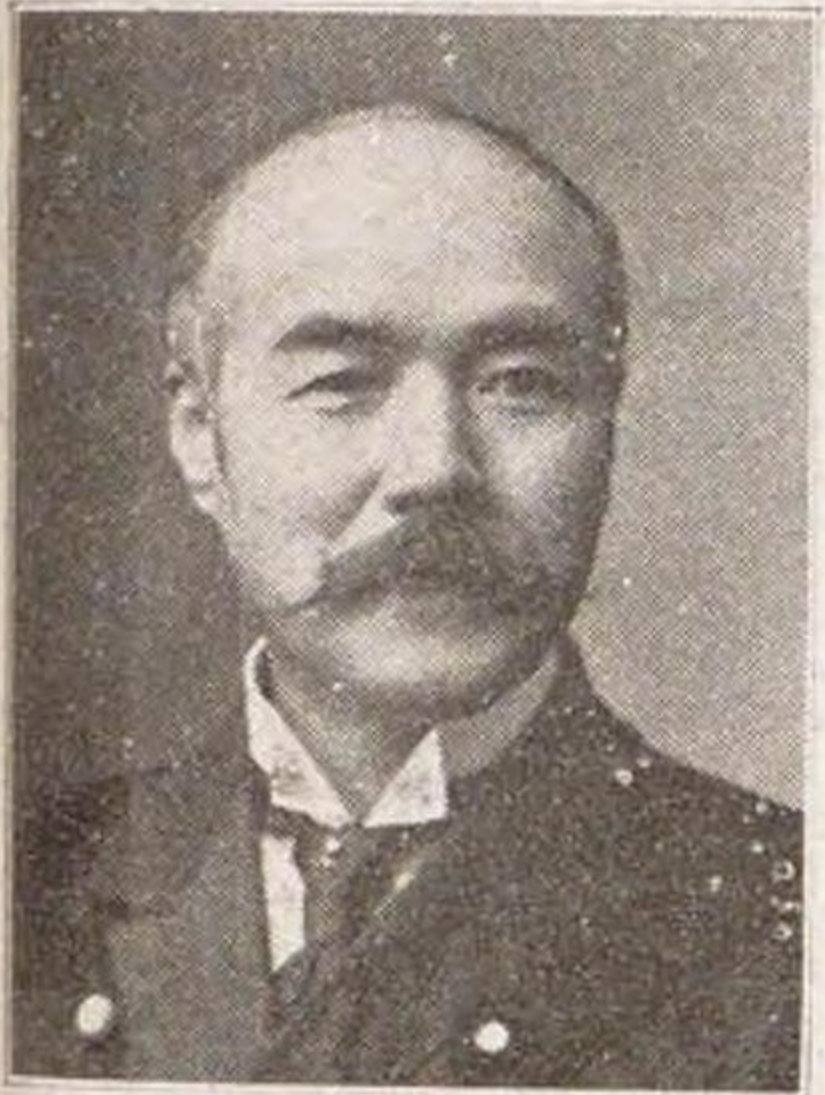
京都府郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳六等、辯護士



明治元年十月、丹後國竹野郡上宇川村ニ生ル、英吉利法律學校卒業、後北米ニ留學シ「エール」大學ニ入り「バチラーオブ、ローズ」ノ學位ヲアメリカ、「キヤソリック」大學ニ入り「ドクトル、オブ、シビルロー」ノ稱號ヲ受ク○神戸市助役、神戸地方裁判所所屬辯護士會副會長ニ舉ケラル、東洋及歐洲ニ漫遊ス、衆議院議員ニ當選スルコト二回

大西五一郎

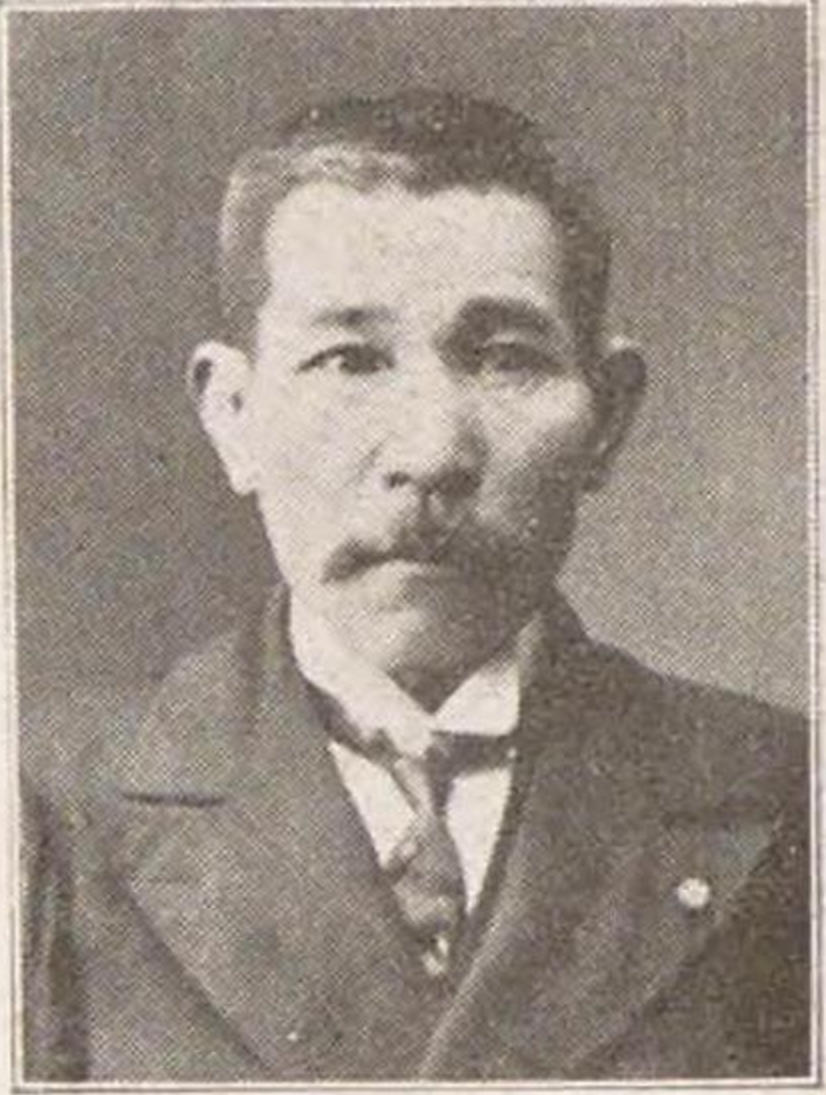
大阪府堺市選出
平民、勳六等、銀行員



安政五年八月和泉國堺市ニ生ル、漢學ヲ修ム○堺市長ニ選ハル、又市會議員、堺商業會議所副會頭ニ舉ケラル、現ニ大西銀行頭取、大阪電機製造株式會社取締役、大阪電氣信託株式會社取締役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

大森與三次

兵庫縣姫路市選出、立憲國民黨所屬
平民會社員



安政六年一月播磨國飾磨郡花田村ニ生ル○市會議員、同議長、兵庫縣會議員ニ舉ケラル、現ニ姫路米穀取引所理事長タリ

大竹貫一

新潟縣郡部選出
平民、勳四等、農

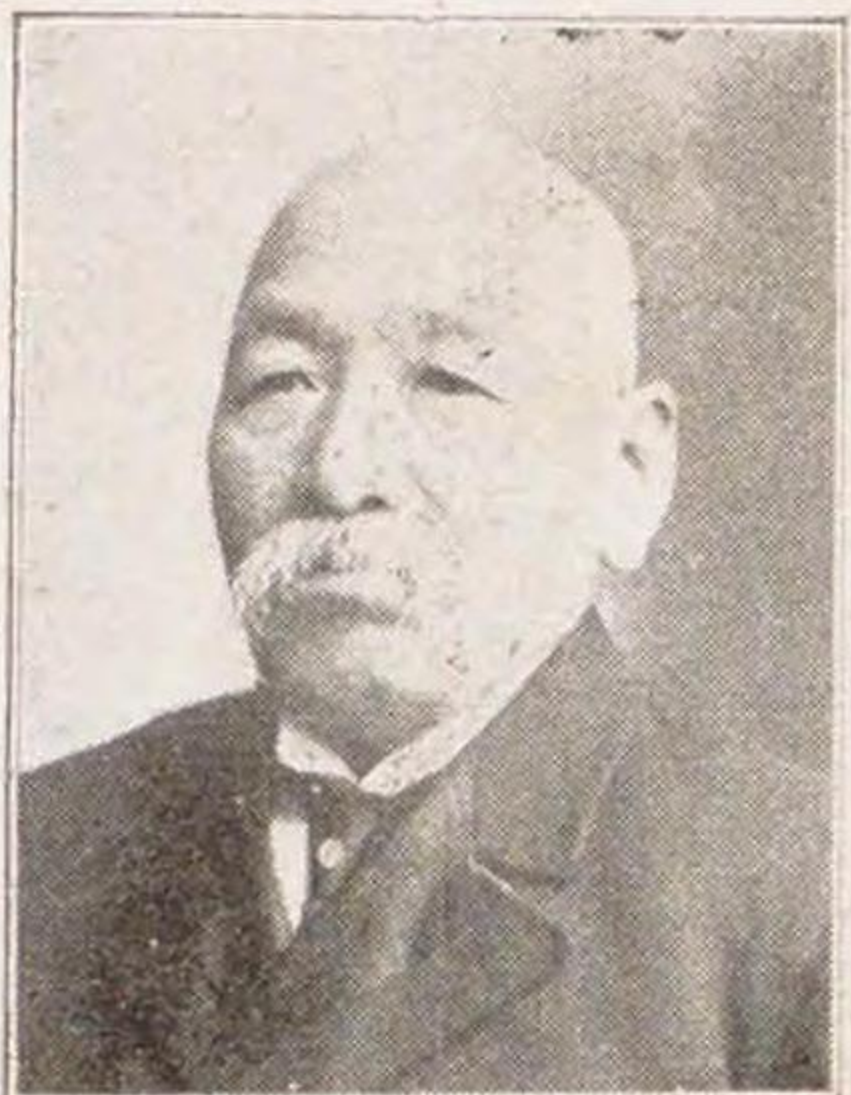


萬延元年三月生ル○新潟縣會議員、同常置委員ニ舉ケラル、議院建築準備委員會委員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト八回

大島 寛爾

埼玉縣選出、立憲政友會所屬
平民辯護士

二百九十



嘉永六年十二月肥前國南高來郡堂崎村ニ生ル、和漢學及法律學ヲ
學フ○埼玉縣會議員、同縣會議長ニ舉ケラル、又埼玉電燈株式會
社社長、浦和商業銀行頭取ニ選ハル

小山田 信藏

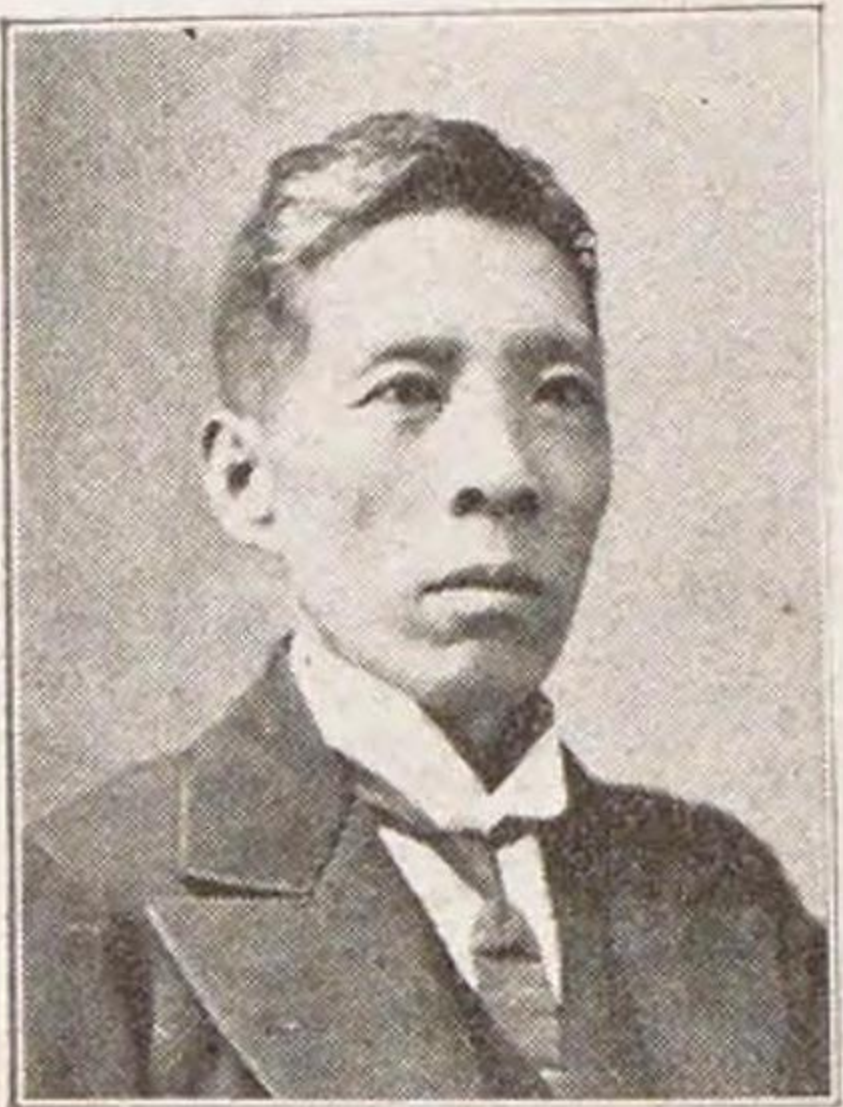
茨城縣水戸市選出、立憲政友會所屬
士族勳四等



明治三年十月生ル ○太田鐵道株式會社、豆相鐵道株式會社、隅田
川倉庫株式會社各社長、水戸商業銀行頭取、北海道炭礦株式會社
監査役ニ選ハル、衆議院議員ニ當選スルコト三回

太田 直次

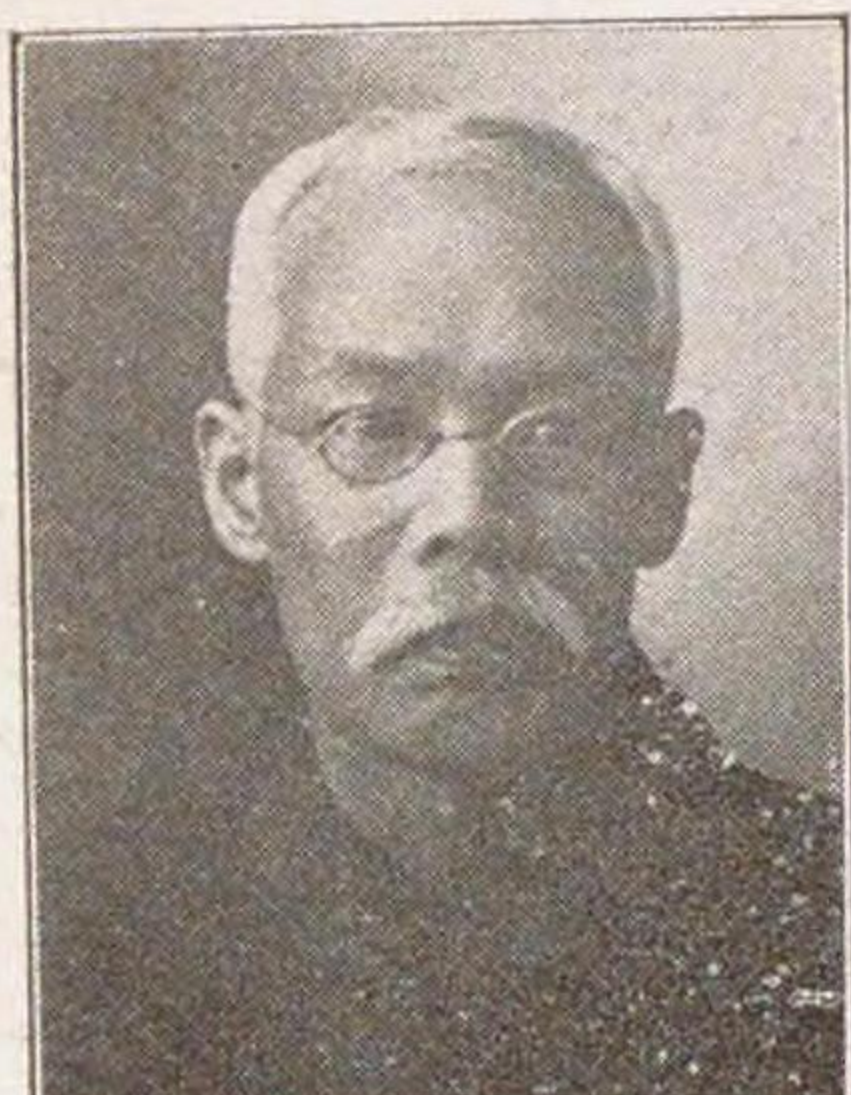
茨城縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民會社員



元治元年七月常陸國眞壁郡養蠶村ニ生ル、英吉利法律學校卒業○
東京市會議員、同市參事會員、東京府會議員ニ舉ケラル、現ニ神田
商業銀行事務取締役タリ

奥山 寛平

奈良縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民勳七等會社員



明治三年十一月大和國磯城郡三輪町ニ生ル、漢學英學ヲ修ム○三
輪村長ニ舉ケラル、又帝國水産株式會社支配人ト爲ル、現ニ大和
索道株式會社取締役タリ

第二編 議員履歷(をノ部)

二百九十一

尾崎行雄

三重縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族正三位、勳四等

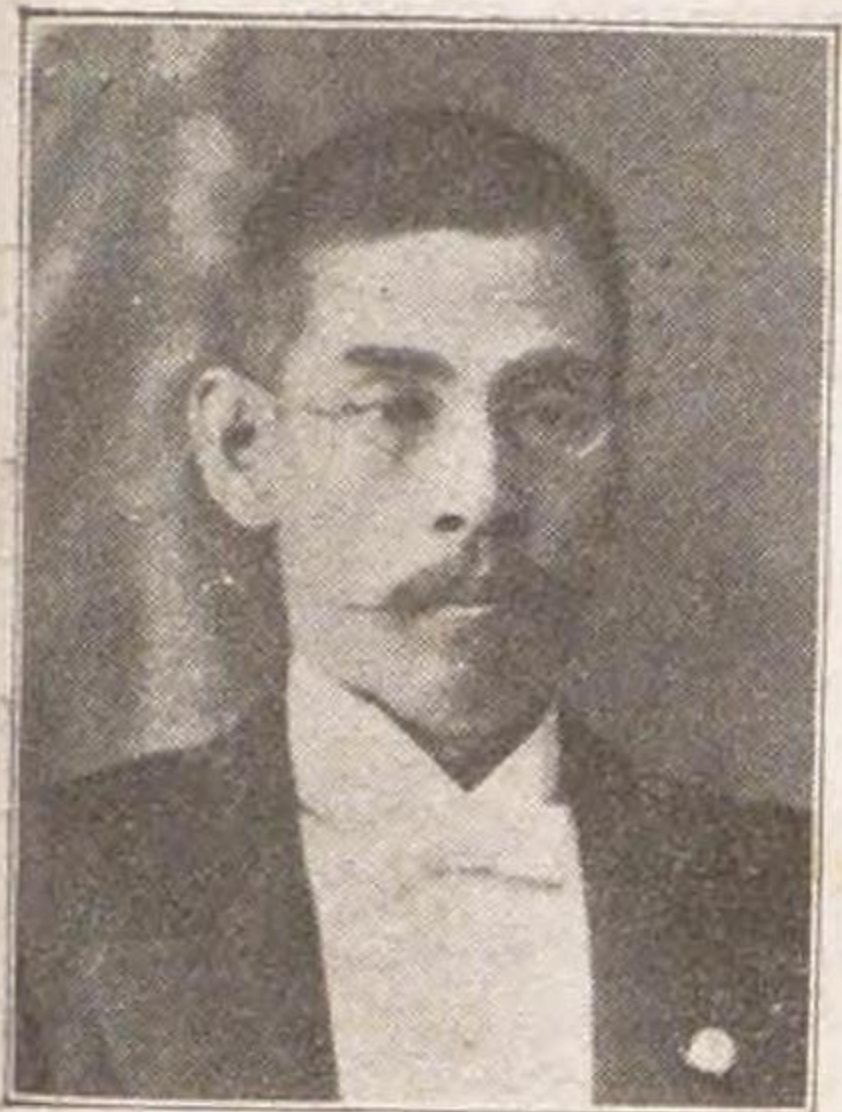
二百九十二



安政三年十一月生ル、慶應義塾ニ學フ、著書多シ○統計權少書記
官、外務省參事官、文部大臣ニ歴任ス、東京市長ニ擧ケラル、又峽中
新報、報知新聞、朝野新聞記者、新潟新聞主筆ト爲ル、歐米ニ漫遊
ス、又列國議會同盟會議ニ參列ス、衆議院議員ニ當選スルコト十
一回

岡八

三重縣郡部選出
平民從七位、法學士、辯護士



明治九年八月伊勢國安濃郡神戸村ニ生ル、京都帝國大學法科大學
卒業○判事ニ任セラル

大日喜六

愛知縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民勳七等、會社長、藥劑師



明治三年三河國豐橋市ニ生ル、東京藥學校及東京帝國大學醫科大
學藥學科選科ニ學ヒ藥劑師ト爲ル○郡會議員、愛知縣會議員ニ擧
ケラル、又豐橋市長ト爲ル、現ニ銀行及會社ノ重役ニ選ハル、兼テ
製藥業ヲ營ム

尾崎元次郎

靜岡縣靜岡市選出
平民正七位、勳五等、茶業



明治三年九月駿河國靜岡市ニ生ル、靜岡縣尋常中學卒業○陸軍歩
兵少尉ヨリ大尉ニ歴任シ明治二十七八年及同三十七八年ノ戰役
ニ從軍ス、現ニ清水製茶合資會社代表社員、靜岡銀行監查役タリ、
兼テ茶業ヲ營ム

岡崎久次郎

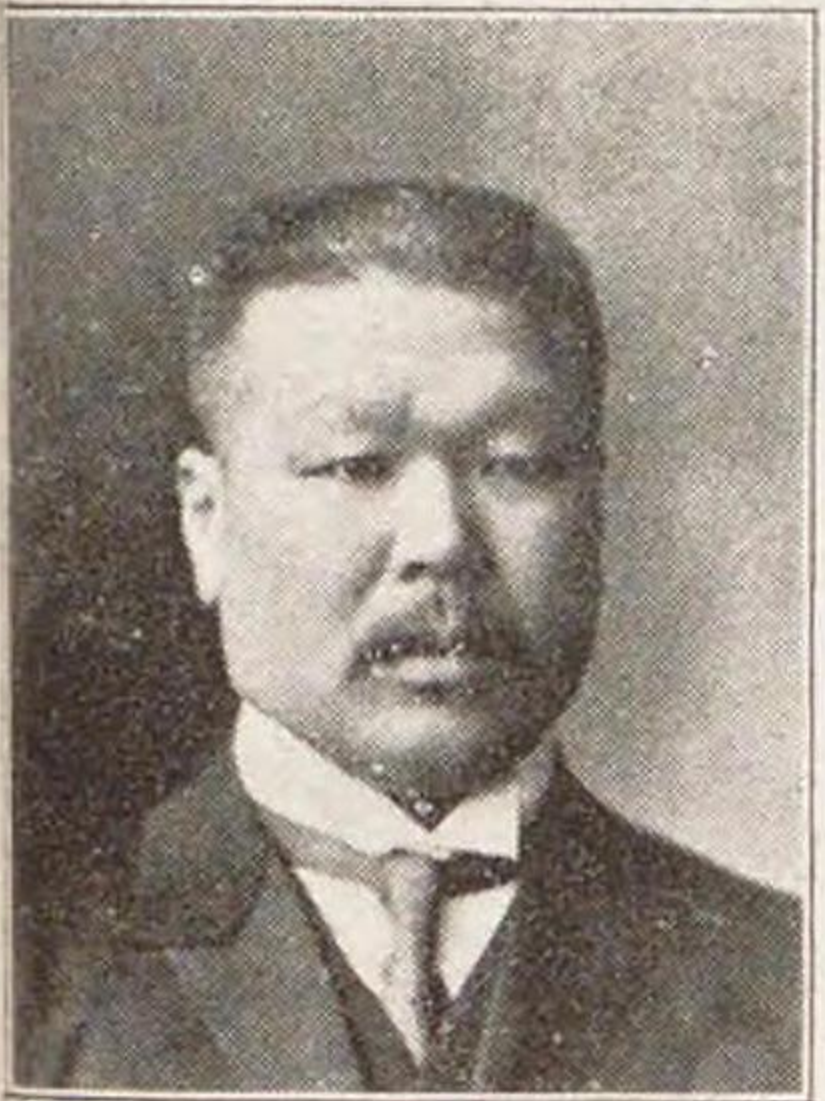
岐阜縣郡部選出
平民、商



明治七年一月武藏國橫濱市ニ生ル、東京高等商業學校卒業○東京
商業會議所議員ニ舉ケラル、歐米ニ漫遊ス、現ニ日米商店ヲ經營
シテ貿易業ニ従事ス、又南日本製糖株式會社及帝國火災保險株式
會社ノ監査役タリ

大野龜三郎

岐阜縣郡部選出、中央俱樂部所屬
平民、勳四等、農



文久元年八月生ル○岐阜縣會議員ニ舉ケラル、又株式會社興業銀
行取締役、岐阜移民合資會社重役ニ選ハル、現ニ株式會社蘇東銀
行、北海道馬匹獎勵株式會社、釜山埋築株式會社各監査役タリ、日
本興業銀行設立委員、生産調査會委員被仰付、衆議院議員ニ當選
スルコト九回

岡部次郎

長野縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、正七位、勳六等、會社員



元治元年二月信濃國北佐久郡春日村ニ生ル、同人社ニ學ヒ後渡米
「カルホルニヤ」大學卒業、「シカゴ」大學ニ於テ「エム、エ」ノ學位ヲ
受ク、又倫敦經濟學校、獨逸「ハイデルベルヒ」大學、佛國「巴里」大學
ニ學ブ○布哇王國政府ニ聘セラレテ同共和政府ノ顧問ト爲ル、
外務省翻譯官ニ任セララル、又北海タイムズ主筆ト爲ル、日露戰役
ニ從軍シテ外國通信員監督ヲ命セラレ後營口軍政署外交課長、軍
政殘務委員ト爲リ、現ニ營口居留民團長、同行政委員會議長タリ、
又日清合辦株式會社正隆銀行取締役、同營口水道電氣株式會社監
査役、滿洲新報社長ニ舉ケラル

大橋松二郎

福井縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



明治元年四月越前國吉田郡圓山西村ニ生ル、漢學政治經濟學ヲ修
ム○福井縣會議員、同參事會會員、同縣會議長ニ舉ケラル、若越新聞
ヲ發刊ス

奥田柳藏

鳥取縣郡部選出、中央俱樂部所屬
平民農



二百九十六

明治元年十一月、因幡國氣高郡大和村ニ生ル○郡會議員、鳥取縣
會議員、因伯米輸出同業組合議員ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選
スルコト二回

小川藏次郎

島根縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、漁業



慶應元年八月出雲國八束郡野波村ニ生ル、漢學ヲ修ム○野波村長
ト爲ル、又郡會議員、島根縣會議員、同參事會員、水産同業組合頭取
ニ舉ケラル、現ニ八束郡外海水産組合長タリ

小河源一

山口縣郡部選出、中央俱樂部所屬
平民、勤四等、辯護士



安政六年六月大分縣宇佐郡長洲町ニ生ル、法律學ヲ修ム○山口辯
護士會會長ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選スルコト五回

岡崎邦輔

和歌山縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、正五位、會社員



安政元年三月紀伊國和歌山市ニ生ル、米國「ミシガン」州「アナ
バー」及「ワシントン」府ニ留學ス○遞信省官房長ニ任セラル、又生
産調査會委員被仰付、現ニ古河鑛業會社理事、京阪電氣鐵道株式
會社取締役タリ、清韓ニ漫遊ス、衆議院議員ニ當選スルコト五回

第二編 議員履歷(をノ部)

二百九十七

大久保弁太郎

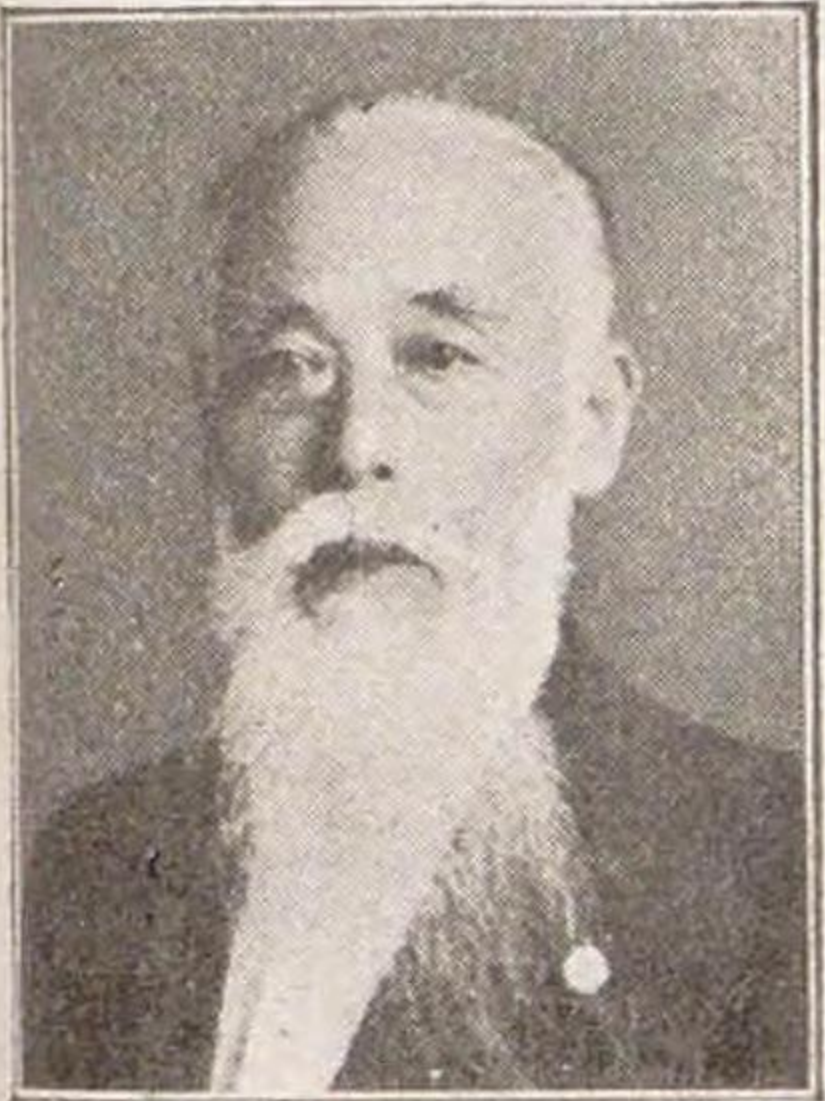
德島縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、勳四等、農



小田知周

香川縣高松市選出
士族、勳六等

嘉永五年五月、阿波國美馬郡半田村ニ生ル、漢學ヲ修ム○戶長、縣御用掛ニ任セラル、後村會議員、郡會議員、德島縣會議員、同參事會員ニ擧ケラル、又農工銀行取締役ニ選ハル、漆業ノ改良發達ニ努メ綠綬褒賞ヲ賜ハル、衆議院議員ニ當選スルコト五回



大石正己

高知縣郡部選出、立憲國民黨所屬
士族、正三位、勳四等

嘉永四年八月讚岐國香川郡宮脇村ニ生ル、舊高松藩弘道館ニ學フ○市會議員、愛媛縣會議員、香川縣會議員、高松商業會議所會頭ニ擧ケラル、又高松市長ト爲ル、現ニ株式會社高松商業銀行取締役、高松電氣軌道株式會社社長ニ選ハル、又香川新報社社長タリ



岡田榮

高知縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、從七位、辯護士

安政二年四月生ル○辨理公使ニ任シ朝鮮駐劄ヲ命セラル、後農商務次官、農商務大臣ニ歷任ス、又雜誌政論ヲ發刊シ主筆ト爲ル、衆議院議員ニ當選スルコト六回



明治六年一月土佐國高岡郡松葉川村ニ生ル、東京法學院卒業○判事、關東都督府法院判官ニ任セララル

大内暢三

福岡縣郡部選出、立憲國民黨所屬
士族、農



明治七年三月筑後國八女郡白木村ニ生ル、東京專門學校及米國「コロンビヤ」大學ニ於テ政治學及憲法學ヲ專攻ス。○近衛公爵ニ隨テ歐米ニ漫遊ス、現ニ朝鮮ニ於テ農業及殖民事業ヲ經營ス、衆議院議員ニ當選スルコト二回

大原義剛

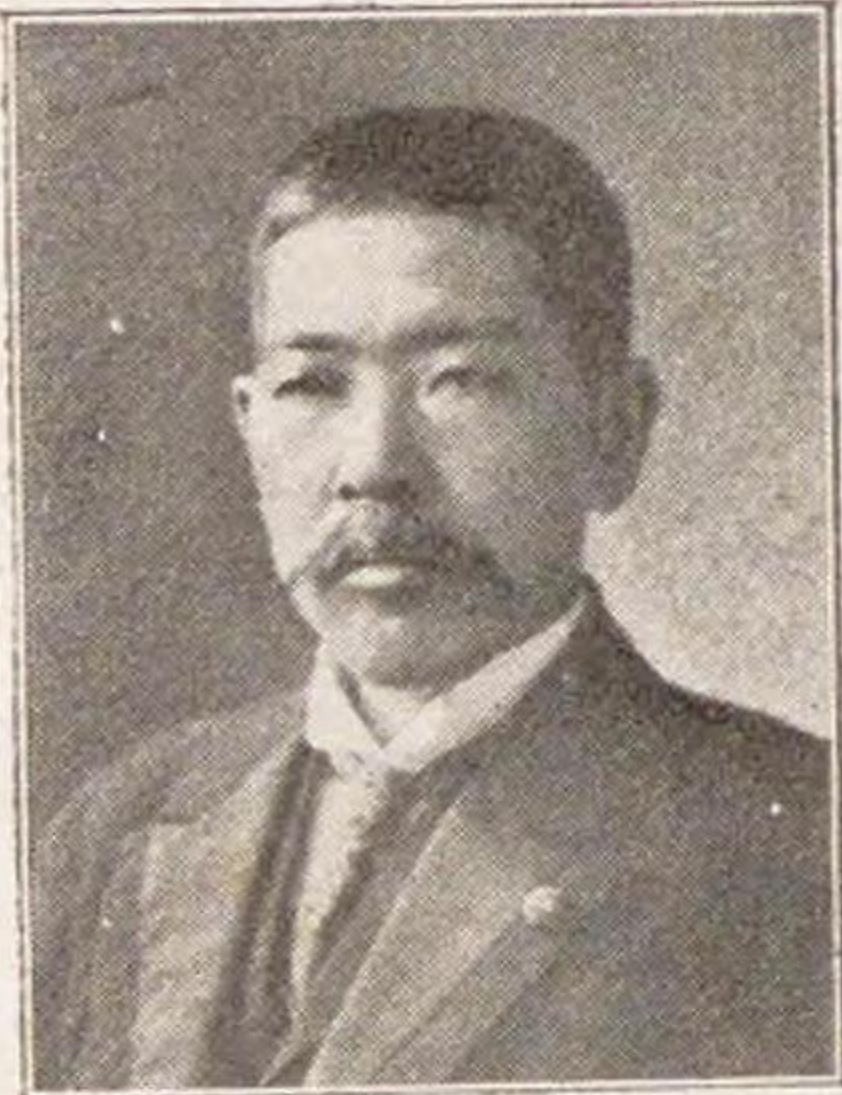
福岡縣郡部選出、立憲國民黨所屬
士族、新聞記者



慶應元年四月筑前國筑紫郡警固村ニ生ル、慶應義塾卒業。○衆議院議員ニ當選スルコト二回

奥田榮之進

鹿兒島縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、農



元治元年二月薩摩國日置郡串木野村ニ生ル。○鹿兒島縣會議員、同參事會員、同副議長、同議長ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

若尾幾造

神奈川縣橫濱市選出、立憲政友會所屬
平民、勳五等商



安政四年十二月甲斐國中巨摩郡在家塚村ニ生ル。○貴族院議員ニ任セララル、又橫濱市參事會員ニ舉ケラレ、瓦斯局長タリ、生絲検査所商議員、東洋拓殖會社設立委員被仰付、現ニ橫濱蠶絲外四品取引所理事長、橫濱若尾銀行頭取、橫濱火災海上運送信用保險株式會社取締役、橫濱電氣株式會社取締役其他數會社ノ重役タリ

若杉喜三郎

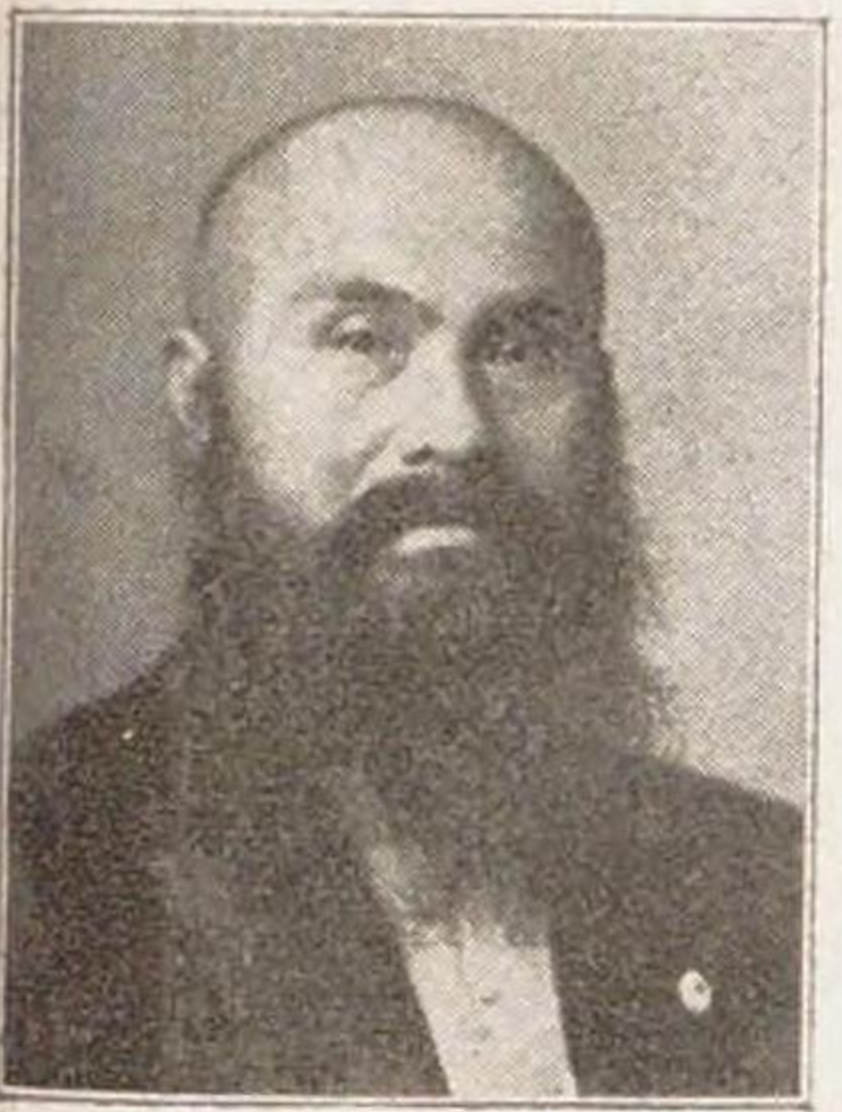
新潟縣新潟市選出、立憲政友會所屬
平民醫學士、醫師



元治元年三月越後國西蒲原郡内野村ニ生ル、醫科大學卒業、後獨逸ニ留學ス○市會議員、同議長、地方衛生會委員ニ舉ケラル、又新潟衛生會會頭、北越醫學會會員ニ選ハル、歐洲ニ漫遊ス、又若杉病院ヲ經營ス

渡邊祐策

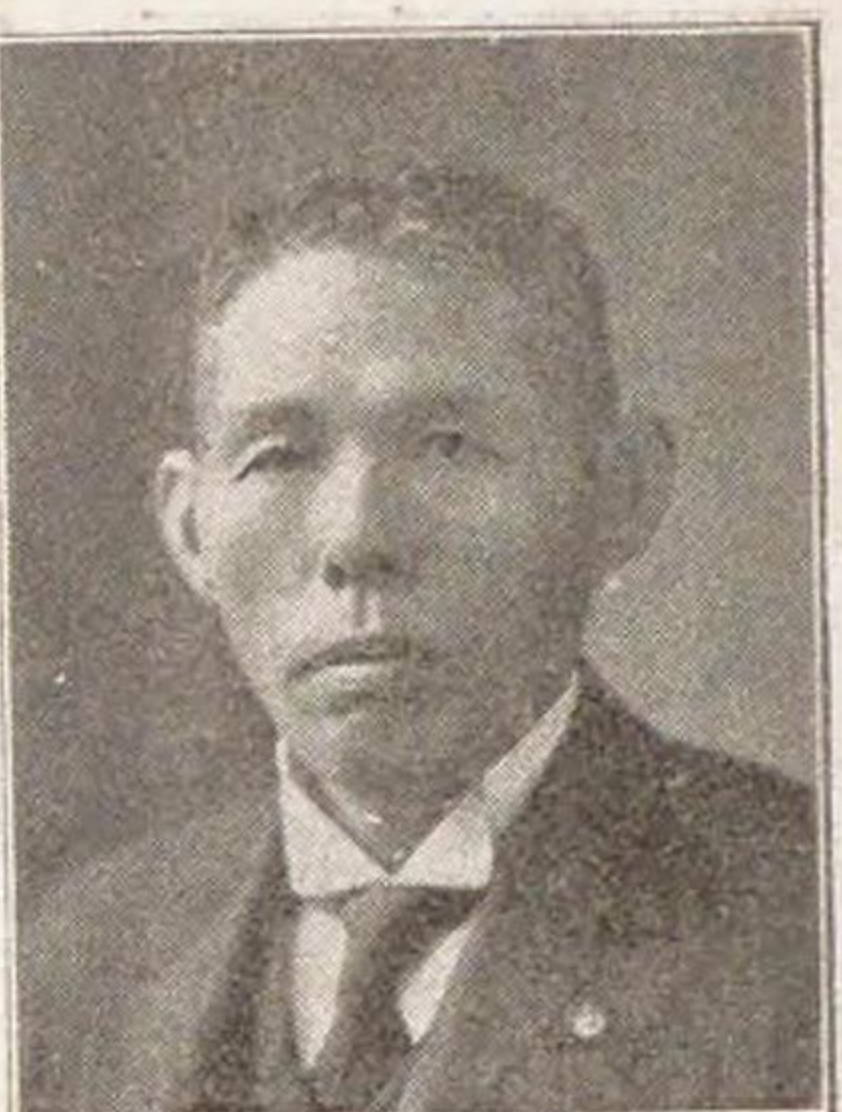
山口縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族鑛業



元治元年六月長門國厚狹郡宇部村ニ生ル、漢學ヲ修ム○村會議員、宇部村助役ニ舉ケラル、現ニ宇部電氣株式會社取締役社長、宇部輕便鐵道株式會社取締役タリ

渡邊修

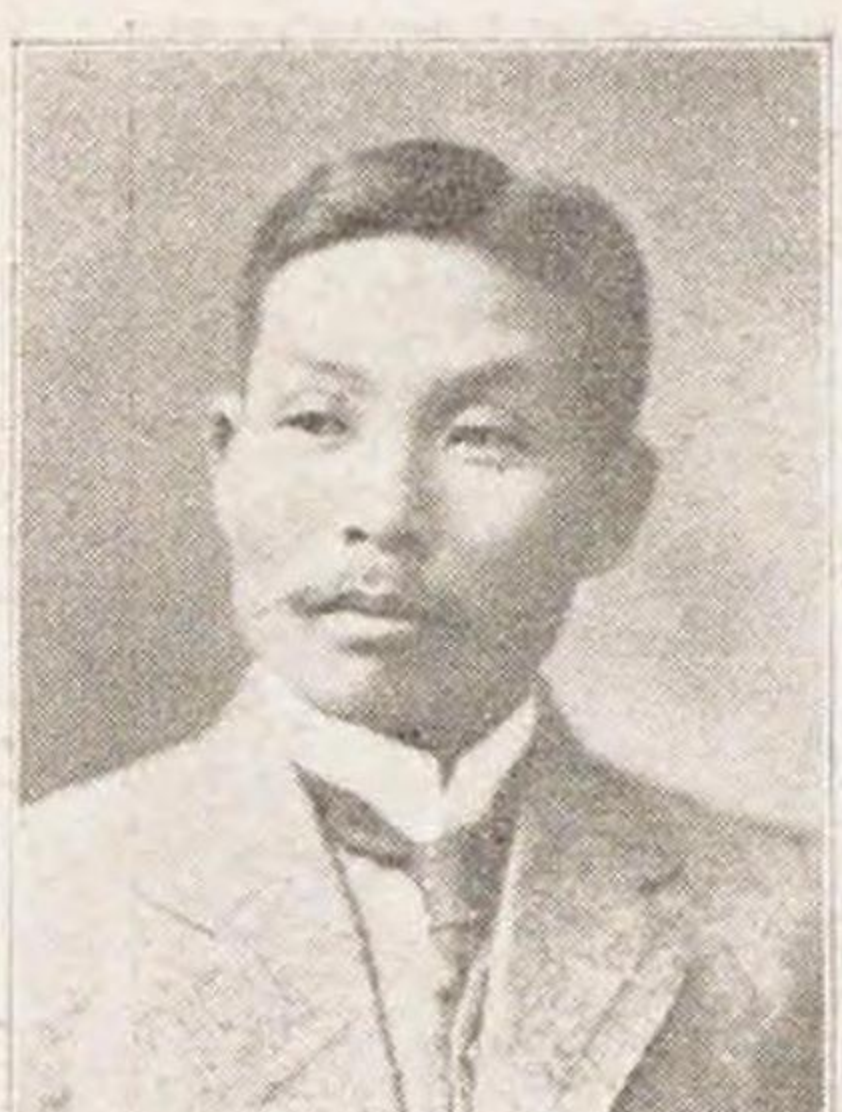
愛媛縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民正六位勳四等會社員



安政六年十二月伊豫國北宇和郡泉村ニ生ル、慶應義塾卒業○外務省參事官、特許局審判官、遞信書記官、同參事官、縣書記官ニ歷任ス、又佐世保市長ニ舉ケラル、現ニ大阪電球株式會社社長、松山電氣軌道株式會社社長、宇和水電株式會社社長、日本瓦斯株式會社取締役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト五回

渡邊國重

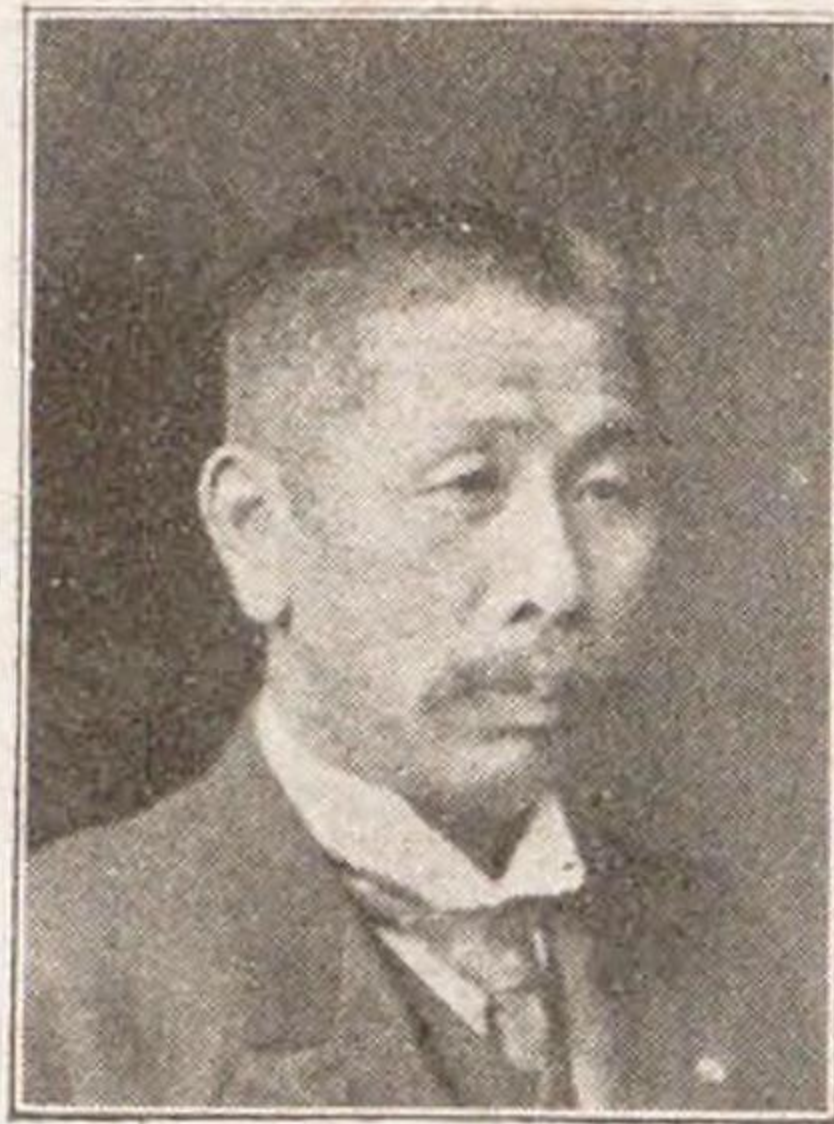
熊本縣郡部選出、中央俱樂部所屬
平民會社員



明治四年八月肥後國天草郡龜場村ニ生ル○鳳山縣屬ニ任セララル、又新竹製腦株式會社取締役、高砂製糖株式會社取締役ニ舉ケラル、現ニ臺灣興業株式會社社長、臺灣肥料株式會社監查役、日本電報通報社取締役タリ、又南洋拓殖公司ヲ設立シ馬來半島ニ於テ護謨ヲ栽培ス

改野 耕三

兵庫縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、正五位、勳四等、農



安政四年三月生ル○戸長、郡書記ト爲ル、後農商務省官房長ニ任
セラル、兵庫縣會議員、同常置委員ニ舉ケラル、又水産調査會委
員、東洋拓殖株式會社設立委員、議院建築準備委員會委員、國勢調
査準備委員會委員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト十回

川合 直次

新潟縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、會社員



明治七年二月越後國中頸城郡直江津町ニ生ル○郡會議員、郡參事
會員、新潟縣會議員ニ舉ケラル、現ニ直江津商業銀行取締役タリ

川上 淳一郎

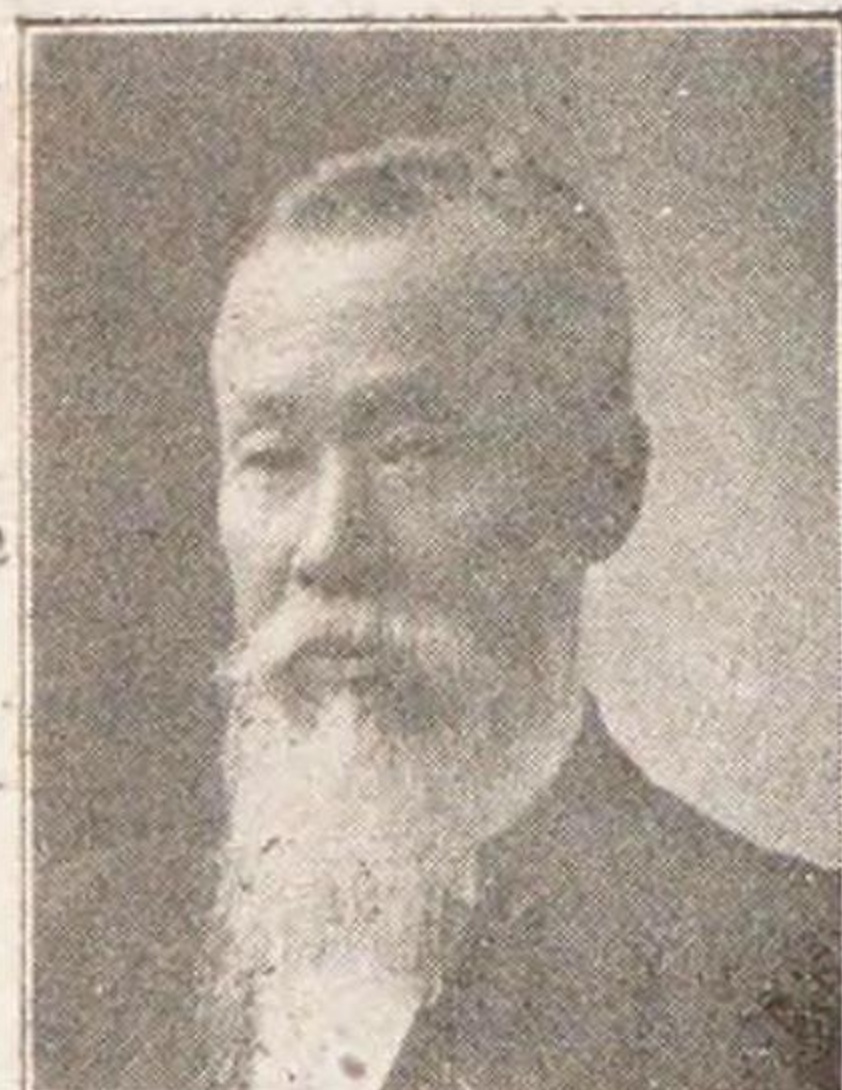
新潟縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、農



慶應元年七月越後國古志郡東谷村ニ生ル、東京專門學校卒業○東
谷村長、村會議員、郡會議員、新潟縣會議員、同參事會員ニ舉ケラ
ル、栃尾銀行取締役、長岡銀行取締役ニ選ハル、又越佐新聞社社長
ト爲ル、現ニ北越新報取締役タリ

加藤 勝彌

新潟縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、造林業



安政元年一月越後國岩船郡八幡村ニ生ル、政治經濟神學ヲ學フ○
新潟縣會議員、縣參事會員ニ舉ケラル、又北越學館ヲ創立シ校長
ト爲ル、基督教會長老タリ、米國ニ漫遊ス、衆議院議員ニ當選スル
コト三回

柏谷義三

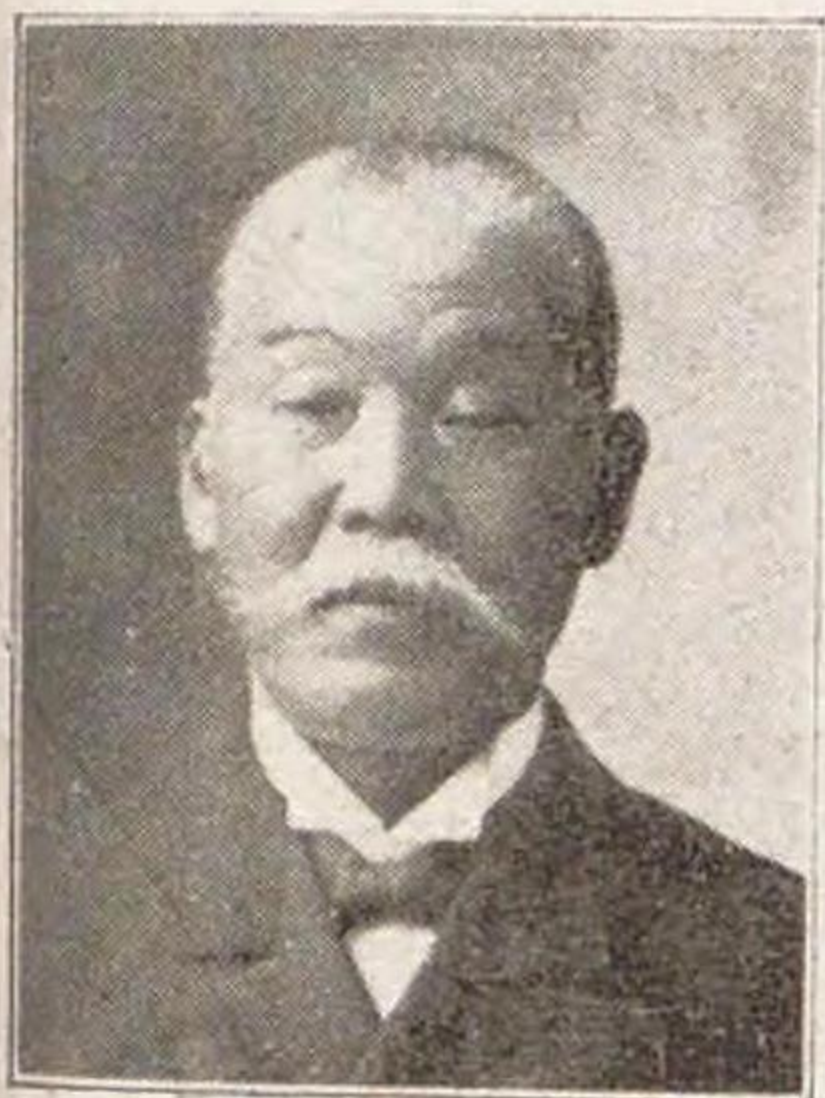
埼玉縣選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、農



慶應二年八月武藏國入間郡藤澤村ニ生ル、「ミシガン」大學ヲ卒業シ「バチラーオブ、ロース」ノ學位ヲ受ク○埼玉縣會議員、同副議長、同參事會員ニ舉ケラル、國勢調査準備委員會委員被仰付、又自由新聞ヲ發刊ス、現ニ株式會社扇町屋銀行頭取、蓬來生命保險相互會社取締役、株式會社黑須銀行監查役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト六回

加藤政之助

埼玉縣選出、立憲國民黨所屬
平民、勳四等、開墾牧畜業



安政元年七月武藏國北足立郡馬室村ニ生ル、慶應義塾ニ學フ○埼玉縣會議員、同議長ニ舉ケラル、北海新聞主筆、大阪新報主幹、報知新聞記者ト爲ル、又日本大博覽會評議員、東洋拓殖株式會社設立委員、臨時治水調査會委員被仰付、現ニ東上鐵道株式會社取締役タリ、歐米ニ漫遊ス、衆議院議員ニ當選スルコト九回

柏原文太郎

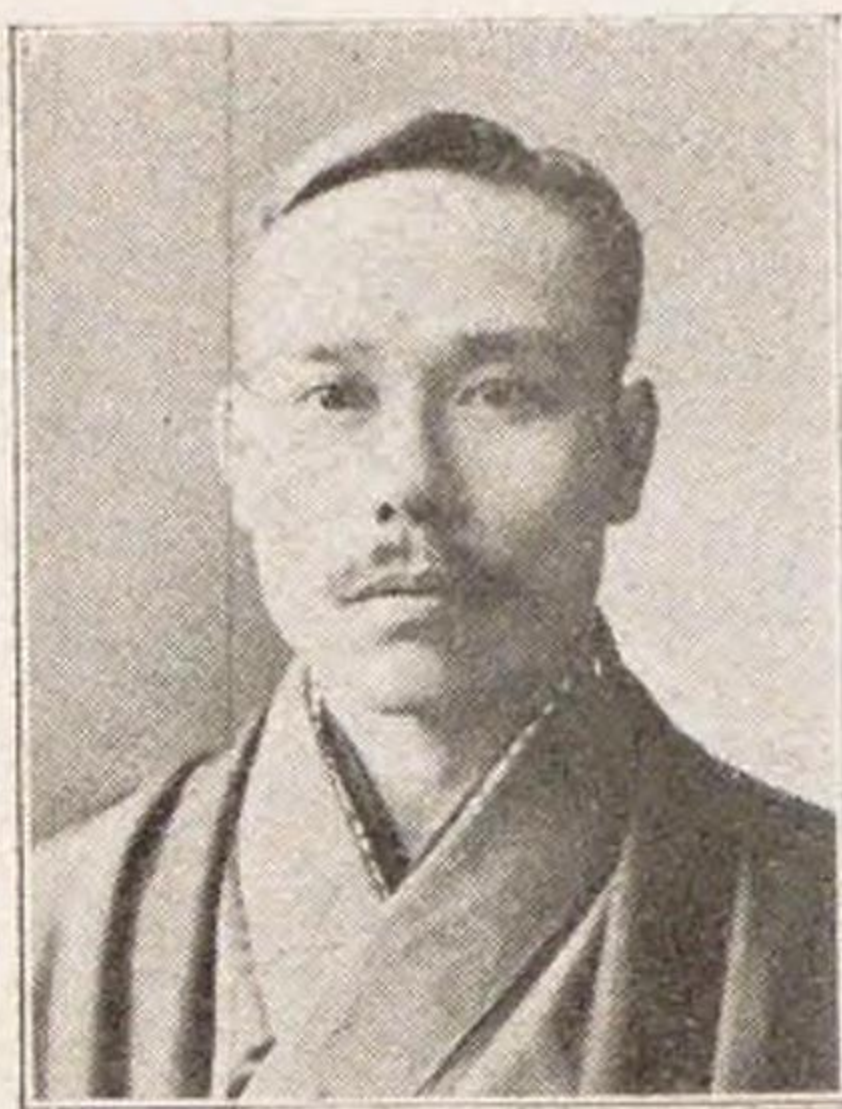
千葉縣選出、立憲國民黨所屬
平民、教育家



明治二年二月下總國印旛郡成田町ニ生ル、同人社及東京專門學校卒業○東亞同文書院ヲ設立シ副院長ト爲リ、目白中學ヲ設立シ次長ト爲ル、又東亞同文會幹事、橫濱華商會議所ノ顧問タリ

加瀬禧逸

千葉縣選出
平民、勳四等、辯護士

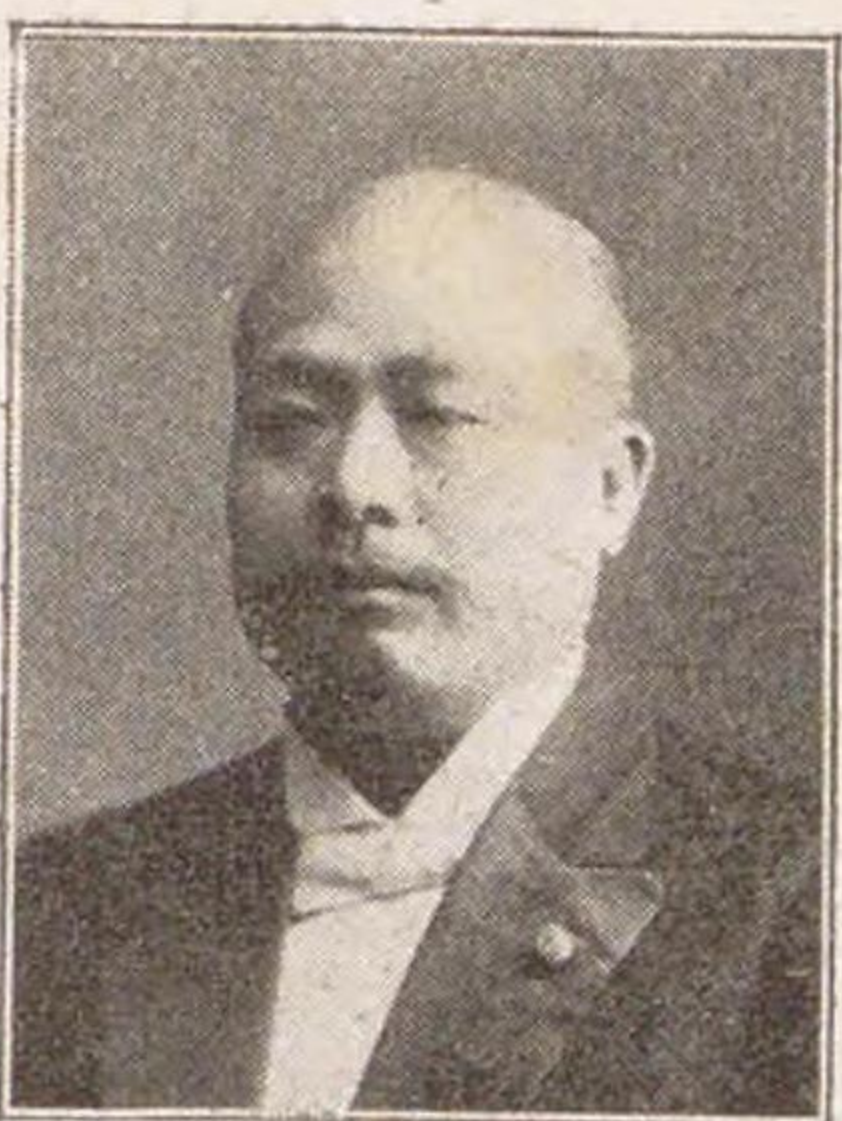


明治六年九月、下總國海上郡旭町ニ生ル、中央大學卒業○明治二十七八年役ニ從軍ス、衆議院議員ニ當選スルコト三回

川村 曄

三重縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民

三百八



文久三年五月伊勢國津市ニ生ル、漢學及獨逸學ヲ學フ○新聞及雜誌記者ト爲ル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

加賀卯之吉

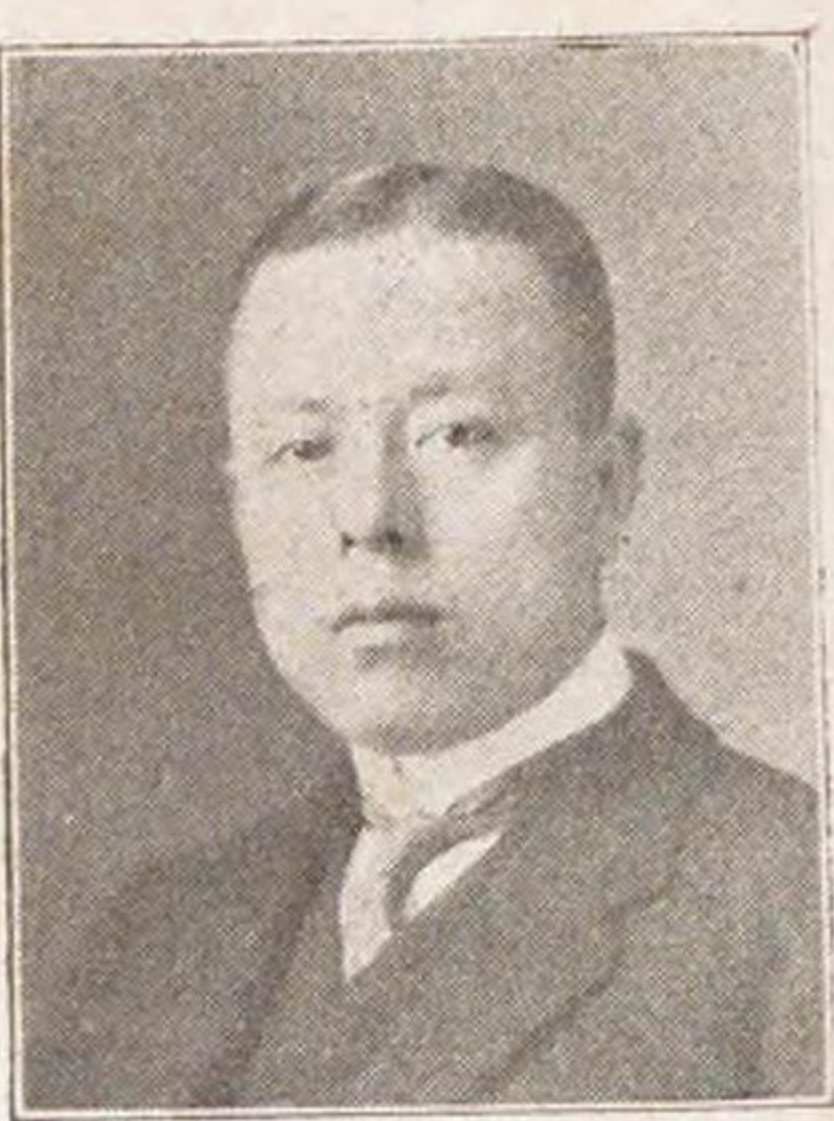
三重縣郡部選出、中央俱樂部所屬
平民



慶應三年六月生ル、英漢學ヲ修ム○伊勢新聞記者ト爲ル、現ニ日本商業新報ヲ經營シ社長タリ

河村 寛裕

愛知縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民會社員



明治七年九月尾張國東春日井郡勝川町ニ生ル、慶應義塾卒業○楊子太平洋航海公司ヲ設立シ支那沿岸航海業ニ従事ス、後三井銀行行員ト爲ル、現ニ内國生命保險株式會社取締役タリ

笠原 忠造

長野縣長野市選出、立憲政友會所屬
平民、法學士、辯護士



明治十一年十月信濃國長野市ニ生ル、東京帝國大學法科大學卒業

第二編 議員履歷(かノ部)

三百九

風間禮助

長野縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、法學士

三百十



明治七年二月信濃國更級郡稻荷山町ニ生ル、東京帝國大學法科大
學政治科卒業○長野新聞主筆ト爲ル、又横濱精糖株式會社副支配
人、明治製糖株式會社川崎工場事務長ト爲ル

河野廣中

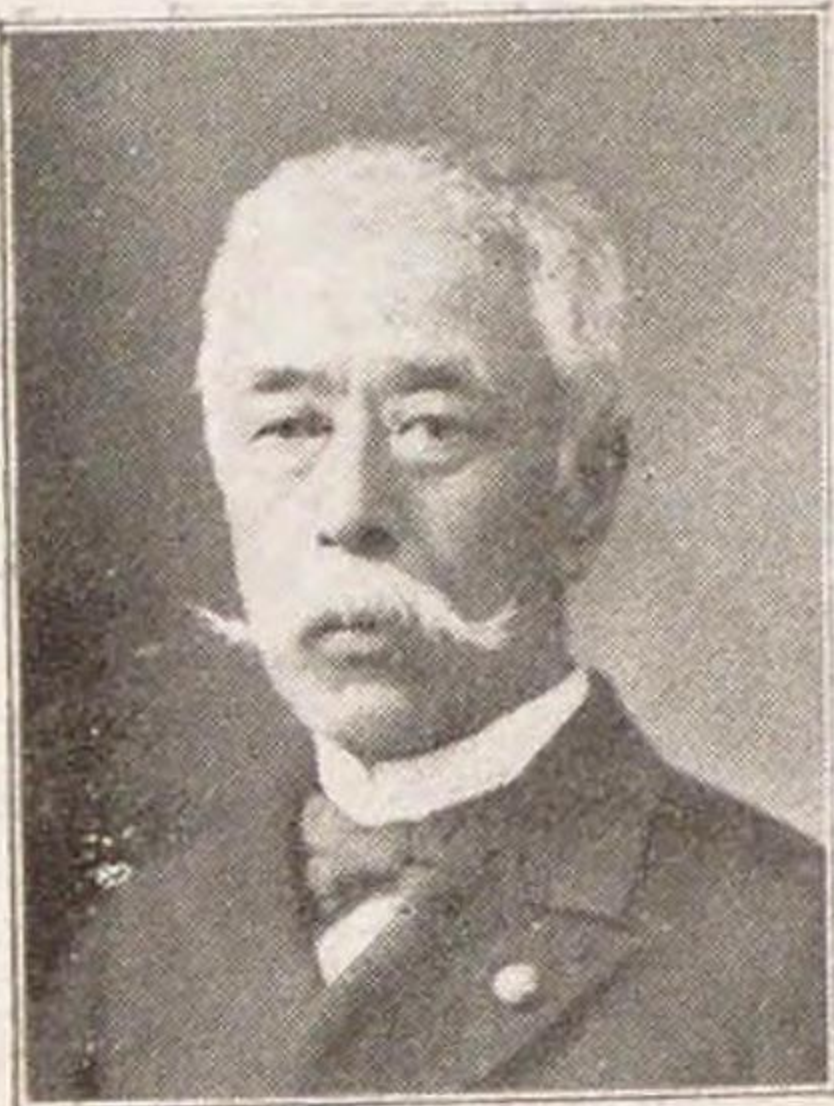
福島縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、勳四等



嘉永二年七月生ル○衆議院議員ニ當選スルコト十一回、曩ニ衆議
院議長タリ

金尾稜嚴

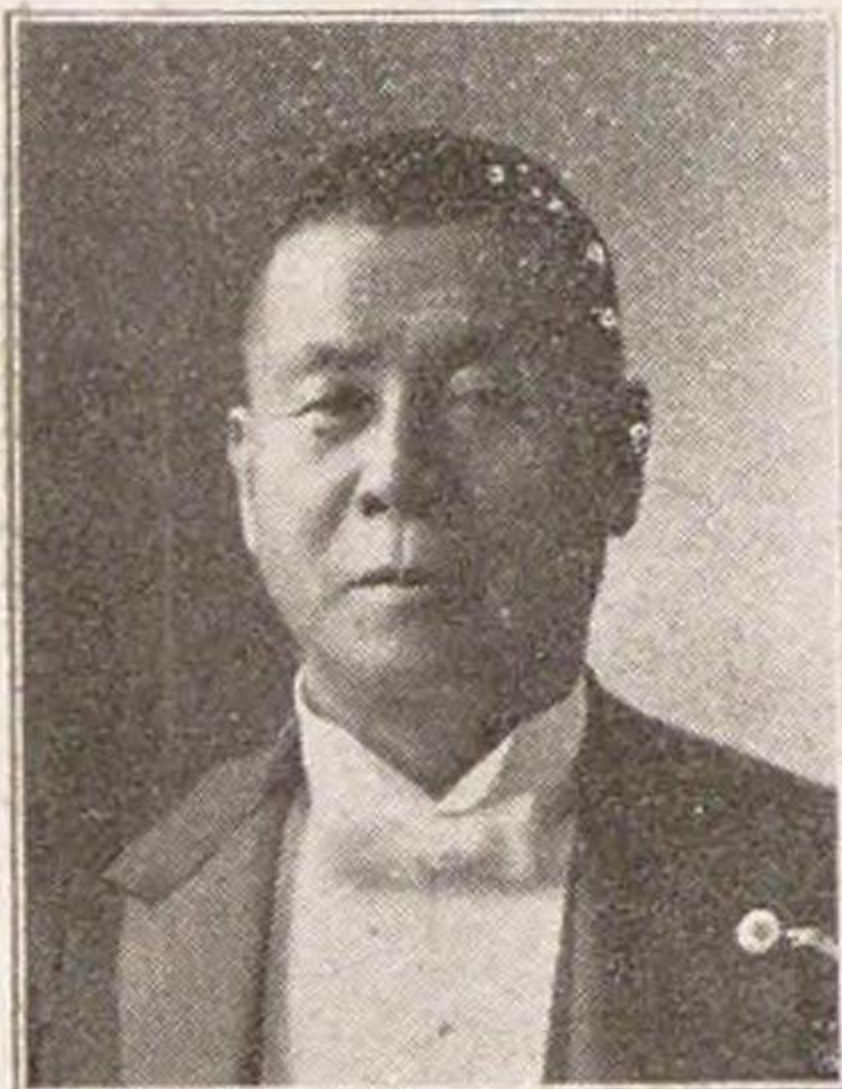
廣島縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民



安政元年六月安藝國安佐郡安村ニ生ル、漢學佛學英學ヲ修ム、後
英國ニ留學ス○富山縣知事、島根縣知事ニ歷任ス、衆議院議員ニ
當選スルコト六回

金子圭介

山口縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、商



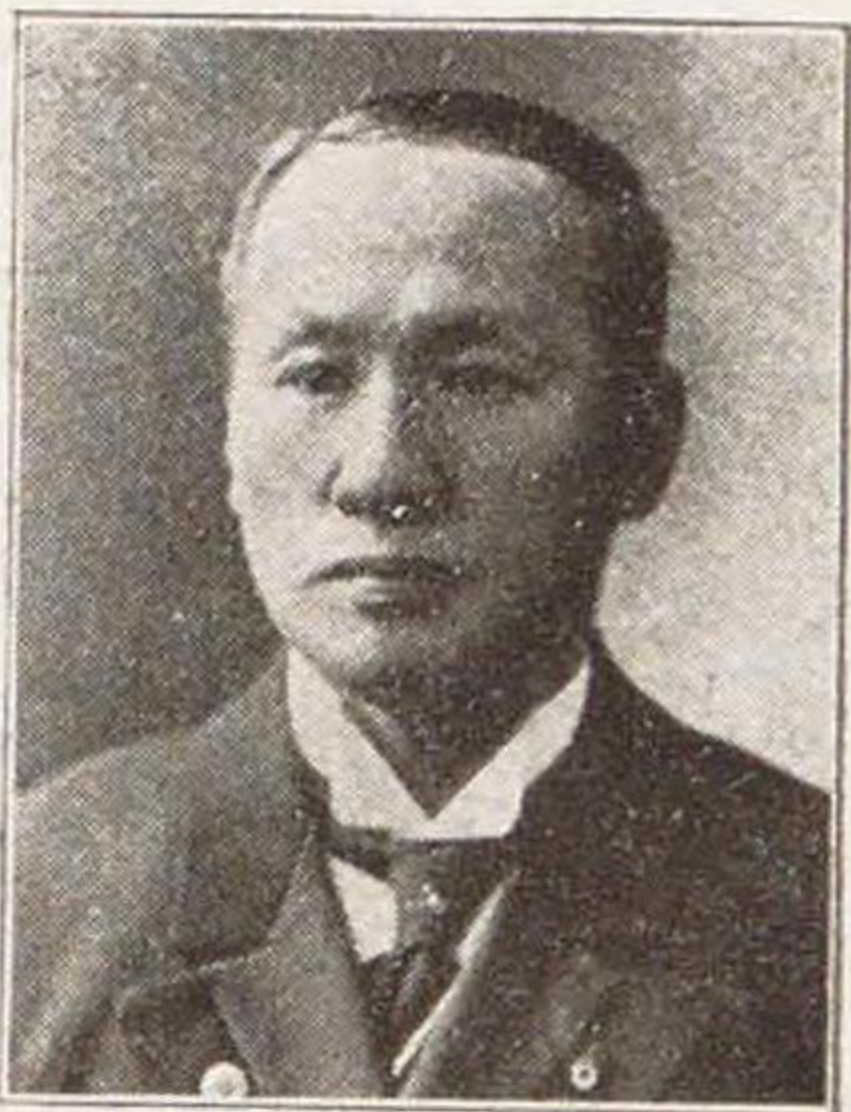
嘉永五年六月長門國阿武郡宇田郷村ニ生ル○大倉組社員ト爲ル、
現ニ北港製糖株式會社、臺灣貯蓄銀行、臺灣商業銀行各取締役、臺
灣毎日新聞社、臺灣建物會社、朝鮮皮革株式會社各監查役タリ、又
造林業、鑛山業ヲ營ミ兼テ朝鮮全羅北道ニ於テ水田ヲ經營ス

第二編 議員履歷(かノ部)

三百十一

川真田德三郎

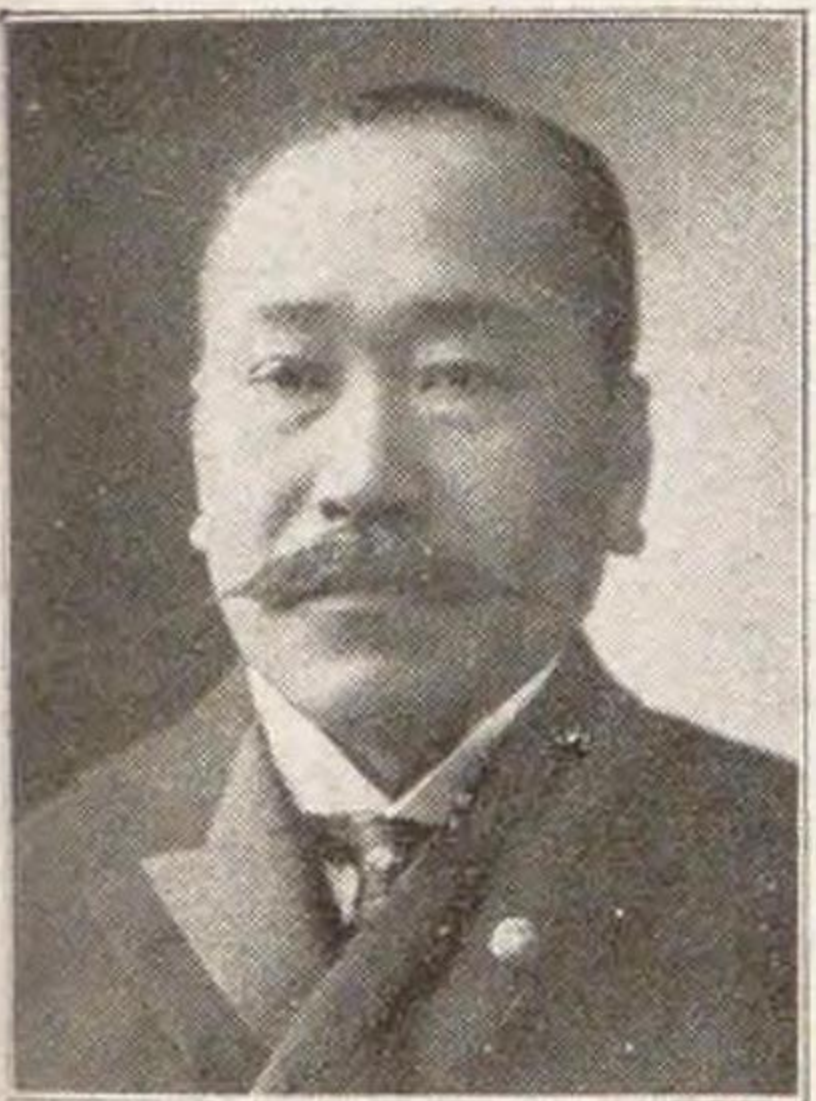
德島縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、商



萬延元年二月阿波國麻植郡鴨島村ニ生ル○村會議員、郡會議員、
德島縣會議員、阿波商業會議所會頭ニ舉ケラル、又阿波國共同汽
船會社取締役、阿波藍株式會社社長、德島鐵道株式會社社長、阿波
藍研究會會頭、阿波藍製造販賣同業組合會議長ト爲ル、日英博覽
會評議員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト八回

片岡直温

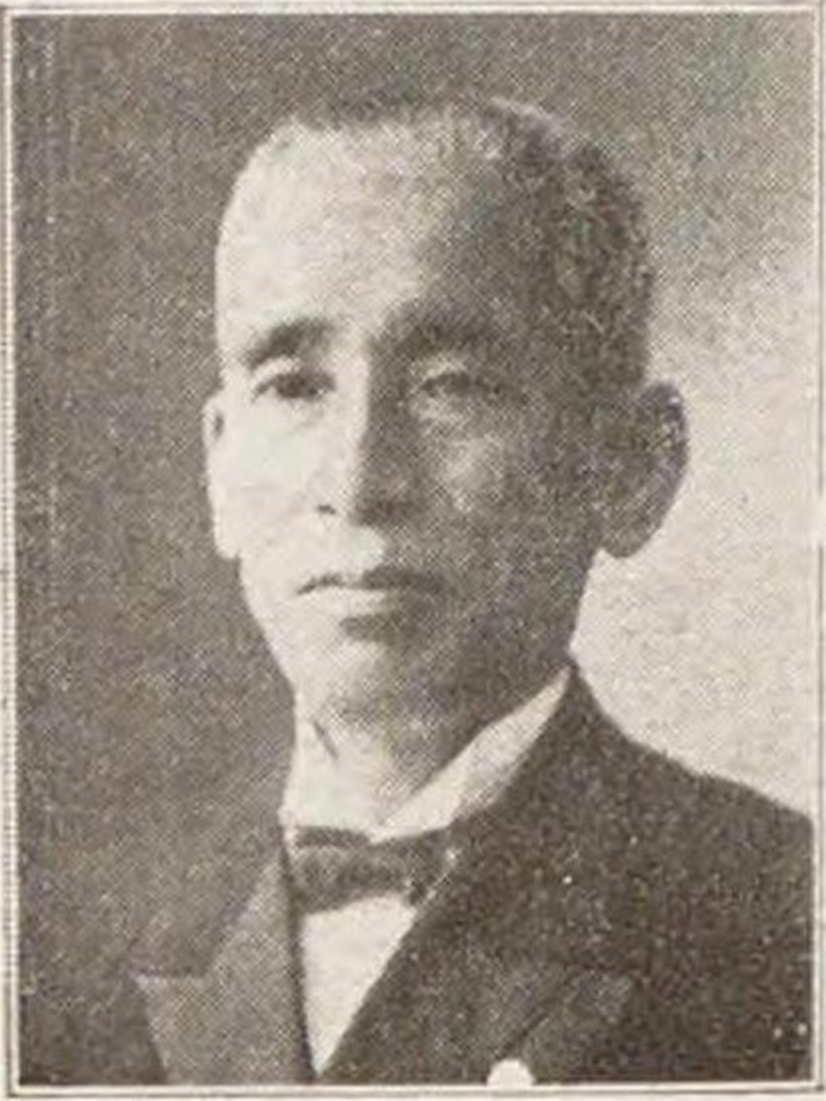
高知縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、從七位、勳五等、會社員



安政六年九月土佐國高岡郡下山村ニ生ル○警部長ニ任セラル、
現ニ日本生命保險株式會社社長タリ兼テ日本海陸保險株式會社
社長其他數會社ノ重役ニ選ハル、生産調査會委員被仰付、歐米各
國ヲ巡遊シテ保險事業ヲ視察ス、又第五回萬國保險學會ニ參列シ
名譽副議長ニ推薦セラル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

加藤新次郎

福岡縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



安政元年三月筑前國朝倉郡三奈木村ニ生ル、漢學武藝ヲ修ム○郡
會議員、同議長、福岡縣會議員、同常置委員、同副議長、同議長ニ舉
ケラル

川原茂輔

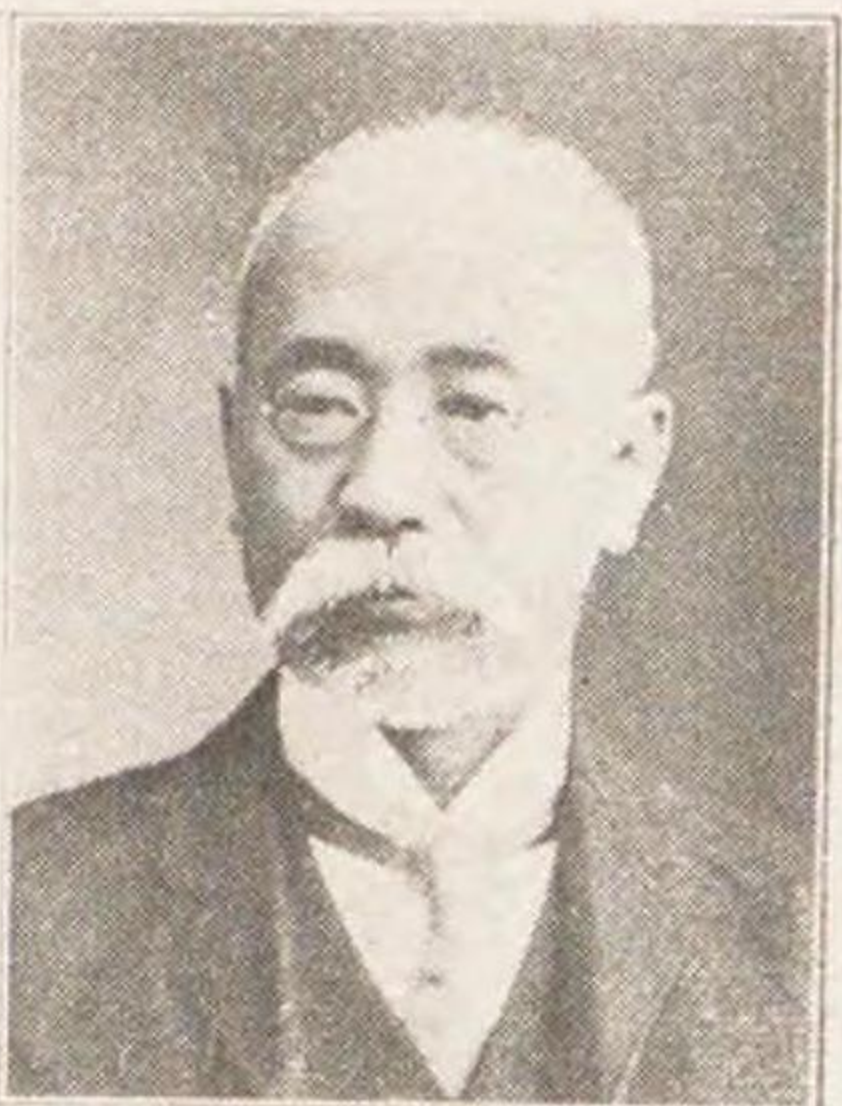
佐賀縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、農



安政六年九月肥前國西松浦郡大川内村ニ生ル、漢學ヲ修ム、又公
證人試験ニ及第ス○郡聯合會議員、佐賀縣會議員、同參事會員同
議長ニ舉ケラル、船越鐵道株式會社取締役、伊萬里鐵道株式會社
監查役ニ選ハル、國勢調査準備委員會委員、廣軌鐵道改築準備委
員會委員被仰付、又佐賀日々新聞社社長タリ、清韓ニ漫遊ス、衆議
院議員ニ當選スルコト六回

狩野雄一

佐賀縣郡部選出、立憲國民黨所屬
士族、新聞記者



文久三年十一月肥前國佐賀郡赤松町ニ生ル。○現ニ西肥日報ヲ經
營シ其社長タリ

横田孝史

兵庫縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、藥劑師



安政三年七月播磨國加西郡賀茂村ニ生ル、姫路師範學校卒業、後
緒方醫塾ニ於テ醫學ヲ修ム。○神戸商法會議所理事、同商業會議
所常議員、同市會議員、同議長、兵庫縣會議員、同參事會員、同副議
長ニ舉ケラル、又神戸瓦斯株式會社、神戸電氣鐵道株式會社ノ重
役タリ

横山寅一郎

長崎縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、勳四等、水産業



萬延元年六月肥前國東彼杵郡大村町ニ生ル、長崎縣中學校卒業、
後大村學館ニテ英漢學ヲ修ム。○警部、大村中學校校主ト爲ル、後
長崎縣會議員、同副議長、長崎市長ニ舉ケラル、現ニ九州瓦斯株式
會社社長、國光生命保險相互會社專務取締役タリ、衆議院議員ニ
當選スルコト三回

吉植庄一郎

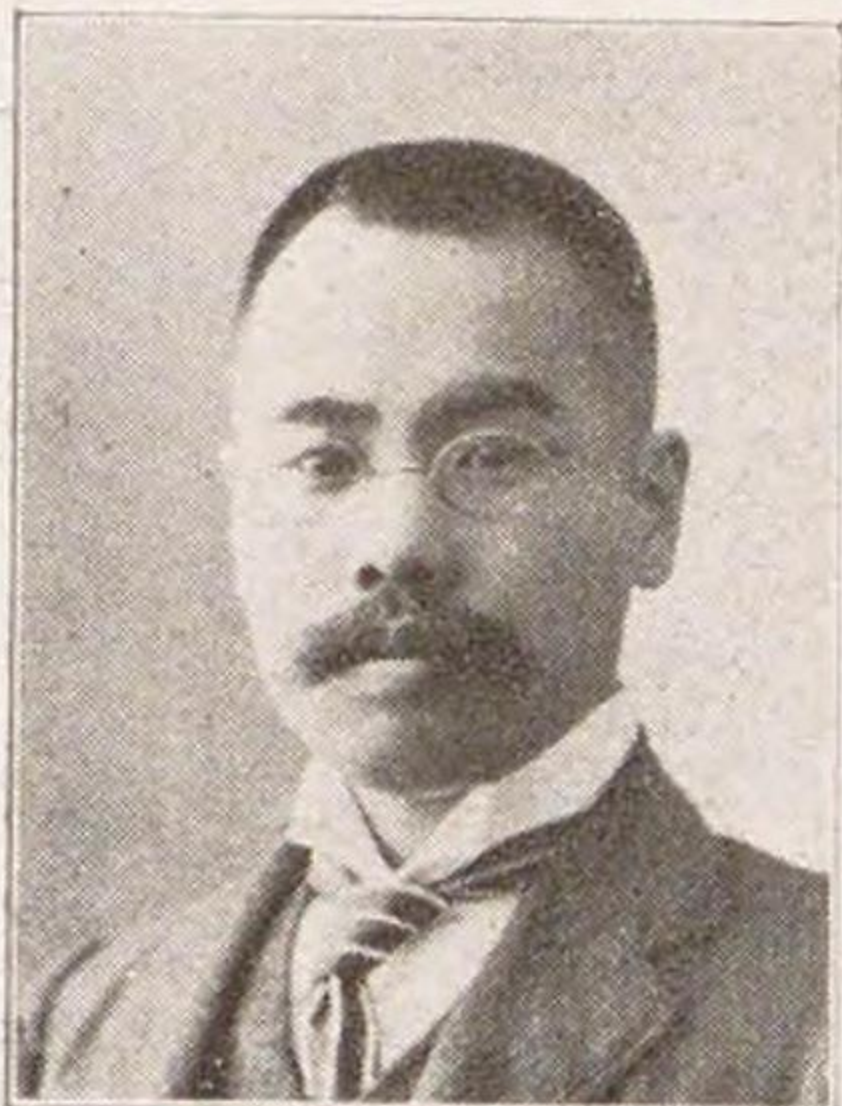
千葉縣選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、農



慶應元年九月下總國印旛郡桙原村ニ生ル、千葉縣立中學校卒業。○
北海道雨龍原野ニ於テ開墾事業ヲ經營ス、北海道時事新聞社社
長兼主筆、北海タイムス新聞社理事、中央新聞社理事ト爲ル、智利
共和國ニ航シ殖民制度ヲ調査ス、又廣軌鐵道改築準備委員會委
員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト三回

横田千之助

栃木縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民辯護士



明治三年八月下野國足利郡足利町ニ生ル、中央大學卒業○殖林製材業ヲ營ム

横尾輝吉

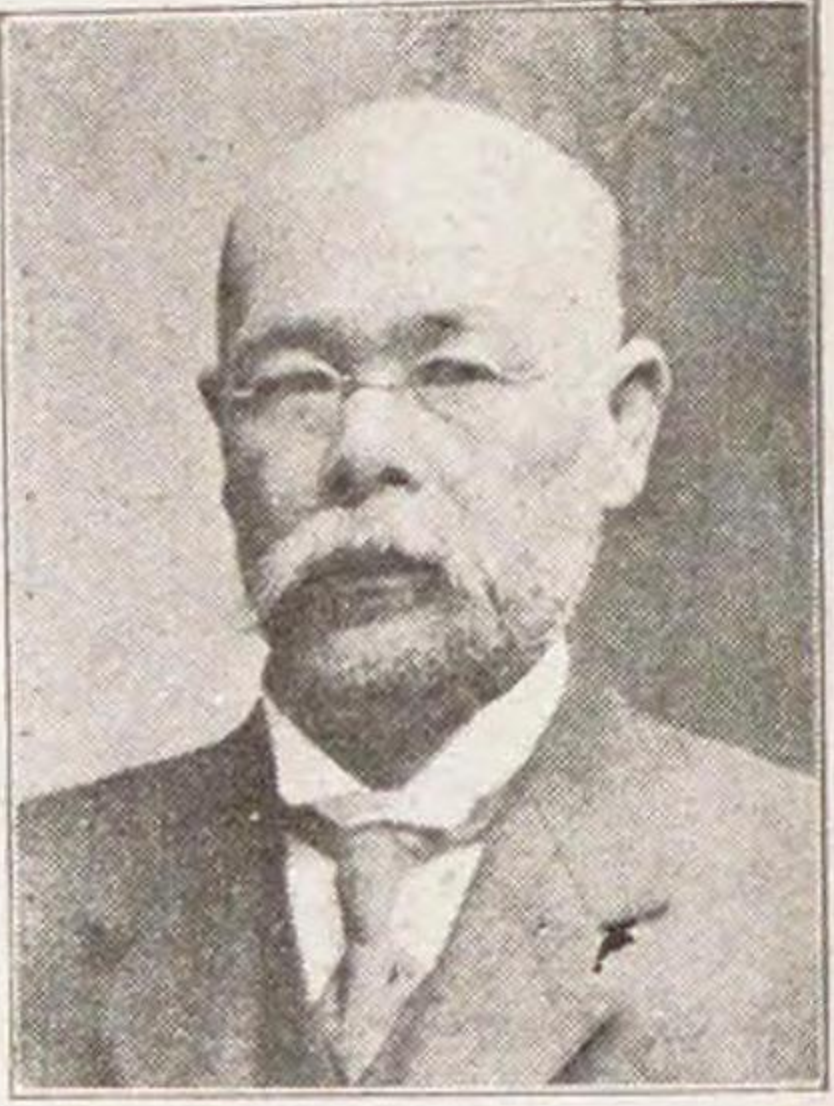
栃木縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、農



安政二年五月下野國上都賀郡鹿沼町ニ生ル、早稻田大學、立憲大學ニ學フ○栃木縣會議員、同參事會員、同副議長、同議長ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

吉原祐太郎

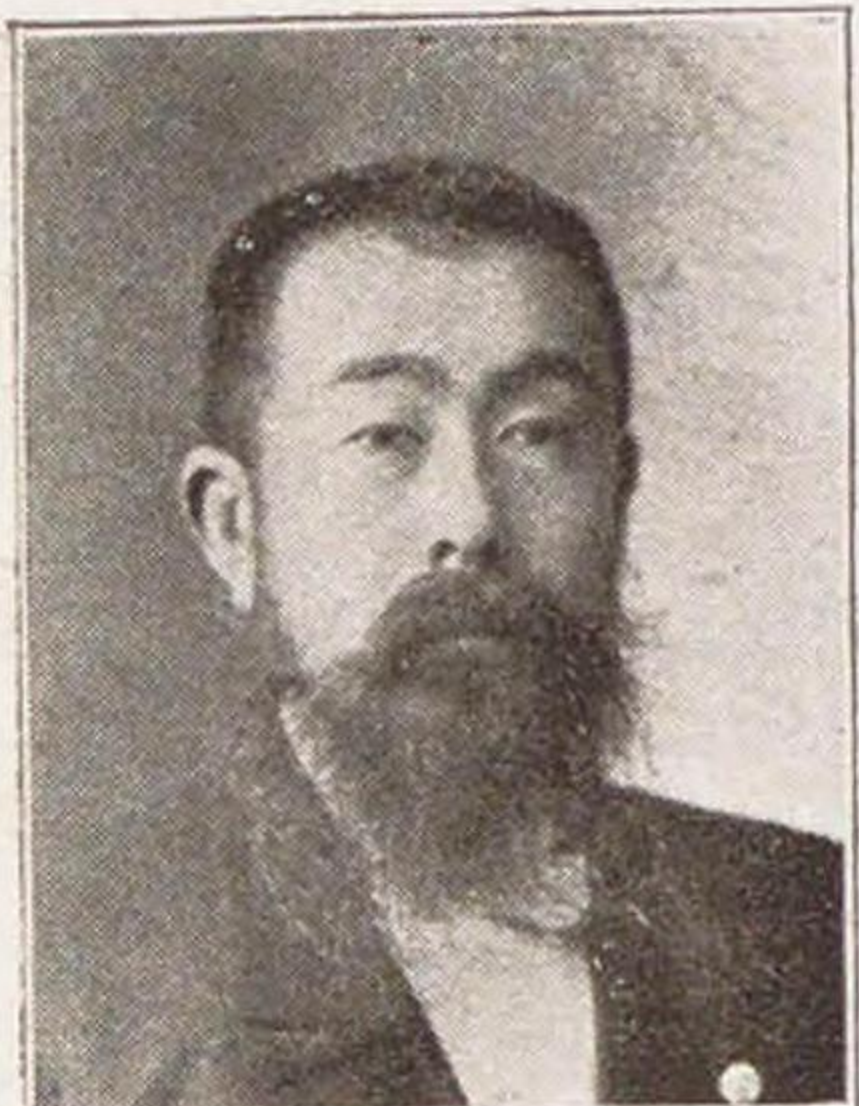
愛知縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



萬延元年八月三河國渥美郡高師村ニ生ル○村長、村會議員、郡會議員、同參事會員、愛知縣會議員、同參事會員ニ舉ケラル

吉田虎之助

滋賀縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳七等、農



明治元年八月近江國栗太郡常盤村ニ生ル○常盤村長、滋賀縣會議員ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

吉田定之助

福島縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、銀行業



安政四年八月岩代國岩瀨郡須賀川町ニ生ル○町會議員、郡會議員、福島縣會議員、同議長ニ舉ケラル、又須賀川電氣株式會社社長ニ選ハル、現ニ須賀川銀行頭取タリ

吉田圓助

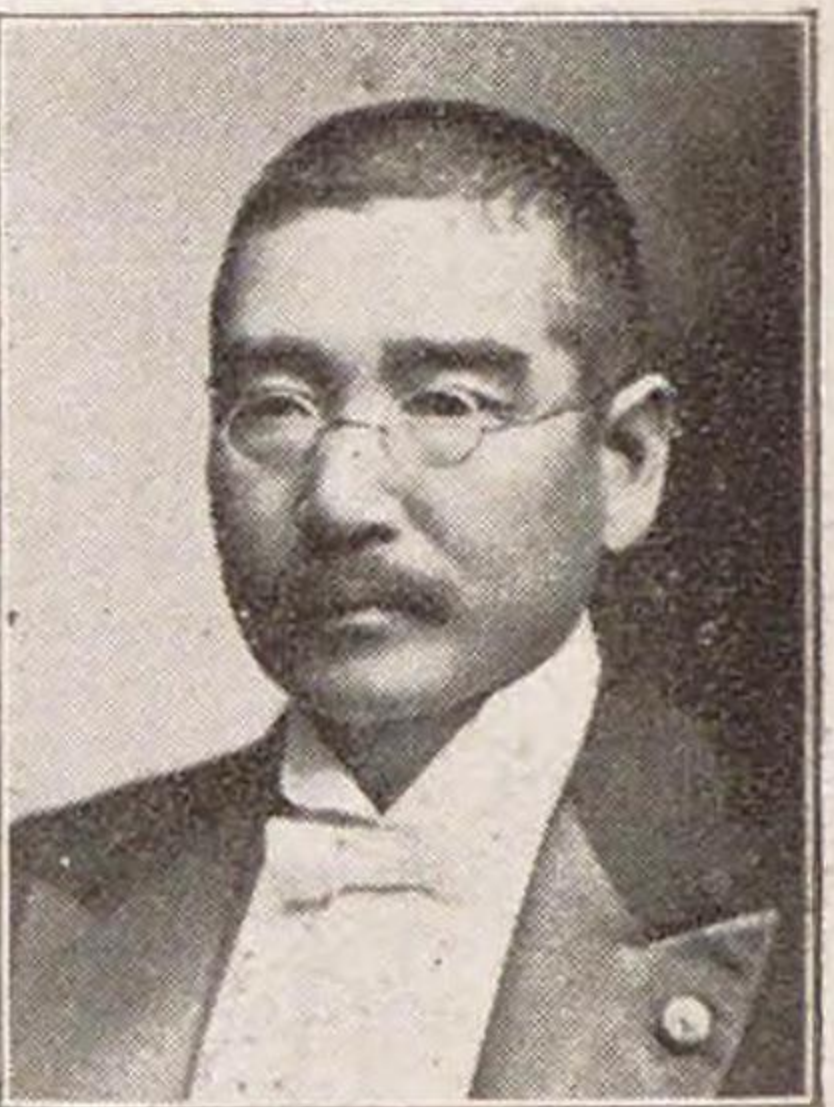
福井縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、農



元治元年十二月越前國今立郡北中山村ニ生ル、福井縣立師範學校卒業○福井縣會議員、同參事會員、同議長ニ舉ケラル、又福井縣農工銀行監查役ニ選ハル

米田穰

石川縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、新聞記者



元治元年一月加賀國石川郡松任町ニ生ル○町會議員ニ舉ケラル、又加能新聞社長ト爲ル、現ニ松任町長タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

吉原正隆

福岡縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、法學士、農



明治十四年十一月筑後國三瀨郡大川町ニ生ル、京都帝國大學法科大學經濟科卒業、後大學院ニ於テ殖民政策ヲ專攻ス

高木益太郎

東京府東京市選出、立憲國民黨所屬
平民、辯護士

三百二十



明治二年一月生ル、和佛法律學校卒業○法律新聞ヲ發刊ス、尾張屋銀行監査役、尾西鐵道株式會社取締役ニ舉ケラル、又衆議院議員選舉法改正調査會委員被仰付、歐米ニ漫遊ス、衆議院議員ニ當選スルコト二回

高木正年

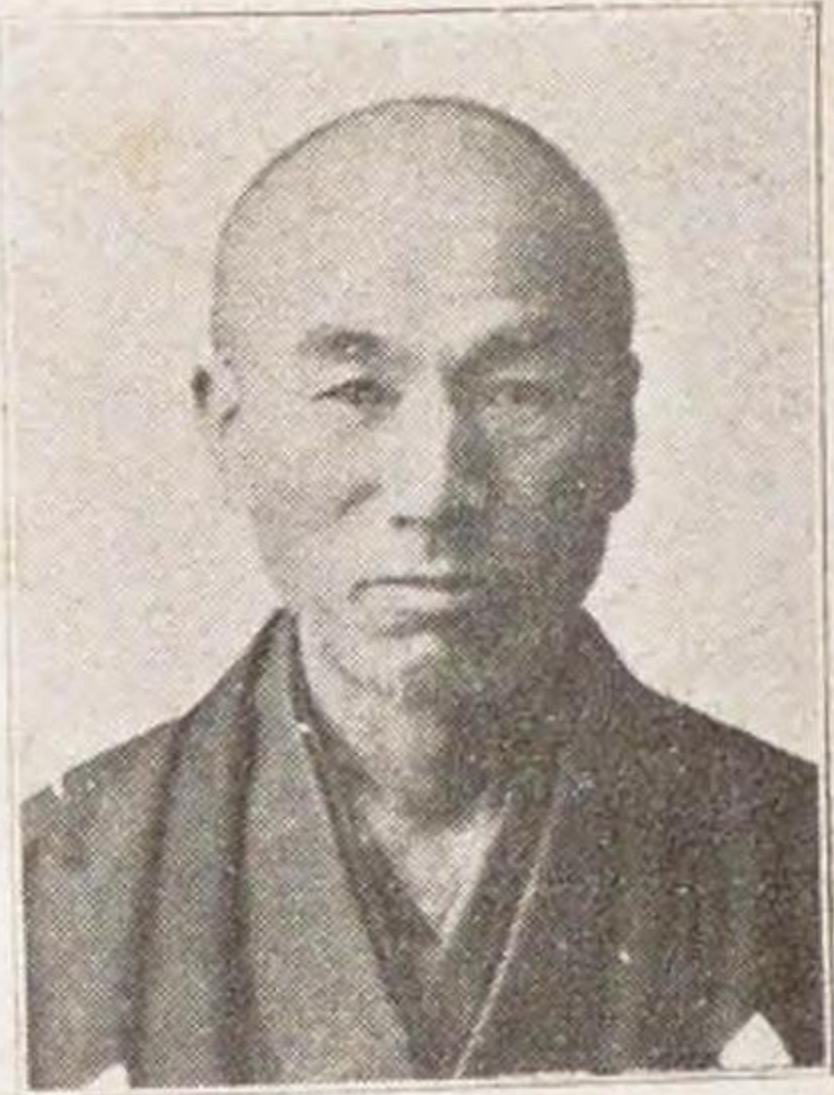
東京府郡部選出、立憲國民黨所屬
士族



安政三年十二月武藏國荏原郡品川町ニ生ル、木村芥舟ノ門ニ遊フ○東京府會議員、同常置委員ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選スルコト七回

田中數之助

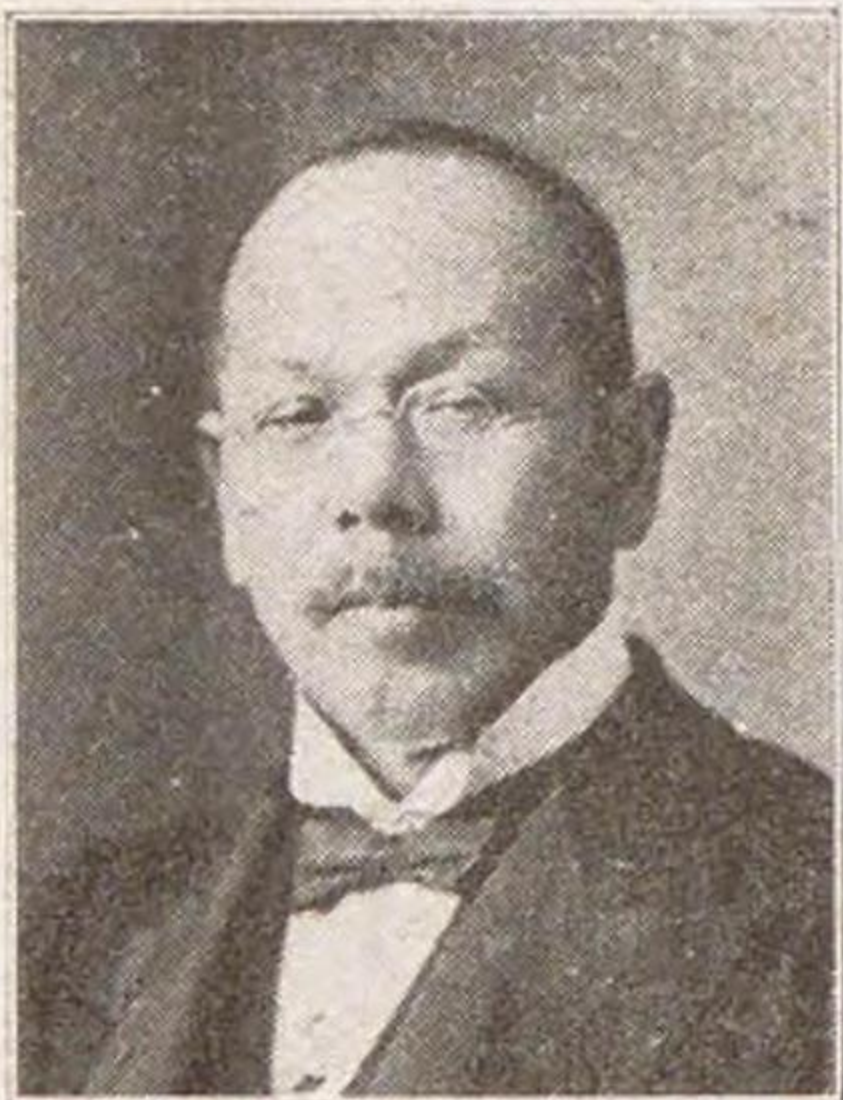
京都府郡部選出、立憲政友會所屬
平民、酒造業



嘉永元年八月丹波國南桑田郡曾我部村ニ生ル、○京都地方森林會議員ニ舉ケラル、現ニ京都府農工銀行取締役タリ

高鍋篤郎

兵庫縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、水産業



安政三年三月淡路國津名郡廣石村ニ生ル、○兵庫縣會議員、同常置委員ニ舉ケラル

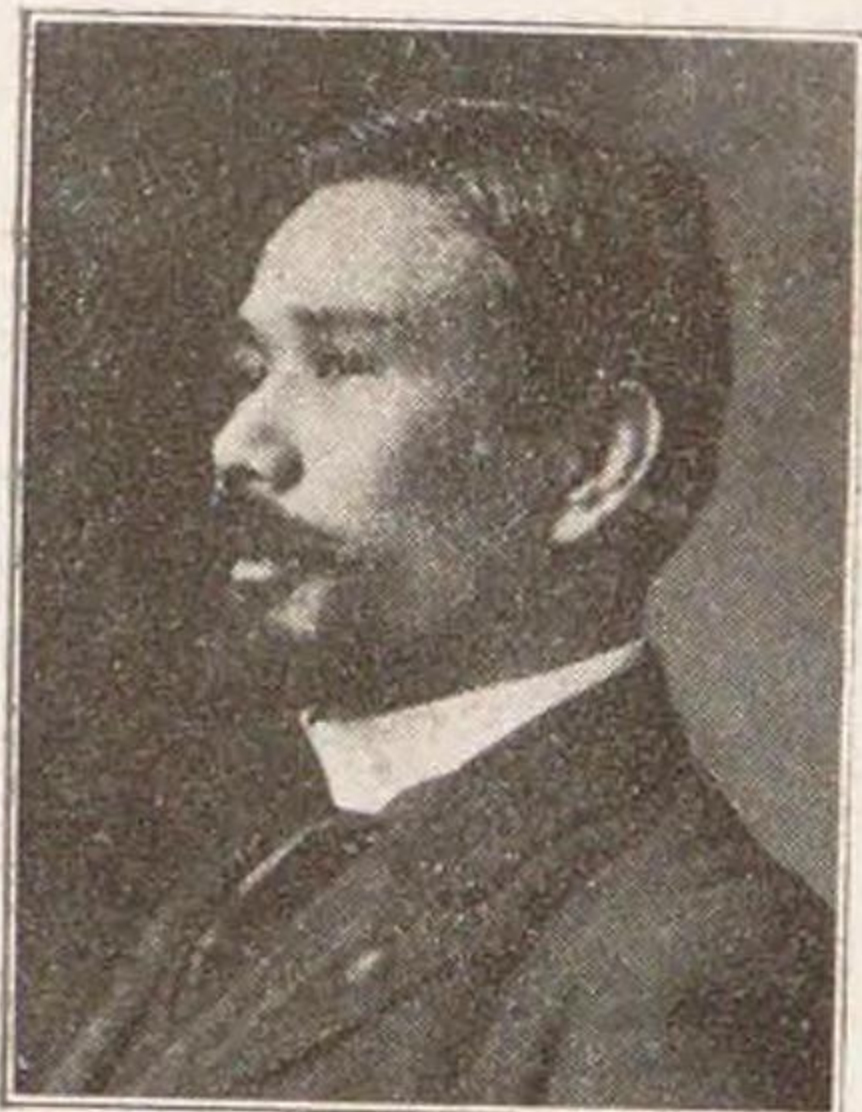
第二編 議員履歷(たノ部)

三百二十一

田川大吉郎

長崎縣部選出
士族、勳六等、東京市助役

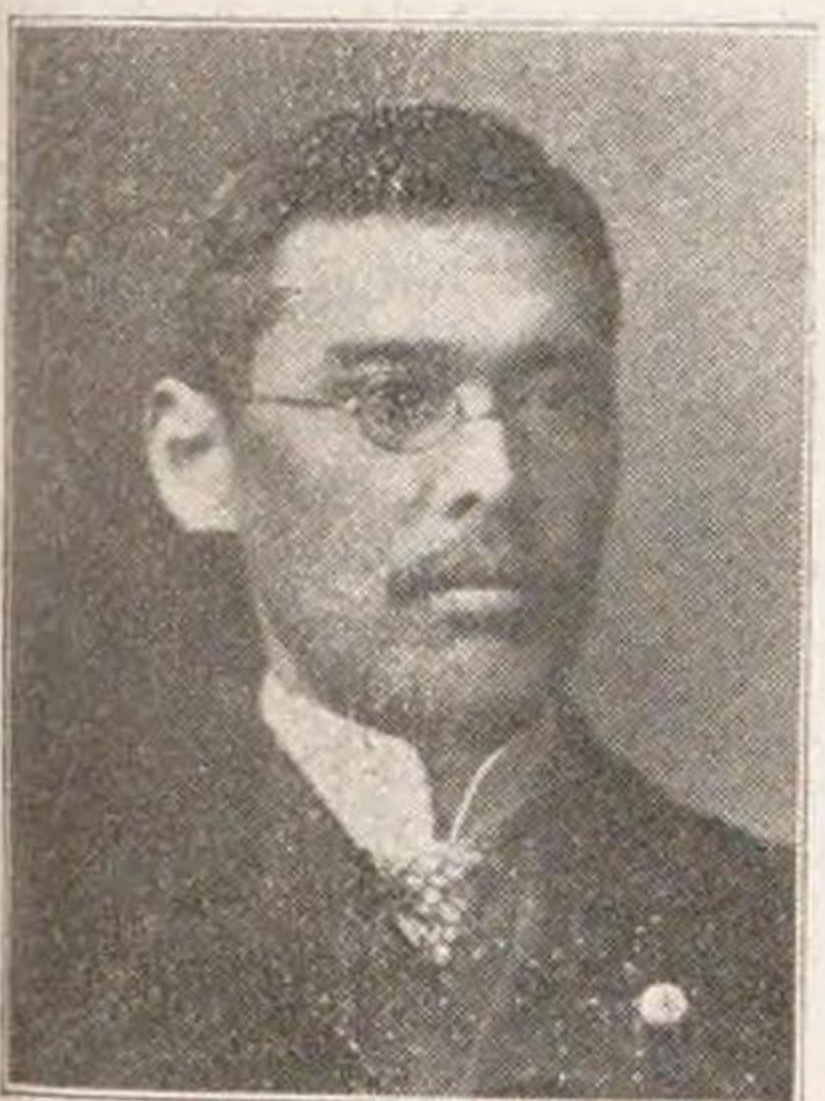
三百二十二



明治二年十月肥前國東彼杵郡西大村ニ生ル、早稻田大學ニ學フ○
都新聞記者ト爲ル、又東京市吏員、陸軍通譯ヲ命セラル、現ニ東京
市助役タリ、又日本大博覽會理事官、生産調査會委員被仰付、衆議
院議員ニ當選スルコト二回

高橋光威

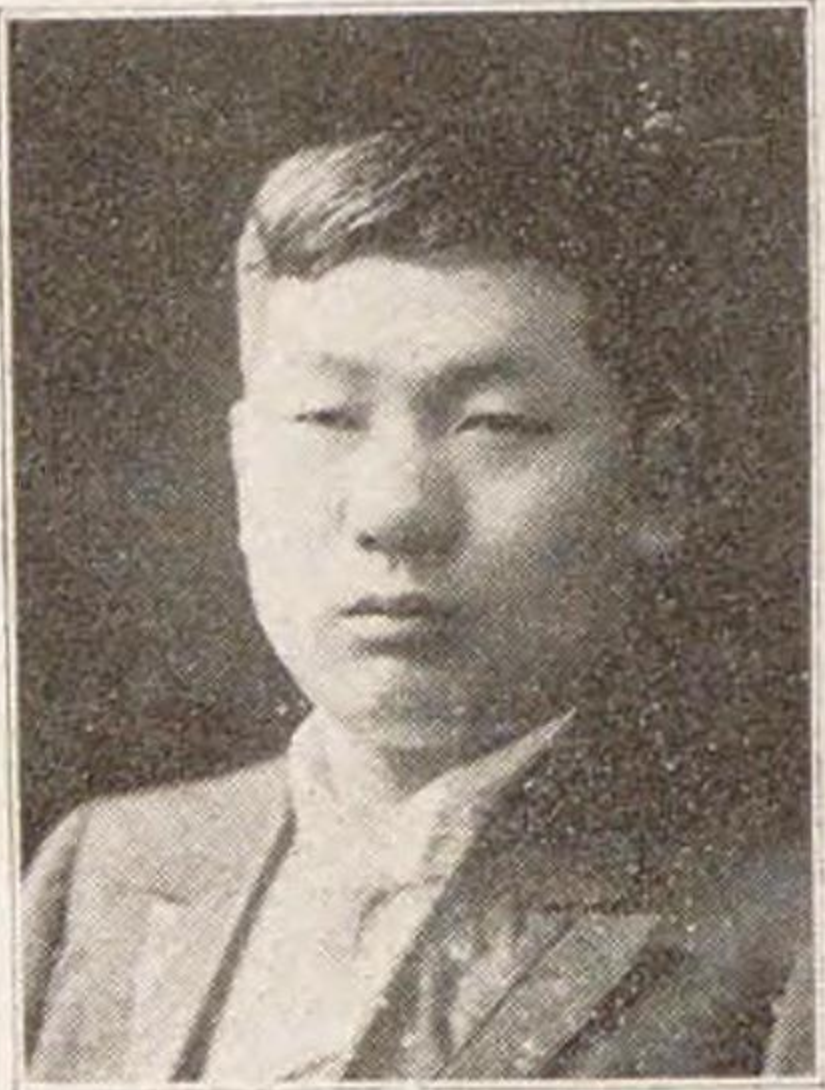
新潟縣部選出、立憲政友會所屬
平民、從五位、官吏



慶應三年十二月越後國北蒲原郡菅谷村ニ生ル、慶應義塾大學卒
業、後米國及英國ニ遊學ス○福岡日々新聞主筆、大阪新報主筆ト
爲ル、博多商業會議所特別會員、蓬來生命保險相互會社取締役ニ
舉ケラル、現ニ内務大臣祕書官タリ、歐米ニ漫遊ス、衆議院議員ニ
當選スルコト二回

田邊熊一

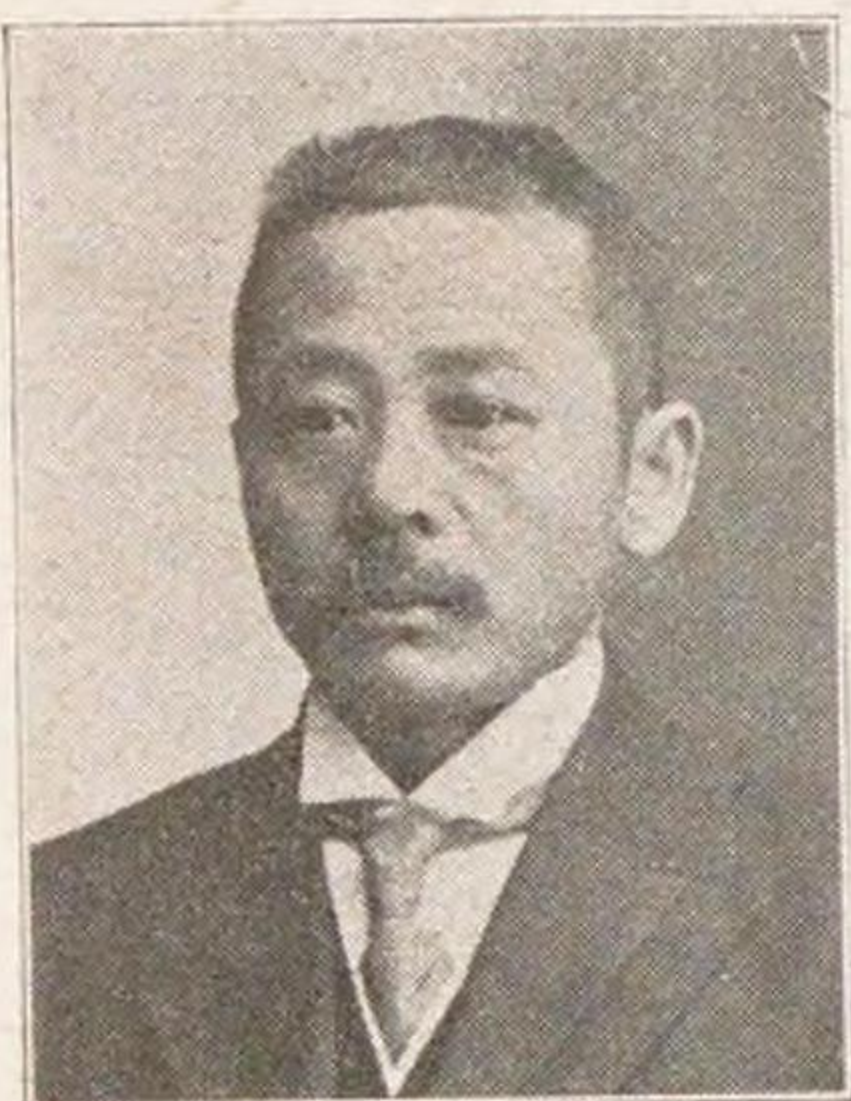
新潟縣部選出、立憲政友會所屬
平民、會社員



明治七年一月越後國西蒲原郡卷町ニ生ル、中央大學卒業○卷町
長、新潟縣會議員ニ舉ケラル、現ニ日清紡績株式會社常務取締役
タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

田中左司馬

埼玉縣選出、立憲國民黨所屬
平民、辯護士



慶應三年七月武藏國北足立郡安行村ニ生ル、東京法學院卒業○町
會議員、埼玉縣會議員ニ舉ケラル

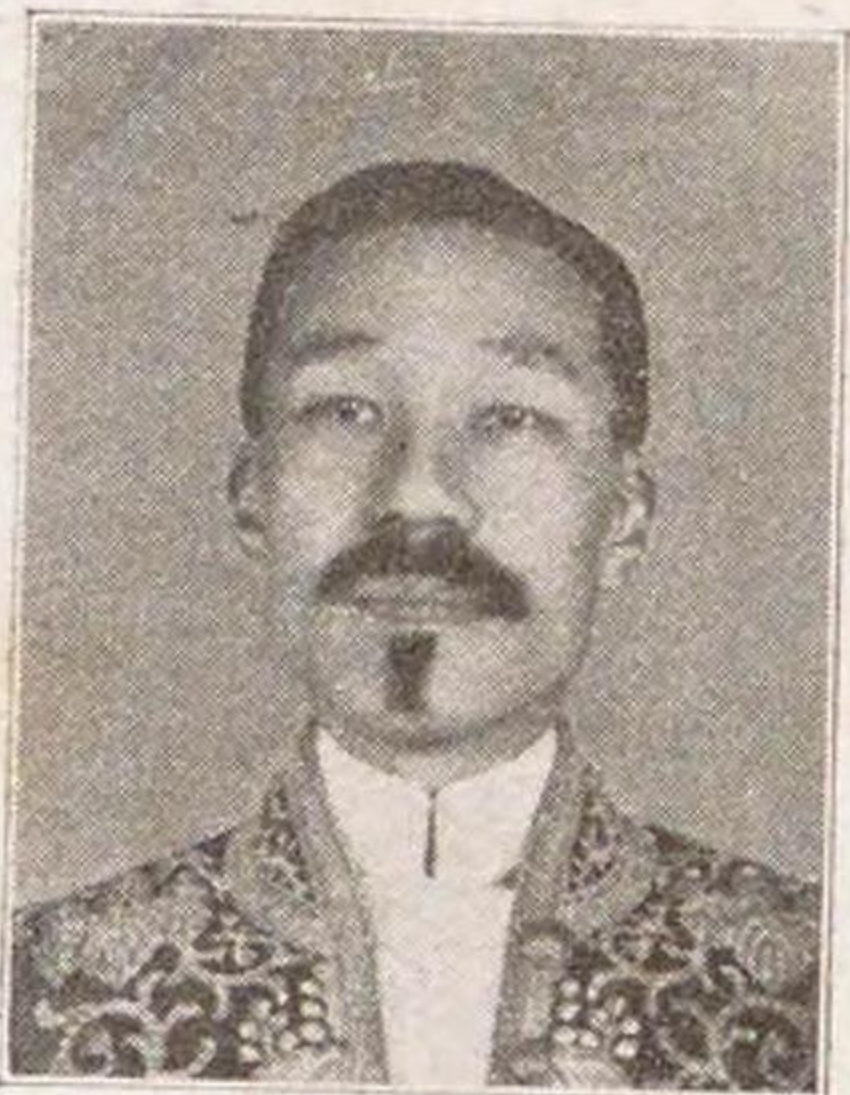
第二編 議員履歷(たノ部)

三百二十三

竹越與三郎

群馬縣前橋市選出、立憲政友會所屬
平民、正五位勳四等、新聞記者

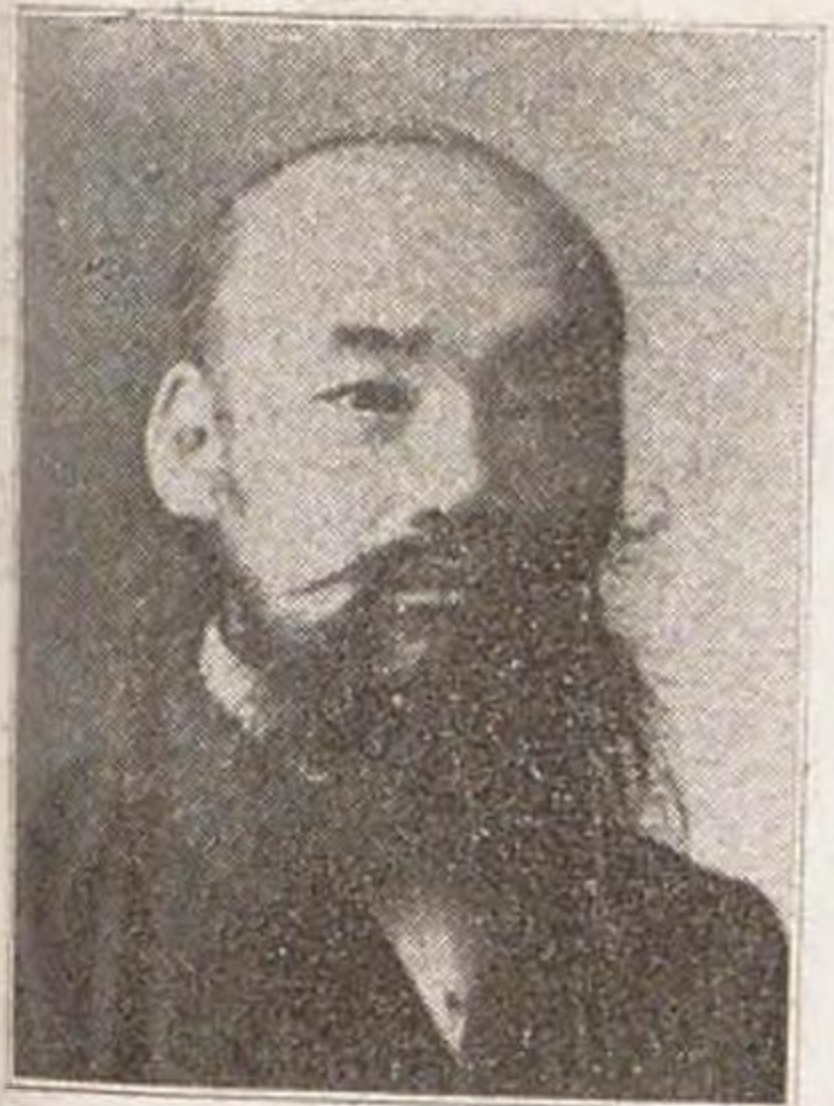
三百二十四



慶應元年十月武藏國入間郡本庄町ニ生ル、同人社、慶應義塾ニ學
フ、二千五百年史其他著書多シ○文部大臣秘書官兼參事官ニ任セ
ラル、又時事新報、國民新聞、讀賣新聞及世界ノ日本ノ記者タリ、歐
米ニ漫遊ス、列國議會同盟會議ニ參列ス、衆議院議員ニ當選スル
コト五回

田村順之助

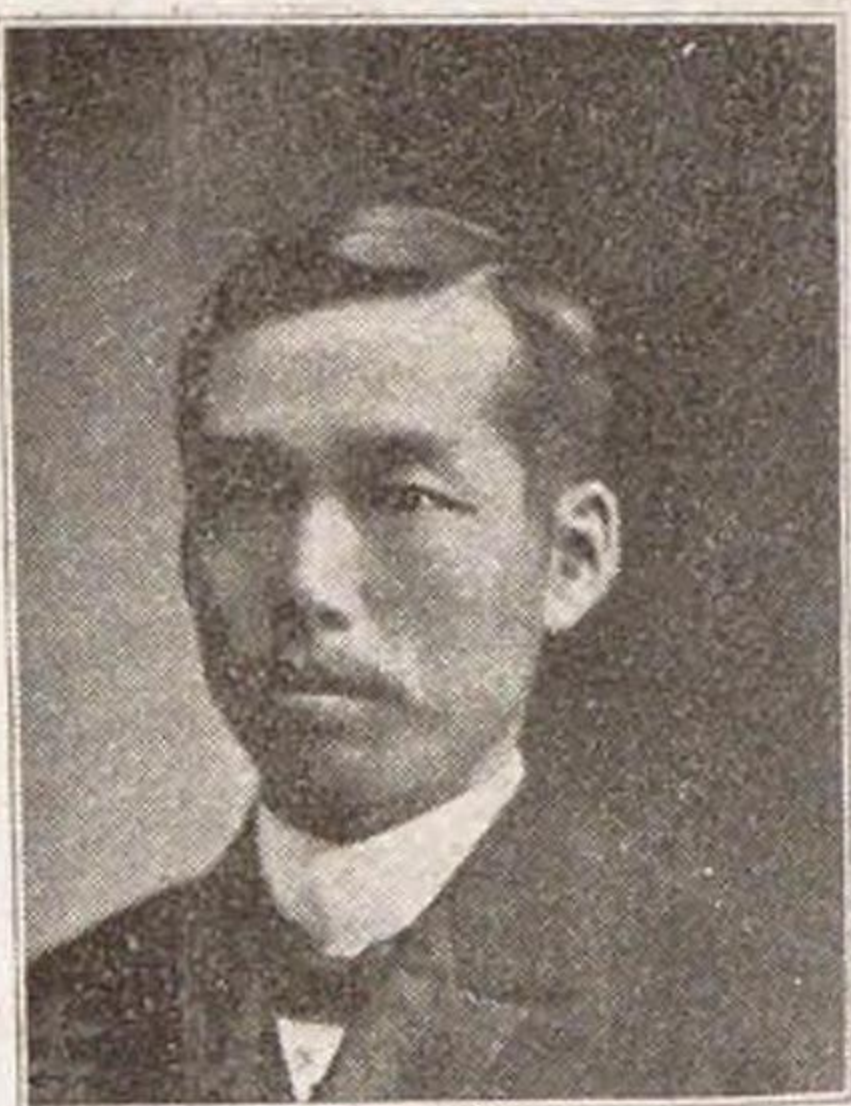
栃木縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民



安政五年八月生ル○衆議院議員ニ當選スルコト六回

田中善立

愛知縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、學校長



明治七年十一月尾張國愛知郡常磐村ニ生ル、東京哲學館卒業、清
國ニ留學ス○眞宗尾張中學教員、東京眞宗中學教員、東洋大學講
師ト爲ル、臺灣總督府事務囑託ヲ命セラル、又大谷派本願寺ヨリ
南清ニ派遣セラレ布教ニ從事スルコト多年、現ニ在福建彰化學堂
堂長タリ

高柳覺太郎

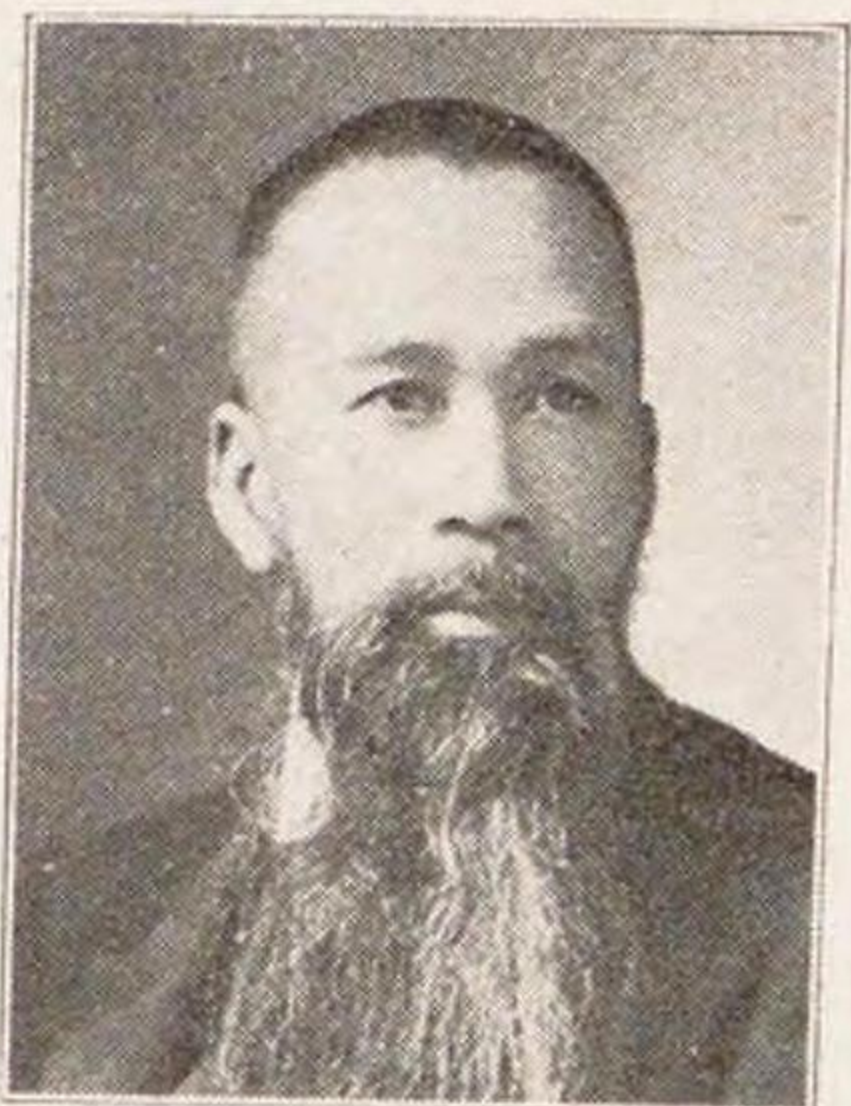
静岡縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、辯護士



慶應三年十月生ル、法律學ヲ修ム○衆議院議員ニ當選スルコト
二回

高橋義信

岐阜縣郡部選出
平民雜業

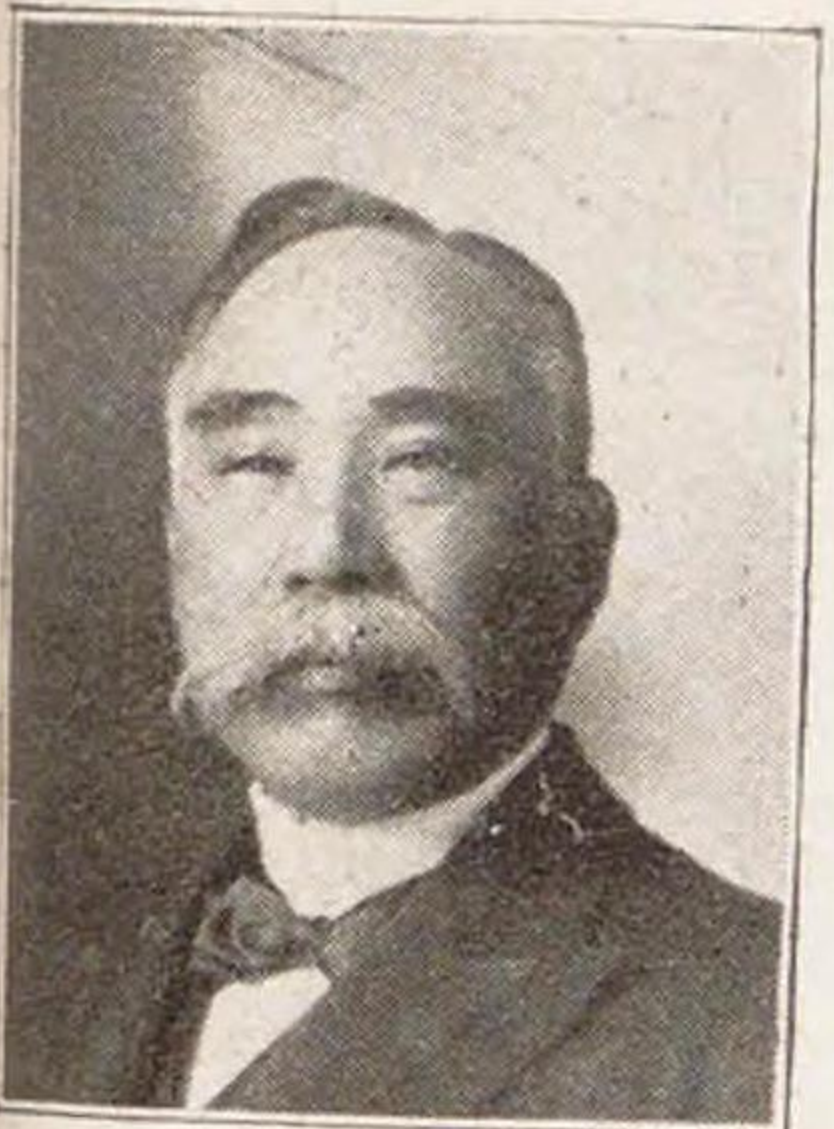


三百二十六

元治元年五月美濃國安八郡川並村ニ生ル、鴻雪爪ノ門ニ學フ○東
京市會議員、同府會議員ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選スルコト
二回

田代進四郎

宮城縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、辯護士



嘉永三年十一月肥前國小城郡小城町ニ生ル、法律學ヲ修ム○仙
臺市會議員、同議長、宮城縣會議員、同議長ニ舉ケラル、又仙臺辯護
士會長、私立英語學校校長ト爲ル

竹村欽次郎

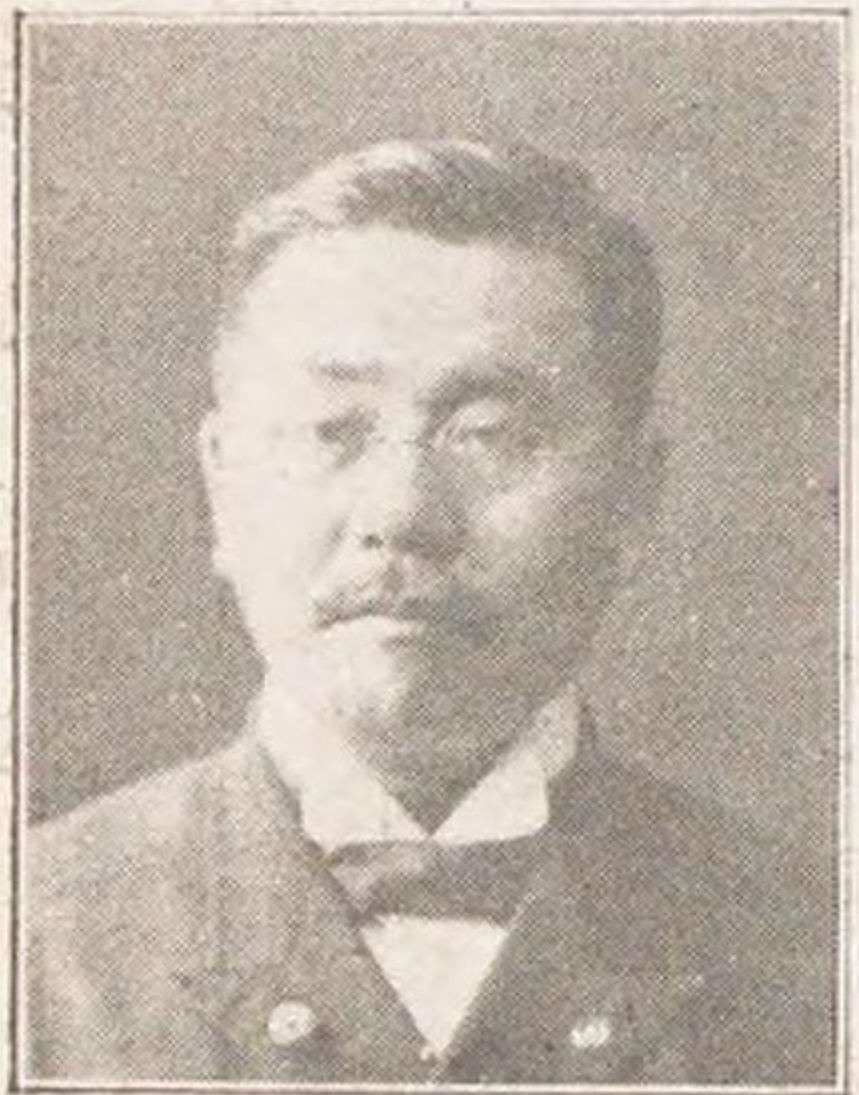
山形縣郡部選出
平民正六位、法學士、會社員



文久三年一月羽前國最上郡新庄町ニ生ル、東京帝國大學法科大學
卒業○大藏省主計官、收稅長、司稅官ニ歷任ス、又日本鐵道會社會
計課長、興行銀行囑託ト爲ル、現ニ小野田セメント製造株式會社、
富士身延鐵道株式會社、日本肥料株式會社各取締役タリ

田中隆三

秋田縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、從四位、勳三等、法學士、會社員



元治元年十一月羽後國秋田市ニ生ル、東京帝國大學法科大學卒業
○農商務省特許局審判官、同省參事官、鑛山監督官、衆議院書記官、
法制局參事官、長崎縣書記官、農商務省鑛山局長、行政裁判所評定
官ニ歷任ス、又合名會社藤田組社員ト爲ル、現ニ大阪商船株式會
社取締役タリ

第二編 議員履歷(たノ部)

三百二十七

高島茂平

福井縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農

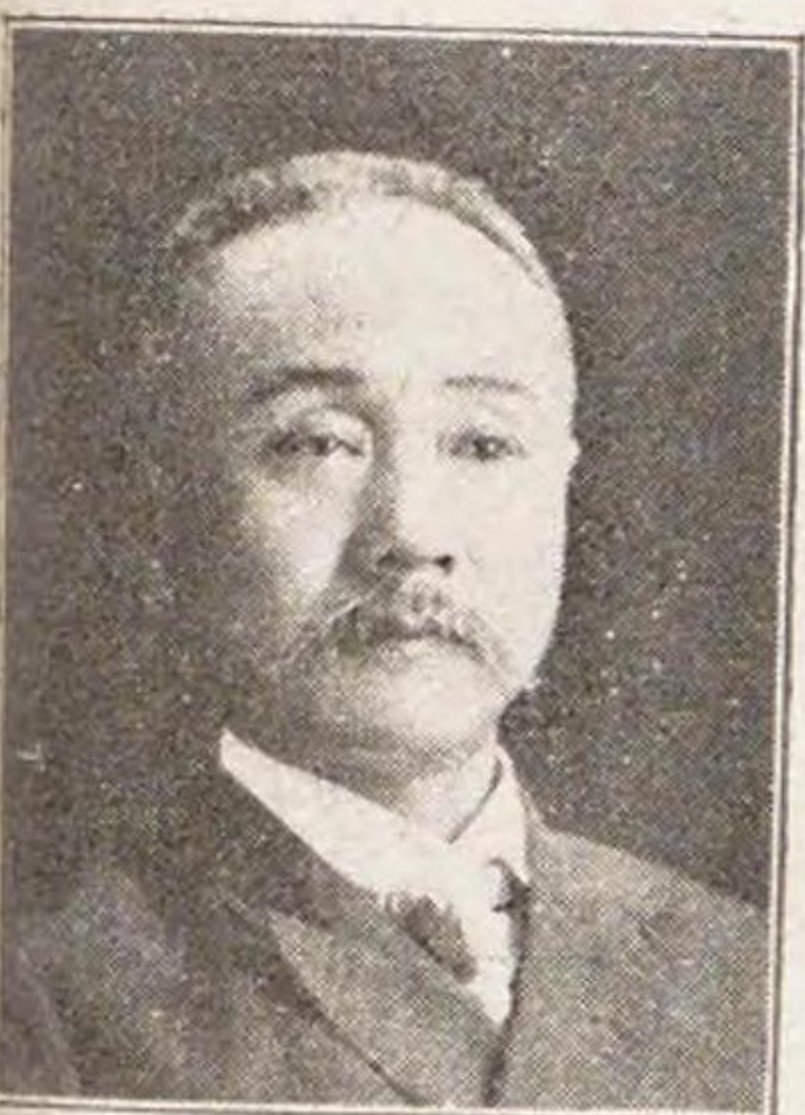
三百二十八



慶應三年五月越前國足羽郡六條村ニ生ル、東京高等師範學校卒業
○福井縣尋常中學校教諭ニ任セラル、又福井縣會議員、福井銀行
取締役ニ舉ケラル

武部其文

富山縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、辯護士



文久二年二月越中國東礪波郡高瀬村ニ生ル、明治法律學校卒業○
富山縣會議員ニ舉ケラル

高橋久次郎

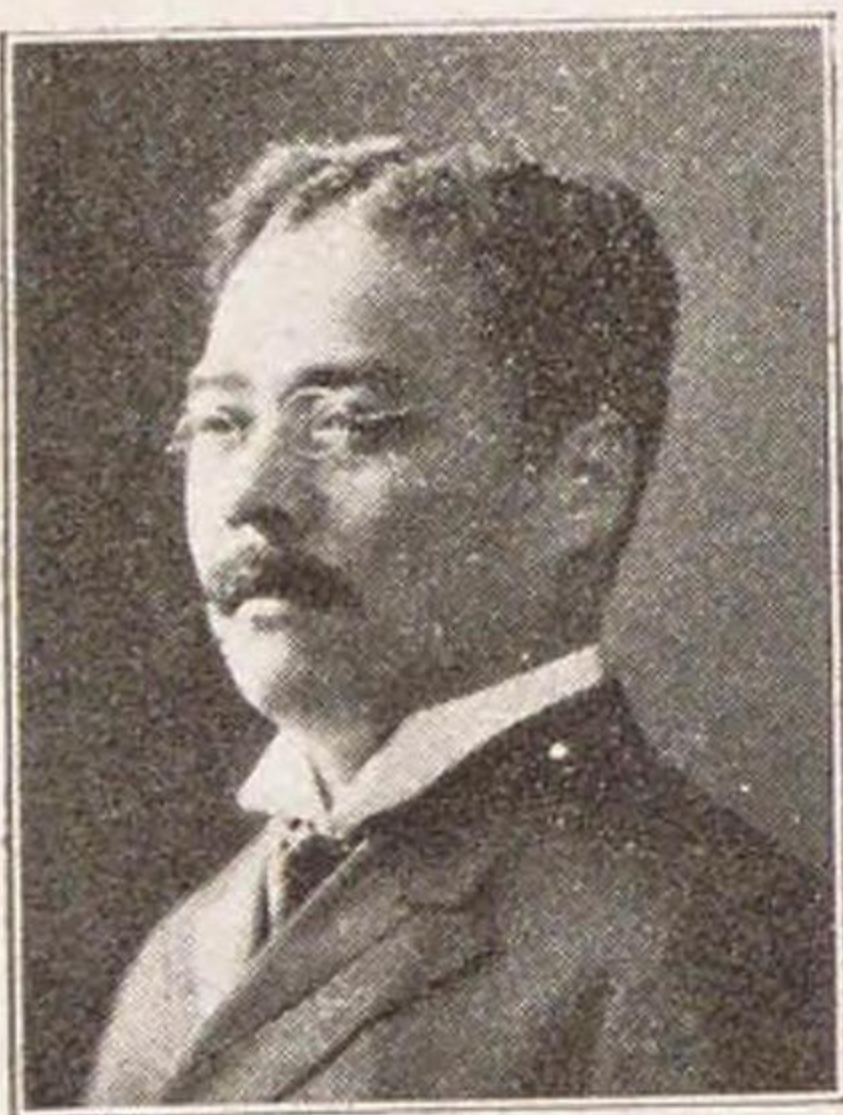
島根縣郡部選出、中央俱樂部所屬
平民、農



安政五年六月出雲國簸川郡神原村ニ生ル、漢學ヲ修ム○郡會議
員、同議長、島根縣會議員ニ舉ケラル、又郡農會長、同蠶業同業組合
長ト爲ル、衆議院議員ニ當選スコト二回

高野金重

愛媛縣松山市選出
士族、辯護士



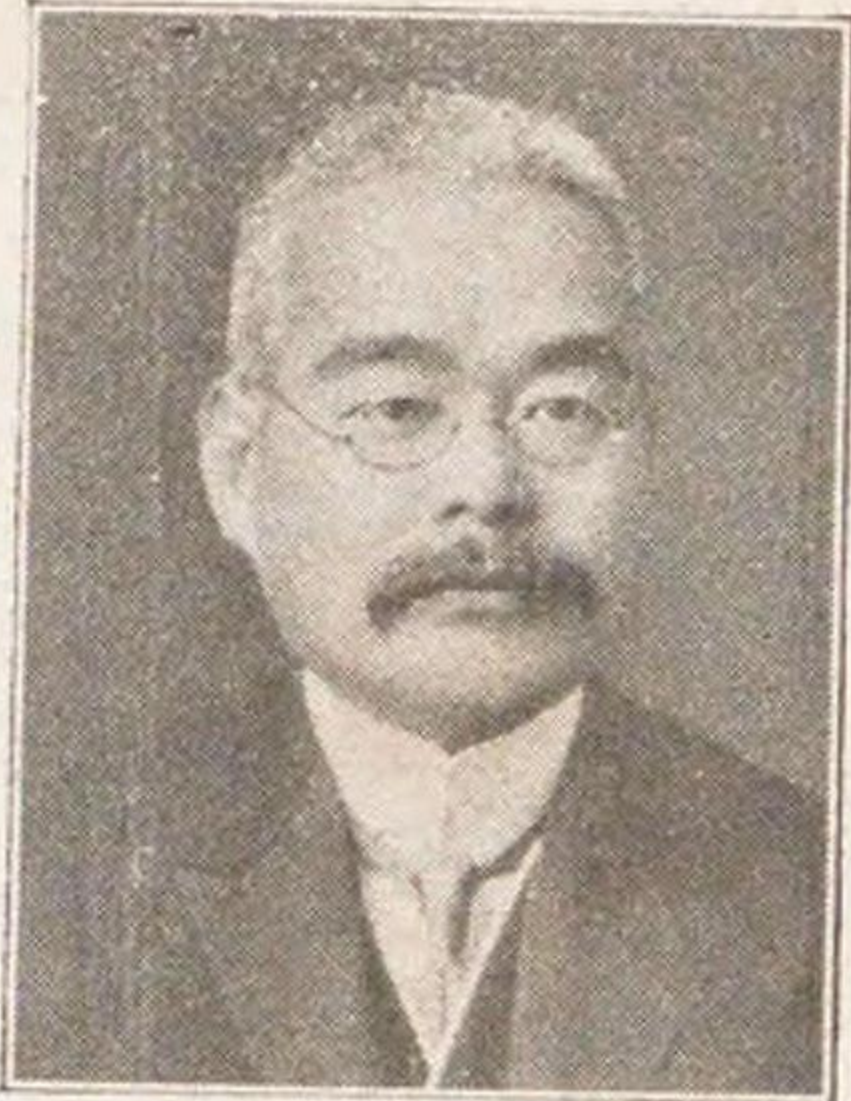
明治三年十二月伊豫國松山市ニ生ル、中央大學卒業○松山市吏員
ト爲ル、又藝備日々新聞、大阪毎日新聞記者タリ、東京組合辯護士
會常議員ニ舉ケラル

第二編 議員履歷(たノ部)

三百二十九

武内作平

愛媛縣郡部選出、立憲國民黨所屬
士族、辯護士



慶應三年十月伊豫國越智郡日吉村ニ生ル、關西大學、法政大學、日本大學、早稻田大學ニ學フ。○岡山電氣軌道株式會社監查役、廣島電氣軌道株式會社監查役、大阪土地建物株式會社監查役ニ舉ケラル、又大阪堂島米穀取引所外數會社ノ法律顧問タリ、衆議院議員ニ當選スルコト三回

武市庫太

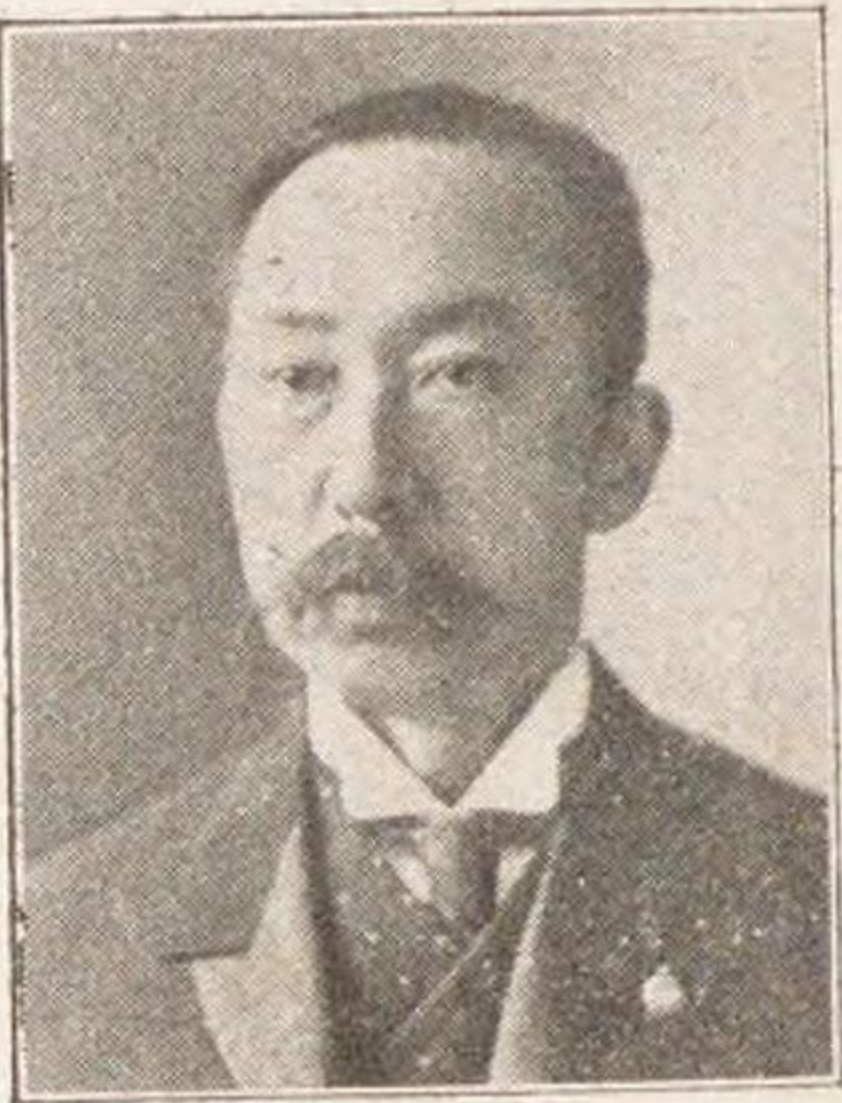
愛媛縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等農



文久三年十月伊豫國伊豫郡北伊豫村ニ生ル、同志社ニ學フ。○村會議員、愛媛縣會議員、同常置委員ニ舉ケラル、又縣農會長ニ選ハル、衆議院議員ニ當選スルコト七回

武富時敏

佐賀縣郡部選出、立憲國民黨所屬
士族、從四位、勳四等



安政二年十二月生ル。○佐賀縣會議員、同常置委員、同副議長、同議長ニ舉ケラル、後農商務省商工局長、同商務局長、大藏省參事官、内閣書記官長ニ任セララル、又臨時博覽會評議員、日英博覽會評議員、國勢調査準備委員會委員、廣軌鐵道改築準備委員會委員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト十回

高田露

熊本縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族



嘉永六年八月生ル、大阪開成所、大阪兵學寮ニ學フ。○評論新聞近事評論記者トナル、又熊本縣球磨郡ニ開墾社ヲ創立シ拓殖事業ニ從事ス、衆議院議員ニ當選スルコト三回

武満義雄

鹿兒島縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、勳四等

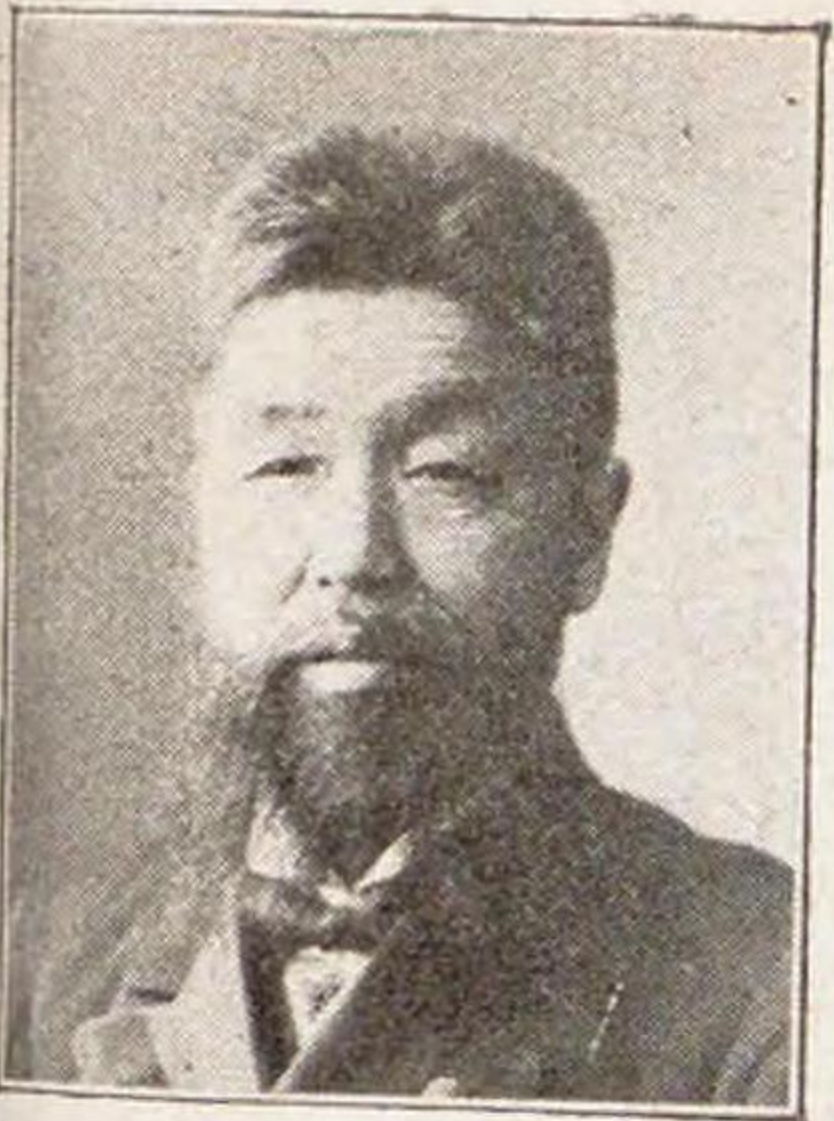
三百三十二



文久三年二月薩摩國薩摩郡隈之城村ニ生ル、東京法學院ニ學フ○
小學校長ニ任セラル、後鹿兒島縣會議員、同常置委員ニ舉ケラル、
又加世田鯽漁業株式會社社長ニ選ハル、衆議院議員ニ當選スルコ
ト五回

高橋直治

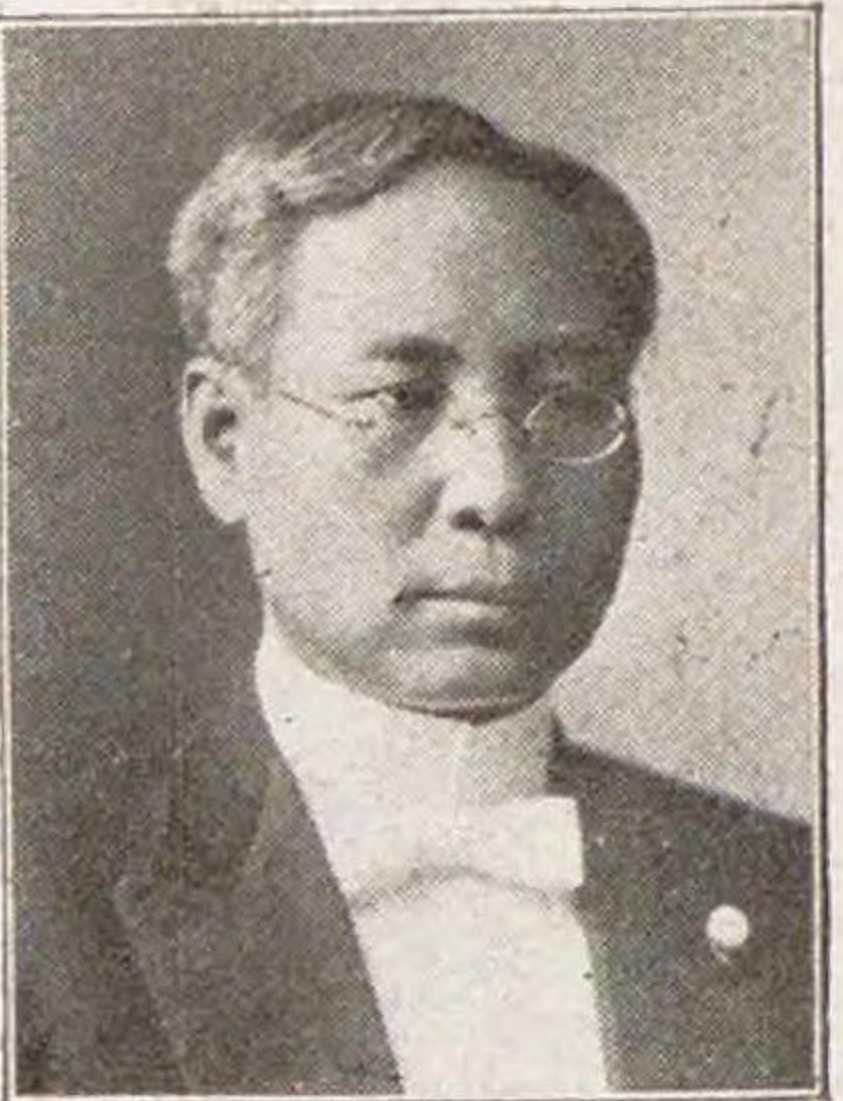
北海道小樽區選出、立憲政友會所屬
平民、商



安政三年一月越後國刈羽郡石地村ニ生ル○小樽區會議員、小樽商
業會議所副會頭ニ舉ケラル、小樽共商會取締役、小樽米穀株式外
五品取引所理事長ニ選ハル、現ニ小樽米穀取引所理事長タリ、又
小樽委託業組合長、同海陸物産商組合長ト爲ル、衆議院議員ニ當
選スルコト三回

高嶺朝教

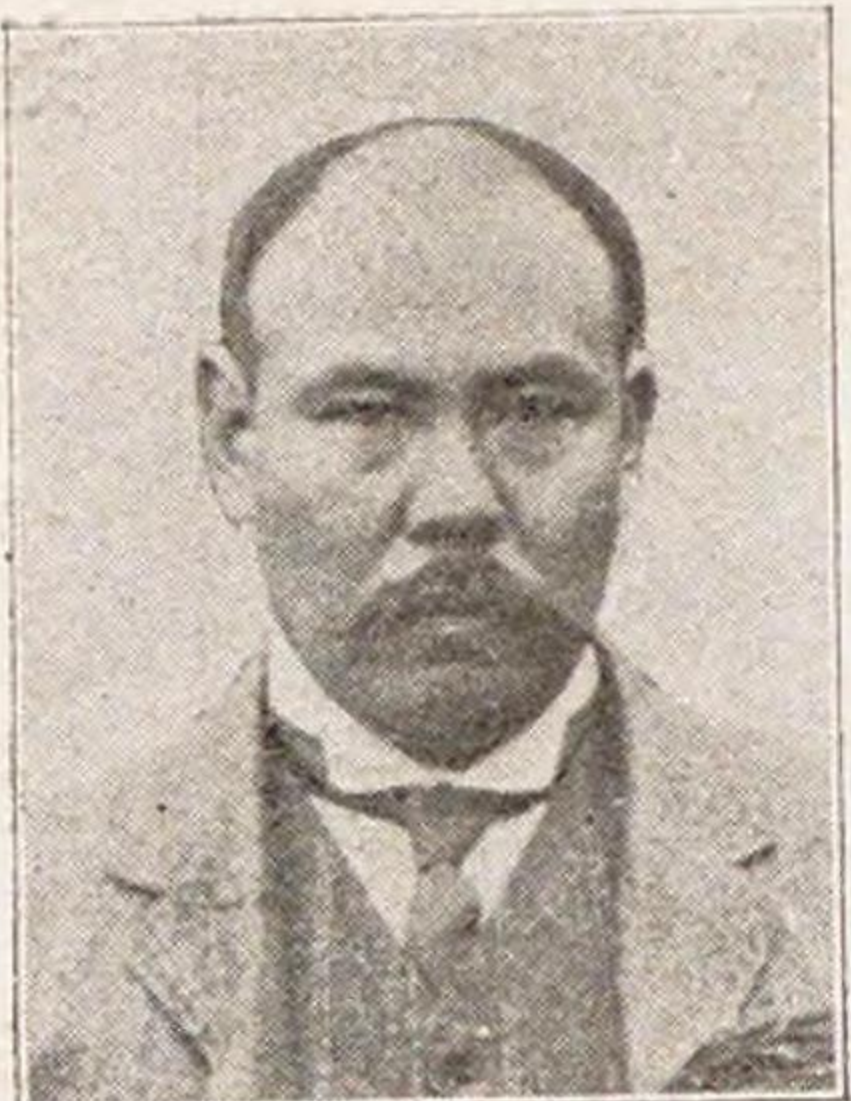
沖繩縣選出、立憲政友會所屬
士族、銀行員



明治元年十二月琉球國首里區ニ生ル、慶應義塾ニ學フ○沖繩縣會
議員、同議長ニ舉ケラル、現ニ株式會社沖繩銀行頭取タリ

添田飛雄太郎

秋田縣郡部選出、立憲國民黨所屬
士族、正七位



元治元年十一月羽後國雄勝郡湯澤町ニ生ル、獨逸國「チュービン
ケン」大學ニ於テ政治經濟法律ヲ修ム○秋田縣立中學校長ニ任セ
ラル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

第二編 議員履歷(た、その部)

三百三十三

辻 寛

三重縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、銀行員

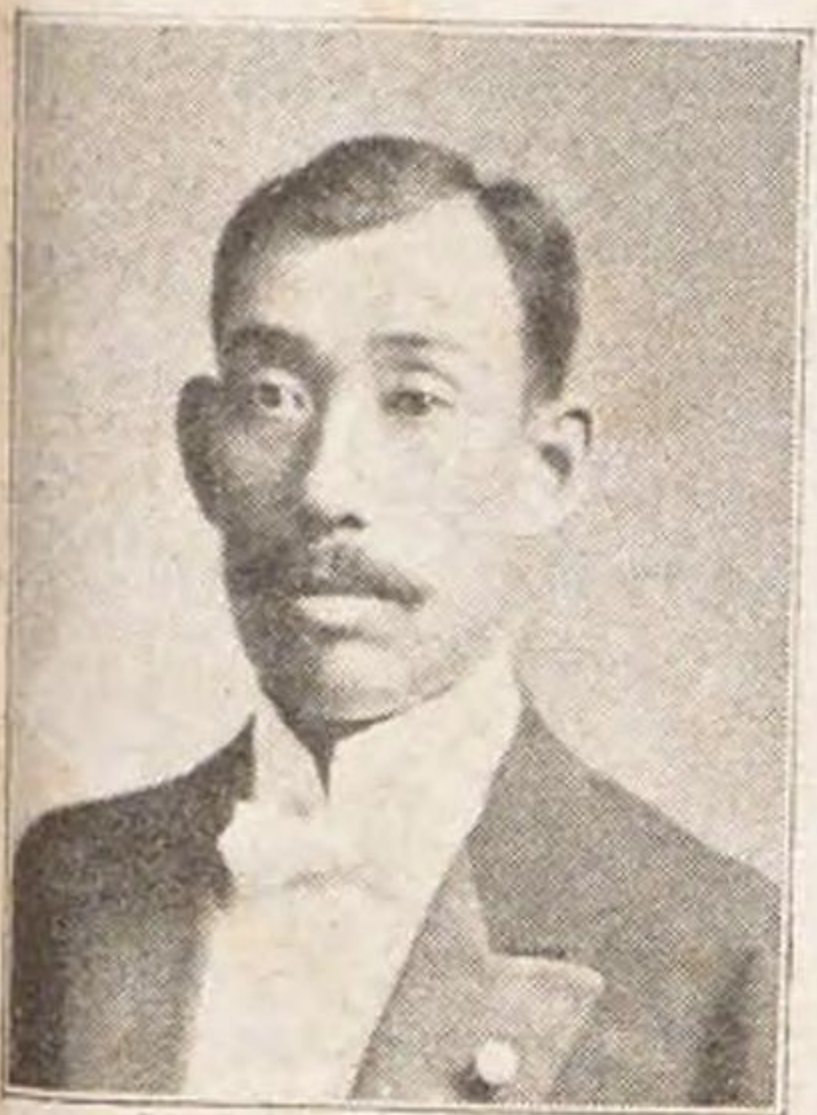
三百三十四



文久元年十月伊勢國三重郡水澤村ニ生ル、東京專門學校卒業○三
重縣山田郡立中學校教諭ニ任セラル、三重縣會議員ニ舉ケラル、
又三重新聞社長ト爲ル、現ニ三重縣農工銀行監查役タリ、衆議院
議員ニ當選スルコト二回

津島源右衛門

青森縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



明治四年六月陸奥國西津輕郡木造町ニ生ル、西津輕郡中學校ニ學
フ○青森縣會議員、同參事會員ニ舉ケラル、現ニ銀行頭取タリ

恆松隆慶

島根縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、農



嘉永六年五月石見國瀨摩郡靜間村ニ生ル、漢學ヲ修ム○戶長、郡
書記ニ任セラル、後村長、村會議員、郡會議員、島根縣會議員、同常
置委員、同副議長、同議長ニ舉ケラル、又安濃銀行監查役、石見銀行
取締役ニ選ハル、現ニ農工銀行取締役タリ、衆議院議員ニ當選ス
ルコト九回

鶴原定吉

福岡縣福岡市選出、立憲政友會所屬
士族、正五位、勳二等、文學士、會社員



安政三年十二月筑前國福岡市ニ生ル、東京大學文學部政治理財科
卒業○領事ト爲リ後韓國統監府總務長官ニ任セラル、又日本銀行
ニ入り大阪支店長、本店營業局長ニ補セラレ次テ同理事ヲ命セラ
ル、大阪市長ニ舉ケラル、又關西鐵道株式會社社長ニ選ハル、現ニ
大日本人造肥料株式會社、蓬萊生命保險相互會社、中央新聞社各
社長タリ、歐米ニ漫遊ス

第二編 議員履歷(つノ部)

三百三十五

津末 良介

大分縣選出
平民、法學士、辯護士



明治九年十二月豊後國大分郡瀧尾村ニ生ル、京都帝國大學法科大學卒業○司法官試補ヲ命セラル、大分市參事會員、大分組合辯護士會長ニ舉ケラル、現ニ株式會社藤田銀行、大分水力電機株式會社、大分製氷株式會社、鶴成金鑛株式會社ノ重役タリ

根岸 岨太郎

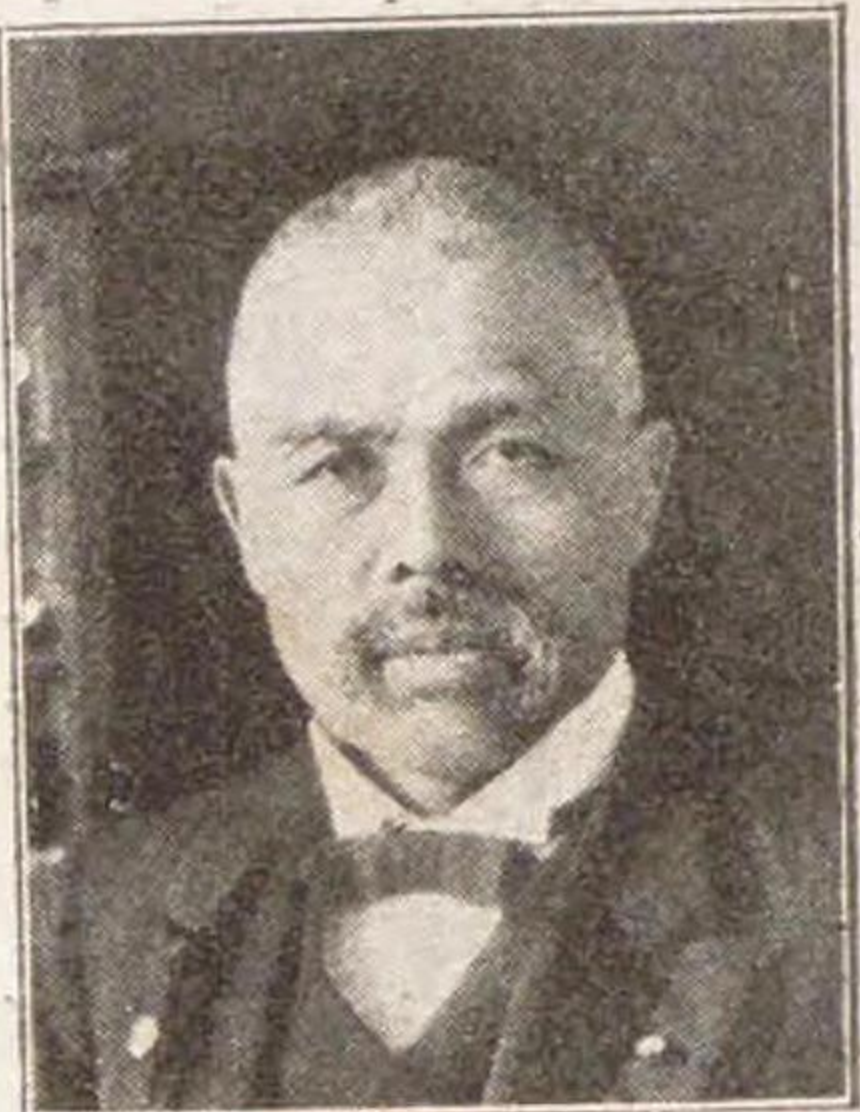
群馬縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳八等、農



萬延元年九月上野國群馬郡大類村ニ生ル、漢學ヲ修ム○村會議員、群馬縣會議員、同常置委員、同參事會員ニ舉ケラル、又群馬縣農工銀行取締役ニ選ハル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

根 本 正

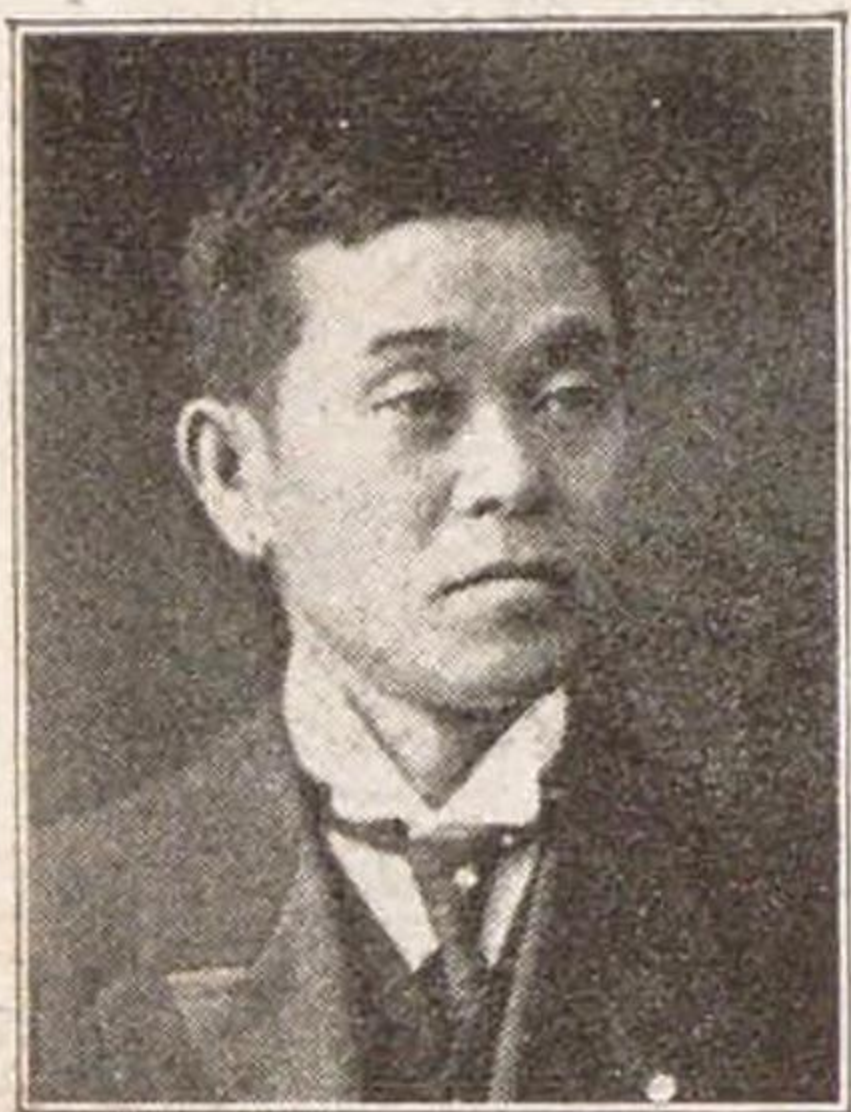
茨城縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、農



嘉永四年十月常陸國那珂郡五臺村ニ生ル、同人社ニ學フ、後米國ニ留學シ「ボルマント」州立大學ヲ卒業シ哲學士ノ學位ヲ受ク、米國地方制度其數五種ノ著書アリ○歐洲ニ漫遊ス、又外務省及農商務省ノ命ヲ受ケ移民地探險及商工業視察トシテ北米南米及印度ニ渡航ス、現ニ雜誌國ノ光記者タリ、衆議院議員ニ當選スルコト七回

根津 嘉一郎

山梨縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、勳四等、會社員



萬延元年六月甲斐國東山梨郡平等村ニ生ル、漢學ヲ修ム○村長、郡會議員、山梨縣會議員、同參事會員、東京商業會議所議員、同副會頭ニ舉ケラル、生産調査會委員被仰付、現ニ東京米穀商品取引所理事長、帝國火災保險株式會社、東武鐵道株式會社、加富登麥酒株式會社各社長其他十二會社ノ重役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト三回

中島行孝

東京府東京市選出
士族會社員



天保七年八月上野國佐波郡赤堀村ニ生ル○正院八等出仕、大藏省一等屬ニ任セラル、東京市會議員、同參事會員、東京府會議員ニ舉ケラル、又東京株式取引所理事、前橋電氣軌道株式會社社長ニ選ハル、現ニ東京府農工銀行取締役、同農工貯蓄銀行頭取、帝國商業銀行監査役タリ

中安信三郎

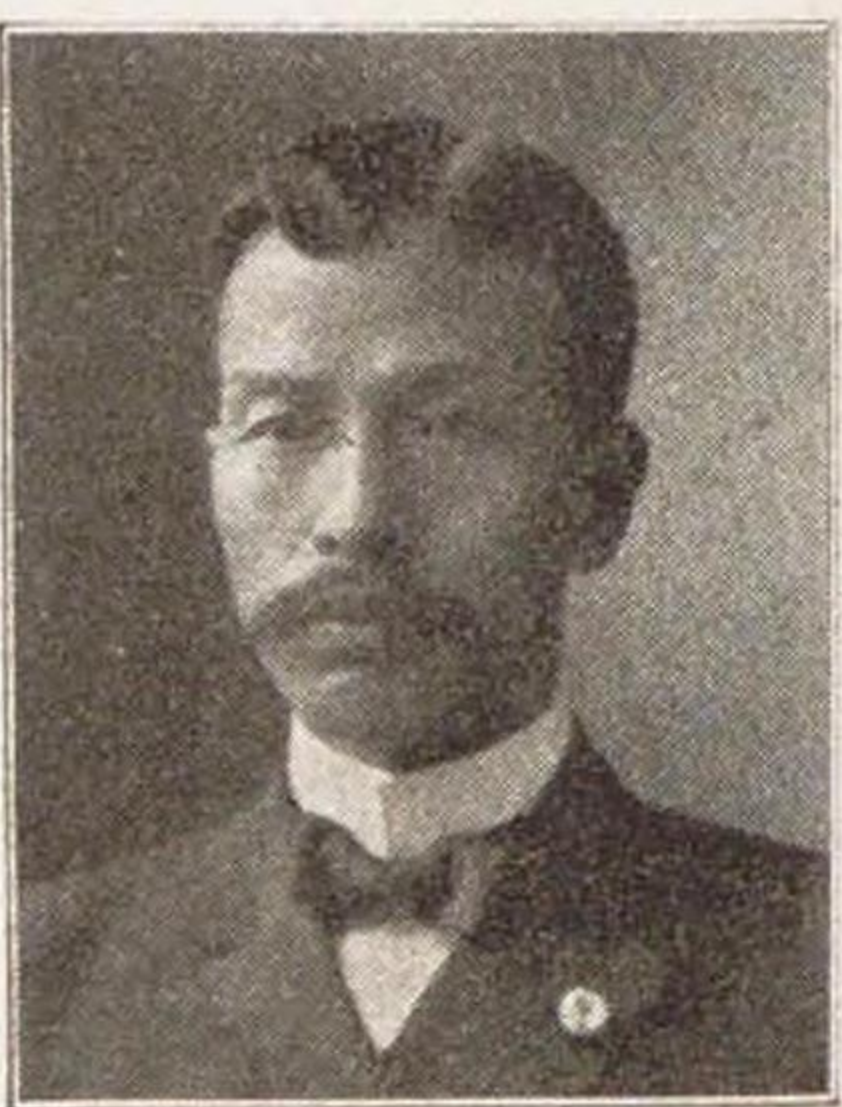
京都府京都市選出、中央俱樂部所屬
平民



萬延元年七月丹波國南桑田郡篠村ニ生ル、和佛法律學校ニ學フ○京都市會議員、同參事會員、京都府會議員、京都商業會議所會員ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

中辰之助

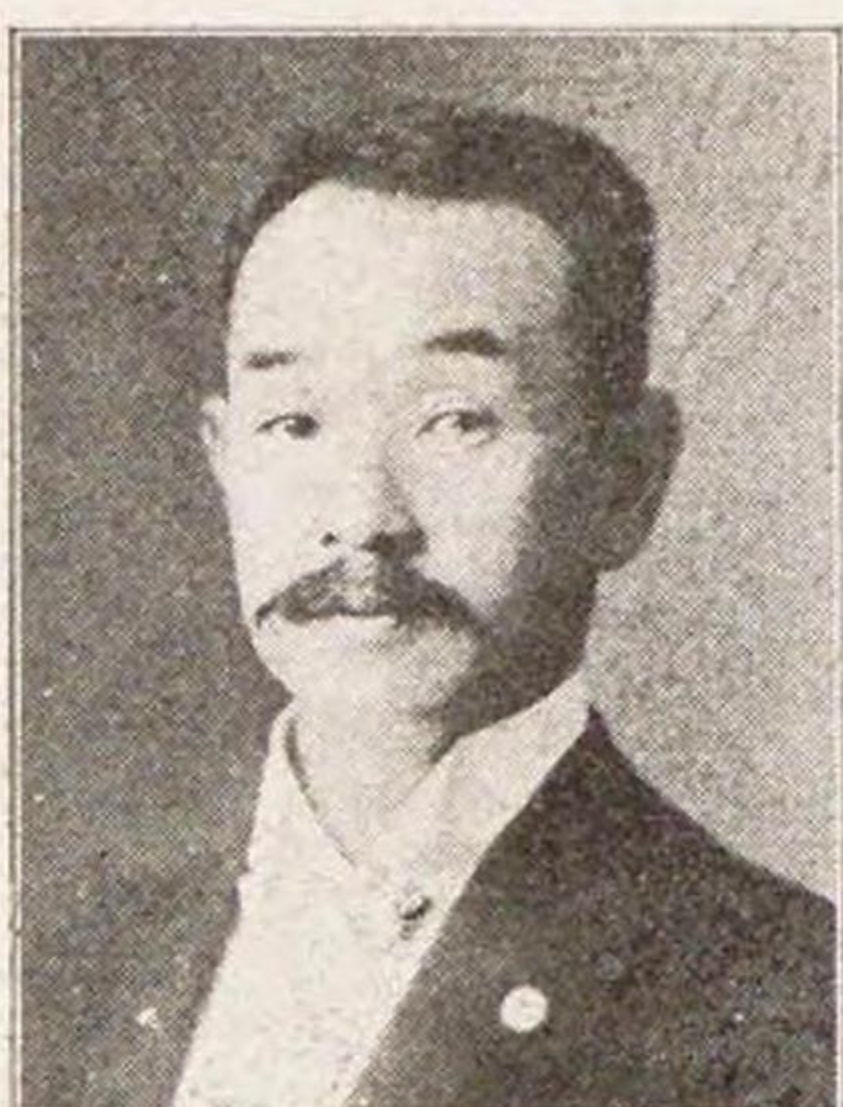
大阪府郡部選出、中央俱樂部所屬
平民、農



明治元年四月生ル○衆議院議員ニ當選スルコト三回

永見寛二

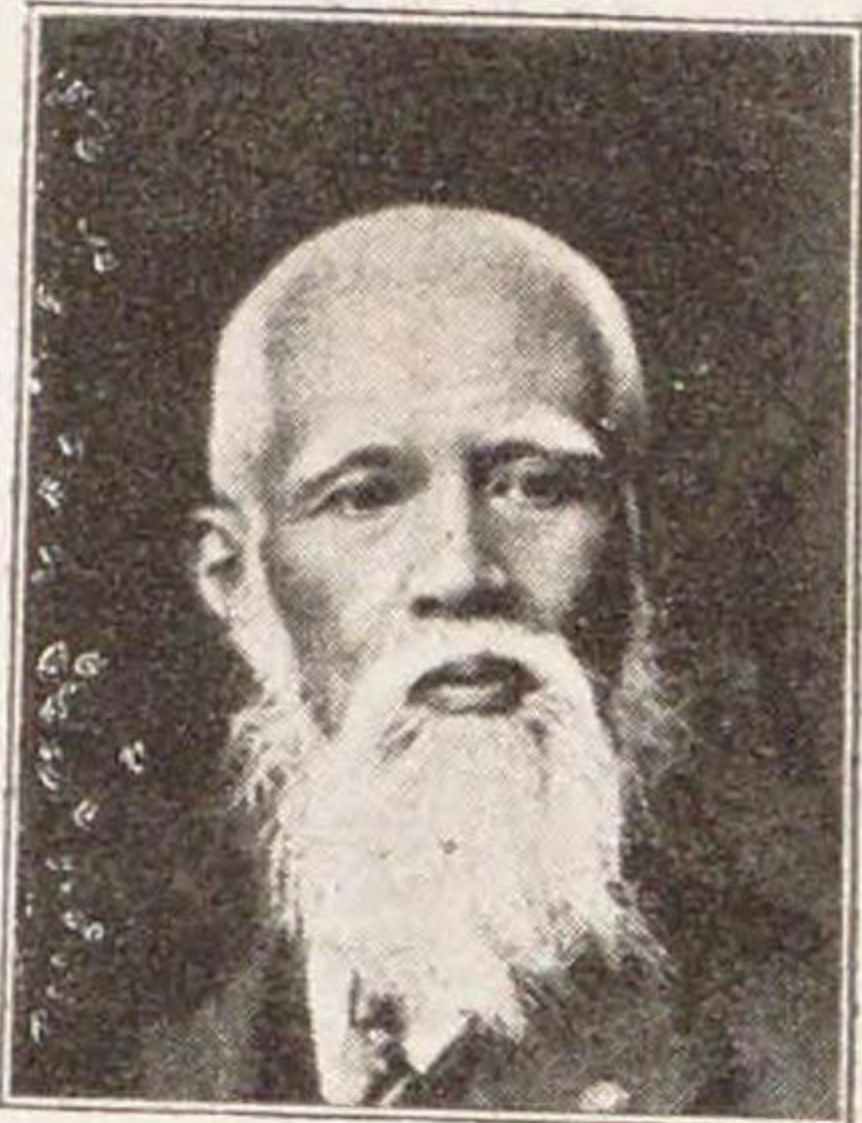
長崎縣長崎市選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、會社員



安政五年九月肥前縣長崎市ニ生ル○市會議員、長崎商業會議所議員、同會頭、日本大博覽會評議員ニ舉ケラル、現ニ十八銀行副頭取、長崎貯蓄銀行副頭取、長崎縣農工銀行取締役、長崎電燈株式會社社長、長崎製水株式會社社長、汽船漁業株式會社取締役、島原鐵道株式會社取締役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

中倉万次郎

長崎縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等農



嘉永二年十二月肥前國北松浦郡世知原村ニ生ル、漢學ヲ修ム○戸長、村長、長崎縣會議員、同常置委員ニ擧ケラル、又長崎縣農工銀行頭取ニ選ハル、衆議院議員ニ當選スルコト五回

中野貫一

新潟縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、鑛業



弘化四年九月越後國中蒲原郡金津村ニ生ル、朝日實學館ニ學フ○戸長、村長ニ擧ケラル、又專ラ石油鑛業ノ發達ニ努力シ現ニ日本石油株式會社、寶田石油株式會社、中央石油株式會社、豐鑛石油株式會社ノ重役タリ、歐米ニ漫遊ス

長島鷺太郎

千葉縣選出、立憲政友會所屬
士族、法學士、辯護士



明治元年四月安房國安房郡勝山町ニ生ル、帝國大學法科大學卒業○司法省參事官試補ヲ命セラル、日本法律學校、明治法律學校、和佛法律學校、東京法學院、專修學校講師及日本法律學校幹事ト爲ル、又廣軌鐵道改築準備委員會委員、法律取調委員會委員被仰付、列國議會同盟會議ニ參列ス、歐米ニ漫遊ス、衆議院議員ニ當選スルコト二回

中山梅治郎

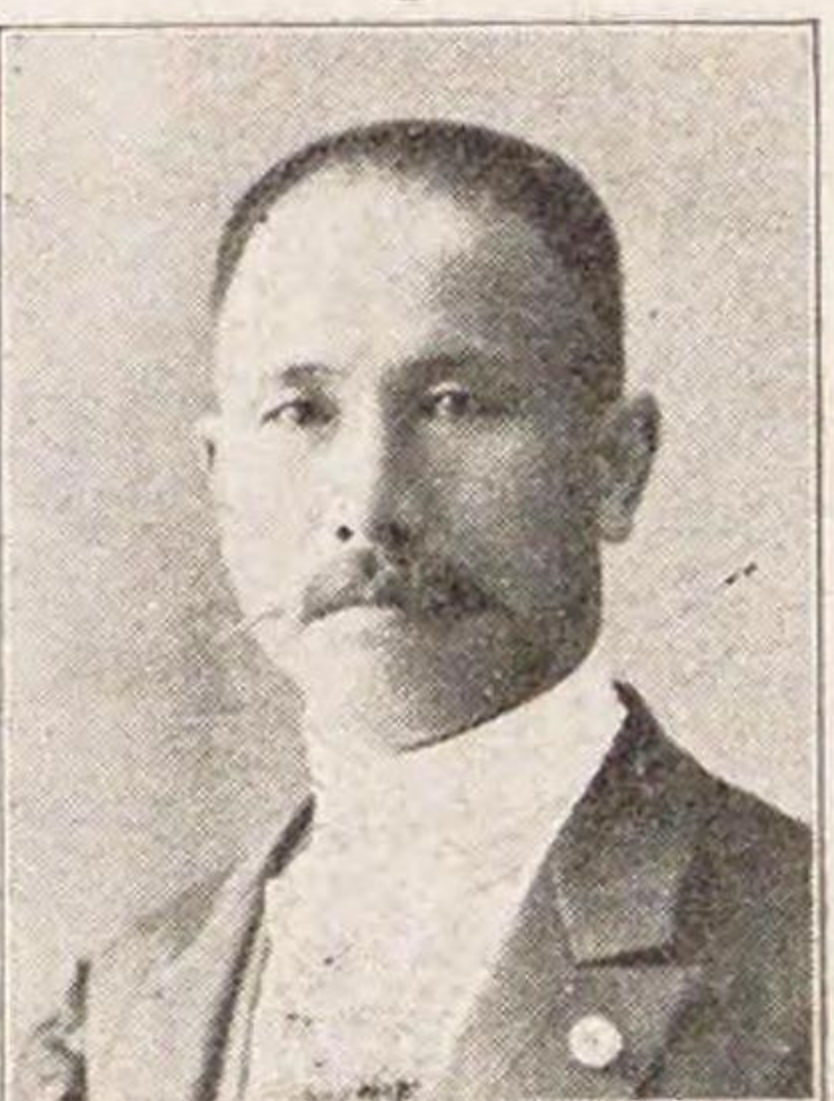
奈良縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、農



明治二年五月大和國磯城郡川東村ニ生ル、漢學ヲ修ム○青年義會、青年修辨會ヲ創立シ青年教育ニ努力ス

中小路與平治

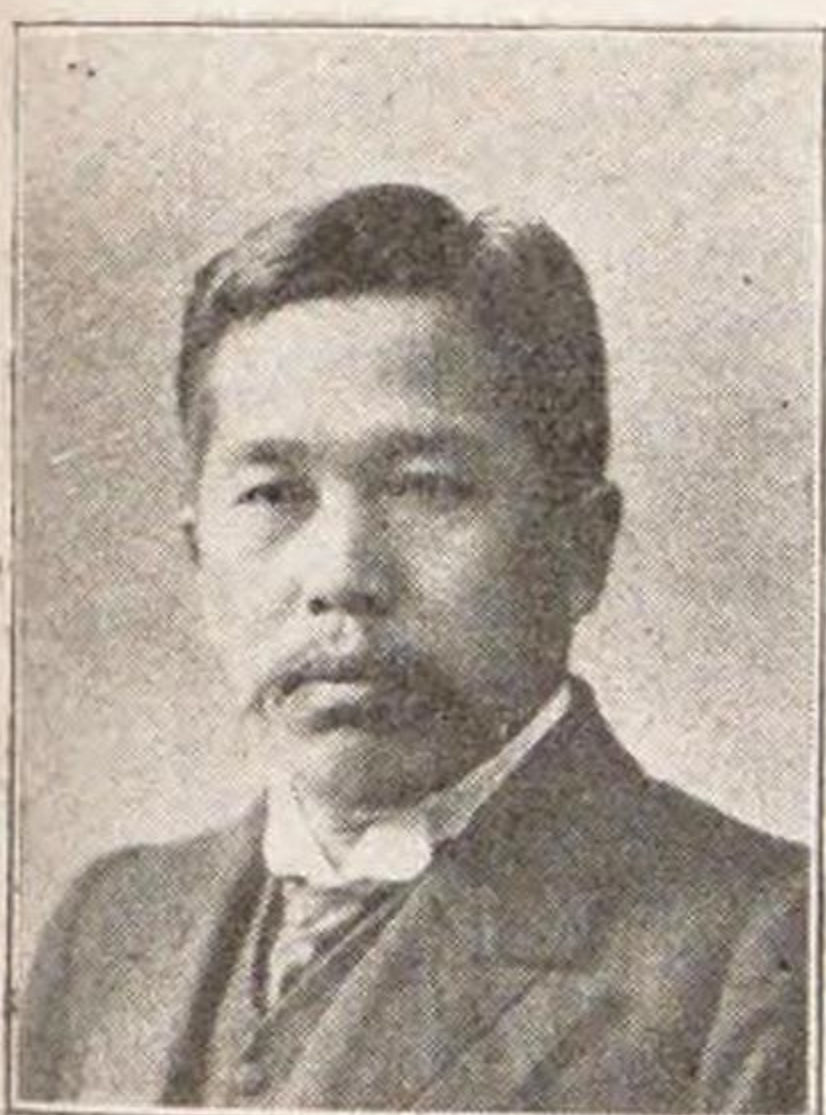
滋賀縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、勳七等農



明治元年八月近江國蒲生郡金田村ニ生ル、京都府立龜岡中學校及
滋賀縣立商業學校ニ學フ○金田村長、郡會議員、同議長ニ舉ケラ
ル、又村農會長、縣農會評議員ニ選ハル、現ニ蒲生銀行取締役、八幡
鑄物合資會社社長タリ

中村啓次郎

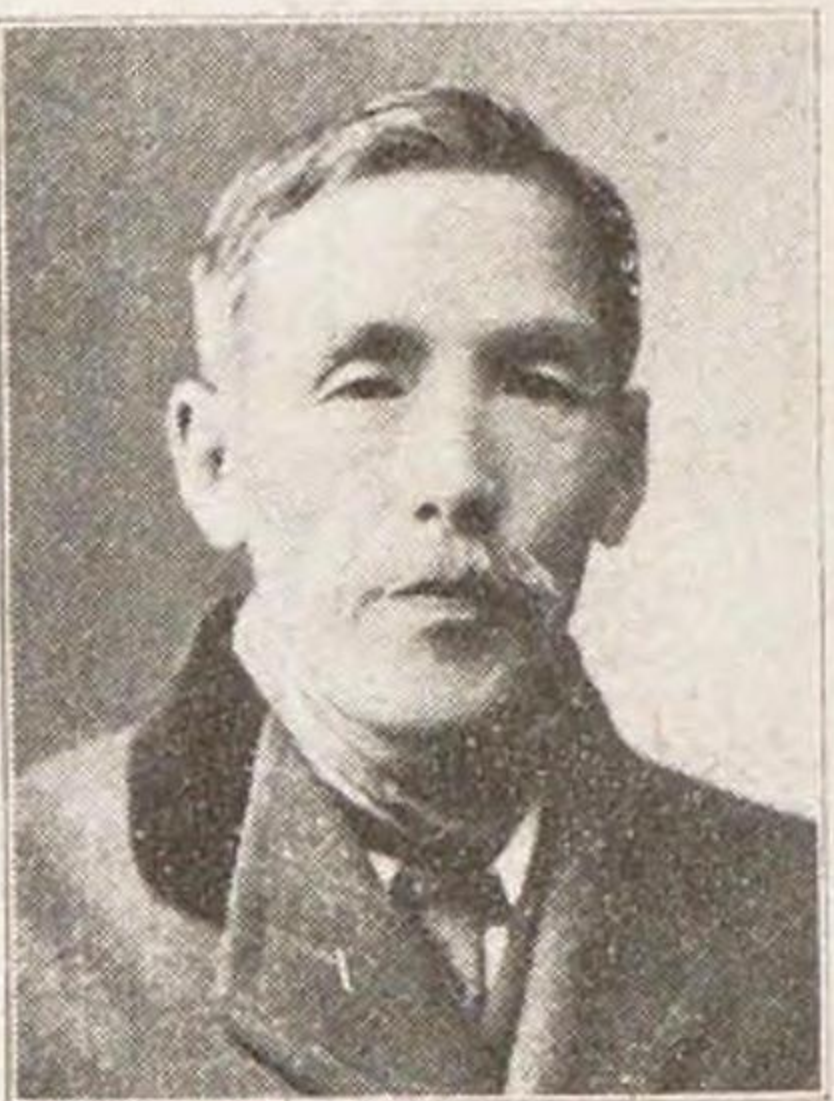
和歌山縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、勳八等、辯護士



慶應三年十月紀伊國和歌山市ニ生ル、英吉利法律學校卒業○現ニ
北港製糖株式會社、臺灣瓦斯株式會社各監查役タリ、又臺灣官煙
販賣合名會社及臺灣信託株式會社顧問ト爲ル、衆議院議員ニ當選
スルコト二回

中川虎之助

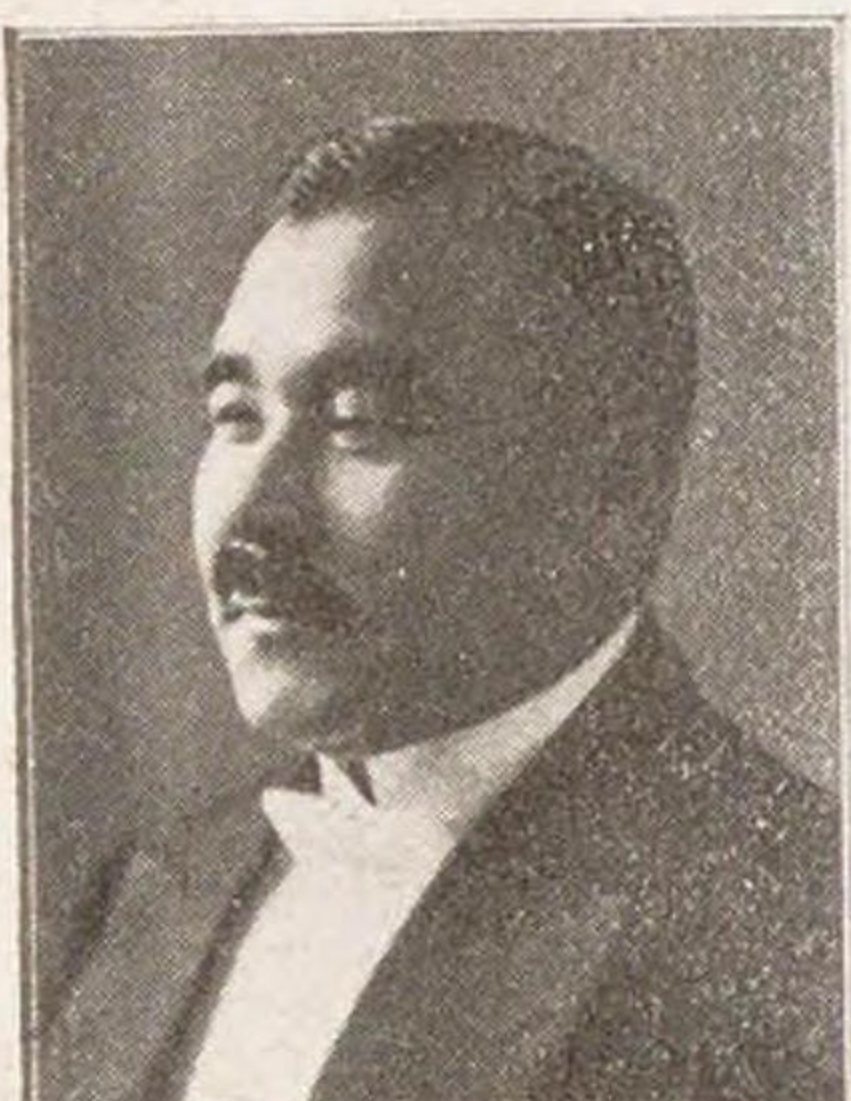
德島縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、酒造業



安政六年一月阿波國板野郡大山村ニ生ル○阿波國砂糖同業組合
長ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

成田榮信

愛媛縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、雜誌記者



明治二年十一月伊豫國北宇和郡下灘村ニ生ル、關西法律學校、英
吉利法律學校ニ學フ、後水産講習所卒業○生命保險事業ニ從事シ
後鐵道會社取締役ト爲ル、現ニ東京社ヲ創立シ週刊雜誌ヲ發刊ス

永江純一

福岡縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民會社員

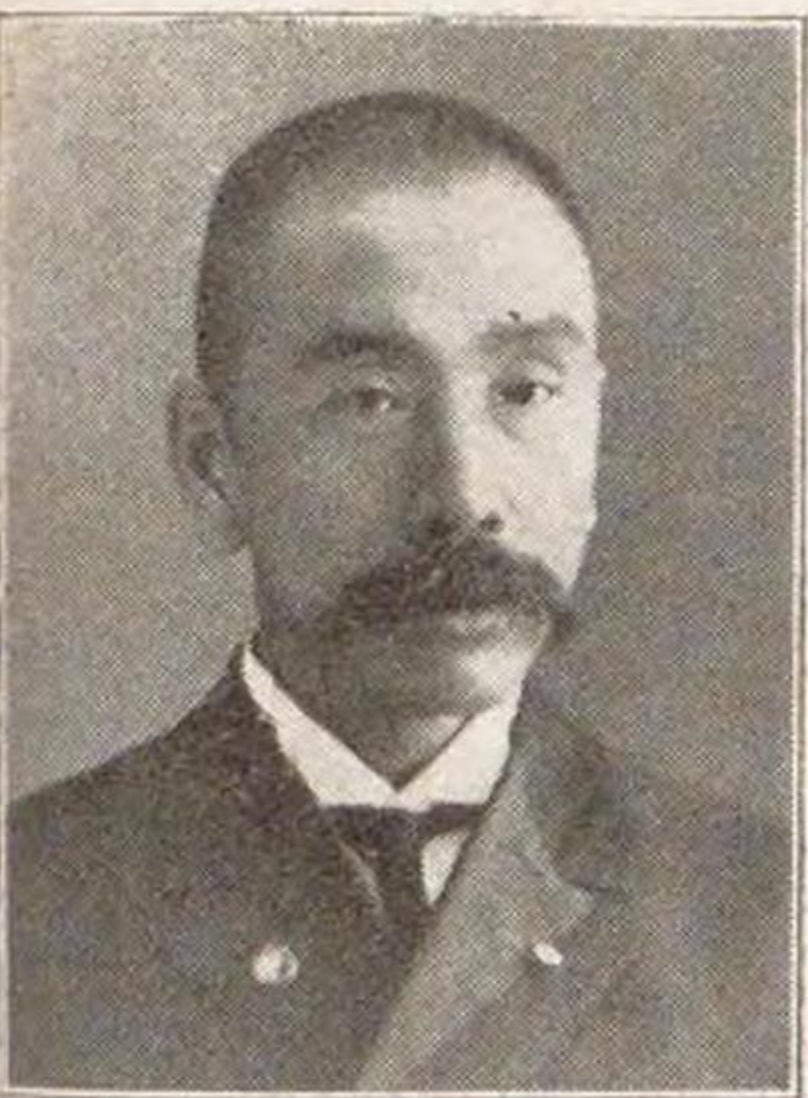


嘉永六年二月筑後國三池郡江浦村ニ生ル、漢學數學ヲ修ム、○福岡縣會議員ニ舉ケラル、日本大博覽會評議員被仰付、又株式會社三池銀行頭取、三池土木株式會社取締役、三池紡績株式會社取締役、九州紡績株式會社取締役、鐘淵紡績株式會社取締役ニ選ハル、衆議院議員ニ當選スルコト四回

三百四十四

村野常右衛門

東京府郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等農



安政六年七月武藏國南多摩郡鶴川村ニ生ル、耕餘義塾ニ學フ○戶長ニ任セラル、後村會議員、縣會議員、同常置委員ニ舉ケラル、衆議院議員選舉法改正調査委員被仰付、現ニ横濱鐵道株式會社監查役、横濱倉庫株式會社專務取締役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト六回

紫安新九郎

大阪府大阪市選出、立憲國民黨所屬
平民



明治六年八月但馬國城崎郡豐岡町ニ生ル、東京專門學校政治科卒業○雜誌二十世紀主筆、鎮西日報主筆、萬朝報記者ト爲ル、後大阪市吏員ト爲リ商工課長ニ補セラレ次テ大阪市南區長ヲ命セラル

武藤金吉

群馬縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



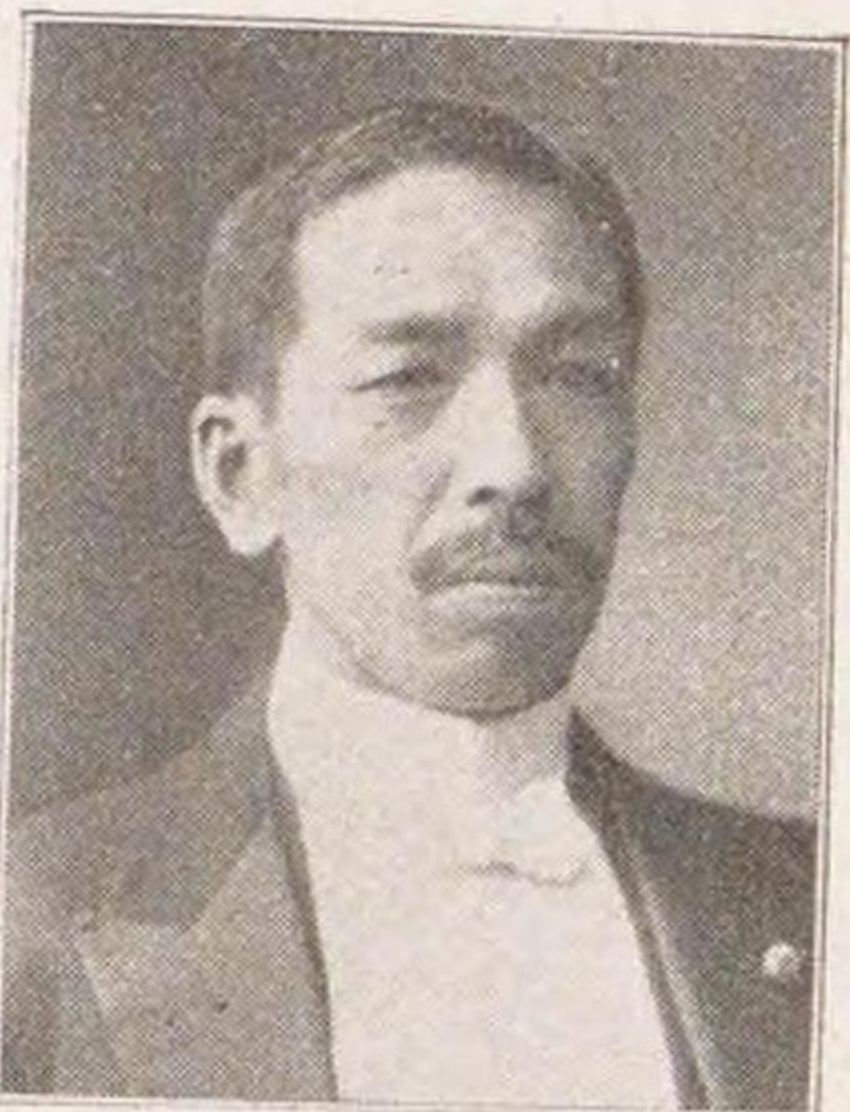
慶應二年五月上野國山田郡休泊村ニ生ル ○新聞記者タルコト數年、後實業新聞ヲ發刊シ其社長ト爲ル、生産調査會委員被仰付、歐米及清國ニ漫遊ス、又列國議會同盟會議ニ參列ス、衆議院議員ニ當選スルコト三回

第二編 議員履歷(なむノ部)

三百四十五

村井善四郎

奈良縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、勳七等、農



村田虎次郎

滋賀縣大津市選出、立憲政友會所屬
平民、勳六等

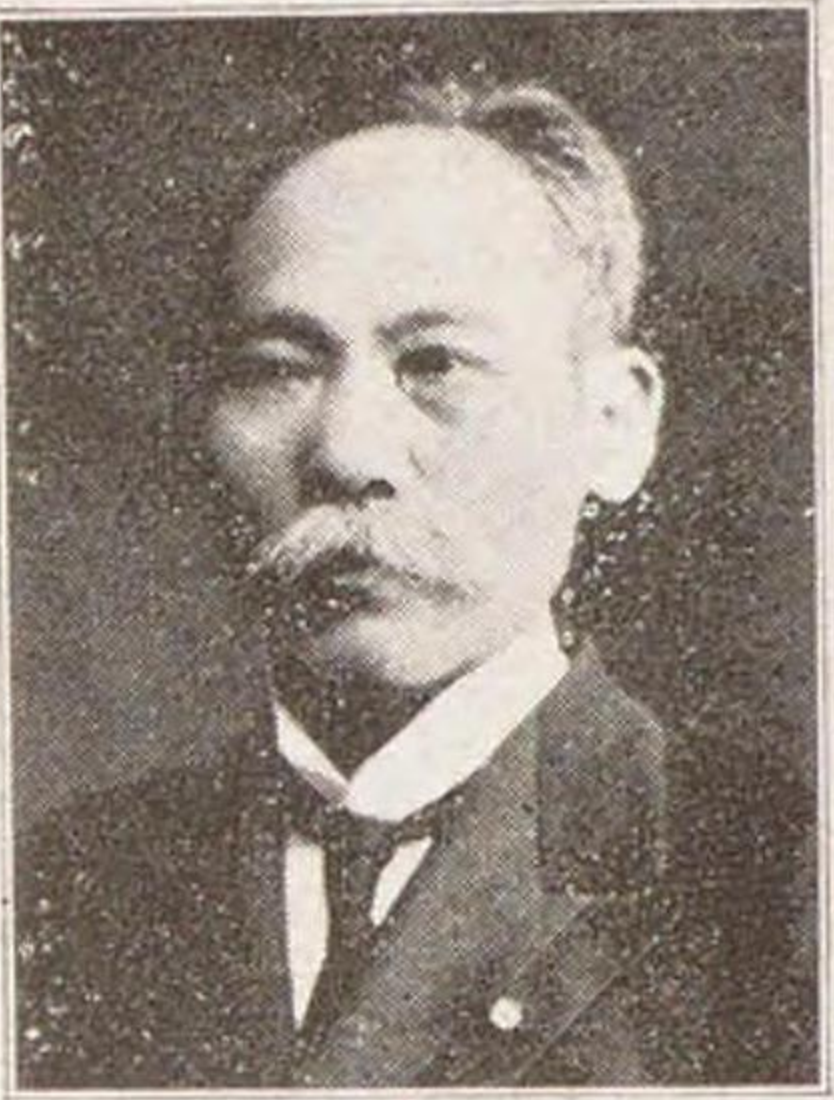
明治四年三月大和國東葛城郡新庄村ニ生ル ○村長、郡會議員、奈良縣會議員ニ舉ケラル、又二三銀行及會社重役ニ選ハル、衆議院議員ニ當選スルコト二回



村松龜一郎

宮城縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、勳四等、辯護士

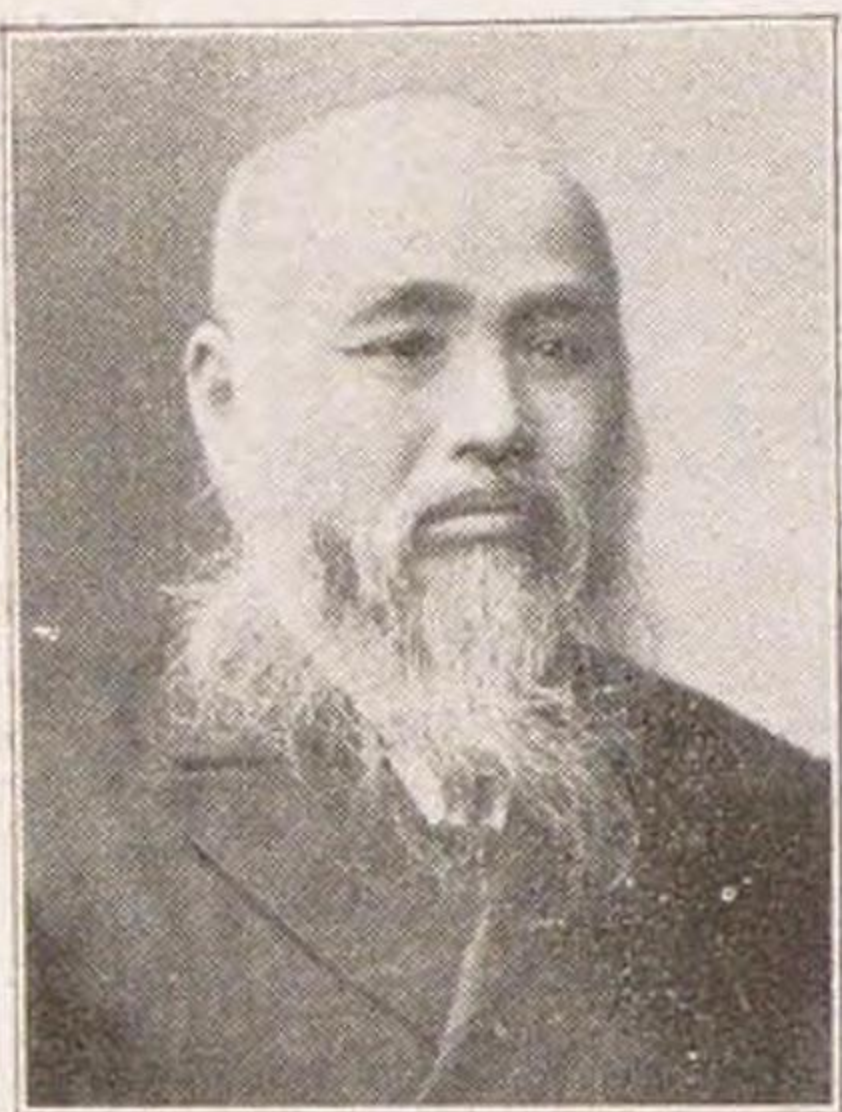
明治二年十一月近江國大津市ニ生ル ○大津市長ニ舉ケラル、現ニ大津商業會議所議員タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回



漆昌巖

東京府郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、會社員

嘉永六年一月陸前國登米郡錦織村ニ生ル、法律學修業 ○仙臺市會議員、同議長、宮城縣會議員、同副議長、同議長ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選スルコト六回



嘉永三年一月美濃國石津郡江内村ニ生ル、増上寺學寮ニ於テ佛籍ヲ學フ ○法禪寺住職ト爲ル、後町會議員、郡會議員、同議長ニ舉ケラル、又品川馬車鐵道株式會社社長ニ選ハル、現ニ日本製氷株式會社取締役、大井銀行取締役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト五回

植場平

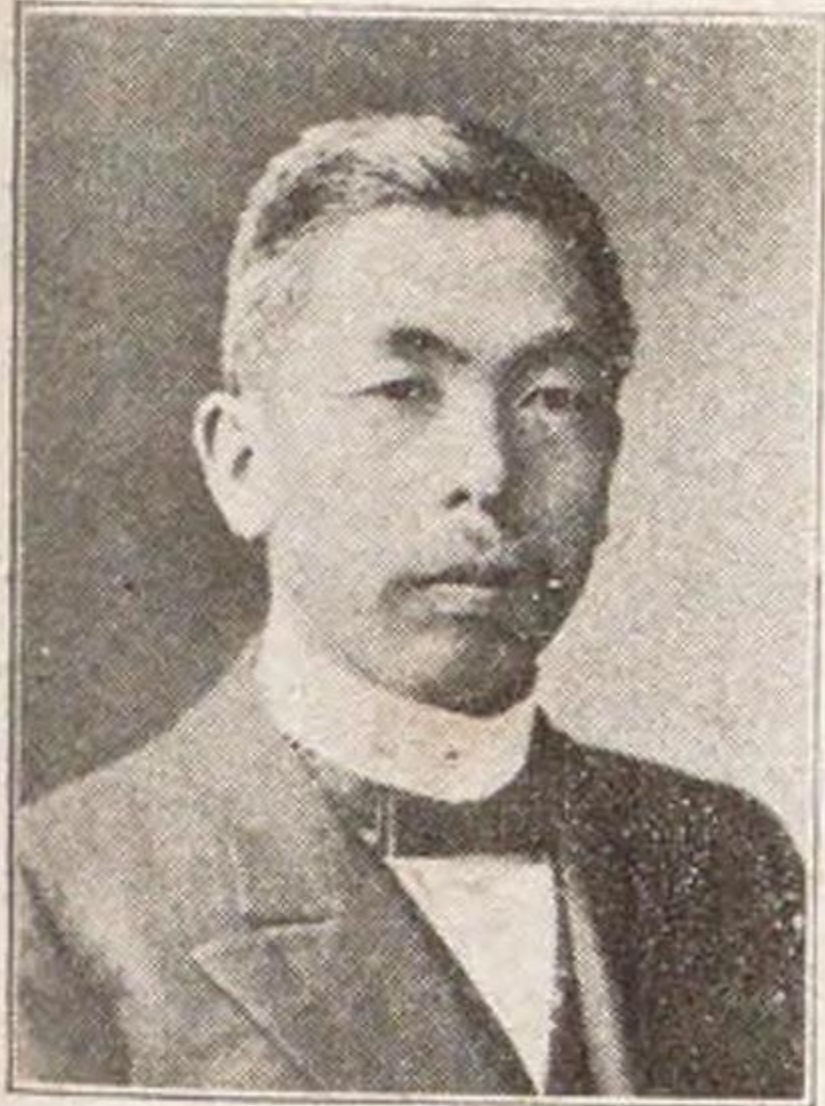
大阪府郡部選出、立憲政友會所屬
平民勳四等農



安政二年三月讃岐國香川郡佛生山町ニ生ル、漢學ヲ修ム○大阪府警部補ニ任セラル、後郡聯合會議員、大阪府會議員、同常置委員ニ舉ケラル、又高槻町長ト爲ル、衆議院議員ニ當選スルコト五回

鵜澤總明

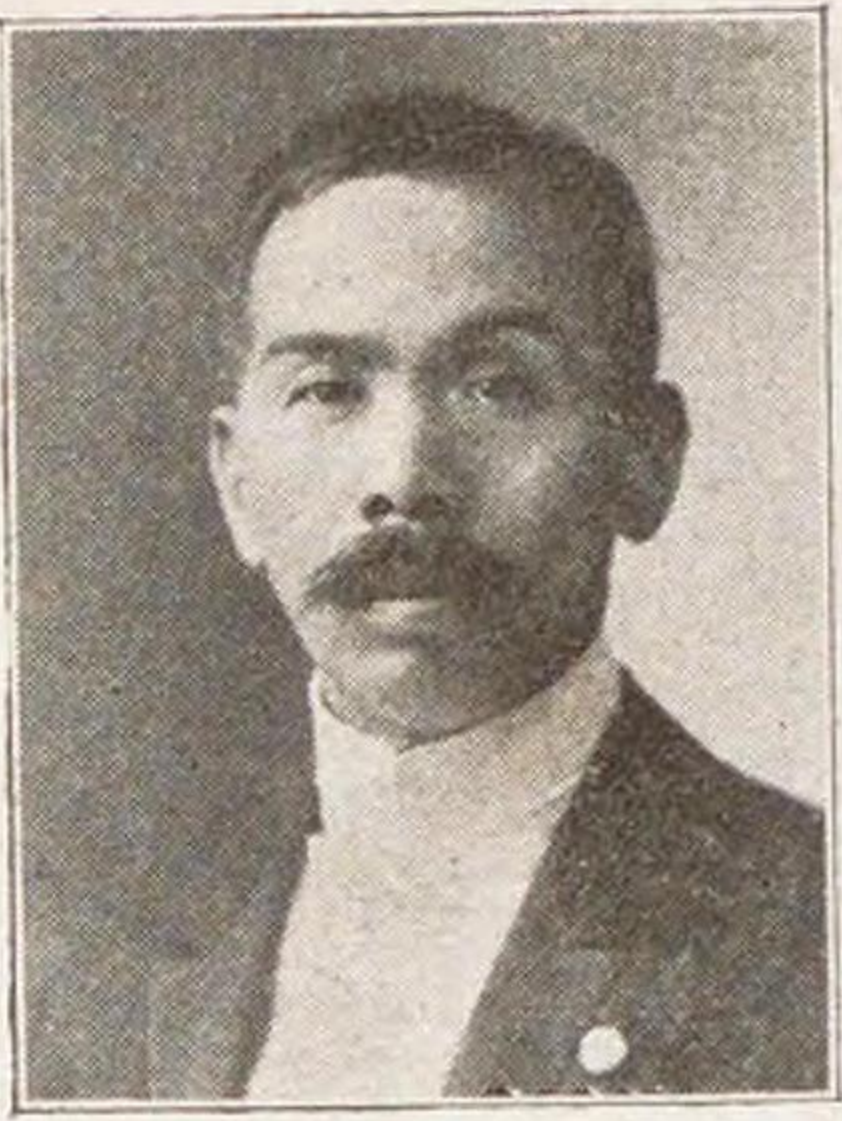
千葉縣選出、立憲政友會所屬
平民、法學博士、辯護士



明治五年八月上總國長生郡新治村ニ生ル、東京帝國大學法科大學及大學院卒業○立教學校、青山學院、慶應義塾大學、明治大學講師ト爲ル、現ニ明治大學理事、明治中學校長タリ、又法律取調委員、議院建築準備委員會委員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト二回

鵜澤宇八

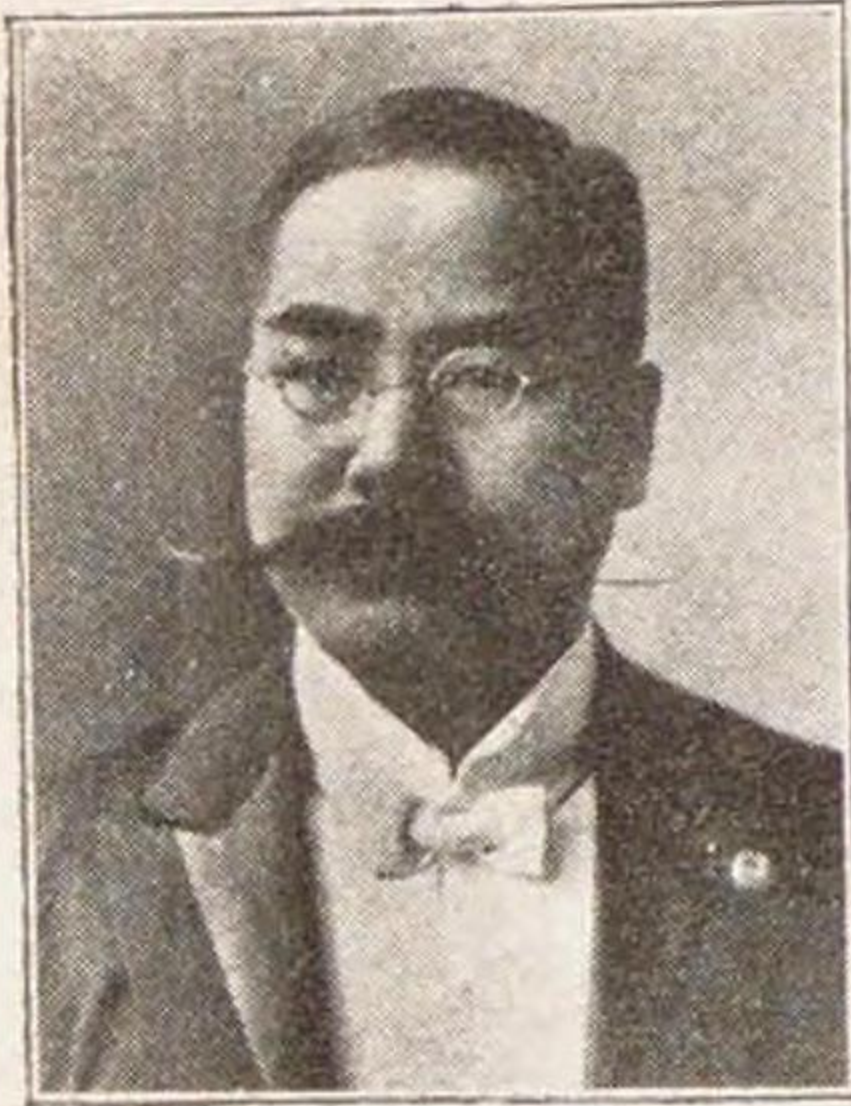
千葉縣選出、立憲國民黨所屬
平民、回漕業



慶應三年五月下總國香取郡栗源村ニ生ル、東京專門學校、慶應義塾ニ學ブ○郡會議員、同議長、千葉縣會議員ニ舉ケラル、滿韓ニ巡遊ス

上埜安太郎

富山縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、農業

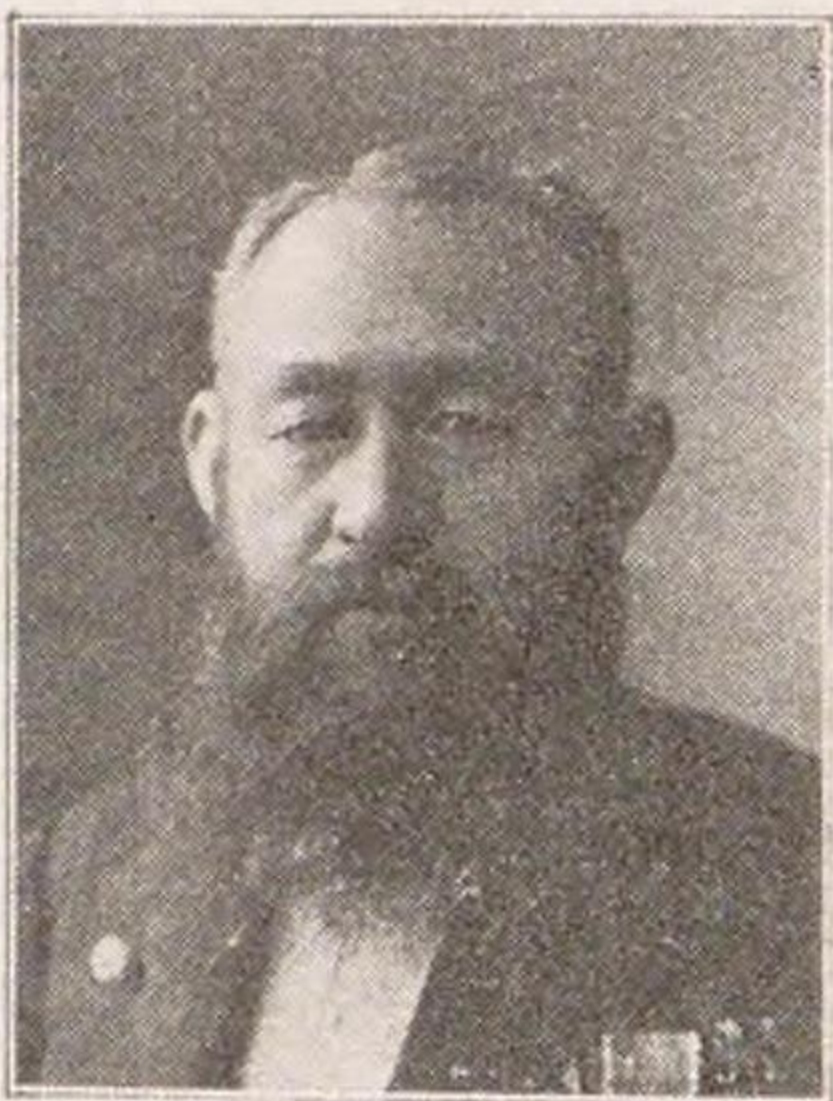


慶應元年十一月越中國西礪波郡西五位村ニ生ル○富山縣會議員、同副議長、同議長ニ舉ケラル、北越組長、東洋漁業株式會社々長ト爲ル、又北陸公論、越中新報ヲ發刊シ現ニ北陸政報ヲ經營ス、生産調査會委員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト五回

内山吉太

北海道函館支廳外三支廳選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、漁業

三百五十



文久二年三月越後國北蒲原郡南濱村ニ生ル、漢學ヲ修ム○北海道機械網株式會社監查役、東洋捕鯨會社取締役ニ舉ケラル、又樺太漁業組合總代、函館商業俱樂部會頭ト爲ル、衆議院議員ニ當選スルコト三回

野添宗三

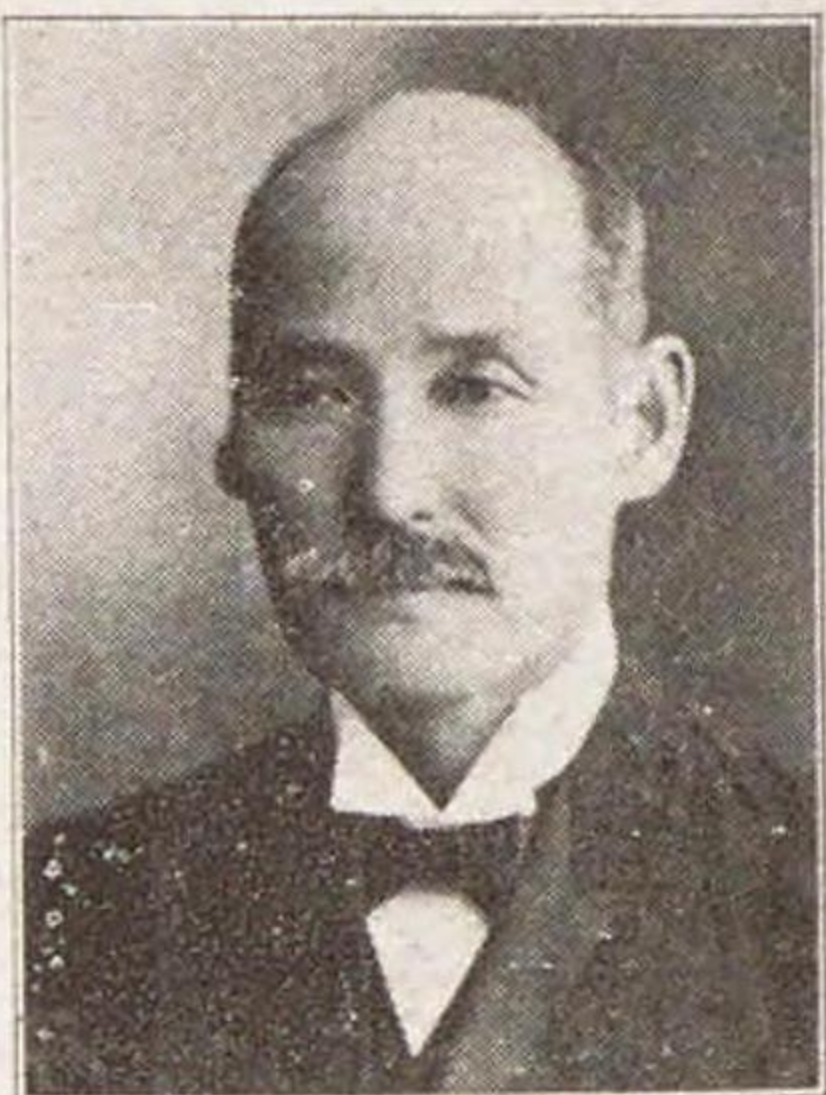
兵庫縣神戸市選出、立憲國民黨所屬
士族、正七位、辯護士



明治三年三月丹波國氷上郡和田村ニ生ル、明治法律學校卒業○檢事、判事ニ歷任ス、現ニ神戸市會議員、神戸辯護士會會長タリ、清韓ニ漫遊ス、衆議院議員ニ當選スルコト二回

則元由庸

長崎縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、辯護士



文久二年二月肥後國熊本市ニ生ル、明治法律學校ニ學フ○長崎市會議員ニ舉ケラル、又九州鐵道株式會社取締役ニ選ハル、現ニ九州瓦斯株式會社取締役タリ

野村嘉六

富山縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、正七位、辯護士



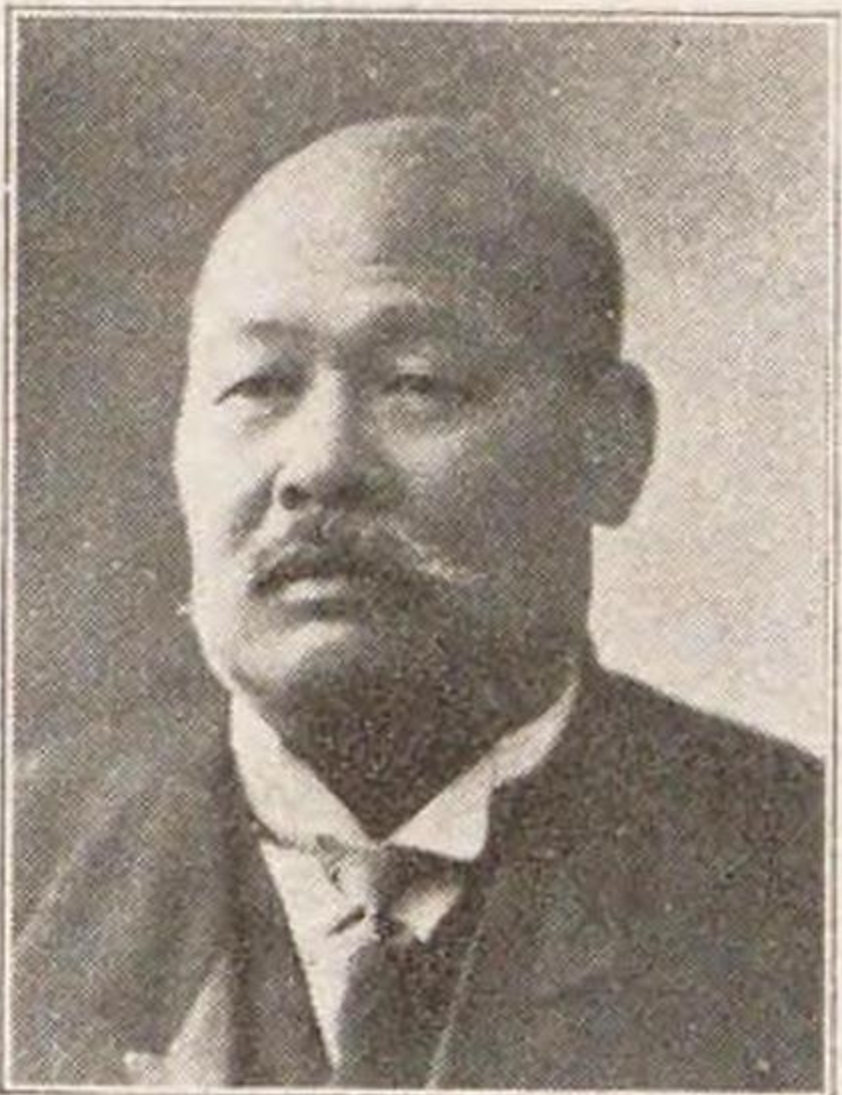
明治六年八月越中國婦負郡鶴坂村ニ生ル、中央大學卒業○判事ニ任セラル、後富山縣會議員、富山辯護士會長ニ舉ケラル

第二編 議員履歷(う、のノ部)

三百五十一

野田卯太郎

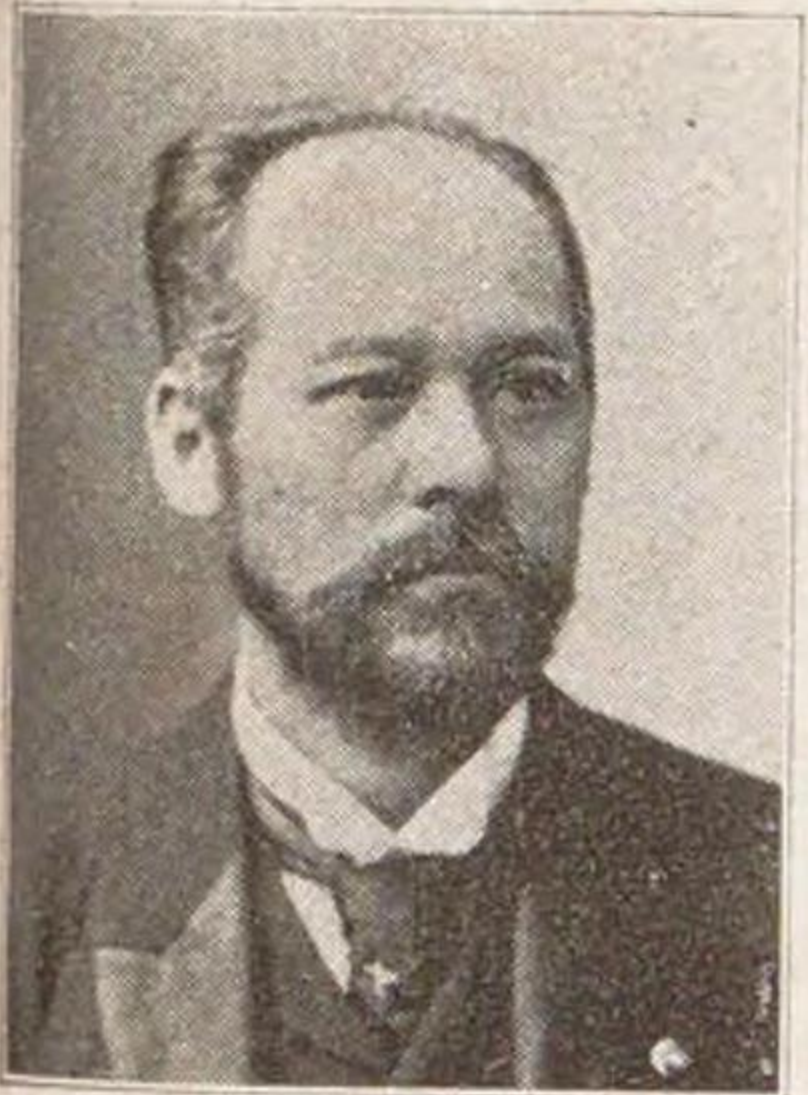
福岡縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、會社員



嘉永六年十一月筑後國三池郡岩田村ニ生ル、漢學ヲ修ム○日本大博覽會評議員、生産調査會委員、廣軌鐵道改築準備委員會委員被仰付、又東洋拓殖株式會社設立委員ヲ命セラレ設立後同社監事タリ、衆議院議員ニ當選スルコト七回

藏原惟郭

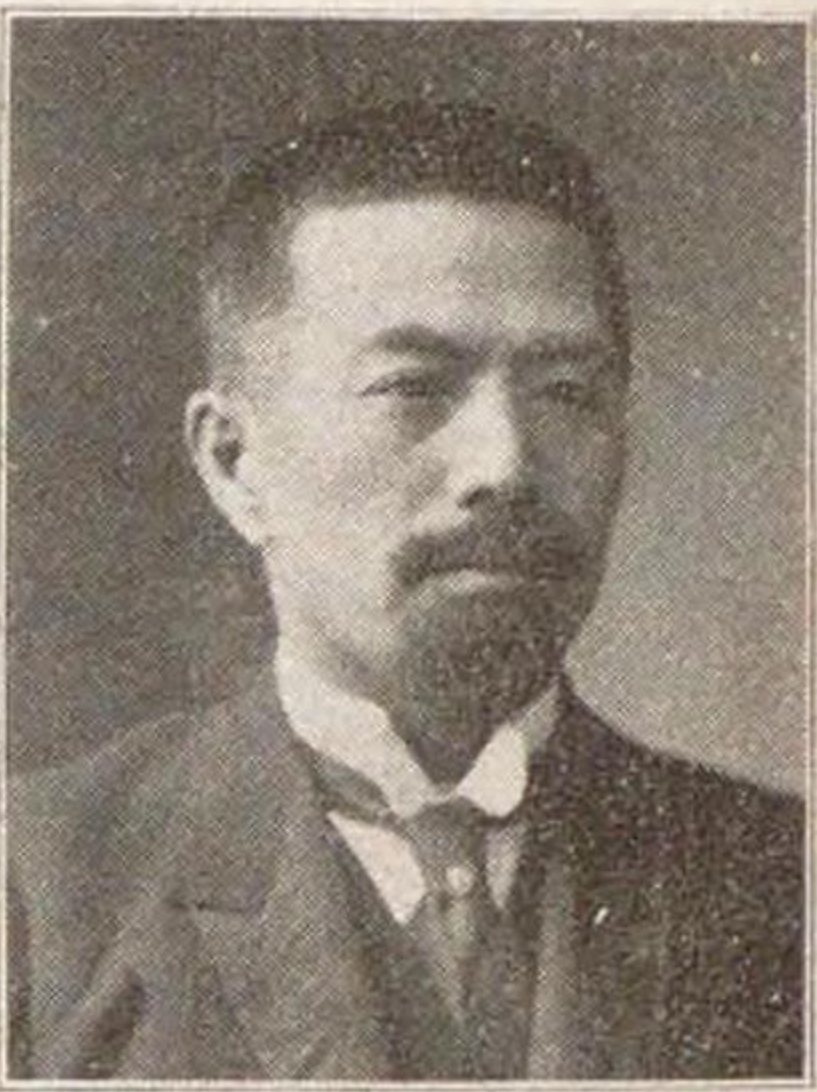
東京府東京市選出、立憲國民黨所屬
平民、講師



文久元年七月、肥後國阿蘇郡黒川村ニ生ル、同志社卒業後米國ニ遊ヒ紐育大學大學院ニ入學シ「ドクトル、オフ、フ井ロソフ井」學位ヲ得更ニ英國「スコットランド、エジンバラ」大學院ニ學フ○熊本英學校長、熊本女學校長、岐阜縣中學校長、東京美術學校講師、早稻田大學講師、國學院講師、慶應義塾大學講師、帝國教育會主幹ト爲ル、列國議會同盟會議ニ參列ス、又雜誌新時代ヲ發刊ス、衆議院議員ニ當選スルコト二回

黒須龍太郎

東京府東京市選出、立憲國民黨所屬
平民、辯護士



明治元年六月武藏國北足立郡瓦葺村ニ生ル、埼玉縣師範學校卒業後中央大學及東京英語學校ニ學フ○小學校校長ニ任セラレ、後區會議員、東京市會議員、同市參事會員ニ舉ケラル、歐米ニ漫遊ス

日下義雄

福島縣若松市選出、立憲政友會所屬
士族、從四位、勳四等、會社員



嘉永四年十二月岩代國若松市ニ生ル、英漢學ヲ修メ後米英兩國ニ留學ス○太政官權少書記官、同權大書記官、遞信大書記官、長崎縣知事、福島縣知事、辦理公使ニ歷任ス、現ニ第一銀行取締役、東京貯蓄銀行專務取締役其他數會社ノ重役タリ

工藤吉次

巖手縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、辯護士



三百五十四

工藤善太郎

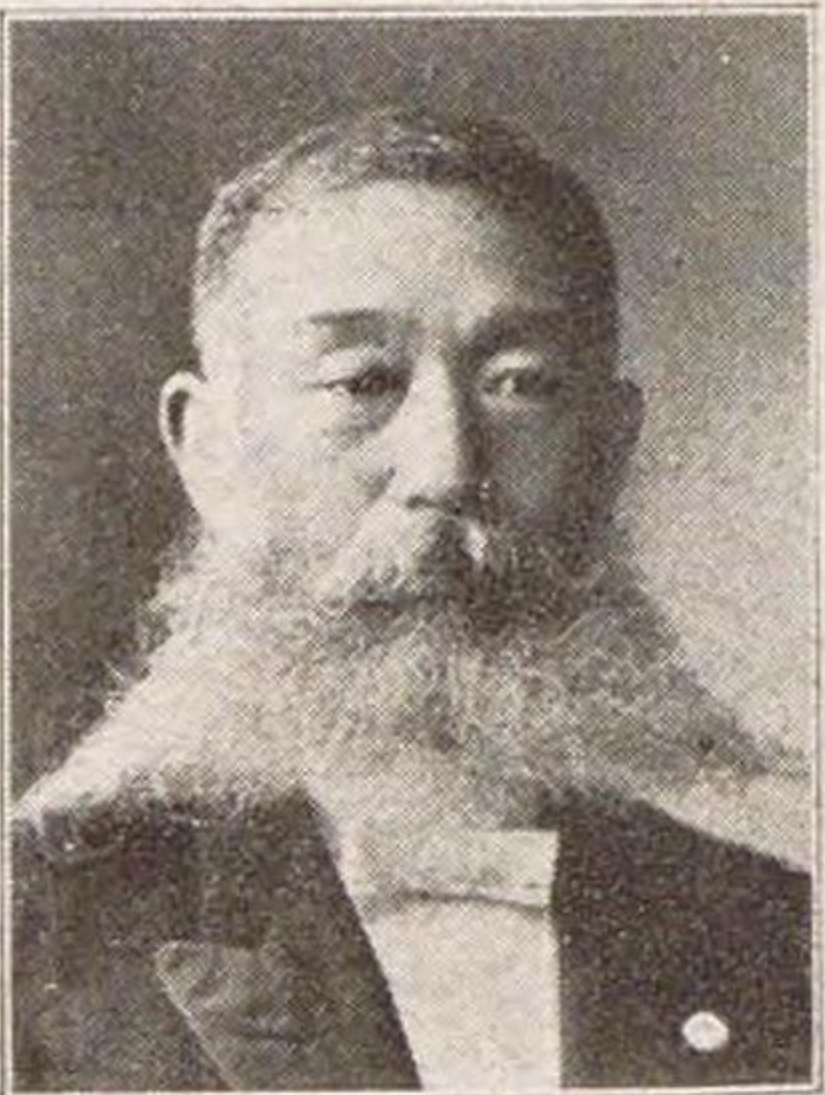
青森縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



萬延元年九月陸奥國南津輕郡大杉村ニ生ル、青森縣師範學校ニ學
フ○村會議員、郡會議員、青森縣會議員、同參事會員ニ學ケラル、又
産業組合中央大會代表者ニ選ハル、清韓ニ漫遊ス

熊谷五右衛門

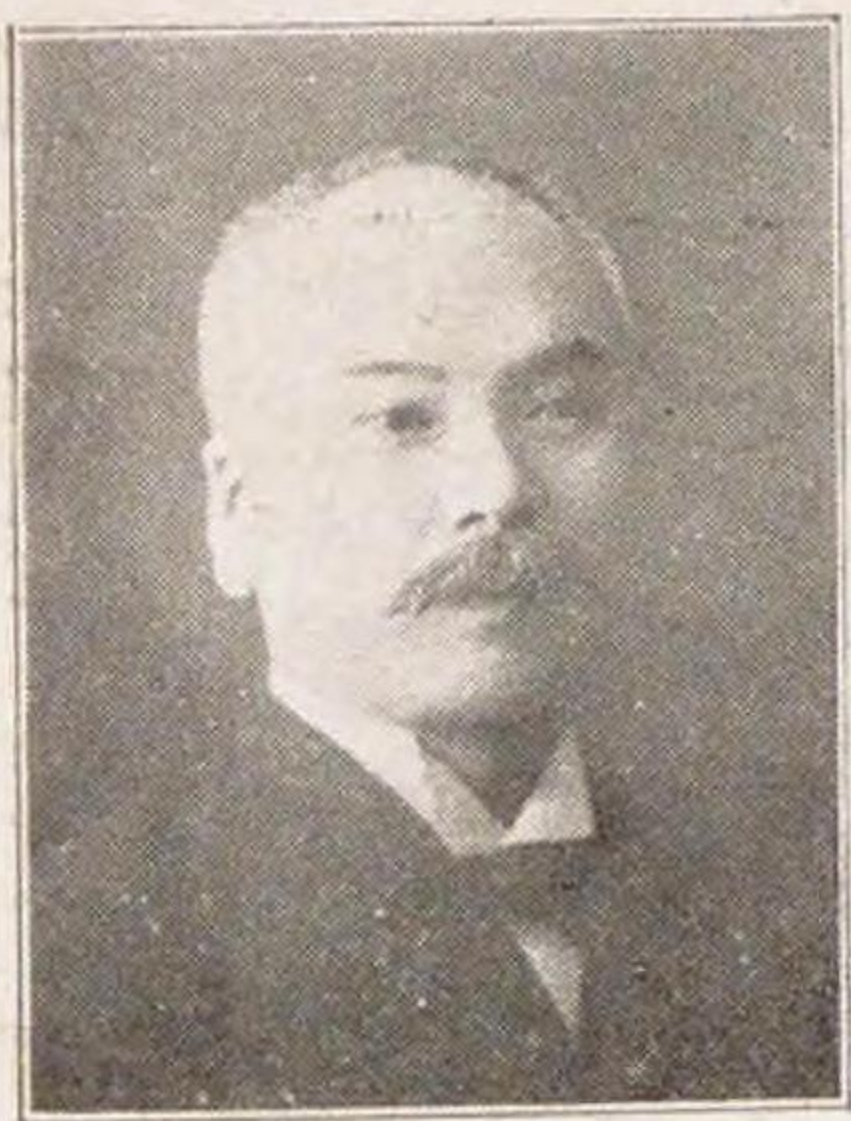
福井縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



慶應元年六月越前國坂井郡坪江村ニ生ル○村長、郡會議員、福井
縣會議員、同參事會員、同副議長、同議長ニ學ケラル、漁業及實業視
察、爲清韓ニ漫遊ス

串本康三

廣島縣廣島市選出、立憲政友會所屬
平民



文久二年九月安藝國安藝郡奥海田村ニ生ル○村會議員、廣島市會
議員、同縣會議員ニ學ケラル、又廣島汽船株式會社取締役、關西皮
革株式會社取締役、廣島電氣軌道株式會社監査役ニ選ハル、衆議
院議員ニ當選スルコト四回

第二編 議員履歷(くノ部)

三百五十五

國光五郎

山口縣郡部選出
士族正七位法學士

三百五十六



明治十三年九月長門國阿武郡萩町ニ生ル、東京帝國大學法科大學
卒業○佐賀縣事務官、廣島縣事務官ニ任セラレ

久保通猷

山口縣郡部選出
平民從五位勳五等



文久三年九月長門國厚狹郡厚西村ニ生ル、文官高等試験ニ合格ス
○検査官補、臺灣總督府鐵道部事務官、栃木縣警部長、富山縣警部
長、同事務官、高知縣事務官、臺灣南投廳長ニ歷任ス、現ニ興風中學
校理事長タリ

藏内治郎作

山口縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民鑛業



弘化四年一月豐前國築上郡下城井村ニ生ル、和漢學ヲ修ム○庄屋
ヲ勤ム、現ニ豐前國田川郡ニ於テ石炭採掘業ヲ經營ス、衆議院議
員ニ當選スルコト二回

山宮藤吉

神奈川縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民農



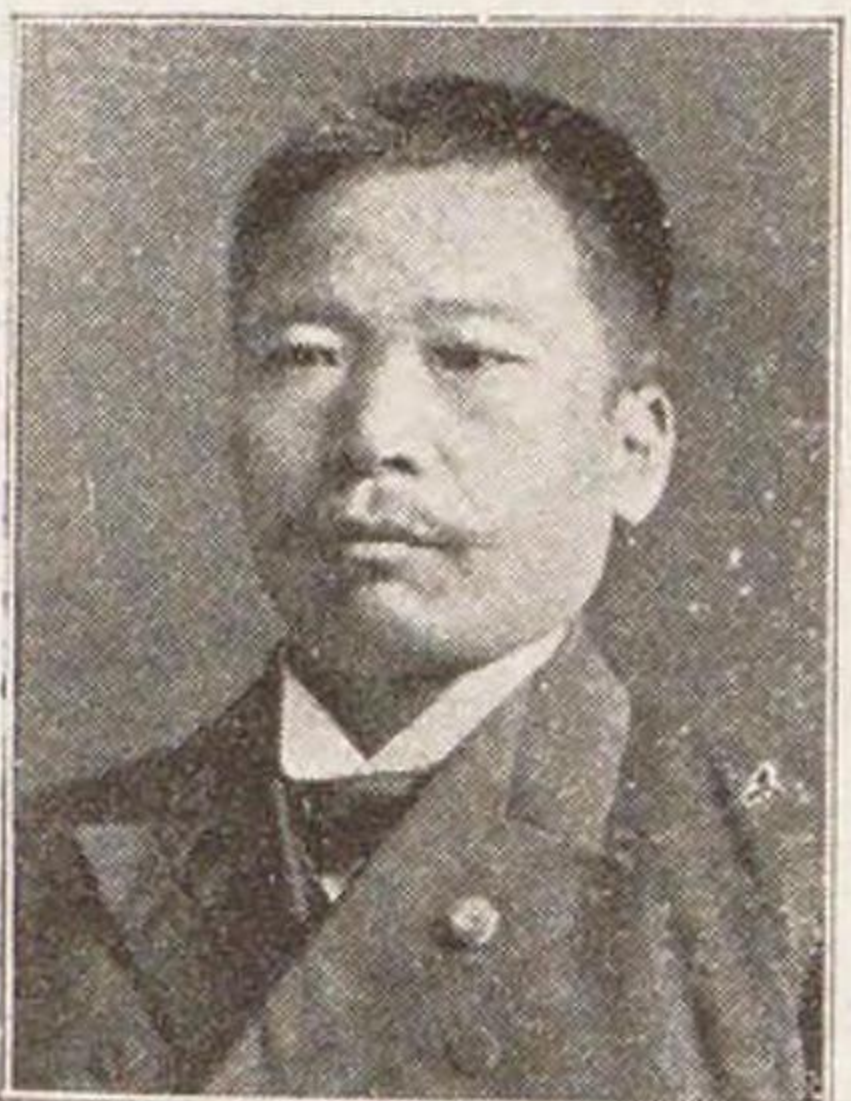
文久二年三月相模國高座郡茅ヶ崎町ニ生ル、○鶴嶺村長、神奈川
縣會議員ニ舉ケラル、現ニ株式會社江陽銀行常務取締役タリ

第二編 議員履歷(く、やノ部)

三百五十七

安村竹松

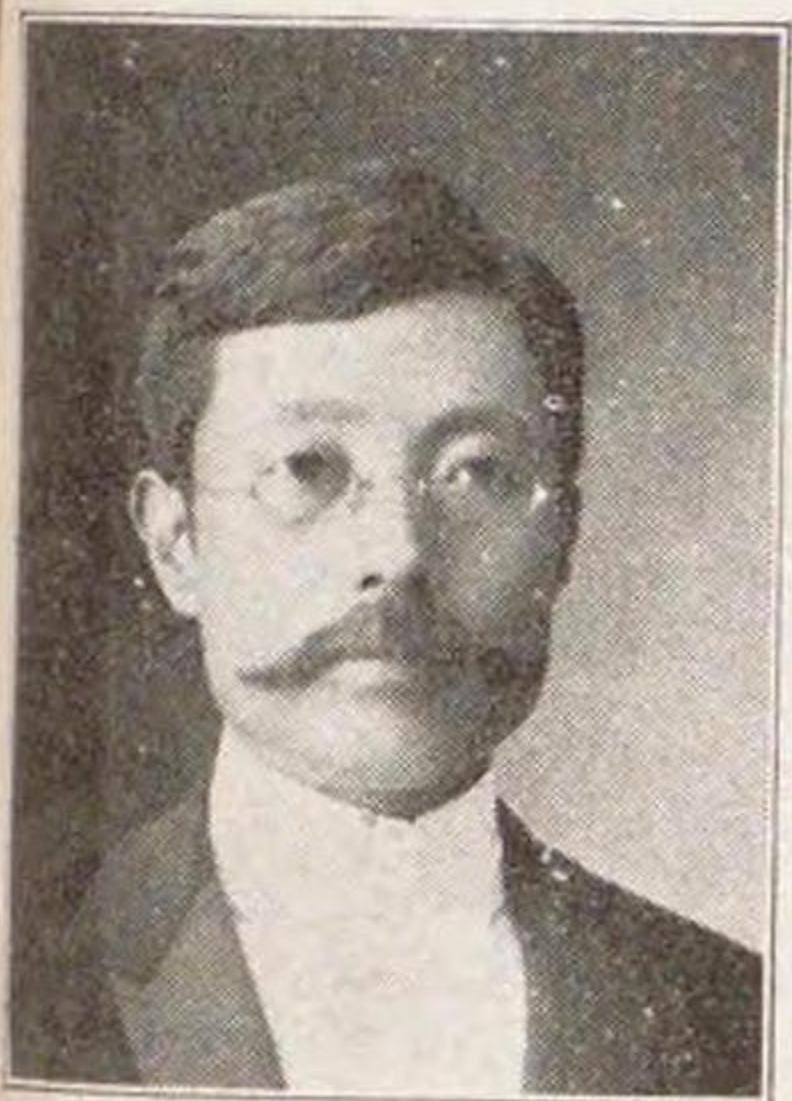
神奈川縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民辯護士



山本悌二郎

新潟縣佐渡選出、立憲政友會所屬
平民、正七位、勳四等、會社員

明治六年十月紀伊國日高郡南部町ニ生ル、明治法律學校卒業○司
法官試補ヲ命セラル



矢島八郎

群馬縣高崎市選出、中央俱樂部所屬
士族、勳六等

明治三年一月、佐渡國佐渡郡真野村ニ生ル、獨逸協會學校卒業後
獨國「ハルレー」及「ライプツヒ」大學ニ於テ經濟學、農學ヲ修業
シ「ライプツヒ」大學ニ於テ「ドクトル」、フイロソフイエ」ノ學位
ヲ受ク○宮内省御料局囑託、第二高等學校教授、日本勸業銀行鑑
定役ト爲ル、生産調査會委員被仰付、現ニ臺灣製糖株式會社、臺南
製糖株式會社各取締役タリ、衆議院議員ニ當選スルコト三回



八木逸郎

奈良縣奈良市選出、立憲政友會所屬
平民、醫業

嘉永三年十一月上野國高崎市ニ生ル、漢學ヲ修ム○町會議員、群
馬縣會議員、高崎町長、高崎市長ニ舉ケラル、高崎米穀取引所頭取、
上野鐵道株式會社取締役ニ選ハル、又高崎商工會、高崎自治會ヲ
創設シ會長ト爲ル、衆議院議員ニ當選スルコト二回



第二編 議員履歷(ヤノ部)

文久三年九月大和國奈良市ニ生ル、醫科大學別科卒業後獨逸國
「ロストック」大學ニ入り「ドクトル」ノ學位ヲ受ク○市會議員、郡
會議員、奈良縣會議員、同參事會員ニ舉ケラル、又奈良縣醫學會頭、
奈良市醫師會長ニ選ハル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

安田伊左衛門

岐阜縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、正七位、勳六等、農

三百六十



明治五年七月美濃國海津郡東江村ニ生ル、東京帝國大學農科大學
乙科卒業○騎兵少尉ヨリ同大尉ニ歷任シ明治二十七八年及三十
七八年戰役ニ從軍ス、郡會議員、郡參事會員ニ舉ケラル、又七十六
國立銀行取締役、株式會社全國肥料取次所取締役ニ選ハル、現ニ
尾張土管株式會社社長タリ

矢島浦太郎

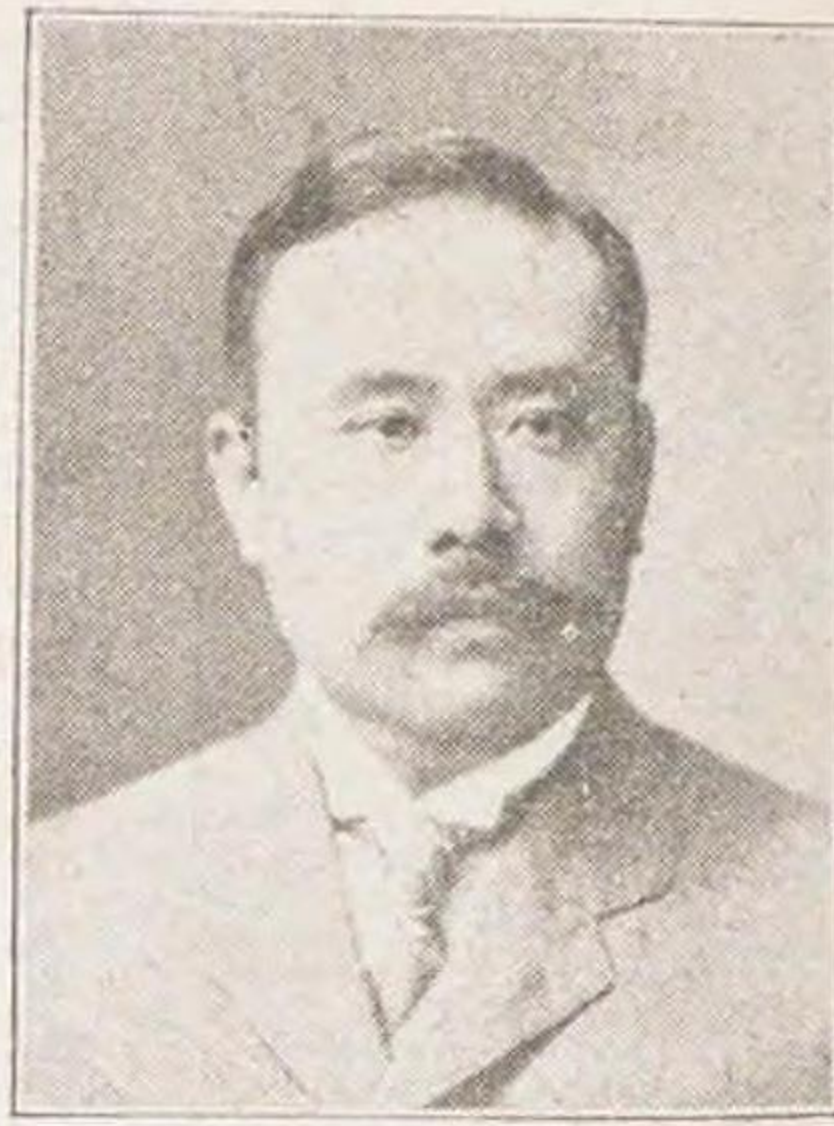
長野縣郡部選出、中央俱樂部所屬
平民、勳四等、辯護士



萬延元年二月生ル、法律學ヲ修ム○株式會社產業銀行、湊鐵道株
式會社、東京生命保險株式會社各取締役ニ舉ケラル、衆議院議員
ニ當選スルコト四回

山田禎三郎

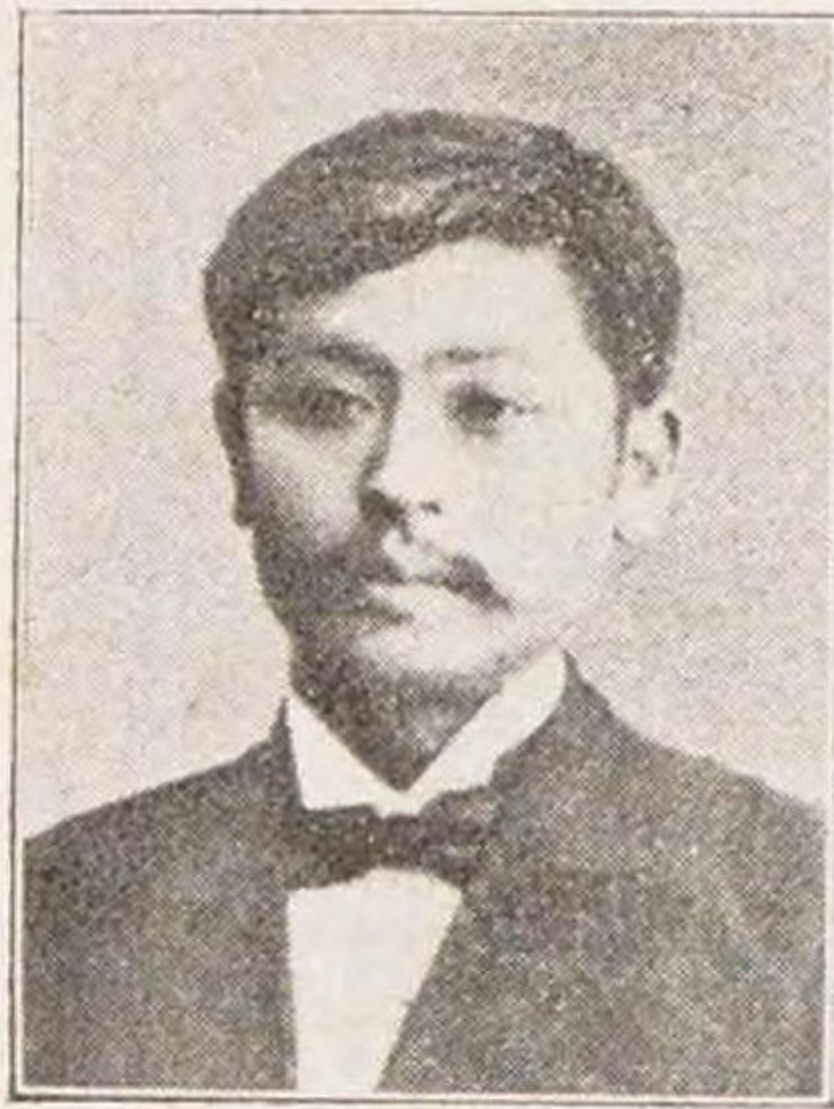
長野縣郡部選出、中央俱樂部所屬
士族、從七位、電氣事業



明治四年三月信濃國諏訪郡長地村ニ生ル、高等師範學校卒業後
英佛及獨ニ留學ス○千葉縣尋常師範學校教諭、茨城縣師範學校長
ニ任セラル、又帝國書籍株式會社取締役ニ選ハル、現ニ出版業及
電氣事業ニ從事ス

山本七朗

石川縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、酒造業

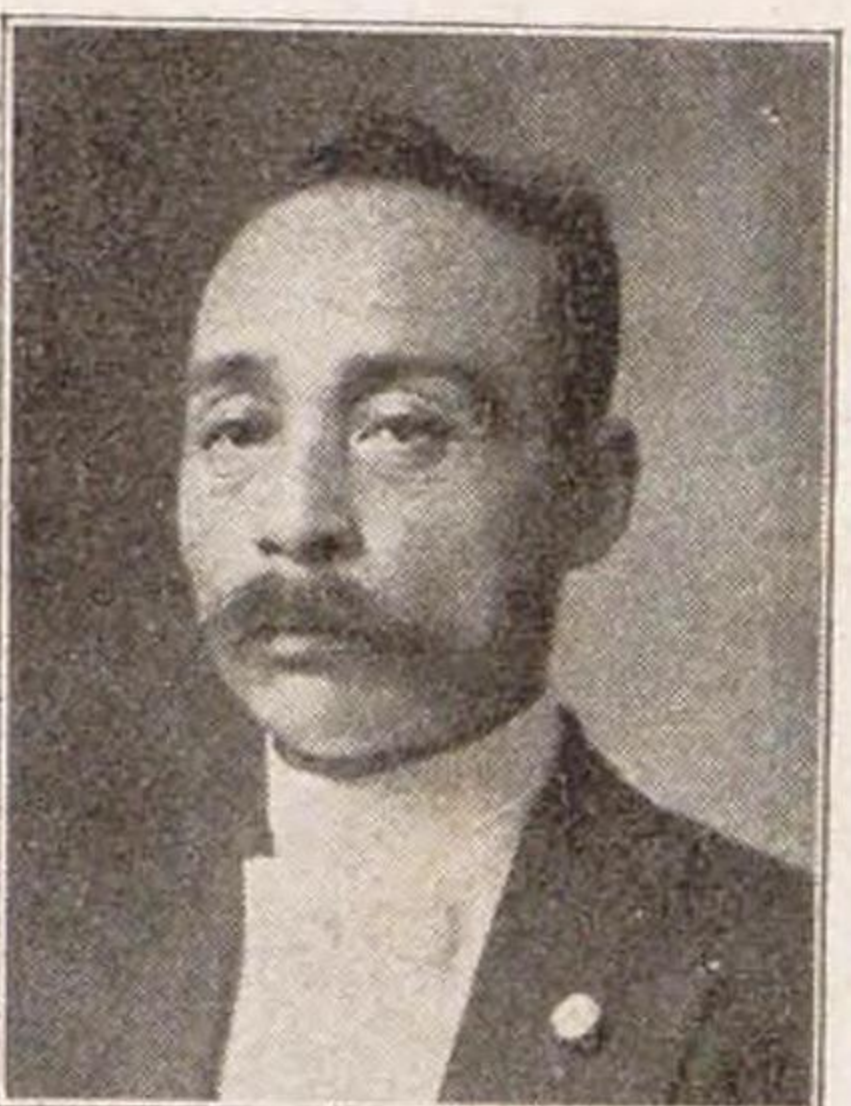


明治八年十月能登國鹿島郡田鶴濱村ニ生ル○石川縣會議員、同參
事會員ニ舉ケラル

山谷 虎三

岡山縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民辯護士

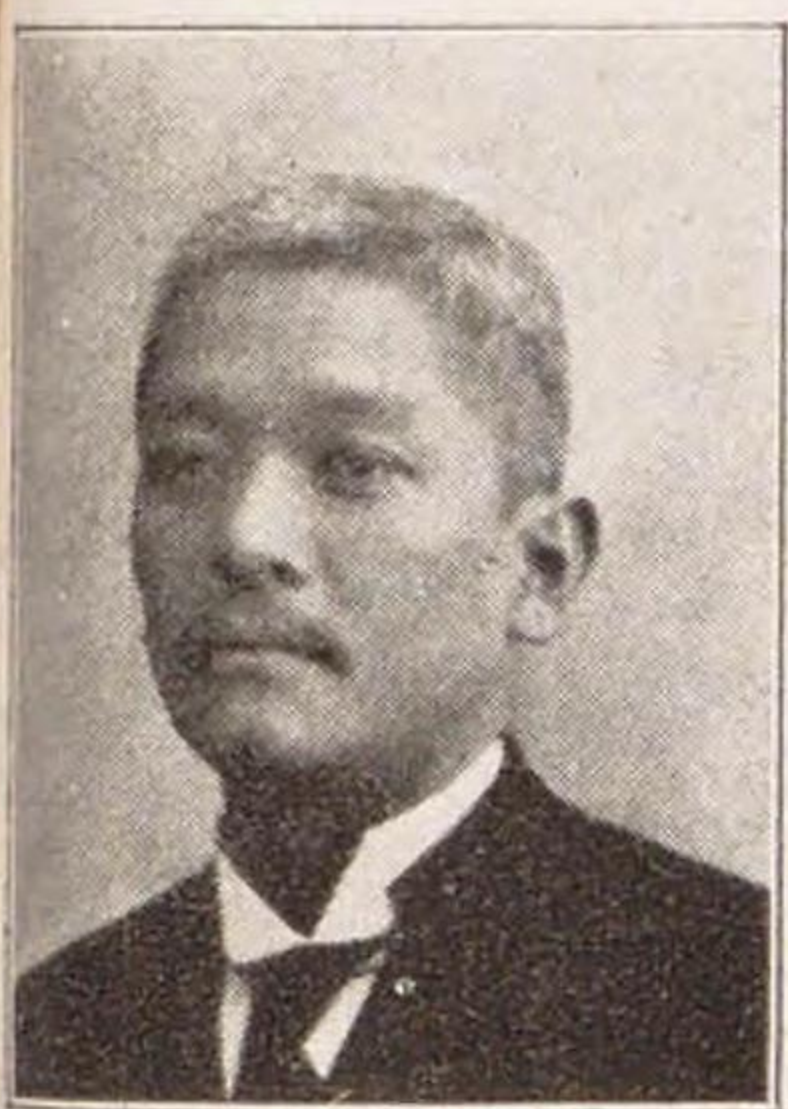
三百六十二



萬延元年七月美作國眞庭郡勝山町ニ生ル、明治法律學校ニ學フ○
町會議員ニ學ケラル、又中國鐵道株式會社支配人ト爲ル、現ニ株
式會社阿哲銀行頭取タリ

矢野 莊三郎

愛媛縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民鑛業



慶應三年八月伊豫國西宇和郡川之石村ニ生ル、大阪商業學校卒業
後慶應義塾ニ學フ○伊豫製鑛株式會社、宇和紡績株式會社各取締
役ニ選ハル、現ニ株式會社第二十九銀行取締役、明治製煉株式會
社專務取締役タリ

八坂 甚八

佐賀縣郡部選出、中央俱樂部所屬
平民勲四等農



嘉永六年十月肥前國三養基郡鳥栖町ニ生ル、草場船山、緒方精川
ノ門ニ遊フ○轟木村長、町會議員、郡會議員、佐賀縣會議員、同參事
會員ニ舉ケル、貴族院議員ニ任セラル、又佐賀農工銀行頭取、日本
遞業株式會社取締役ニ選ハル、現ニ肥前織物同業組合組長タリ

山田 珠一

熊本縣熊本市選出、中央俱樂部所屬
平民新聞記者



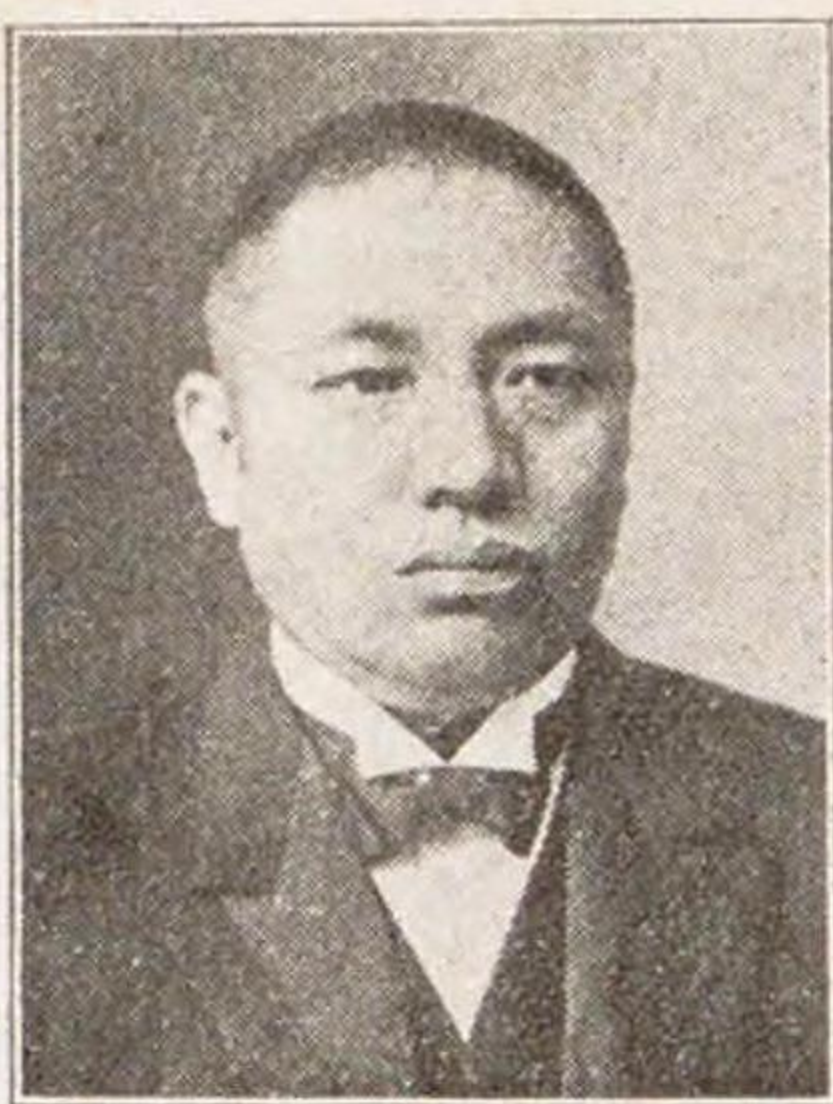
慶應元年一月豊後國西國東郡草地村ニ生ル、漢學ヲ修ム○熊本市
會議員、同議長、熊本縣會議員、同參事會員、同副議長、商業會議所
議員ニ舉ケラル、現ニ九州日々新聞社主幹タリ、衆議院議員ニ當
選スルコト三回

第二編 議員履歷(ヤノ部)

三百六十三

松 下 軍 治

東京府東京市選出、中央俱樂部所屬
平民新聞社長



三百六十四

松 方 幸 次 郎

兵庫縣神戸市選出
華族勳三等



慶應元年十二月薩摩國鹿兒島市ニ生ル、米國ニ留學シ「エール」大
學卒業「ドクトルオブシビルロー」學位ヲ得後英國「オクスフ
ード」大學、佛國巴里大學ニ於テ法律學ヲ研究ス。○神戸商業會
議所議員、同會頭ニ舉ケラル、川崎造船所長、日本火災保險會社取
締役ニ選ハル、現ニ九州電氣軌道株式會社、神戸瓦斯株式會社各
社長其他數會社ノ重役タリ、又南滿洲鐵道株式會社、東洋拓殖株
式會社各設立委員、大博覽會評議員被仰付

丸 尾 光 春

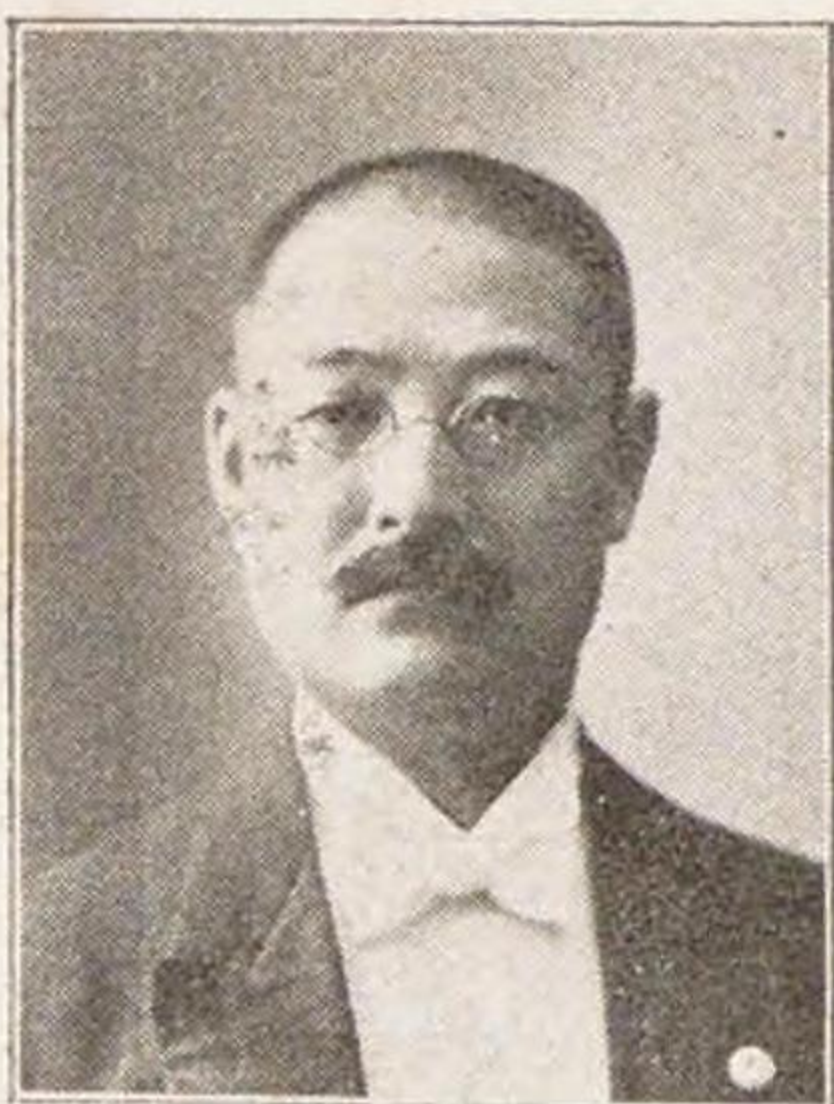
兵庫縣郡部選出
平民醫師



慶應元年一月播磨國朝來郡生野町ニ生ル、豐岡中學校、縣立神戸
醫學校卒業。○町會議員、郡會議員、同議長、兵庫縣會議員、同副議長
ニ舉ケラル、又町農會長ニ選ハル

增 田 義 一

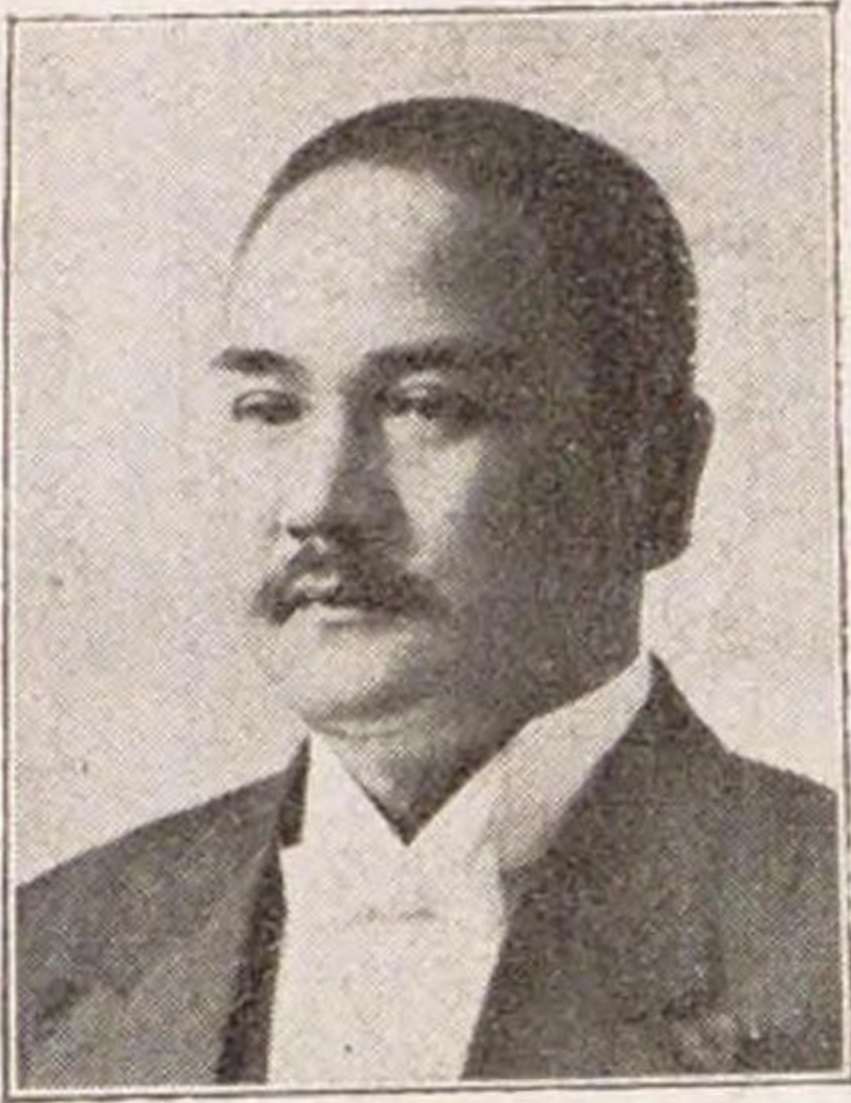
新潟縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民著述出版業



明治二年十月越後國中頸城郡板倉村ニ生ル、東京專門學校卒業。○
讀賣新聞記者ト爲ル、現ニ實業之日本社ヲ經營シ雜誌「實業之日
本」ヲ發刊ス、又日清生命保險會社取締役其他數會社ノ重役タリ

丸山豊治郎

新潟縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、新聞記者



明治元年一月越後國中頸城郡菅原村ニ生ル、慶應義塾ニ學フ○菅原村長、郡會議員、郡參事會員ニ舉ケラル、明治二十七八年戰役ニ從軍ス、現ニ新聞ヲ經營ス

松本恒之助

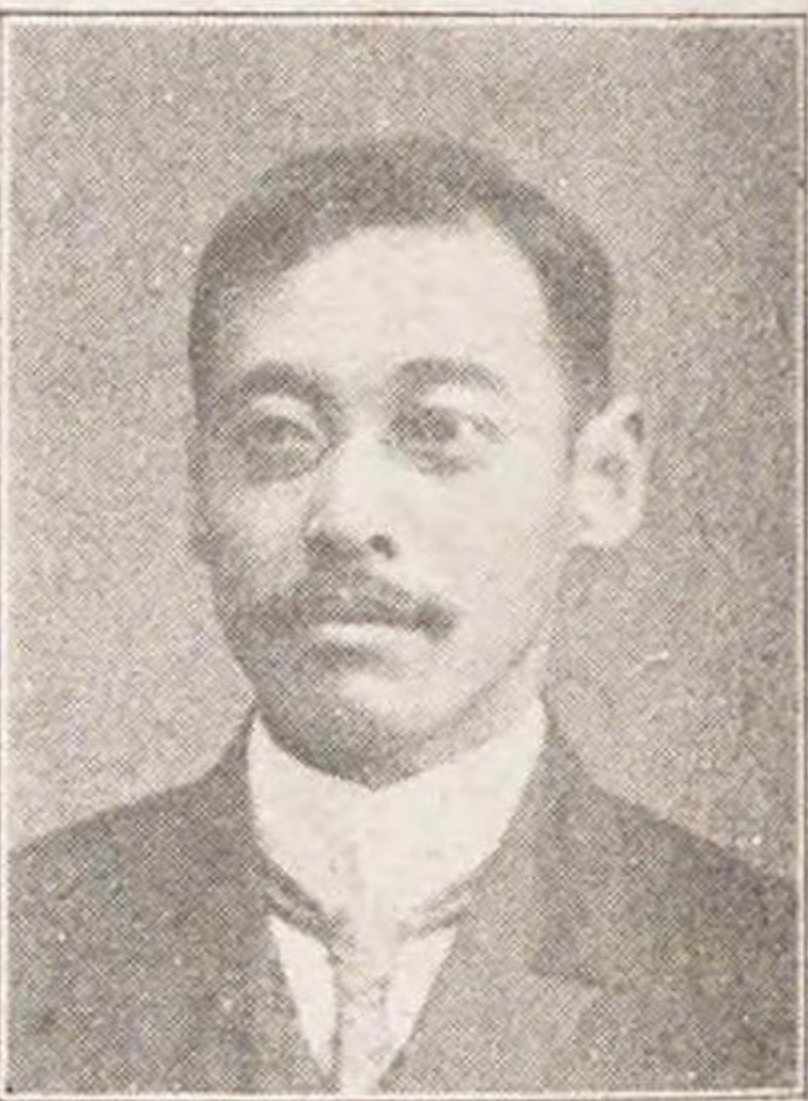
三重縣津市選出
士族、勳四等、新聞社長



慶應二年二月伊勢國一志郡矢野村ニ生ル、同志社ニ學ヒ後早稻田大學卒業○市會議員、津商業會議所特別會員ニ舉ケラル、現ニ津電燈株式會社取締役、伊勢鐵道株式會社社長、伊勢銀行取締役其他數會社ノ重役タリ、又伊勢新聞ヲ經營シ其社長タリ、清韓ニ漫遊ス、衆議院議員ニ當選スルコト三回

松城兵作

靜岡縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



明治七年四月伊豆國田方郡戸田村ニ生ル○靜岡縣會議員ニ舉ケラル

松浦五兵衛

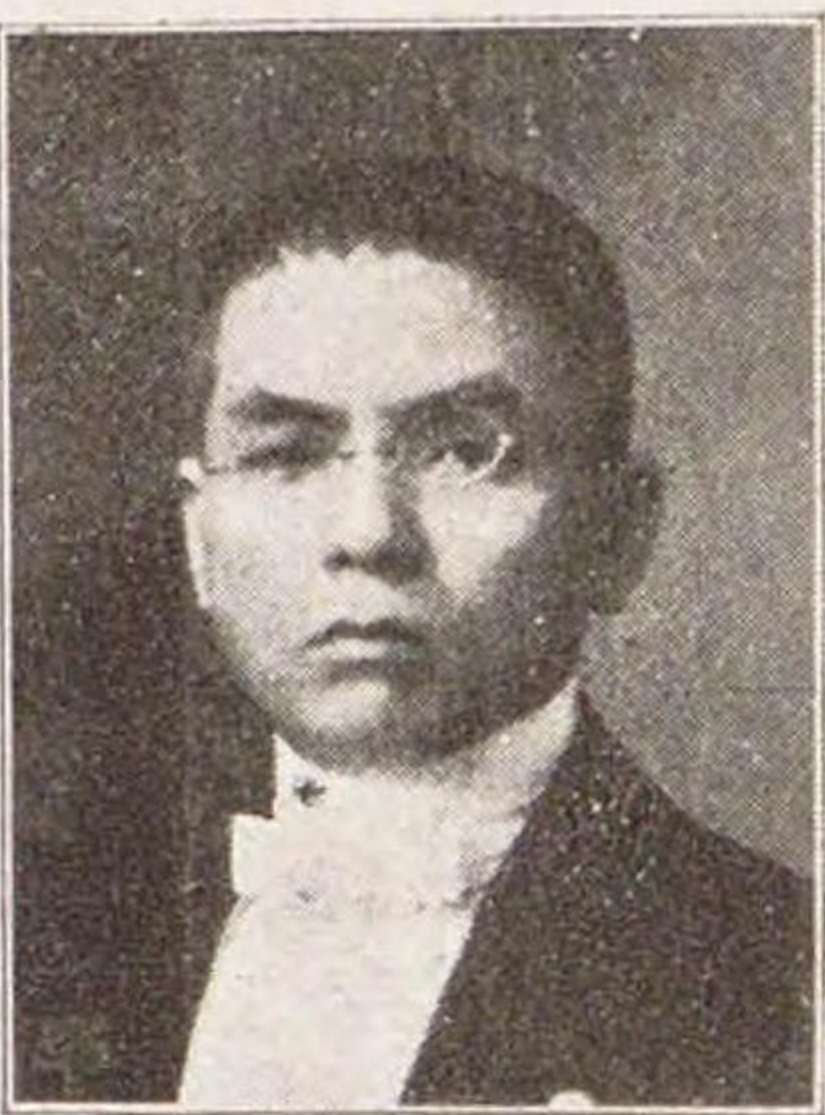
靜岡縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



明治三年九月遠江國小笠郡河城村ニ生ル、中央大學卒業○靜岡縣會議員、同參事會員、靜岡縣農會長ニ舉ケラル、又掛川商業銀行頭取外數會社重役ニ選ハル、歐米及滿韓西比利亞ニ漫遊ス、衆議院議員ニ當選スルコト五回

牧野彦太郎

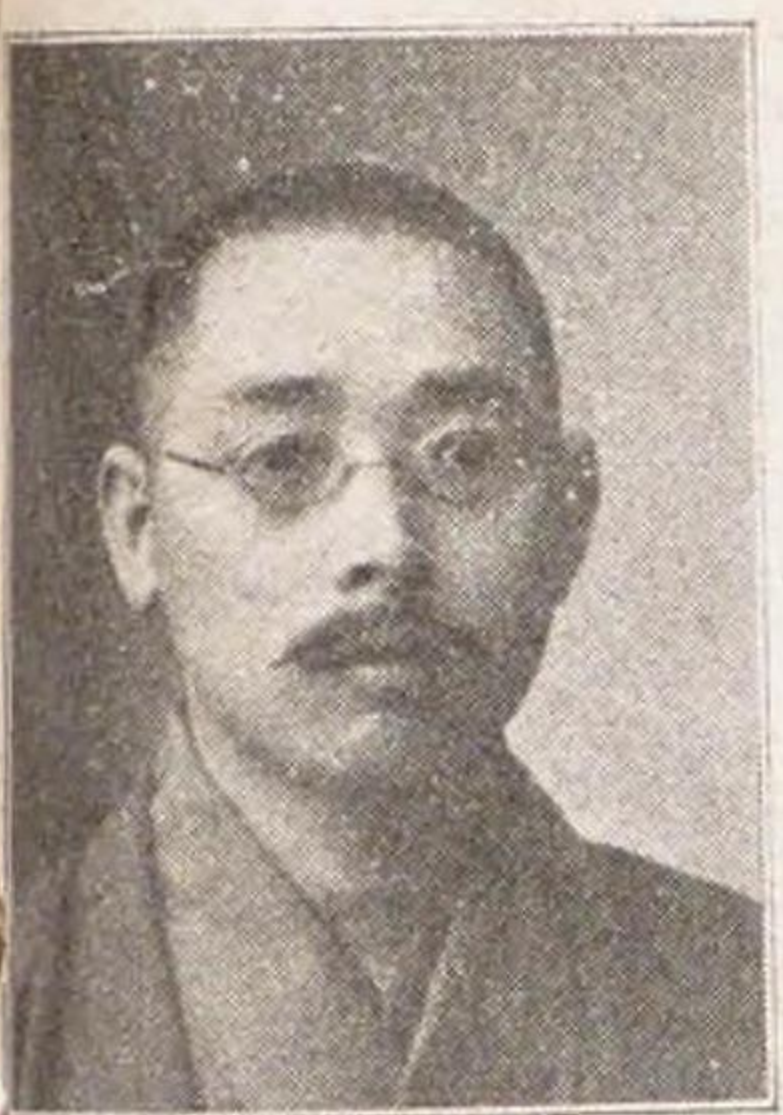
岐阜縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、農



慶應二年六月美濃國惠那郡付知町ニ生ル、慶應義塾卒業○農業及
工業ニ従事ス

松本孫右衛門

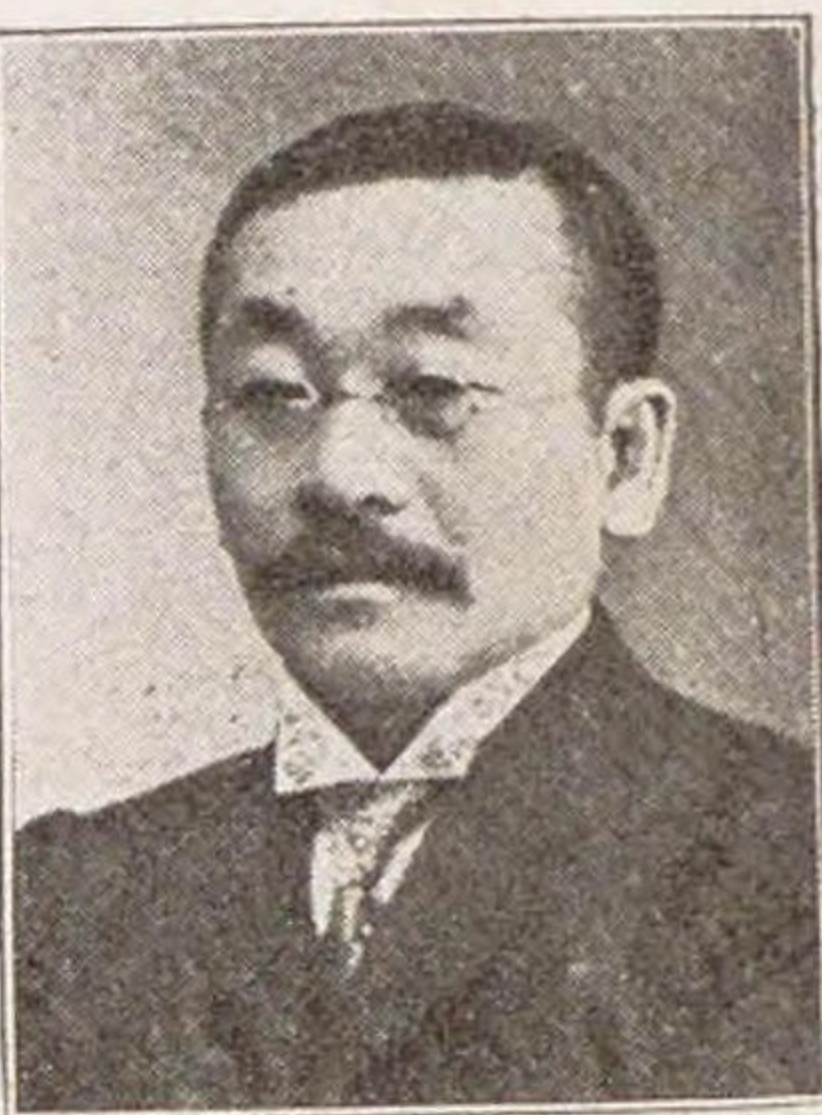
福島縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、勳四等、會社員



明治六年一月生ル○三星炭鑛株式會社社長、啓成社取締役亦井軌
道株式會社監查役ニ選ハル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

町田忠治

秋田縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、法學士、勳四等、會社員



文久三年四月羽後國秋田市ニ生ル、東京帝國大學法科大學卒業○
朝野新聞、報知新聞記者ト爲ル、又東洋經濟新報ヲ經營ス、後日本
銀行取締役、山口銀行總理事ト爲ル、現ニ山口銀行顧問タリ兼テ
猪苗代水電株式會社事務取締役外數會社ノ重役タリ、歐米ニ漫遊
ス

松田吉三郎

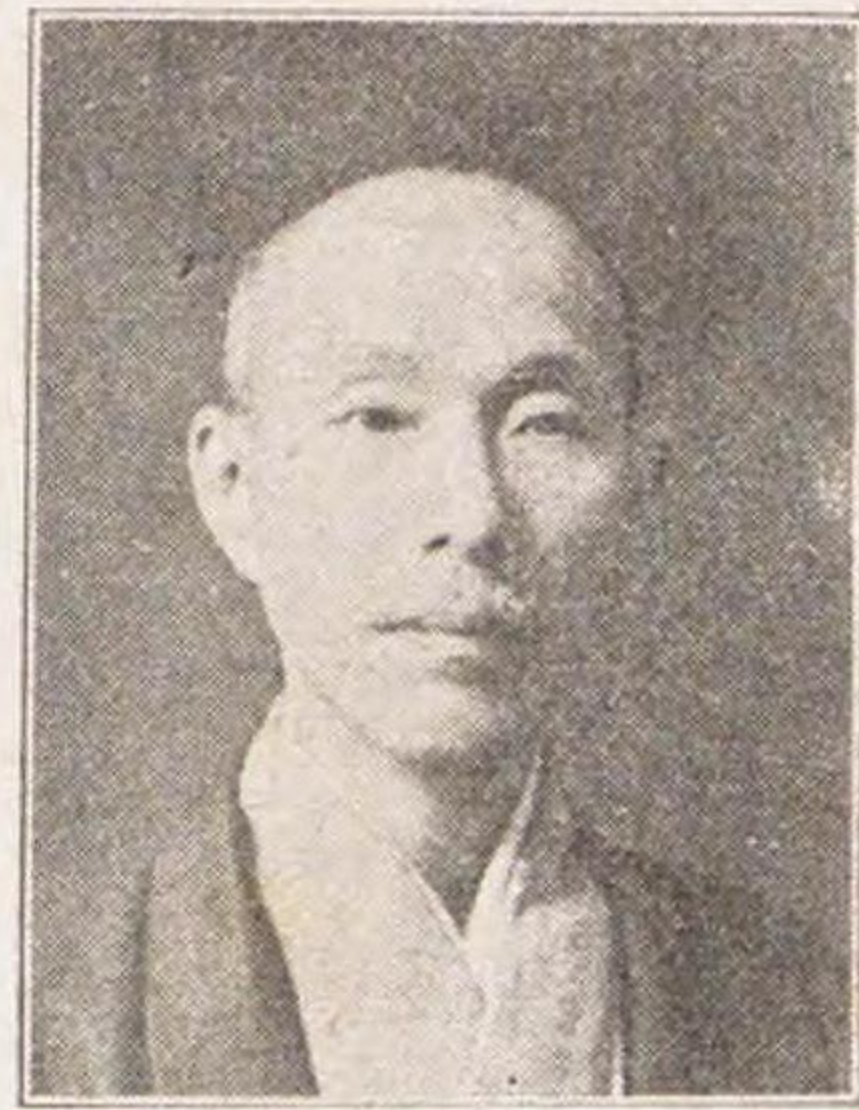
石川縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等、農



安政五年十月加賀國石川郡一木村ニ生ル、法學數學ヲ修ム○石
川縣會議員ニ舉ケラル、又北陸自由新聞ヲ主管ス、衆議院議員ニ
當選スルコト九回

眞 館 貞 造

石川縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、農



三百七十

増 田 穰 三

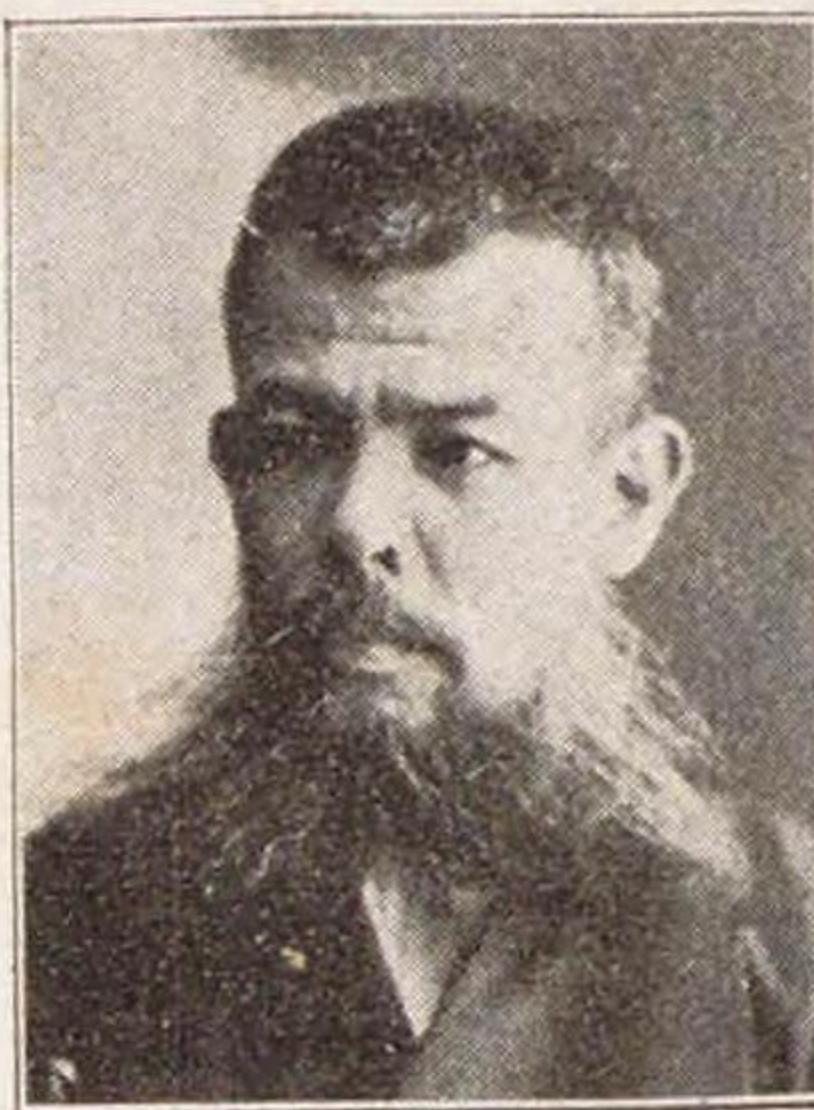
香川縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳七等、農



安政元年三月能登國鹿島郡越路村ニ生ル、○石川縣會議員、同常置委員、同副議長ニ舉ケラル、又七尾鐵道株式會社取締役ニ選ハル、衆議院議員ニ當選スルコト三回

松 家 徳 二

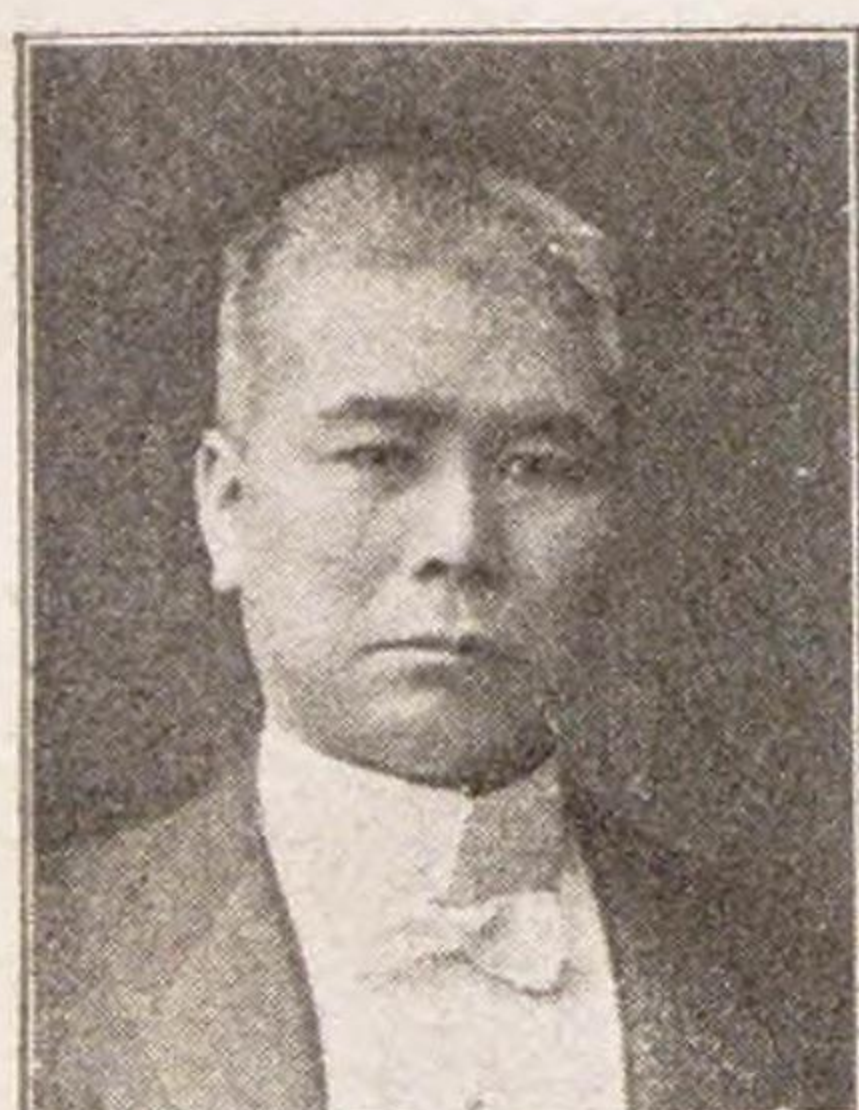
香川縣郡部選出、中央俱樂部所屬
平民、勳四等、農



安政五年八月讚岐國仲多度郡七箇村ニ生ル、中村三蕉ノ門ニ遊フ
○七箇村長、香川縣會議員、同參事會員、同副議長、同議長ニ舉ケラル、又滿韓ニ漫遊ス

的 野 半 介

福岡縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、農



明治四年三月生ル○香川縣會議員ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選スルコト五回

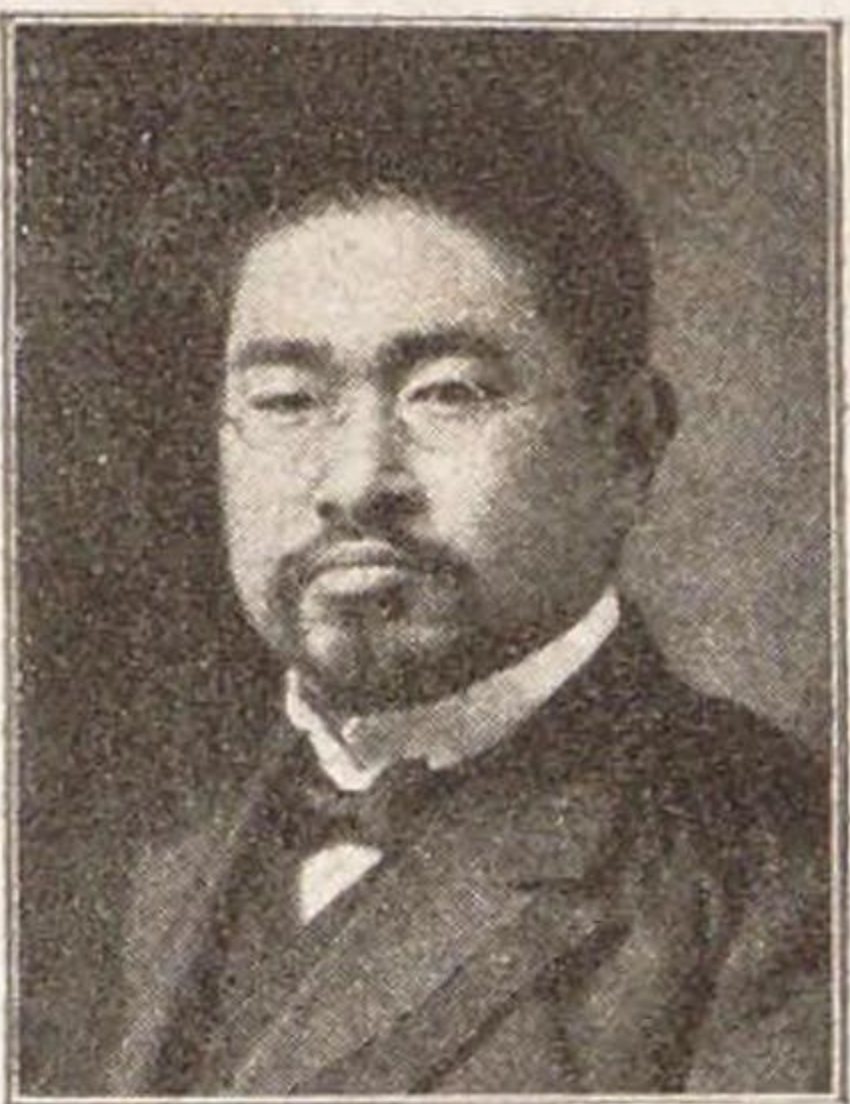
第二編 議員履歷(まノ部)

三百七十一

安政五年五月筑前國筑紫郡警固村ニ生ル、修猷館、長崎外國語學校ニ學フ○若松取引所理事、筑豊坑業組合幹事ニ舉ケラル、又九州日報社長、關門新報社長、遼東新報顧問ト爲ル、衆議院議員ニ當選スルコト二回

松田源治

大分縣選出、立憲政友會所屬
平民辯護士

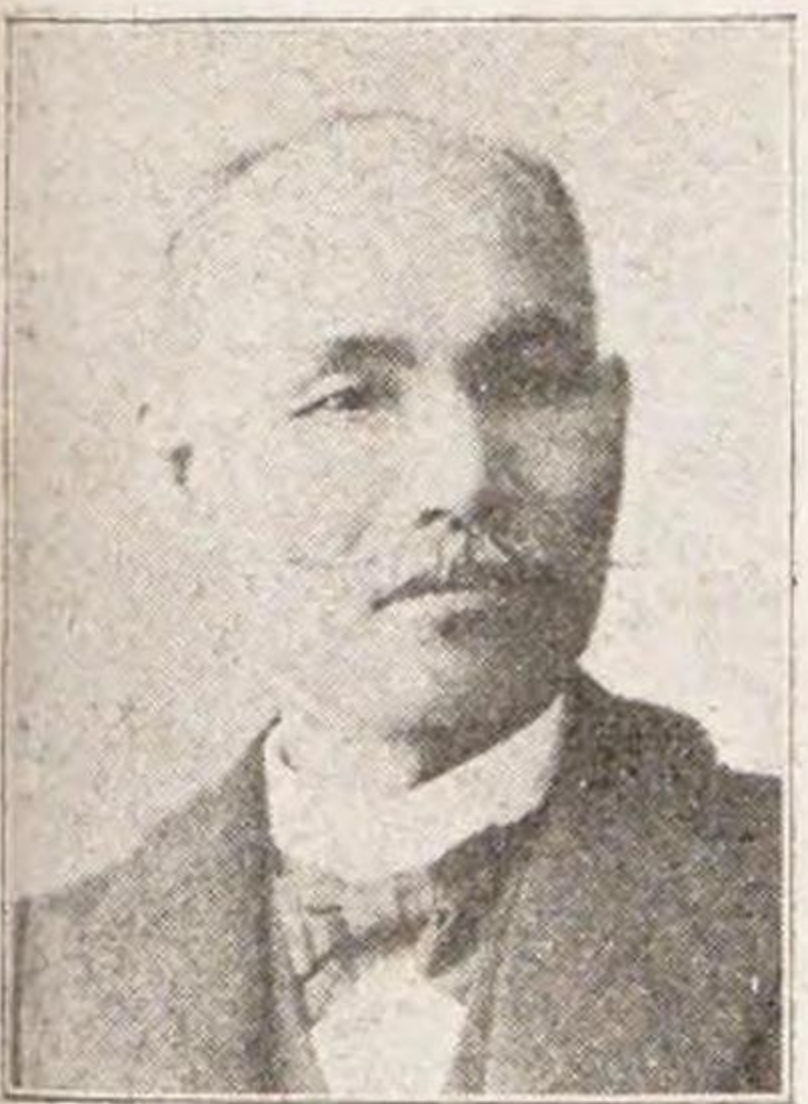


三百七十二

明治八年十月豊前國宇佐郡柳ヶ浦村ニ生ル、日本大學卒業○司法
官試補ヲ命セラル、生産調査會委員、衆議院議員選舉法改正調査
會委員被仰付、衆議院議員ニ當選スルコト二回

松田正久

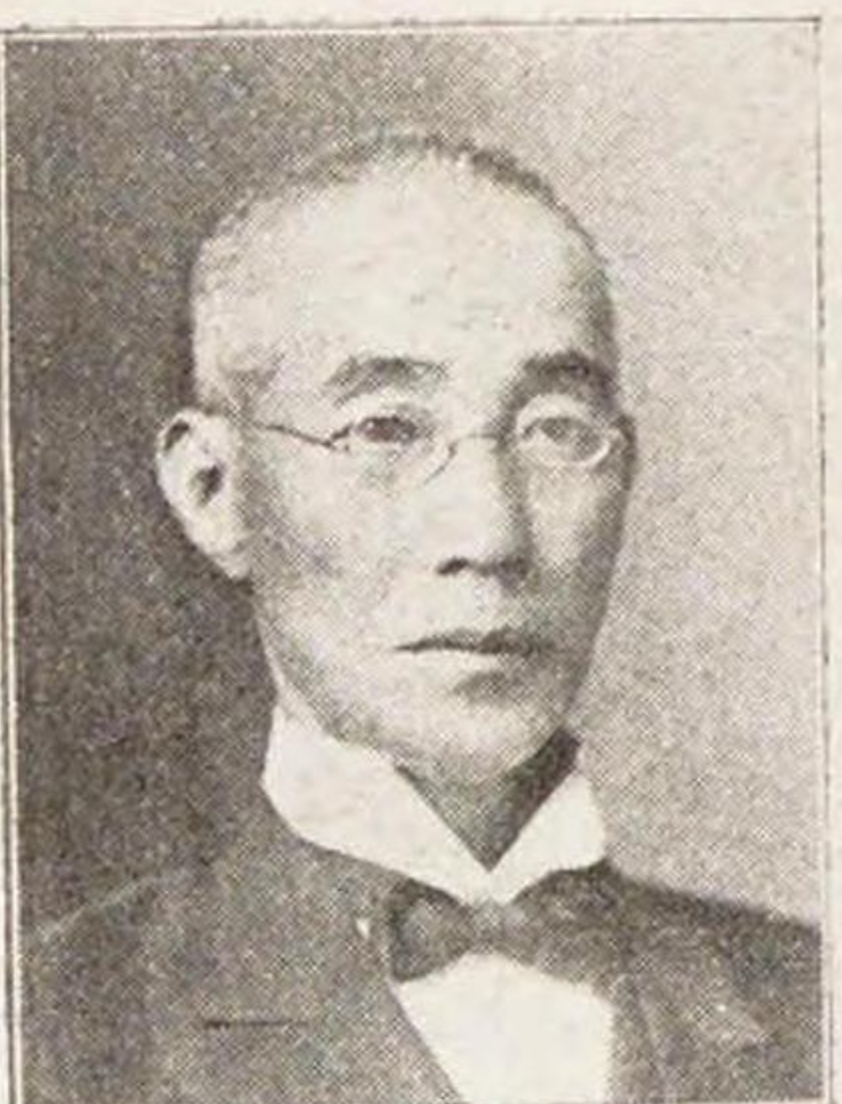
佐賀縣郡部選出、立憲政友會所屬
士族、正三位、勳一等、官吏



弘化二年四月ニ生ル、陸軍省ヨリ佛國留學ヲ命セラル○陸軍省
出仕、同裁判所出仕、檢事、鹿兒島高等中學造士館教諭兼教頭、文部
省參事官、大藏大臣、文部大臣、司法大臣ニ歷任ス、現ニ司法大臣タ
リ、又佐賀縣會議員、同議長ニ舉ケラル、衆議院議員ニ當選スルコ
ト七回、曩ニ衆議院議長タリ

松村時次

熊本縣郡部選出、中央俱樂部所屬
士族、農



安政二年二月肥後國玉名郡腹赤村ニ生ル、漢學ヲ修ム○郡會議
員、同議長、熊本縣會議員ニ舉ケラル、貴族院議員ニ任セラル、又玉
名銀行頭取、日韓殖産株式會社取締役、玉名製糸株式會社社長、肥
後農工銀行、肥後蠶糸信託株式會社各監査役ニ選ハル、衆議院議
員ニ當選スルコト二回

福田又一

埼玉縣選出、立憲國民黨所屬
平民、辯護士



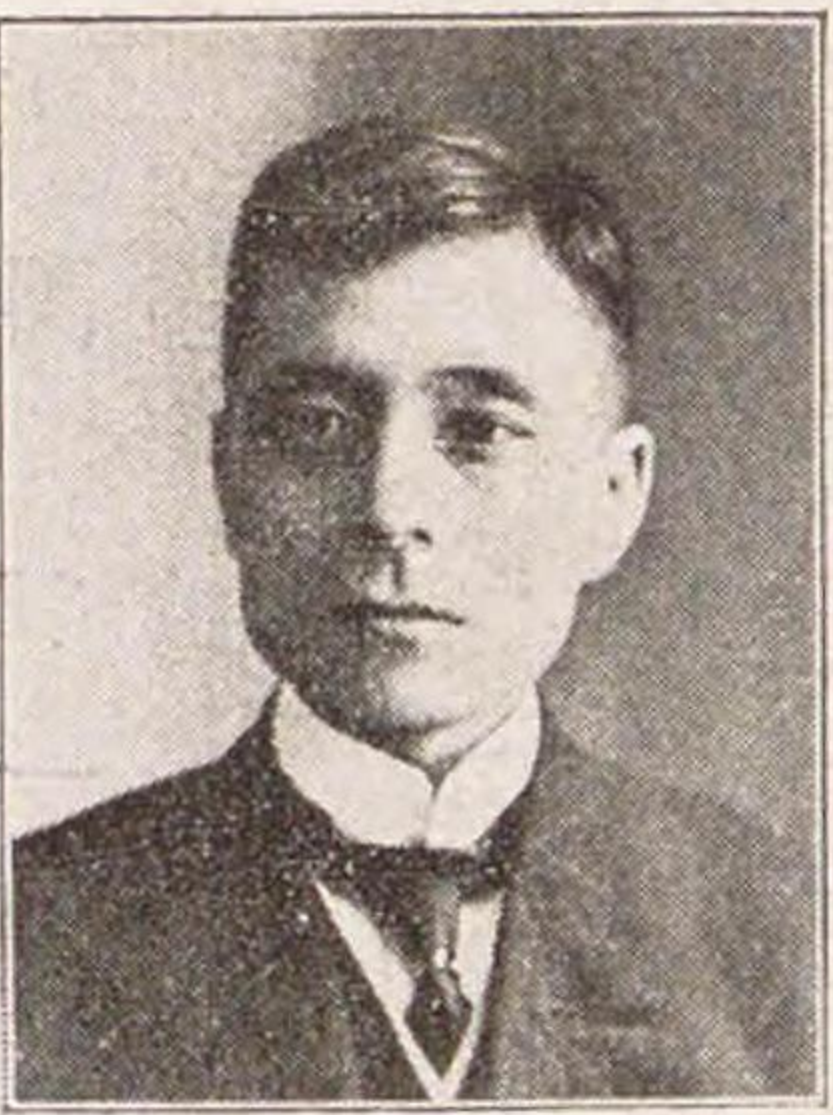
元治元年八月武藏國比企郡南吉見村ニ生ル、東京高等師範學校ニ
學ヒ後中央大學卒業○區會議員、同副議長、東京市會議員、同副議
長、東京府會議員ニ舉ケラル、又大日本博覽會評議員被仰付、衆議
院議員ニ當選スルコト二回

第二編 議員履歷(ま、ふノ部)

三百七十三

福澤桃介

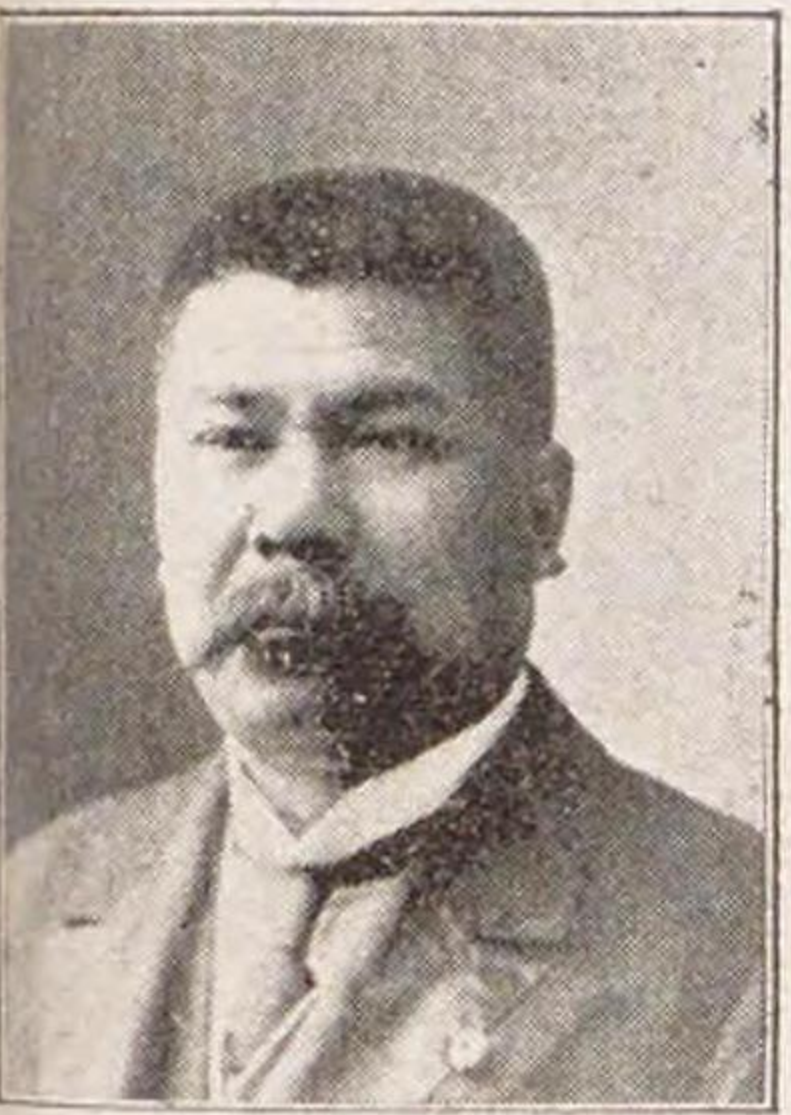
千葉縣選出、立憲政友會所屬
平民會社員



三百七十四

藤澤幾之輔

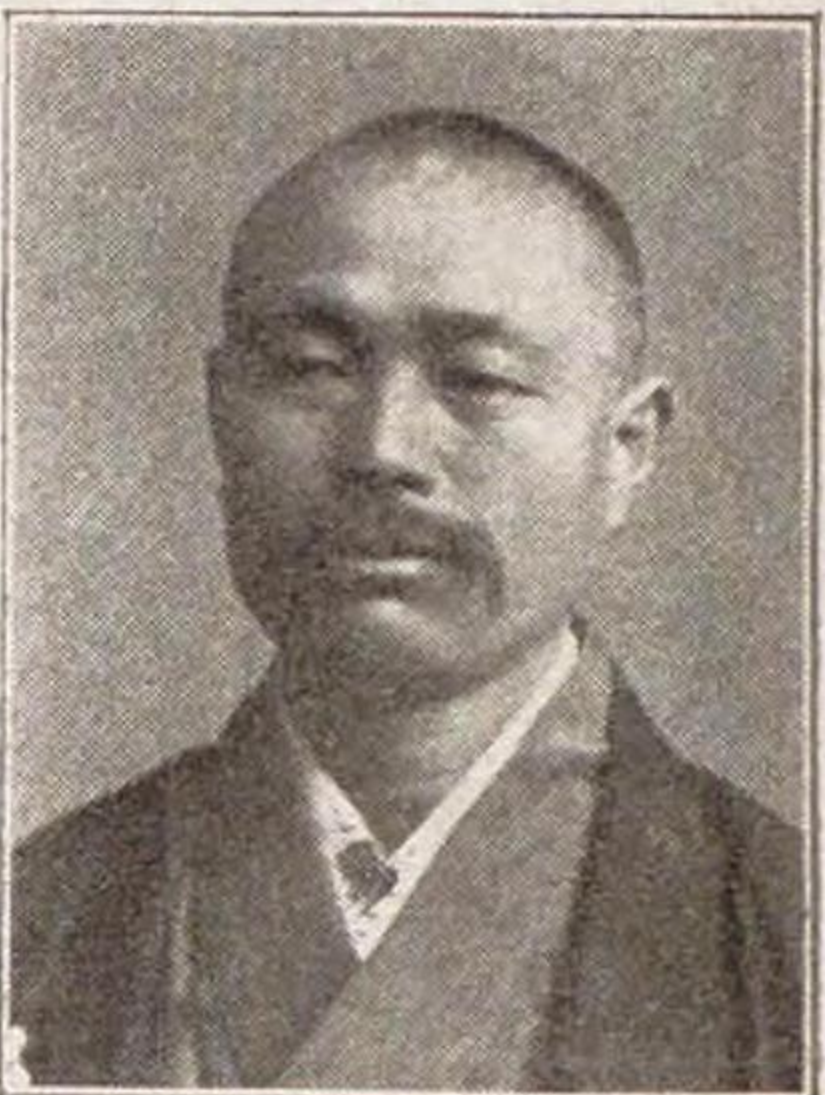
宮城縣郡部選出、立憲國民黨所屬
士族勳四等、辯護士



安政六年七月陸前國仙臺市ニ生ル、法律經濟ヲ學フ○仙臺市會議
員、同參事會員、同議長、宮城縣會議員、同常置委員、同議長ニ舉ケ
ラル、衆議院議員選舉法改正調査會委員被仰付、衆議院議員ニ當
選スルコト八回

福田善三郎

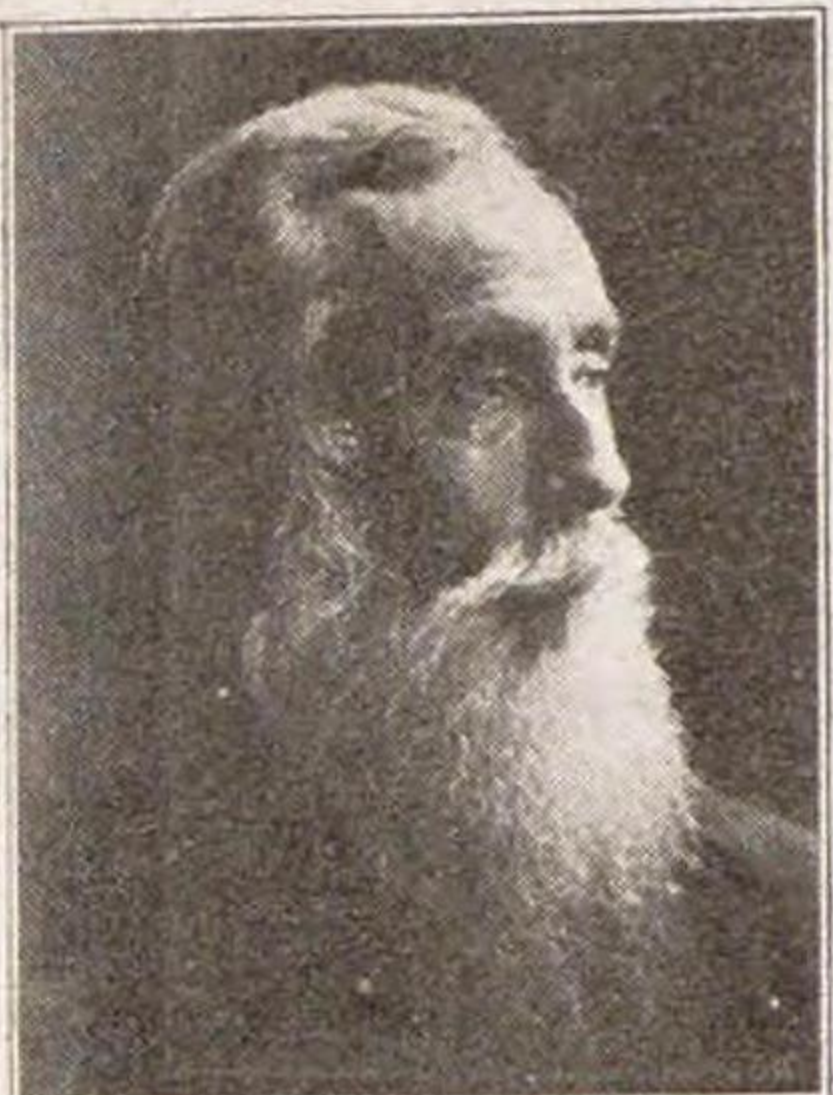
巖手縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民農業



慶應元年十一月陸中國紫波郡長岡村ニ生ル、明治法律學校卒業○
村會議員、巖手縣會議員ニ舉ケラル、又村農會長、大成信用組合長
ニ選ハル

福岡世徳

島根縣松江市選出、立憲政友會所屬
士族勳六等、辯護士



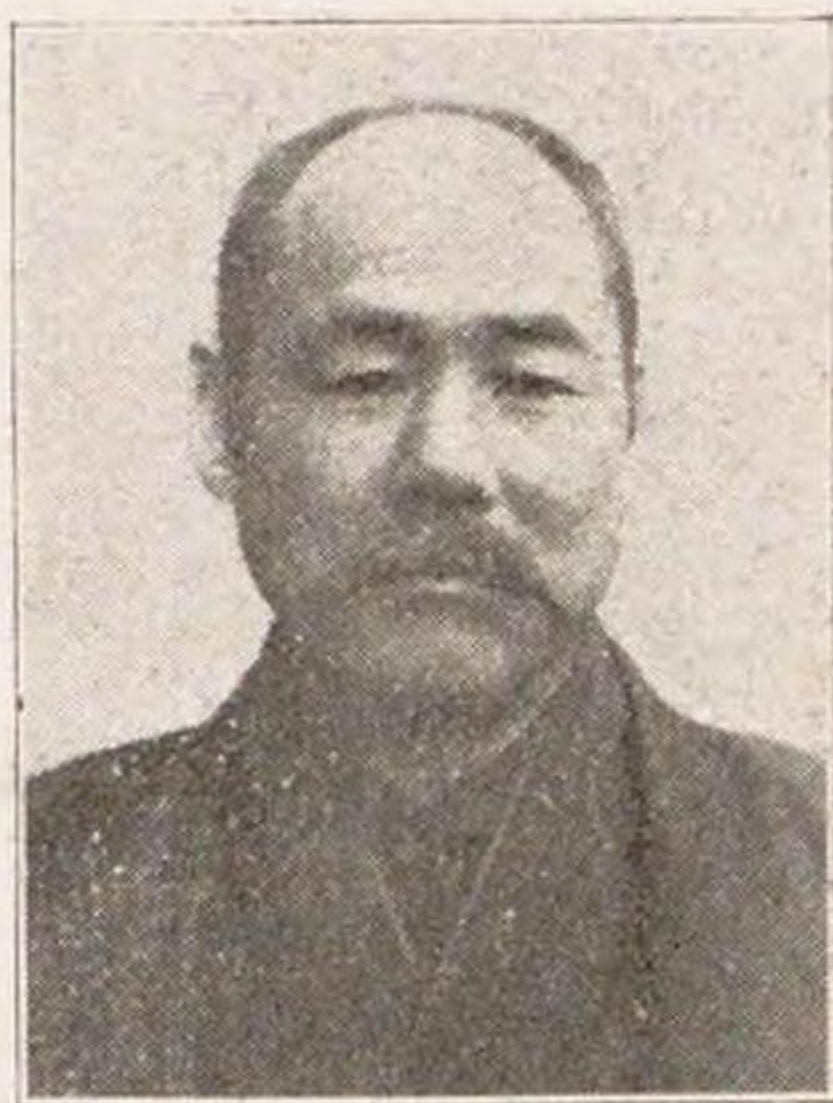
嘉永元年十月出雲國松江市ニ生ル、漢學ヲ修ム○松江市長ニ舉ケ
ラル

第二編 議員履歷(ふノ部)

三百七十五

福井三郎

岡山縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、勳四等



三百七十六

安政四年五月美作國眞庭郡木山村ニ生ル、師範學校卒業○小學教員ニ任セラル、後甲府日日新聞記者、峽中新報社主幹ト爲ル、又農商務省備員ヲ命セラル、布哇ニ遊フ、韓國ニ於テ鷄林商業團ヲ組織シ團長ト爲ル、衆議院議員ニ當選スルコト四回

麓純義

鹿兒島縣大島選出、立憲政友會所屬
士族、辯護士



元治元年八月大隅國大島郡笠利村ニ生ル、東京法學院卒業○衆議院議員ニ當選スルコト二回

古島一雄

東京府東京市選出、立憲國民黨所屬
平民、新聞記者



慶應元年八月但馬國城崎郡豐岡町ニ生ル、中村敬宇、杉浦重剛ノ門ニ遊フ○現ニ萬朝報記者、日本及日本人記者タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

小泉又次郎

神奈川縣郡部選出
平民



慶應元年五月武藏國久良岐郡六浦莊村ニ生ル、英漢數學ヲ修ム○市會議員、神奈川縣會議員ニ舉ケラル、又新聞記者タリ、衆議院議員ニ當選スルコト二回

第二編 議員履歷(ふ、こノ部)

三百七十七

肥塚龍

兵庫縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、正五位、勳四等



嘉永四年五月生ル、同人社ニ學フ○東京横濱毎日新聞記者ト爲ル
後神奈川縣會議員ニ舉ケラル、又農商務省鑛山局長、東京府知事
ニ任セラル、日本大博覽會評議員、議院建築準備委員會委員被仰
付、現ニ東京市會議員、同參事會員タリ、衆議院議員ニ當選スルコ
ト七回、曩ニ衆議院副議長タリ

小寺謙吉

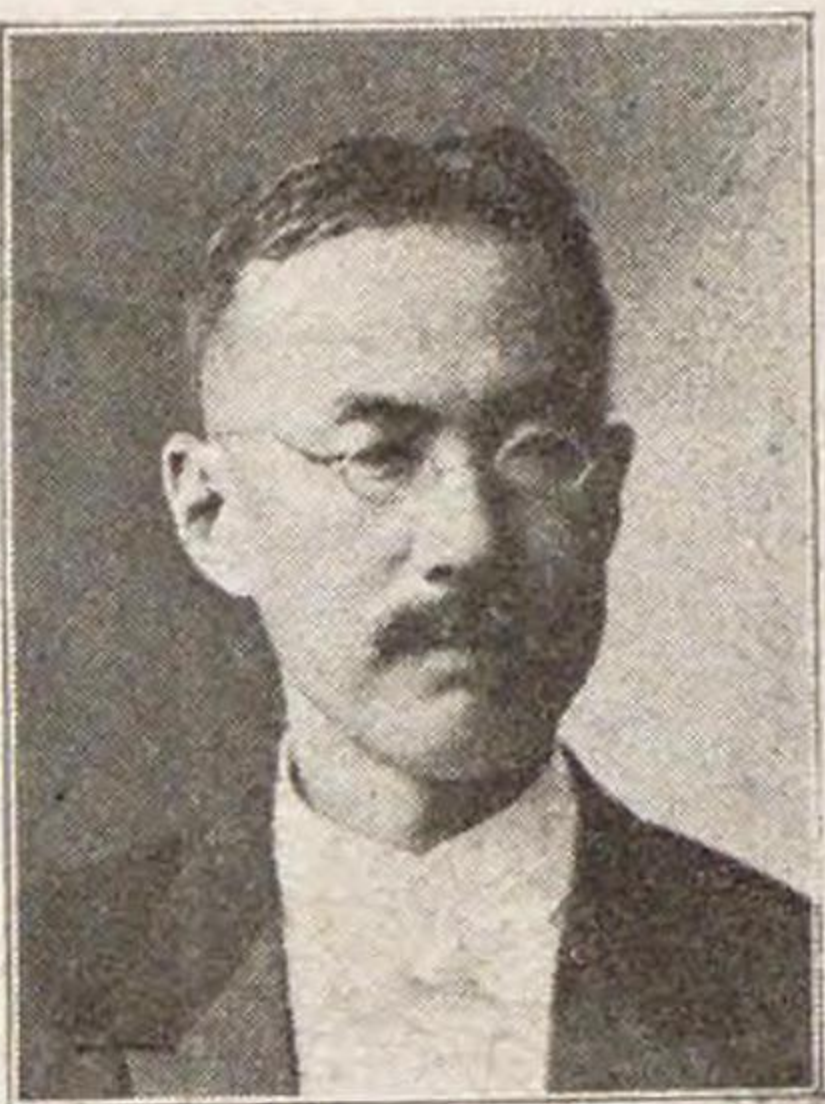
兵庫縣郡部選出、立憲國民黨所屬
士族、從七位、勳六等



明治十年四月攝津國神戸市ニ生ル、神戸商業學校卒業、後米國ニ
留學シ「コロンビヤン」大學及「カトリック」大學ニ於テ各「ユ
リス、ドクトル」ノ學位ヲ受ク、又米國「ホプキンス」大學、獨逸「ハ
イデルベルク」大學、澳國維納大學、瑞西「ゼネバ」大學ニ於テ法政
ノ學ヲ修ム○陸軍騎兵少尉、同中尉ニ任セラレ、日露戰役ニ從軍
ス、又神戸市會議員、神戸商業會議所特別議員ニ舉ケラル、生産調
査會委員被仰付、歐米清韓ニ漫遊ス、又列國議會同盟會議ニ參列
ス、衆議院議員ニ當選スルコト二回

小林勝民

千葉縣選出、立憲國民黨所屬
士族、辯護士



元治元年四月駿河國益津郡藤枝町ニ生ル、法律學ヲ學フ○朝野新
聞、静岡民友新聞、臺灣民報ノ記者ト爲ル

小久保喜七

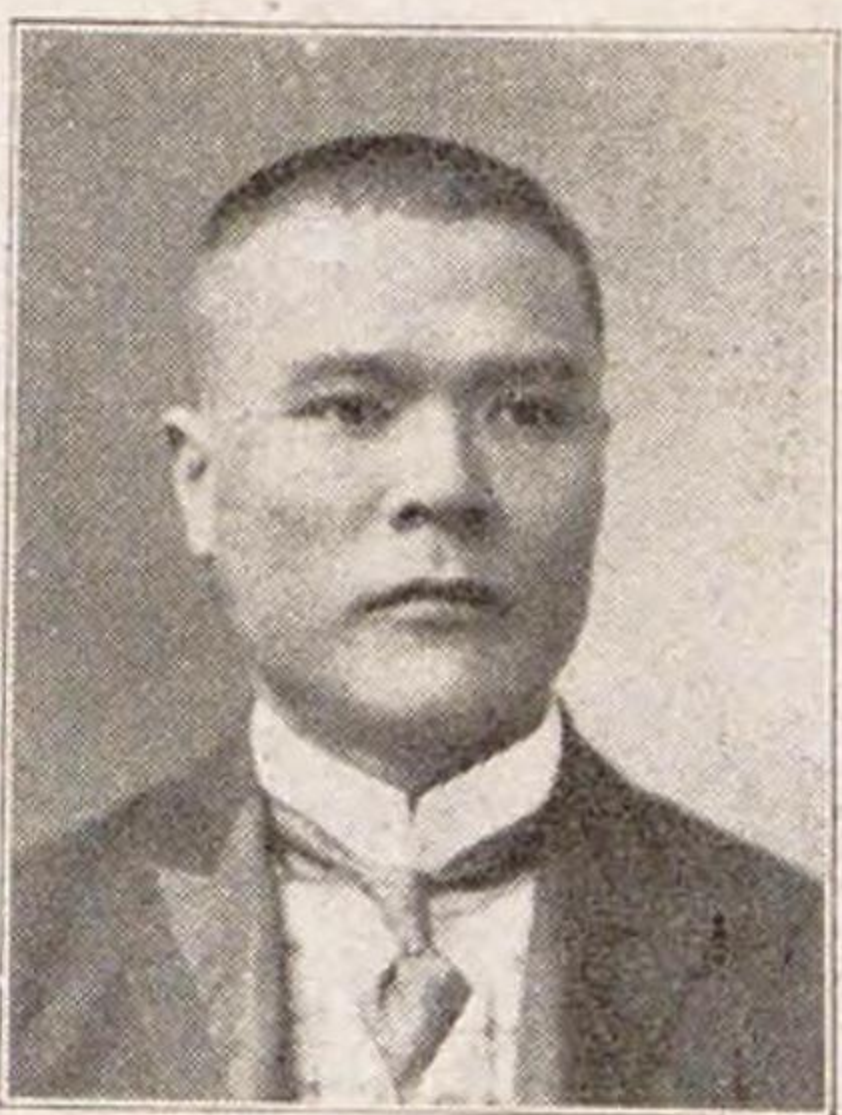
茨城縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、雜業



慶應元年三月下總國猿島郡新鄉村ニ生ル、中島撫山ノ門ニ遊フ○
茨城縣會議員、同副議長ニ舉ケラル、又自由通信社長ト爲ル、衆議
院議員ニ當選スルコト二回

小泉策太郎

靜岡縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民雜誌記者



小山完吾

長野縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民新聞記者

明治五年十一月伊豆國賀茂郡三濱村ニ生ル ○東京商業會議所議
員ニ擧ケラル、現ニ三協印刷株式會社社長タリ



小坂順造

長野縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民會社員

明治八年五月信濃國北佐久郡小諸町ニ生ル、慶應義塾大學法科卒
業、後英國ニ留學シ倫敦大學ニ於テ政治經濟學ヲ修ム ○時事新報
記者ト爲ル、又文部省通俗教育調查委員被仰付、歐米ニ漫遊ス



小林源藏

山形縣米澤市選出、立憲政友會所屬
士族、正五位、勳四等、法學士、官吏

明治十四年三月、信濃國上水内郡柳原村ニ生ル、東京高等商業學
校卒業 ○日本銀行行員ト爲ル、現ニ信濃銀行常務取締役、長野電
燈會社取締役、信濃毎日新聞社長タリ、又長野商業會議所會頭ニ
擧ケラル、歐米ニ漫遊ス



第二編 議員履歷(この部)

慶應三年三月羽前國米澤市ニ生ル、東京帝國大學法科大學卒業 ○
鐵道院理事ニ任セララル

小出五郎

岡山縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、辯護士



明治七年九月美作國真庭郡美川村ニ生ル、明治法律學校卒業

小山谷藏

和歌山縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、正七位



明治九年九月紀伊國西牟婁郡三栖村ニ生ル、早稻田大學卒業、後米國ニ留學シ「コロンビヤ」大學ニ「マスターオブアーツ」ヲ「ウインブル」大學ニ「ドクトルオブヒロソヒー」ノ學位ヲ受ク○臺灣總督府專賣局翻譯官ニ任セラル、在職中歐米へ出張ヲ命セラル

兒玉亮太郎

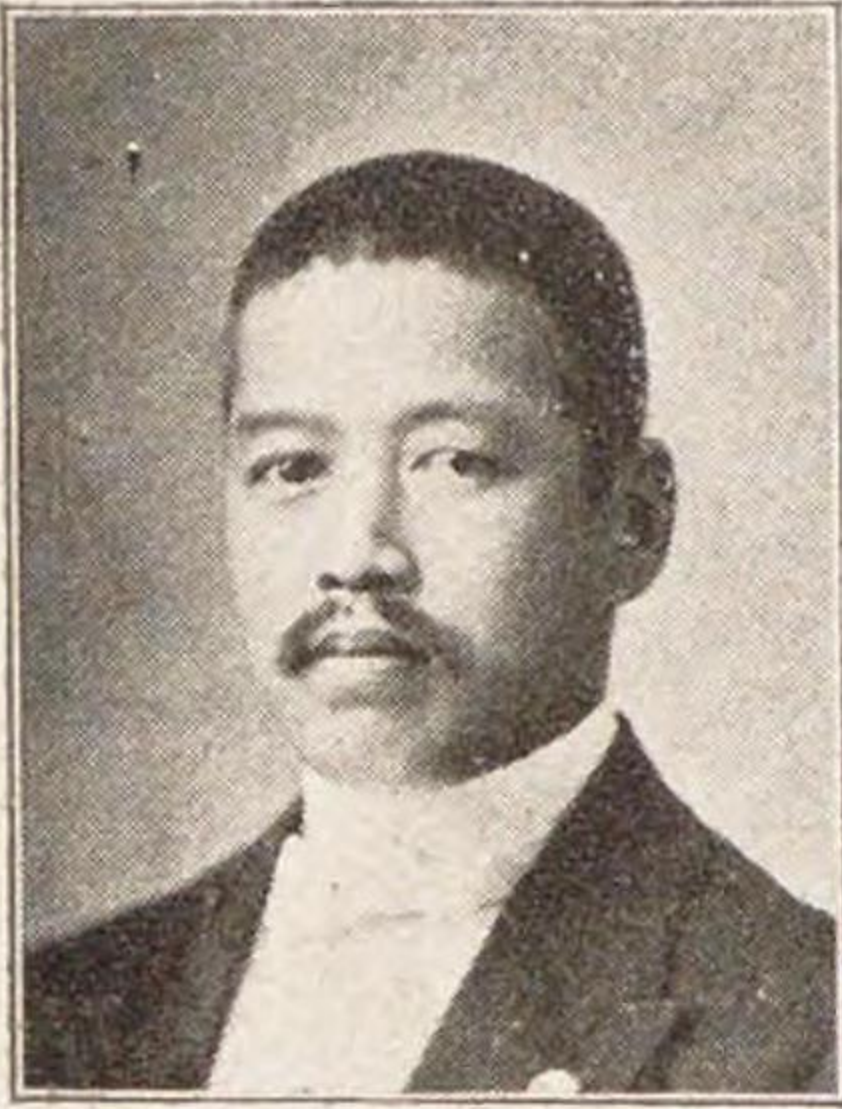
和歌山縣郡部選出、立憲政友會所屬
平民、從六位、農



明治五年九月紀伊國那賀郡粉河町ニ生ル、京都同志社卒業、後北米合衆國ニ留學シ「ミシガン」大學ニ「ドクトルオブヒロソフヒ」ノ學位ヲ受ク○大阪毎日新聞記者ト爲ル、京都帝國大學講師、遞信大臣祕書官ニ任セラル、又北海道拓殖銀行行員ト爲リ營業部長、小樽支店長ニ補セラル、後富士製紙株式會社主事ト爲ル

小西和

香川縣郡部選出、立憲國民黨所屬
平民、新聞記者



明治六年四月讃岐國大川郡長尾村ニ生ル、札幌農學校ニ學フ○「日本ノ高山植物」及「瀬戸内海論」著書アリ○東京朝日新聞記者ト爲ル、滿韓及西比利亞ニ漫遊ス、又日本海洋會ヲ創立シ理事ニ選ハル